

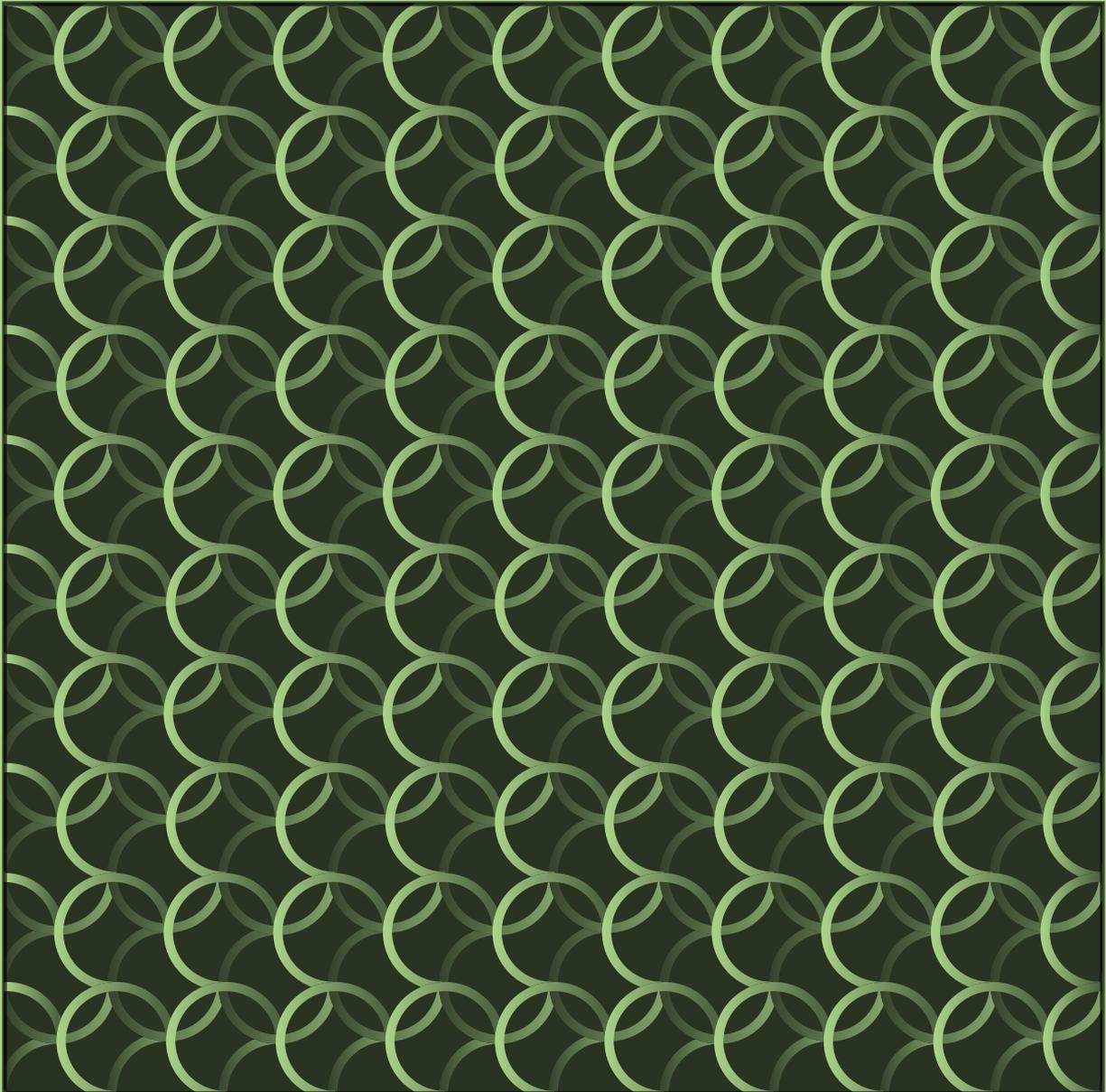
---

2017年度

---

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで計画的な履修登録をしてください◆

## 【シラバスの見方】

### 1. 英語学科授業科目について

#### ①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科		営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		環：国際環境経済学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科			免：2013年度以降入学の教職課程登録者
全：英語学科以外の全学部学科			

### 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①入学年度

#### ②入学年度に対応した科目名

#### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

#### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

#### ⑤到達目標

#### ⑥事前・事後学修の内容

#### ⑦授業で使用するテキスト、参考文献

#### ⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
<b>春学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
<b>秋学期</b>		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

### 3. 注意事項

#### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

#### ②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

#### ③履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行う科目もあるので

必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

# 目 次

## 2009～2017 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む).....	2
学科共通科目.....	6
学科専門科目 (16 年度以降) .....	12
学科専門科目 (15 年度以前) .....	14
交流文化論開設科目一覧表.....	17
外国語学部共通科目開設一覧表.....	18
担当者別シラバス.....	19

### 【参考資料】 (英語レベル表)

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC® LISTENING AND READING TEST	TOEFL® TEST		実用英語技能 検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC® LISTENING AND READING TEST のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した TOEIC® LISTENING AND READING TEST 以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科 授業科目(2009～2017年度入学者用)

学科基礎科目

09～17年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
13 年度 以降	国際関係入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	19
	国際関係入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	19
	国際関係入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	20
12 年度 以前	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	19
	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	19
	国際コミュニケーション入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	20
16 年度 以降	メディア・コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	21
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	金3	2	1	全	22
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	水2	2	1	全	22
15 年度 以前	文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	21
	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	金3	2	1	全	22
	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	水2	2	1	全	22
16 年度 以降 (12 年度 以前)	英語圏の文学・文化入門	片山 亜紀	春	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学・文化入門	片山 亜紀	秋	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学・文化入門	原 成吉	春	木4	2	1	全	24
	英語圏の文学・文化入門	原 成吉	秋	木4	2	1	全	24
13 15 年度	英語圏の文学文化入門	片山 亜紀	春	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学文化入門	片山 亜紀	秋	火2	2	1	全	23
	英語圏の文学文化入門	原 成吉	春	木4	2	1	全	24
	英語圏の文学文化入門	原 成吉	秋	木4	2	1	全	24
	英語学入門	安井 美代子	春	金1	2	1	全	25
	英語学入門	安井 美代子	秋	金1	2	1	全	25
	英語学入門	小早川 暁	秋	火3	2	1	全	26
	Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	27
	Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	27
	Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	月2/金3	2	1	全	28
	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	月2/金3	2	1	全	28
	Comprehensive English I	D. ベイカー	春	火2/木5	2	1	全	29
	Comprehensive English II	D. ベイカー	秋	火2/木5	2	1	全	29
	Comprehensive English I	S. ペイン	春	月4/木4	2	1	全	30
	Comprehensive English II	S. ペイン	秋	月4/木4	2	1	全	30
	Comprehensive English I	J. スネール	春	火2/木1	2	1	全	31
	Comprehensive English II	J. スネール	秋	火2/木1	2	1	全	31
	Comprehensive English I	P. マッケピリー	春	月2/金2	2	1	全	32
	Comprehensive English II	P. マッケピリー	秋	月2/金2	2	1	全	32
	Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	火2/木5	2	1	全	33
	Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火2/木5	2	1	全	33
	Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月3/水3	2	1	全	34
	Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月3/水3	2	1	全	34
	Comprehensive English I	K. フォード	春	月2/金3	2	1	全	35
	Comprehensive English II	K. フォード	秋	月2/金3	2	1	全	35
	Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月4/木5	2	1	全	36
	Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月4/木5	2	1	全	36
	Comprehensive English I	D. ベイカー	春	火1/木4	2	1	全	37
	Comprehensive English II	D. ベイカー	秋	火1/木4	2	1	全	37
	Comprehensive English I	S. ペイン	春	水4/金1	2	1	全	38
	Comprehensive English II	S. ペイン	秋	水4/金1	2	1	全	38
	Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月3/木4	2	1	全	39
	Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月3/木4	2	1	全	39
	Comprehensive English I 再履修	M. L. ボイル	秋	月5/水5	2	1	全	40
	Comprehensive English II 再履修	M. L. ボイル	春	月5/水5	2	1	全	40

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Comprehensive English III	J. N. ウェンデル	春	月4	1	2	全	41
Comprehensive English IV	J. N. ウェンデル	秋	月4	1	2	全	41
Comprehensive English III	M. フッド	春	月3	1	2	全	42
Comprehensive English IV	M. フッド	秋	月3	1	2	全	42
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	43
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	43
Comprehensive English III	E. フランコ	春	水1	1	2	全	44
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	44
Comprehensive English III	R. ウィルコックス	春	火4	1	2	全	45
Comprehensive English IV	R. ウィルコックス	秋	火4	1	2	全	45
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月3	1	2	全	46
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月3	1	2	全	46
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	47
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	47
Comprehensive English III	B. S. ハウエル	春	水3	1	2	全	48
Comprehensive English IV	B. S. ハウエル	秋	水3	1	2	全	48
Comprehensive English III	A. マグズ	春	月4	1	2	全	49
Comprehensive English IV	A. マグズ	秋	月4	1	2	全	49
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木1	1	2	全	50
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	50
Comprehensive English III	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	51
Comprehensive English IV	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	51
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月4	1	2	全	52
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月4	1	2	全	52
Reading Strategies I	A. ゴーリンジャー	春	水1	1	1	全	53
Reading Strategies II	A. ゴーリンジャー	秋	水1	1	1	全	53
Reading Strategies I	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	54
Reading Strategies II	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	54
Reading Strategies I	児嶋 一男	春	水1	1	1	全	55
Reading Strategies II	児嶋 一男	秋	水1	1	1	全	55
Reading Strategies I	工藤 和宏	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies II	工藤 和宏	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies I	前沢 浩子	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies II	前沢 浩子	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies I	船越 健志	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies II	船越 健志	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies I	片山 亜紀	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies II	片山 亜紀	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies I	上野 直子	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies II	上野 直子	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies I	小早川 暁	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies II	小早川 暁	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies I	佐々木 輝美	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies II	佐々木 輝美	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies I	水本 義彦	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies II	水本 義彦	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies I	浅岡 千利世	春	水1	1	1	全	64
Reading Strategies II	浅岡 千利世	秋	水1	1	1	全	64
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	春	土1	1	1	全	65
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	秋	土2	1	1	全	65
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	春	土2	1	1	全	66
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	秋	土1	1	1	全	66

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

## 学科基礎科目

09～17年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	67
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	67
Reading Strategies III	E. 本橋	春	水1	1	2	全	68
Reading Strategies IV	E. 本橋	秋	水1	1	2	全	68
Reading Strategies III	前沢 浩子	春	水2	1	2	全	69
Reading Strategies IV	前沢 浩子	秋	水2	1	2	全	69
Reading Strategies III	船越 健志	春	水2	1	2	全	70
Reading Strategies IV	船越 健志	秋	水2	1	2	全	70
Reading Strategies III	S. ペイン	春	水2	1	2	全	71
Reading Strategies IV	S. ペイン	秋	水2	1	2	全	71
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水1	1	2	全	72
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水1	1	2	全	72
Reading Strategies III	片山 亜紀	春	水2	1	2	全	73
Reading Strategies IV	片山 亜紀	秋	水2	1	2	全	73
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	木1	1	2	全	74
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	木1	1	2	全	74
Reading Strategies III	羽山 恵	春	水1	1	2	全	75
Reading Strategies IV	青柳 真紀子	秋	水1	1	2	全	75
Reading Strategies III	工藤 和宏	春	水2	1	2	全	76
Reading Strategies IV	工藤 和宏	秋	水2	1	2	全	76
Reading Strategies III	原 成吉	春	水2	1	2	全	77
Reading Strategies IV	原 成吉	秋	水2	1	2	全	77
Reading Strategies III	杉山 晴信	春	水2	1	2	全	78
Reading Strategies IV	杉山 晴信	秋	水2	1	2	全	78
Writing Skills I	K. エラ	春	木5	1	1	全	79
Writing Skills II	K. エラ	秋	木5	1	1	全	79
Writing Skills I	L. K. ハーキンス	春	金1	1	1	全	80
Writing Skills II	L. K. ハーキンス	秋	金1	1	1	全	80
Writing Skills I	J. スネール	春	火1	1	1	全	81
Writing Skills II	J. スネール	秋	火1	1	1	全	81
Writing Skills I	三吉 美加	春	月2	1	1	全	82
Writing Skills II	三吉 美加	秋	月2	1	1	全	82
Writing Skills I	E. J. ナオウミ	春	水3	1	1	全	83
Writing Skills II	E. J. ナオウミ	秋	水3	1	1	全	83
Writing Skills I	山中 章子	春	水3	1	1	全	84
Writing Skills II	山中 章子	秋	水3	1	1	全	84
Writing Skills I	D. マッキー	春	木4	1	1	全	85
Writing Skills II	D. マッキー	秋	木4	1	1	全	85
Writing Skills I	D. マッキー	春	水4	1	1	全	86
Writing Skills II	D. マッキー	秋	水4	1	1	全	86
Writing Skills I	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	87
Writing Skills II	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	87
Writing Skills I	K. ミーハン	春	月2	1	1	全	88
Writing Skills II	K. ミーハン	秋	月2	1	1	全	88
Writing Skills I	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	89
Writing Skills II	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	89
Writing Skills I	D. マッキー	春	水3	1	1	全	90
Writing Skills II	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	90
Writing Skills I	B. S. ハウエル	春	月3	1	1	全	91
Writing Skills II	B. S. ハウエル	秋	月3	1	1	全	91
Writing Skills I	J. E. マジャーラ	春	月3	1	1	全	92
Writing Skills II	J. E. マジャーラ	秋	月3	1	1	全	92
Writing Skills I	S. ペイン	春	水3	1	1	全	93
Writing Skills II	S. ペイン	秋	水3	1	1	全	93

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Skills I	金谷 優子	春	火2	1	1	全	94
Writing Skills II	金谷 優子	秋	火2	1	1	全	94
Writing Skills I	S. ペイン	春	金3	1	1	全	95
Writing Skills II	S. ペイン	秋	金3	1	1	全	95
Writing Skills I	金谷 優子	春	火3	1	1	全	96
Writing Skills II	金谷 優子	秋	火3	1	1	全	96
Writing Skills III	K. エラ	春	木4	1	2	全	97
Writing Skills IV	K. エラ	秋	木4	1	2	全	97
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	1	2	全	98
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	1	2	全	98
Writing Skills III	S. ペイン	春	木1	1	2	全	99
Writing Skills IV	S. ペイン	秋	木1	1	2	全	99
Writing Skills III	M. フッド	春	月4	1	2	全	100
Writing Skills IV	M. フッド	秋	月4	1	2	全	100
Writing Skills III	A. ジェネス	春	月4	1	2	全	101
Writing Skills IV	A. ジェネス	秋	月4	1	2	全	101
Writing Skills III	J. E. マジャーラ	春	月4	1	2	全	102
Writing Skills IV	J. E. マジャーラ	秋	月4	1	2	全	102
Writing Skills III	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	103
Writing Skills IV	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	103
Writing Skills III	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	104
Writing Skills IV	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	104
Writing Skills III	E. フランコ	春	水2	1	2	全	105
Writing Skills IV	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	105
Writing Skills III	P. マッケビリー	春	月3	1	2	全	106
Writing Skills IV	P. マッケビリー	秋	月3	1	2	全	106
Writing Skills III	A. マグズ	春	月3	1	2	全	107
Writing Skills IV	A. マグズ	秋	月3	1	2	全	107
Writing Skills III	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	108
Writing Skills IV	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	108
Writing Skills III	B. S. ハウエル	春	水2	1	2	全	109
Writing Skills IV	B. S. ハウエル	秋	水2	1	2	全	109
Writing Skills III	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	110
Writing Skills IV	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	110
Writing Skills III	A. G. ミルン	春	水5	1	2	全	111
Writing Skills IV	A. G. ミルン	秋	水5	1	2	全	111
Writing Skills III	山中 章子	春	水4	1	2	全	112
Writing Skills IV	山中 章子	秋	水4	1	2	全	112
Writing Skills III	A. G. ミルン	春	水4	1	2	全	113
Writing Skills IV	A. G. ミルン	秋	水4	1	2	全	113
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	木4	1	2	全	114
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	木4	1	2	全	114
E-learning I	船越 健志	春	金5	1	1	全	115
E-learning II	船越 健志	秋	金5	1	1	全	115
E-learning I	安井 美代子	春	金5	1	1	全	116
E-learning II	安井 美代子	秋	金5	1	1	全	116

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

## 学科共通科目「英語専門講読 I・II」

09～17年度入学者用

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読 I・II (Cool Japan: 1900-1960)	J. E. マジャーレ	春秋	月2	2	2	交	117
英語専門講読 I (生成文法理論と英語統語論)	鈴木 英一	春秋	月2	2	2	交	118
英語専門講読 I・II (Immigration, Social Change & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	交	119
英語専門講読 I・II (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	月3	2	2	交	120
英語専門講読 I (ポストモダン文化とは何か)	板場 良久	春のみ	月3	2	2	交	121
英語専門講読 I・II (芝居の台本を読んで観る)	児嶋 一男	春秋	月3	2	2	交	122
英語専門講読 I・II (ナーサリー・ライムズを読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	交	123
英語専門講読 I・II (イギリス児童文学)	前沢 浩子	春秋	月4	2	2	交	124
英語専門講読 I・II (日本社会・文化の再確認)	町田 喜義	春秋	月4	2	2	交	125
英語専門講読 I・II (Situating Your Eating Habit in the Social Context)	三吉 美加	春秋	月4	2	2	交	126
英語専門講読 I・II (A Geek in Japan: Discovering the land...)(Culture)	N. H. ジョスト	春秋	火1	2	2	交	127
英語専門講読 I・II (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	火2	2	2	交	128
英語専門講読 I・II (英語教育・SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	交	129
英語専門講読 I・II (The History of Language)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	交	130
英語専門講読 II (子どものことば獲得の基礎)	青柳 真紀子	秋のみ	火3	2	2	交	131
英語専門講読 I・II (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	火3	2	2	交	132
英語専門講読 I・II (異文化コミュニケーションの基礎 / 異文化コミュニケーションの理論)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	交	133
英語専門講読 I・II (アメリカ現代詩)	原 成吉	春秋	火3	2	2	交	134
英語専門講読 I・II (日英語の再帰形の比較 / 日英語の移動現象の比較)	安井 美代子	春秋	火3	2	2	交	135
英語専門講読 I・II (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	火4	2	2	交	136
英語専門講読 I・II (現代東南アジアの政治・経済・社会)	金子 芳樹	春秋	火4	2	2	交	137
英語専門講読 I・II (Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy)	北野 収	春秋	火4	2	2	交	138
英語専門講読 I・II (英国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	交	139
英語専門講読 I・II (世界ブランドとグローバル社会)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	交	140
英語専門講読 I・II (比較統語論)	船越 健志	春秋	火4	2	2	交	141
英語専門講読 I・II (ヒッチコック映画批評)	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2	交	142

## 学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読 I・II (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2	交	143
英語専門講読 I・II (International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development)	北野 収	春秋	水1	2	2	交	144
英語専門講読 I・II (現代社会における国際組織)	松村 尚子	春秋	水1	2	2	交	145
英語専門講読 I・II (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	交	146
英語専門講読 I・II (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	水2	2	2	交	147
英語専門講読 I・II (ディズニーと世界情勢)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	交	148
英語専門講読 I・II (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	交	149
英語専門講読 I・II (外国人が旅するJapan①: Lonely Planet編 / 外国人が旅するJapan②: Michelin & 比較分析編)	山口 誠	春秋	木1	2	2	交	150
英語専門講読 I・II (Diplomacy and International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	交	151
英語専門講読 I・II (ツーリズムの現状と課題 / 航空の現状と歴史)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	交	152
英語専門講読 I・II (小さき人々の歴史——変化する英国社会を読む)	上野 直子	春秋	木3	2	2	交	153
英語専門講読 I・II (前期Bob Dylan の歌詞を読む/ Bob Dylan のロック期以降の歌詞を読む)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	交	154
英語専門講読 I・II (コミュニケーションの諸モデル / イノベーションの普及プロセス)	佐々木 輝美	春秋	木3	2	2	交	155
英語専門講読 I・II (通訳訓練のための原書講読)	柴原 早苗	春秋	木3	2	2	交	156
英語専門講読 I・II (ツーリズム研究の基礎概念 / ツーリズム研究の現代的課題)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	交	157
英語専門講読 I・II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	交	158
英語専門講読 I・II (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木4	2	2	交	159
英語専門講読 I・II (認知英文法)	小早川 暁	春秋	木4	2	2	交	160
英語専門講読 I・II (Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’)	工藤 和宏	春秋	金1	2	2	交	161
英語専門講読 I・II (英語の絵本を読み解く)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	交	162
英語専門講読 I・II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	金2	2	2	交	163
英語専門講読 I・II (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	金2	2	2	交	164
英語専門講読 I・II (Conflict and Development)	石川 幸子	春秋	金3	2	2	交	165

# 学科共通科目

09～17年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
2013 年度以降 入学者	Advanced Writing (Research)	M. L. ボイル	春	月4	2	3	交	166
	Advanced Writing (Research)	M. L. ボイル	秋	月4	2	3	交	166
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	交	167
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	交	167
	Advanced Writing (Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	交	168
	Advanced Writing (Business)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	交	168
	Advanced Writing (Creative)	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	交	169
	Advanced Writing (Research)	M. L. ボイル	春	水3	2	3	交	170
	Advanced Writing (Research)	M. L. ボイル	秋	水3	2	3	交	170
	Advanced Writing (Creative)	J. ハレスキ	春	木1	2	3	交	171
	Advanced Writing (Research)	K. エラ	春	木3	2	3	交	172
	Advanced Writing (Research)	K. エラ	秋	木3	2	3	交	172
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	春	金3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	秋	金3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	春	金4	2	3	交	174
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	交	174
2012 年度以前 入学者	Academic Writing	M. L. ボイル	春	月4	2	2	交	166
	Academic Writing	M. L. ボイル	秋	月4	2	2	交	166
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	167
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	167
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	168
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	168
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	交	169
	Academic Writing	M. L. ボイル	春	水3	2	2	交	170
	Academic Writing	M. L. ボイル	秋	水3	2	2	交	170
	Academic Writing	J. ハレスキ	春	木1	2	2	交	171
	Academic Writing	K. エラ	春	木3	2	2	交	172
	Academic Writing	K. エラ	秋	木3	2	2	交	172
	Academic Writing	A. マグズ	春	金3	2	2	交	173
	Academic Writing	A. マグズ	秋	金3	2	2	交	173
Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	交	174	
Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	交	174	
College Grammar	河原 宏之	春	月3	2	2	交	175	
College Grammar	河原 宏之	秋	月3	2	2	交	175	
College Grammar	河原 宏之	春	月5	2	2	交	176	
College Grammar	河原 宏之	秋	月5	2	2	交	176	
College Grammar	倉林 秀男	秋	月5	2	2	交	177	
College Grammar	小早川 暁	春	水2	2	2	交	178	
College Grammar	小早川 暁	秋	水2	2	2	交	178	
College Grammar	水口 学	春	水4	2	2	交	179	
College Grammar	水口 学	秋	水4	2	2	交	179	
College Grammar	水口 学	春	水5	2	2	交	180	
College Grammar	水口 学	秋	水5	2	2	交	180	
College Grammar	府川 謹也	春	金2	2	2	交	181	
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	交	181	
College Grammar	田川 憲二郎	春	金3	2	2	交	182	
College Grammar	田川 憲二郎	秋	金3	2	2	交	182	

# 学科共通科目

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
2 0 1 3 年度 以降 入学 者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	交	183	
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	交	183	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	184	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	184	
	Communication Skills	M. フッド	春	月2	2	2	交	185	
	Communication Skills	M. フッド	秋	月2	2	2	交	185	
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月3	2	2	交	186	
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月3	2	2	交	186	
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	交	187	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	187	
	Communication Skills	J. スネール	春	火3	2	2	交	188	
	Communication Skills	J. スネール	秋	火3	2	2	交	188	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	189	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	189	
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	190	
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	190	
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	191	
	Communication Skills	M. L. ボイル	春	水4	2	2	交	191	
	2 0 1 2 年度 以前 入学 者	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	192
		Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	192
Communication Skills		R. ダラム	春	木2	2	2	交	193	
Communication Skills		R. ダラム	秋	木2	2	2	交	193	
Communication Skills		R. ダラム	春	木3	2	2	交	194	
Communication Skills		R. ダラム	秋	木3	2	2	交	194	
Communication Skills		P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	195	
Communication Skills		P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	195	
Communicative English		K. フォード	春	月1	2	2	交	183	
Communicative English		K. フォード	秋	月1	2	2	交	183	
Communicative English		R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	184	
Communicative English		R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	184	
Communicative English		M. フッド	春	月2	2	2	交	185	
Communicative English		M. フッド	秋	月2	2	2	交	185	
Communicative English		M. ダーリン	春	月3	2	2	交	186	
Communicative English		M. ダーリン	秋	月3	2	2	交	186	
Communicative English		R. ダラム	春	火1	2	2	交	187	
Communicative English		R. ダラム	秋	火1	2	2	交	187	
Communicative English		J. スネール	春	火3	2	2	交	188	
Communicative English		J. スネール	秋	火3	2	2	交	188	
Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	189		
Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	189		
Communicative English	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	190		
Communicative English	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	190		
Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	191		
Communicative English	M. L. ボイル	春	水4	2	2	交	191		
Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	交	192		
Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	交	192		
Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	交	193		
Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	193		
Communicative English	R. ダラム	春	木3	2	2	交	194		
Communicative English	R. ダラム	秋	木3	2	2	交	194		
Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	195		
Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	195		

# 学科共通科目

09～17年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	交	196	
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	交	196	
Discussion	N. H. ジョスト	春	月3	2	2	交	197	
Discussion	N. H. ジョスト	秋	月3	2	2	交	197	
Discussion	E. J. ナオウミ	春	水4	2	2	交	198	
Discussion	E. J. ナオウミ	秋	水4	2	2	交	198	
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	199	
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	199	
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	交	200	
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	交	200	
Discussion	L. K. ハーキンス	春	金2	2	2	交	201	
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	金2	2	2	交	201	
Public Speaking I	D. マッキー	春	水2	2	2	交	202	
Public Speaking I	D. マッキー	秋	水2	2	2	交	202	
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	交	203	
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	交	203	
Debate I	N. H. ジョスト	春	月4	2	2	交	204	
Debate II	N. H. ジョスト	秋	月4	2	2	交	204	
1 3 年 度 以 降	Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	春	火4	2	2	交	205
	Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	秋	火4	2	2	交	205
	Academic Lecture	伊藤 兵馬	春	木4	2	2	交	206
	Academic Lecture	伊藤 兵馬	秋	木4	2	2	交	206
	Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水3	2	2	交	207
	Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	交	207
	Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水5	2	2	交	208
	英語の音声	青柳 真紀子	秋	火4	2	2	交	209
	英語の音声	中田 ひとみ	秋	水5	2	2	交	210
通訳 I	柴原 早苗	春	水1	2	2	交	211	
通訳 I	柴原 早苗	秋	水1	2	2	交	211	
通訳 I	柴原 早苗	春	水2	2	2	交	212	
通訳 I	柴原 早苗	秋	水2	2	2	交	212	
通訳 I	柴原 早苗	春	木1	2	2	交	213	
通訳 I	柴原 早苗	秋	木1	2	2	交	213	
通訳 II	柴原 早苗	春	木2	2	2	交	214	
通訳 II	柴原 早苗	秋	木2	2	2	交	214	
翻訳	高田 宣子	春	火5	2	2	交	215	
翻訳	高田 宣子	秋	火5	2	2	交	215	
翻訳	上野 直子	秋	水2	2	2	交	216	
翻訳	白川 貴子	春	水3	2	2	交	217	
翻訳	白川 貴子	秋	水3	2	2	交	217	
翻訳	P. ネルム	秋	水3	2	2	交	218	
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	218	
翻訳	山中 章子	春	水5	2	2	交	219	
翻訳	山中 章子	秋	水5	2	2	交	219	
翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	交	220	
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	交	220	
翻訳	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	交	221	
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	交	221	

# 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	交・経	222
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	交・経	222
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	交・経	223
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	交・経	223
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	春	木1	2	2	交・経	224
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	秋	木1	2	2	交・経	224
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	春	木2	2	2	交・経	225
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	秋	木2	2	2	交・経	225
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	交・経	226
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	交・経	226
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	交・経	228
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	229
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	229
メディア英語 I	関根 路代	春	水3	2	2	交	230
メディア英語 I	関根 路代	秋	水3	2	2	交	230
メディア英語 I	国見 晃子	春	木2	2	2	交	231
メディア英語 I	国見 晃子	秋	木2	2	2	交	231
メディア英語 I	土川 孝	春	木3	2	2	交	232
メディア英語 I	土川 孝	秋	木3	2	2	交	232
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	交	233
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	233
メディア英語 I	東郷 公德	春	金3	2	2	交	234
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	234
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	235
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	235
メディア英語 II	関根 路代	春	水2	2	2	交	236
メディア英語 II	関根 路代	秋	水2	2	2	交	236
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	交	237
メディア英語 II	東郷 公德	秋	金3	2	2	交	237
シネマ英語	高田 宣子	春	火3	2	2	交	238
シネマ英語	高田 宣子	秋	火3	2	2	交	238
シネマ英語	高田 宣子	春	火4	2	2	交	239
シネマ英語	高田 宣子	秋	火4	2	2	交	239
シネマ英語	M. L. ボイル	秋	水4	2	2	交	240
シネマ英語	国見 晃子	春	木3	2	2	交	241
シネマ英語	国見 晃子	秋	木3	2	2	交	241

## 学科専門科目(16年度以降)

### コース横断科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	全	242
国際ツーリズム各論	増田 由香子	秋	水3	2	2	全	242
世界ブランド論	水本 義彦	春	水3	2	2	全	243
ポップカルチャー・スタディーズ	大木 理恵子	春	月1	2	2	全	244
フィルム・スタディーズ	大木 理恵子	秋	月1	2	2	全	244
ステージ・パフォーマンス	児嶋 一男	秋	火2	2	2	全	245
海外留学と国際理解	工藤 和宏	春	火4	2	2	全	245
Global Studies 1	J. ハレスキ	春	水4	2	2	全	246
Global Studies 2	工藤 和宏	秋	火4	2	2	全	246

### グローバル社会

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	247
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	247
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	248
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火3	2	2	交	248
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	249
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	249
グローバル・ヒストリーa	水本 義彦	春	木2	2	2	交	250
グローバル・ヒストリーb	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	250
国際開発論	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	251
国際協力論	金子 芳樹	春	火2	2	2	交	252
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	253
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	254
国際リスク・海洋論	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	255
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	水2	2	2	交	256
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交	256
国際関係文献セミナーa	石川 幸子	春	金4	2	3	交	257
国際関係文献セミナーb	永野 隆行	秋	水2	2	3	交	258
国際関係文献セミナーb	石川 幸子	秋	金4	2	3	交	257

### メディア・コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化コミュニケーション論	佐々木 輝美	春	金5	2	2	養	259
異文化コミュニケーション論	佐々木 輝美	秋	金5	2	2	養	259
メディア文化論	松本 健太郎	春	金5	2	2	養	260
メディア文化論	松本 健太郎	秋	金5	2	2	養	260
メディア・スタディーズ	佐々木 輝美	秋	木2	2	2		261
イメージ文化論	板場 良久	春	水1	2	2		262
コミュニケーション論	柿田 秀樹	秋	火4	2	2		263
視覚コミュニケーション論	柿田 秀樹	春	火4	2	2		263
マス・コミュニケーション論	佐々木 輝美	春	木2	2	2		261
スピーチ・コミュニケーション論	板場 良久	春	月4	2	2		264
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		265
コミュニケーション論特殊講義a	松本 健太郎	春	金3	2	2		266
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		265
コミュニケーション論特殊講義b	松本 健太郎	秋	金3	2	2		266
コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	水2	2	3		267
コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	金4	2	3		268
コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		267
コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	金4	2	3		268

## 学科専門科目(16年度以降)

### 文学・文化・歴史

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語圏の文学・文化a	原 成吉	春	火1	2	2		269
英語圏の文学・文化b	前沢 浩子	秋	火1	2	2		269
英語圏の文学・文化・批評a	上野 直子	春	木4	2	2		270
英語圏の文学・文化・批評b	児嶋 一男	秋	月2	2	2		271
英語圏の文学・文化・批評b	原 成吉	秋	火4	2	2		272
英語圏の社会・思想・歴史a	前沢 浩子	春	火1	2	2		273
英語圏の社会・思想・歴史a	上野 直子	春	水2	2	2		274
英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		275
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	276
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	276
英語圏の文学・文化特殊講義 a	児嶋 一男	春	月2	2	2		277
英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	春	金2	2	2		278
英語圏の文学・文化特殊講義 b	島田 啓一	秋	木3	2	2		278
英語圏の文学・文化特殊講義 b	上野 直子	秋	木4	2	2		277
英語圏の文学・文化文献セミナーa	島田 啓一	春	木3	2	3		279
英語圏の文学・文化文献セミナーb	高橋 雄一郎	秋	金2	2	3		279

### 言語・教育

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
言語学の世界	小早川 暁	春	火5	2	2	交	280
言語学の世界	府川 謹也	秋	金1	2	2	交	280
コーパス言語学a	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	281
コーパス言語学b	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	281
英語教育研究	浅岡 千利世	春	月2	2	2		282
英語教育教材論	J. J. ダゲン	秋	木2	2	2		282
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		283
シンタクスa	安井 美代子	春	金3	2	2		284
シンタクスb	安井 美代子	秋	金3	2	2		284
意味論a	府川 謹也	春	火1	2	2		285
意味論b	府川 謹也	秋	火1	2	2		285
言語・教育特殊講義a	小早川 暁	春	木3	2	2		286
言語・教育特殊講義a	府川 謹也	春	金1	2	2		287
言語・教育特殊講義a	船越 健志	春	金4	2	2		288
言語・教育特殊講義b	小早川 暁	秋	木3	2	2		286
言語・教育特殊講義b	船越 健志	秋	金4	2	2		288
言語・教育文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		289
言語・教育文献セミナーb	小早川 暁	秋	火5	2	3		289

### 特別セミナー(16年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
特別セミナー(言語情報処理Ⅱa)	内田 富男	春	水1	2	2		290
特別セミナー(言語情報処理Ⅱb)	内田 富男	秋	水1	2	2		290

## 学科専門科目

### 言語コミュニケーション(12年度以前)／言語(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語学の世界	小早川 暁	春	火5	2	2	交	280
英語学の世界	府川 謹也	秋	金1	2	2	交	280
言語情報処理Ⅰa	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	281
言語情報処理Ⅰb	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	281
言語情報処理Ⅱa	内田 富男	春	水1	2	2		290
言語情報処理Ⅱb	内田 富男	秋	水1	2	2		290
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		283
シンタクスa	安井 美代子	春	金3	2	2		284
シンタクスb	安井 美代子	秋	金3	2	2		284
意味論a	府川 謹也	春	火1	2	2		285
意味論b	府川 謹也	秋	火1	2	2		285
英語学特殊講義a	小早川 暁	春	木3	2	2		286
英語学特殊講義a	府川 謹也	春	金1	2	2		287
英語学特殊講義a	船越 健志	春	金4	2	2		288
英語学特殊講義b	小早川 暁	秋	木3	2	2		286
英語学特殊講義b	船越 健志	秋	金4	2	2		288
<small>13年度以降</small> 英語学文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		289
<small>13年度以降</small> 英語学文献セミナーb	小早川 暁	秋	火5	2	3		289
<small>12年度以前</small> 英語学文献研究a	小早川 暁	春	火3	2	3		289
<small>12年度以前</small> 英語学文献研究b	小早川 暁	秋	火5	2	3		289

### 文学コミュニケーション(12年度以前)／文学文化(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
1 英語圏の文学・文化a	原 成吉	春	火1	2	2		269
3 英語圏の文学・文化b	前沢 浩子	秋	火1	2	2		269
年度以降 英語圏の文学・文化・批評a	上野 直子	春	木4	2	2		270
英語圏の文学・文化・批評b	児嶋 一男	秋	月2	2	2		271
英語圏の文学・文化・批評b	原 成吉	秋	火4	2	2		272
英語圏の社会・思想・歴史a	前沢 浩子	春	火1	2	2		273
英語圏の社会・思想・歴史a	上野 直子	春	水2	2	2		274
英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		275
1 英語圏の文学・文化	原 成吉	春	火1	2	2		269
2 英語圏の文学・文化	前沢 浩子	秋	火1	2	2		269
年度以前 英語圏の小説 a	上野 直子	春	木4	2	2		270
英語圏の演劇 b	児嶋 一男	秋	月2	2	2		271
英語圏の詩 b	原 成吉	秋	火4	2	2		272
英語圏の社会と思想 a	前沢 浩子	春	火1	2	2		273
英語圏の社会と思想 a	上野 直子	春	水2	2	2		274
英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		275
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	276
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	276
英語圏の文学・文化特殊講義 a	児嶋 一男	春	月2	2	2		277
英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	春	金2	2	2		278
英語圏の文学・文化特殊講義 b	島田 啓一	秋	木3	2	2		278
英語圏の文学・文化特殊講義 b	上野 直子	秋	木4	2	2		277
<small>13年度以降</small> 英語圏の文学・文化文献セミナーa	島田 啓一	春	木3	2	3		279
<small>13年度以降</small> 英語圏の文学・文化文献セミナーb	高橋 雄一郎	秋	金2	2	3		279
<small>12年度以前</small> 英語圏の文学・文化文献研究 a	島田 啓一	春	木3	2	3		279
<small>12年度以前</small> 英語圏の文学・文化文献研究 b	高橋 雄一郎	秋	金2	2	3		279

## 学科専門科目

### 異文化コミュニケーション(12年度以前)／文化コミュニケーション(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	春	金5	2	2	養	259
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	秋	金5	2	2	養	259
異文化間コミュニケーション論b	松本 健太郎	春	金5	2	2	養	260
異文化間コミュニケーション論b	松本 健太郎	秋	金5	2	2	養	260
メディア・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	春	木2	2	2		261
メディア・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	秋	木2	2	2		261
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	火4	2	2		263
スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	春	水1	2	2		262
スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	春	月4	2	2		264
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	火4	2	2		263
コミュニケーション論特殊講義a	大木 理恵子	春	月1	2	2		244
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		265
コミュニケーション論特殊講義a	松本 健太郎	春	金3	2	2		266
コミュニケーション論特殊講義b	大木 理恵子	秋	月1	2	2		244
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		265
コミュニケーション論特殊講義b	松本 健太郎	秋	金3	2	2		266
13年度以降 コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	水2	2	3		267
13年度以降 コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	金4	2	3		268
13年度以降 コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		267
13年度以降 コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	金4	2	3		268
12年度以前 コミュニケーション論文献研究a	柿田 秀樹	春	水2	2	3		267
12年度以前 コミュニケーション論文献研究a	松本 健太郎	春	金4	2	3		268
12年度以前 コミュニケーション論文献研究b	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		267
12年度以前 コミュニケーション論文献研究b	松本 健太郎	秋	金4	2	3		268

### 国際コミュニケーション(12年度以前)／国際関係(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	247
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	247
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	248
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火3	2	2	交	248
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	249
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	249
グローバル・ヒストリーa(2013年度以降入学者)	水本 義彦	春	木2	2	2	交	250
グローバル・ヒストリーb(2013年度以降入学者)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	250
国際開発論	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	251
国際協力論	金子 芳樹	春	火2	2	2	交	252
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	253
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	交	242
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	254
国際リスク・海洋論(2013年度以降入学者)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	255
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	水2	2	2	交 13以降	256
国際関係特殊講義a(2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	春	木2	2	2	交 13以降	250
国際関係特殊講義b(2012年度以前入学者、重複履修不可)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交 13以降	255
国際関係特殊講義b(2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交 13以降	250
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交 13以降	256
13年度以降 国際関係文献セミナーa	石川 幸子	春	金4	2	3	交 13以降	257
13年度以降 国際関係文献セミナーb	永野 隆行	秋	水2	2	3	交 13以降	258
13年度以降 国際関係文献セミナーb	石川 幸子	秋	金4	2	3	交 13以降	257
12年度以前 国際関係文献研究a	石川 幸子	春	金4	2	3		257
12年度以前 国際関係文献研究b	永野 隆行	秋	水2	2	3		258
12年度以前 国際関係文献研究b	石川 幸子	秋	金4	2	3		257

## 特別セミナー

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
特別セミナー(国際ツーリズム各論)	増田 由香子	秋	水3	2	2	全	242
特別セミナー(世界ブランド論)	水本 義彦	春	水3	2	2	全	243
特別セミナー(ステージ・パフォーマンス)	児嶋 一男	秋	火2	2	2	全	245
特別セミナー(海外留学と国際理解)	工藤 和宏	春	火4	2	2	全	245
特別セミナー(Global Studies1)	J. ハレスキ	春	水4	2	2	全	246
特別セミナー(Global Studies2)	工藤 和宏	秋	火4	2	2	全	246
特別セミナー(英語教育教材論)	J. J. ダゲン	秋	木2	2	2	全	282

# 交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	291
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	292
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	293
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	294
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	295
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバルゼーションと子ども))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	296
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	297
交流文化論(フィールドワーク論)	須永 和博	春	木3	2	2	独・仏・交・養・経・法	298
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	299
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	300
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル社会での平和))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	金2	2	2	交・養・経・法	301
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	302
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	303
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	304
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	305
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	306
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	307
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (交流文化の思想を読み解く))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	308
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	309
交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム地誌論))【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(ツーリズム地誌論)【2012年度以前入学者】	須永 和博	秋	木3	2	2	独・仏・交・養・経・法	310
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	311
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	312
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	313
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (トランスナショナルな公共圏を求めて))【2013年度以降入学者】	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	独・仏・交・養・経・法	314
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (パフォーマンス研究))【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(パフォーマンス研究)【2012年度以前入学者】	高橋 雄一郎	秋	木5	2	2	独・仏・交・養・経・法	315
交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	316
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバルゼーションと市民社会))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	金2	2	2	交・養・経・法	317

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	大重 光太郎	春	水3	2	1	養・経・法	319
総合講座	M. ビティヒ	秋	水3	2	1	養・経・法	319
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	320
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	320
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	321
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						322~324
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						325~327
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						328~329
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	330
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	330
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	331
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	331

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

# 英語学科シラバス

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～6週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、グローバル社会コースではどのような勉強をするのかをイメージできるように考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2～6. 国際関係の基礎シリーズ *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦期の出来事、③冷戦崩壊とポスト冷戦期の特徴などを扱います。</p> <p>7～12.国際社会の構造と変化シリーズ *国際関係の基本的な構造について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p>13～15.グローバル化の中の国際社会シリーズ *グローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、新たな国際関係や国際協力のあり方・トレンドなどについて考えます。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）</p>	
<b>到達目標</b>	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～6週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、グローバル社会コースではどのような勉強をするのかをイメージできるように考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p>1. イントロダクション *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p>2～6. 国際関係の基礎シリーズ *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦期の出来事、③冷戦崩壊とポスト冷戦期の特徴などを扱います。</p> <p>7～12.国際社会の構造と変化シリーズ *国際関係の基本的な構造について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p>13～15.グローバル化の中の国際社会シリーズ *グローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、新たな国際関係や国際協力のあり方・トレンドなどについて考えます。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）</p>	
<b>到達目標</b>	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、入門科目として国際関係論の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。春semesterの前半では、概念的な事柄について講義し、国際関係の3つの分析枠組みを紹介する。後半では、今日のグローバル・イシューズと呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、具体的に検討していく計画である。上記の内容に加えて、講義の冒頭で「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、概念（分析枠組み）と現実の国際問題との関連を意識できるように努める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに 国際関係を学ぶ意義</li> <li>2 国際関係の三つの見方（分析枠組み）</li> <li>3 リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争</li> <li>4 リアリズム（2）：アナーキー、勢力均衡</li> <li>5 リベラリズム（1）：利益の共有、協調</li> <li>6 リベラリズム（2）：相互依存、国際レジーム</li> <li>7 マルキシズム（1）：支配と従属、搾取、格差</li> <li>8 マルキシズム（2）：従属論、世界システム論</li> <li>9 中間のまとめ：三つの枠組みの比較</li> <li>10 グローバル・イシューズとは何か？</li> <li>11 グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器</li> <li>12 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題</li> <li>13 グローバル・イシューズ（3）紛争と平和構築</li> <li>14 グローバル・イシューズ（4）難民、国内避難民</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際社会で起こっている様々な出来事の基本的な構造、背景、影響などを理解し、分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の講読		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回の講義で参考文献リストを配布する。		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、試験 80%		

16年度以降 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まります。この講義では、文化研究とコミュニケーション研究の知見を活用しながら、様々なテーマに関する問い直しを行います。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック（QQ）を行います。これで一定以上の成績を取めた受講生には研究発表を行う資格が与えられます。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>1～2. 授業方針、注意事項、研究班の編成</p> <p>3. コミュニケーションという力（第1章）</p> <p>4. メディア（第2章）</p> <p>5. 個人・家族（第3章）</p> <p>6. ジェンダー・セクシュアリティ（第4章）</p> <p>7. 文化（第5章）</p> <p>8. 記号の力（第6章）</p> <p>9. 教育（第7章）</p> <p>10. 精神（第8章）</p> <p>11. 社会思想としてのコミュニケーション（第9章）</p> <p>12～13. 事例研究</p> <p>14. 小テスト、グループ・カウンセリング</p> <p>15. 研究発表</p>	
<b>到達目標</b>	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの目次と授業計画の講義題目が対応していますので、該当する章を予めよく読んでから各講義に出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	板場&池田編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房、2011）		
<b>評価方法</b>	研究発表（準備＋発表＋審査）：90%、小テスト（QQ）＝研究発表の資格審査：10%		

16年度以降 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。</p> <p><b>講義概要：</b>本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。</p> <p>さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究方法について説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. コミュニケーションプロセスの概念について</li> <li>3. コミュニケーションの要素①</li> <li>4. コミュニケーションの要素②</li> <li>5. コミュニケーションと文化①</li> <li>6. コミュニケーションと文化②</li> <li>7. 【ビデオ内容の分析 (小レポート①)】</li> <li>8. コミュニケーションと態度変容</li> <li>9. メディアの影響力①</li> <li>10. メディアの影響力②</li> <li>11. 【ビデオ内容の分析 (小レポート②)】</li> <li>12. イノベーションの普及コミュニケーション①</li> <li>13. イノベーションの普及コミュニケーション②</li> <li>14. コミュニケーションの研究方法論について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時に資料を配布，参考文献：授業時に随時紹介する		
評価方法	授業への参加度 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%		

16年度以降 09～15年度	メディア・コミュニケーション入門 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的：</b>目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。</p> <p><b>講義概要：</b>本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。</p> <p>さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究方法について説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. コミュニケーションプロセスの概念について</li> <li>3. コミュニケーションの要素①</li> <li>4. コミュニケーションの要素②</li> <li>5. コミュニケーションと文化①</li> <li>6. コミュニケーションと文化②</li> <li>7. 【ビデオ内容の分析 (小レポート①)】</li> <li>8. コミュニケーションと態度変容</li> <li>9. メディアの影響力①</li> <li>10. メディアの影響力②</li> <li>11. 【ビデオ内容の分析 (小レポート②)】</li> <li>12. イノベーションの普及コミュニケーション①</li> <li>13. イノベーションの普及コミュニケーション②</li> <li>14. コミュニケーションの研究方法論について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	基礎的なコミュニケーション論、および、文化とコミュニケーションの関係性を理解し、分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト：授業時に資料を配布，参考文献：授業時に随時紹介する		
評価方法	授業への参加度 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%		

16年度以降 (12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】フランケンシュタイン、アリス、ピーターパン、シャーロック・ホームズなどの名前を知らずにいる人はほとんどいないように、イギリス文学には、有名になって現代のポピュラーカルチャーにまで入り込んだものが数多くあります。この講義では、そんなメジャーな作品と、それほどでもないながら映画化されたりして一般にはよく知られている作品とを年代順に取り上げながら、文学作品の英語に親しんでもらうとともに、解釈のやりかたを学んでもらいます。</p> <p>【講義概要】二回で一作品ずつ、英語の原文を交えながら作品を紹介していきます。受講者のみなさんには、原文を読んだり、日本語に訳したり、映像化されたものと原文との比較を求めたりします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 3. Jane Austen, Pride and Prejudice</li> <li>4. 5. Mary Shelley, Frankenstein</li> <li>6. 7. Charlotte Bronte, Jane Eyre</li> <li>8. 9. Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland</li> <li>10. 11. J.M. Barrie, Peter and Wendy</li> <li>12. 13. Conan Doyle, The Hound of the Baskervilles</li> <li>14. 15. Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go</li> </ol> <p>*取り上げる作品、進度は変更することがあります。</p>	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：作者や作品について調べておくこと。 事後：授業内容をよく復習しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布。 参考文献：授業内で適宜紹介します。		
評価方法	毎回のコメントペーパー約3割、学期末試験約7割 *ただし欠席が授業回数の1/3を越える場合は、評価対象としません。		

16年度以降 (12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】フランケンシュタイン、アリス、ピーターパン、シャーロック・ホームズなどの名前を知らずにいる人はほとんどいないように、イギリス文学には、有名になって現代のポピュラーカルチャーにまで入り込んだものが数多くあります。この講義では、そんなメジャーな作品と、それほどでもないながら映画化されたりして一般にはよく知られている作品とを年代順に取り上げながら、文学作品の英語に親しんでもらうとともに、解釈のやりかたを学んでもらいます。</p> <p>【講義概要】二回で一作品ずつ、英語の原文を交えながら作品を紹介していきます。受講者のみなさんには、原文を読んだり、日本語に訳したり、映像化されたものと原文との比較を求めたりします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 3. Jane Austen, Pride and Prejudice</li> <li>4. 5. Mary Shelley, Frankenstein</li> <li>6. 7. Charlotte Bronte, Jane Eyre</li> <li>8. 9. Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland</li> <li>10. 11. J.M. Barrie, Peter and Wendy</li> <li>12. 13. Conan Doyle, The Hound of the Baskervilles</li> <li>14. 15. Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go</li> </ol> <p>*取り上げる作品、進度は変更することがあります。</p>	
到達目標	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：作者や作品について調べておくこと。 事後：授業内容をよく復習しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布。 参考文献：授業内で適宜紹介します。		
評価方法	毎回のコメントペーパー約3割、学期末試験約7割 *ただし欠席が授業回数の1/3を越える場合は、評価対象としません。		

16年度以降 (12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	原 成吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> アメリカの「文学文化」を鏡にしながら、そこに映し出された、日本の「いま、ここ」に生きる私たちの姿を考える。これから英語学科で学ぶ、さまざまな領域の水先案内を心がけたい。この講義の目的は、受講生に自分の日常と大学で学ぶことの意味を自ら考えてもらうことにある。</p> <p><b>講義概要</b> 講義は、毎回テキストの各章の中からトピックを選び、解説を加えながら進める。そのテーマに関する、詩や歌を事前にメーリング・リストで配布し、具体的な作品も紹介しながらアメリカをコラージュしてゆく。毎回、最後の15分はQ&amp;Aに当てる。 最低5回は、課題レポートを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネイティブ・アメリカンとは何か？</li> <li>2. アメリカン・ドリーム</li> <li>3. 信仰とアメリカ国民の生活</li> <li>4. 西部開拓の夢</li> <li>5. 移民の国アメリカ</li> <li>6. 奴隷制とアメリカ南部</li> <li>7. 都市と経済</li> <li>8. ハイブラウとロウブラウ</li> <li>9. 冷戦とヴェトナム戦争の対抗文化</li> <li>10. 環境</li> <li>11. 文化の変容</li> <li>12. マルチカルチュラリズム</li> <li>13. 犯罪・暴力・抑圧</li> <li>14. 身体文化</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	資料をプリントアウトし、疑問点を整理して講義に出席のこと。課題レポート（800字程度）をPorTaにて提出。		
<b>テキスト、参考文献</b>	笹田直人／堀真理子／外岡尚美編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房，2014年）		
<b>評価方法</b>	各回のレポートの総合点で決める。授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象とはしない。		

16年度以降 (12年度以前) 13～15年度	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学文化入門	担当者	原 成吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> アメリカの「文学文化」を鏡にしながら、そこに映し出された、日本の「いま、ここ」に生きる私たちの姿を考える。これから英語学科で学ぶ、さまざまな領域の水先案内を心がけたい。この講義の目的は、受講生に自分の日常と大学で学ぶことの意味を自ら考えてもらうことにある。</p> <p><b>講義概要</b> 講義は、毎回テキストの各章の中からトピックを選び、解説を加えながら進める。そのテーマに関する、詩や歌を事前にメーリング・リストで配布し、具体的な作品も紹介しながらアメリカをコラージュしてゆく。毎回、最後の15分はQ&amp;Aに当てる。 最低5回は、課題レポートを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ネイティブ・アメリカンとは何か？</li> <li>2. アメリカン・ドリーム</li> <li>3. 信仰とアメリカ国民の生活</li> <li>4. 西部開拓の夢</li> <li>5. 移民の国アメリカ</li> <li>6. 奴隷制とアメリカ南部</li> <li>7. 都市と経済</li> <li>8. ハイブラウとロウブラウ</li> <li>9. 冷戦とヴェトナム戦争の対抗文化</li> <li>10. 環境</li> <li>11. 文化の変容</li> <li>12. マルチカルチュラリズム</li> <li>13. 犯罪・暴力・抑圧</li> <li>14. 身体文化</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	社会・思想・歴史的背景を踏まえ、英語圏の基本的な文学・文化を鑑賞・批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	資料をプリントアウトし、疑問点を整理して講義に出席のこと。課題レポート（800字程度）をPorTaにて提出。		
<b>テキスト、参考文献</b>	笹田直人／堀真理子／外岡尚美編著『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房，2014年）		
<b>評価方法</b>	各回のレポートの総合点で決める。授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象とはしない。		

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」かもしれませんが、実は簡単な規則で予測できます。英語の母語話者はこの規則を無意識の知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してやることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ1）</li> <li>2. 英語の音のしくみ（クイズ2）</li> <li>3. 様々な音韻現象（クイズ3）</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち（クイズ4）</li> <li>5. 続き（クイズ5）</li> <li>6. 英語のアクセント（クイズ6）</li> <li>7. 中間試験（1～6週の範囲）</li> <li>8. 英語の文構造（クイズ7）</li> <li>9. 続き（クイズ8）</li> <li>10. 続き（クイズ9）</li> <li>11. 続き（クイズ10）</li> <li>12. 文構造の解析（クイズ11）</li> <li>13. 子供の言語獲得（クイズ12）</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験（8-15週の範囲）</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義内容を復習し、授業の最初に行う復習クイズの準備をする。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。プリントを配布する。		
評価方法	授業内クイズ（10%）、中間試験（40%）、定期試験（50%）		

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>contrastive と demonstrative はともに -ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」かもしれませんが、実は簡単な規則で予測できます。英語の母国語話者はこの規則を無意識の知識として持っていて、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧（たこ）」と「風（かぜ）」の前に「大（おお）」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思うかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してやることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の（言語）知識＝Human Intelligence（クイズ1）</li> <li>2. 英語の音のしくみ（クイズ2）</li> <li>3. 様々な音韻現象（クイズ3）</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち（クイズ4）</li> <li>5. 続き（クイズ5）</li> <li>6. 英語のアクセント（クイズ6）</li> <li>7. 中間試験（1～6週の範囲）</li> <li>8. 英語の文構造（クイズ7）</li> <li>9. 続き（クイズ8）</li> <li>10. 続き（クイズ9）</li> <li>11. 続き（クイズ10）</li> <li>12. 文構造の解析（クイズ11）</li> <li>13. 子供の言語獲得（クイズ12）</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験（8-15週の範囲）</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義内容を復習し、授業の最初に行う復習クイズの準備をする。		
テキスト、参考文献	テキストはなし。プリントを配布する。		
評価方法	授業内クイズ（10%）、中間試験（40%）、定期試験（50%）		

09年度以降	英語学入門	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、英語に対する理論言語学的接近法を理解することにより、暗記の対象としての英語という見方や意思伝達の道具としての英語という見方とは異なる、発見・理解の対象としての英語という見方を身につけることを目的とする。英語に対するこのような接近法は、英語そのものに対する理解を深めるだけでなく、複雑な現象の背後に存在する規則性といったものの存在に目を向ける契機となるはずである。</p> <p>講義ではまず、理論言語学の関心が、言語そのものというよりは、言語を生み出す仕組み、母語話者の言語直観に向けられていることを理解する。その後、英語を構成する小さな単位（単語）から大きな単位（文、さらには談話）へと講義は進んでゆく。狭義の文法だけでなく、意味現象、歴史変化、言語獲得などについても取り上げる予定である。また、折に触れて、日本語との比較も行いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 英語学とは何か 1</li> <li>3. 英語学とは何か 2</li> <li>4. 語の成り立ち—形態論</li> <li>5. 語の意味—意味論 1</li> <li>6. 語の組み合わせ—統語論 1</li> <li>7. 文の成り立ち—統語論 2</li> <li>8. 文の意味—意味論 2</li> <li>9. 発話の意味 1—語用論 1</li> <li>10. 発話の意味 2—語用論 2</li> <li>11. 音節と語アクセント—音韻論 1</li> <li>12. イントネーションとリズム—音韻論 2</li> <li>13. 英語の変化（文法化）—英語史</li> <li>14. 言語獲得と言語習得</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった、英語学の基礎理論を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	通常の意味での予習と復習は必須である。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業は板書や配布資料による。		
<b>評価方法</b>	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester).</p> <p>Overall Objectives In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include “World Englishes,” “The Science of Habits,” “Introduction to Africa,” and “Coaching Yourself!”</p>	
到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト、参考文献	Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

09年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester).</p> <p>Overall Objectives In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include “English through Drama,” “Bioethics,” “Puzzles and Thinking Outside the Box,” and “History of English: Contact, Conflict &amp; Change.”</p>	
到達目標	講義とワークを組み合わせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト、参考文献	Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction/orientation</li> <li>Disney video scene (1)</li> <li>“ (2)</li> <li>“ (3)</li> <li>“ (4)</li> <li>“ (5)</li> <li>“ (6)</li> <li>“ (7)</li> <li>Disney Mid Term</li> <li>Presentations</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Prints and handouts provided by the instructor shall be used for this class.		
評価方法	Participation, one mid term test, one presentation and one report		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Same as above</li> <li></li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course orientation &amp; overview</li> <li>Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions</li> <li>CS 2: cultural &amp; communicative awareness</li> <li>CS 3: ice-breakers</li> <li>CS 4: asking questions</li> <li>CS 5: responding</li> <li>CS 6: active listening</li> <li>Communication skills review</li> <li>Introduction to Extensive Reading &amp; Listening</li> <li>Graded reader</li> <li>Graded reader</li> <li>Group project preparation</li> <li>Group project practice</li> <li>Group presentations</li> <li>Course review &amp; evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - extensive reading & writing activities (30 - 60 mins) After - review previous week's class (20 mins)		
テキスト、参考文献	1. <i>Emma</i> , Macmillan		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Overview of the creative process</li> <li>Choosing your topic &amp; researching</li> <li>Rule of three : Number five</li> <li>Outlining &amp; drafting</li> <li>Editing &amp; practicing</li> <li>Presentation week 1</li> <li>Presentation feedback</li> <li>V for Vendetta 1: V's speech</li> <li>Vendetta 2: Valerie's letter</li> <li>Vendetta 3: Rookwood's story</li> <li>Presentation week 2</li> <li>Presentation feedback</li> <li>Love Actually</li> <li>Presentation week 3</li> <li>Course review &amp; evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - review previous week's class (20 mins)		
テキスト、参考文献	No set text		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) presentations 50%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>3. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>4. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>5. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>6. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>7. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>8. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>9. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>10. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>11. Video documentary preparation</li> <li>12. Video documentary preparation</li> <li>13. Video documentary preparation</li> <li>14. Video presentations</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a research or writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 60%, homework assignments 20%, final project 20%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions to Presentations</li> <li>2. The Physical Message</li> <li>3. The Physical Message</li> <li>4. The Physical Message</li> <li>5. The Visual Message</li> <li>6. The Visual Message</li> <li>7. The Visual Message</li> <li>8. The Story Message</li> <li>9. The Story Message</li> <li>10. The Story Message</li> <li>11. Final Performance</li> <li>12. Final Performance</li> <li>13. Final Performance</li> <li>14. Final Performance</li> <li>15. Final Performance</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be individual presentation practice required.		
テキスト、参考文献	Harrington and LeBeau. <i>Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners</i> . MacMillan, 2011.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 70%, homework assignments 30%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Class orientation, introductions</li> <li>Introduction to presentation skills; Unit 1</li> <li>Listening for gist, information speech; Unit 1</li> <li>Class survey and report; Unit 1</li> <li>Listening skill: inferring, demonstration speech; Unit 2</li> <li>Small group presentations</li> <li>Comprehensive reading; Unit 2</li> <li>Review, reading and listening tests; Unit 2</li> <li>Grammar workshop, reported speech; Unit 4</li> <li>Research and report writing; Unit 4</li> <li>Investigative reporting, Unit 4</li> <li>Introduction to topic research, report planning</li> <li>Topic research reporting; writing workshop</li> <li>Review, speaking test</li> <li>Consultations</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Unit readings, speech preparation, report writing, review for tests		
テキスト、参考文献	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman)		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Class orientation, giving opinions; Unit 5</li> <li>Active listening, expressing doubt; Unit 5</li> <li>Informal and formal speech; Unit 5</li> <li>Reading skills: summarizing; Unit 5</li> <li>Review, reading and listening tests</li> <li>Grammar review; Unit 7</li> <li>Topic selection and making outlines; Unit 7</li> <li>Speech delivery skills: using visual aids; Unit 7</li> <li>PowerPoint speech workshop</li> <li>Pronunciation workshop; Unit 8</li> <li>Investigative reporting II; Unit 8</li> <li>Writing persuasive speeches, Unit 8</li> <li>Review, using multimedia in speeches</li> <li>Persuasive speech presentations</li> <li>Consultations</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Unit readings, speech preparation, report writing, review for tests		
テキスト、参考文献	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman)		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech Listening Tests		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1- Introductions</p> <p>Week 2- Getting to know you</p> <p>Week 3- Best friends</p> <p>Week 4- The way we live</p> <p>Week 5- Tales of two cities</p> <p>Week 6- What happened next?</p> <p>Week 7- The Man with The Golden Gun</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- The marketplace</p> <p>Week 10- Markets around the world</p> <p>Week 11- What do you want to do?</p> <p>Week 12- Brat camp</p> <p>Week 13- Places and things</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites.		
テキスト、参考文献	American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1- London, The World in One City</p> <p>Week 2- Fame</p> <p>Week 3- The band Cherry Hill</p> <p>Week 4- Dos and don'ts</p> <p>Week 5- Leaving home</p> <p>Week 6- Going places</p> <p>Week 7- Travel addicts</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Things that changed the world</p> <p>Week 10- The Invention of Google</p> <p>Week 11- What if ...?</p> <p>Week 12- At a crossroads in life</p> <p>Week 13- Trying your best</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and look at English language websites. CNN news programs		
テキスト、参考文献	American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation &amp; demonstration</li> <li>Topic: Hometown; Task: Asking for &amp; giving information 1</li> <li>Topic: Free time &amp; Hobbies &amp; Club activities; Task: Asking for &amp; giving information 2</li> <li>Topic: Music; Task: Talking about preferences &amp; justifying 1</li> <li>Topic: Experiences; Task: Talking about &amp; describing experiences</li> <li>Topic: Travel; Task: Describing</li> <li>Topic: Food &amp; Eating out; Task: Inviting, accepting &amp; refusing</li> <li>Topic: Sports; Task: Agreeing &amp; disagreeing</li> <li>Topic: Entertainment; Task: Giving opinions</li> <li>Topic: Student choice; Task: Instructing</li> <li>Topic: Part-time jobs; Task: Complaining</li> <li>Topic: Mind, Body &amp; Health; Task: Suggesting</li> <li>Topic: Love &amp; Money; Task: Talking about preferences &amp; justifying 2</li> <li>Topic: Your future; Task: Predicting</li> <li>Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 34%; Task: 13%; Accuracy: 39%; Homework 14%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation; Impromptu speech skill &amp; practice</li> <li>Impromptu speech skill &amp; practice</li> <li>Impromptu speech assessment</li> <li>Speeches VS Presentations</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Speech 1 assessment</li> <li>Speech 1 assessment</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Speech 2 assessment</li> <li>Speech 2 assessment</li> <li>Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation &amp; demonstration</li> <li>Topic: Hometown; Task: Asking for &amp; giving information 1</li> <li>Topic: Free time &amp; Hobbies &amp; Club activities; Task: Asking for &amp; giving information 2</li> <li>Topic: Music; Task: Talking about preferences &amp; justifying 1</li> <li>Topic: Experiences; Task: Talking about &amp; describing experiences</li> <li>Topic: Travel; Task: Describing</li> <li>Topic: Food &amp; Eating out; Task: Inviting, accepting &amp; refusing</li> <li>Topic: Sports; Task: Agreeing &amp; disagreeing</li> <li>Topic: Entertainment; Task: Giving opinions</li> <li>Topic: Student choice; Task: Instructing</li> <li>Topic: Part-time jobs; Task: Complaining</li> <li>Topic: Mind, Body &amp; Health; Task: Suggesting</li> <li>Topic: Love &amp; Money; Task: Talking about preferences &amp; justifying 2</li> <li>Topic: Your future; Task: Predicting</li> <li>Topic: Student choice; Task: Student choice</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 34%; Task: 13%; Accuracy: 39%; Homework 14%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation; Impromptu speech skill &amp; practice</li> <li>Impromptu speech skill &amp; practice</li> <li>Impromptu speech assessment</li> <li>Speeches VS Presentations</li> <li>Speeches VS Presentations</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</li> <li>Speech 1 assessment</li> <li>Speech 1 assessment</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Historical speeches; Speech 2 skill &amp; practice</li> <li>Speech 2 assessment</li> <li>Speech 2 assessment</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to course and class</li> <li>Personalized topics: Family and Hometown</li> <li>Personalized topics: School experiences/education</li> <li>Personalized topics: Lifestyle/Healthy living</li> <li>Me, My Life posters</li> <li>Personalized topics: travel experiences</li> <li>Reading and discussion assignments</li> <li>Reading and discussion assignments</li> <li>The language of reasoning and critical thinking</li> <li>Choosing social issues for reading/research</li> <li>Class survey/Collation of survey result</li> <li>Oral reports and discussions of chosen issues</li> <li>Oral reports and discussions of chosen issues</li> <li>Oral reports and discussions of chosen issues</li> <li>Course review and self-reflection</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary /reading preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to course and class</li> <li>Great Lives poster reports</li> <li>The language of reasoning and critical thinking</li> <li>Internet news assignments reports and discussion</li> <li>Grade reader book reports</li> <li>World Heritage and the Environment</li> <li>Fluency speech topics</li> <li>Issues (cause, effect, solution chain) presentations</li> <li>Issues (cause, effect, solution chain) presentations</li> <li>Issues (cause, effect, solution chain) presentations</li> <li>Mind-map reports on New Year traditions</li> <li>Course review and self-reflection</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary /reading preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course information and personal introductions</li> <li>2. Manners and politeness</li> <li>3. Stereotypes and multiculturalism</li> <li>4. Comparative and superlative adjectives</li> <li>5. Skills and preferences</li> <li>6. Jobs and employment</li> <li>7. Past simple and present perfect</li> <li>8. Test</li> <li>9. Requests and responses</li> <li>10. Agreeing and disagreeing</li> <li>11. Movies and emotions</li> <li>12. Things that cause feelings and how you feel</li> <li>13. Rules and suggestions</li> <li>14. Real and imaginary situations</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of every lesson, and are expected to have completed the homework before the next lesson begins. Copying homework from other students is strictly forbidden.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course information</li> <li>2. Practise good posture, eye contact, body language</li> <li>3. Write scripts and prepare for first presentations</li> <li>4. First presentations</li> <li>5. First presentations</li> <li>6. Practise gesturing and emphasising key words</li> <li>7. Write scripts and prepare for second presentations</li> <li>8. Second presentations</li> <li>9. Second presentations</li> <li>10. Learn to create effective visuals</li> <li>11. Write scripts and prepare for third presentations</li> <li>12. Third presentations</li> <li>13. Third presentations</li> <li>14. Write scripts and prepare for final presentations</li> <li>15. Final presentations</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of every lesson, and are expected to have completed the homework before the next lesson begins. Copying homework from other students is strictly forbidden.		
テキスト、参考文献	David Harrington & Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech</i> , MacMillan		
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course orientation &amp; overview</li> <li>Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions</li> <li>CS 2: cultural &amp; communicative awareness</li> <li>CS 3: ice-breakers</li> <li>CS 4: asking questions</li> <li>CS 5: responding</li> <li>CS 6: active listening</li> <li>Communication skills review</li> <li>Introduction to Extensive Reading &amp; Listening</li> <li>Graded reader</li> <li>Graded reader</li> <li>Group project preparation</li> <li>Group project practice</li> <li>Group presentations</li> <li>Course review &amp; evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - extensive reading & writing activities (30 - 60 mins) After - review previous week's class (20 mins)		
テキスト、参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li><i>About Time</i>, Scholastic</li> <li><i>Notting Hill</i>, Pearson</li> </ol>		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) assignments 25% (3) review quizzes 25%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Overview of the creative process</li> <li>Choosing your topic &amp; researching</li> <li>Rule of three : Number five</li> <li>Outlining &amp; drafting</li> <li>Editing &amp; practicing</li> <li>Presentation week 1</li> <li>Presentation feedback</li> <li>V for Vendetta 1: V's speech</li> <li>Vendetta 2: Valerie's letter</li> <li>Vendetta 3: Rookwood's story</li> <li>Presentation week 2</li> <li>Presentation feedback</li> <li>Love Actually</li> <li>Presentation week 3</li> <li>Course review &amp; evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60 mins) After - review previous week's class (20 mins)		
テキスト、参考文献	No set text		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1) in-class attentiveness & attitude 50% (2) presentations 50%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>3. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>4. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>5. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>6. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>7. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>8. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>9. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>10. Conversation and discussion strategies and practice</li> <li>11. Video documentary preparation</li> <li>12. Video documentary preparation</li> <li>13. Video documentary preparation</li> <li>14. Video presentations</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a research or writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 60%, homework assignments 20%, final project 20%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions to Presentations</li> <li>2. The Physical Message</li> <li>3. The Physical Message</li> <li>4. The Physical Message</li> <li>5. The Visual Message</li> <li>6. The Visual Message</li> <li>7. The Visual Message</li> <li>8. The Story Message</li> <li>9. The Story Message</li> <li>10. The Story Message</li> <li>11. Final Performance</li> <li>12. Final Performance</li> <li>13. Final Performance</li> <li>14. Final Performance</li> <li>15. Final Performance</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be individual presentation practice required.		
テキスト、参考文献	Harrington and LeBeau. <i>Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners</i> . MacMillan, 2011.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 70%, homework assignments 30%		

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course information and personal introductions</li> <li>Manners and politeness</li> <li>Stereotypes and multiculturalism</li> <li>Comparative and superlative adjectives</li> <li>Skills and preferences</li> <li>Jobs and employment</li> <li>Past simple and present perfect</li> <li>Test</li> <li>Requests and responses</li> <li>Agreeing and disagreeing</li> <li>Movies and emotions</li> <li>Things that cause feelings and how you feel</li> <li>Rules and suggestions</li> <li>Real and imaginary situations</li> <li>Test</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of every lesson, and are expected to have completed the homework before the next lesson begins. Copying homework from other students is strictly forbidden.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%		

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course information</li> <li>Practise good posture, eye contact, body language</li> <li>Write scripts and prepare for first presentations</li> <li>First presentations</li> <li>First presentations</li> <li>Practise gesturing and emphasising key words</li> <li>Write scripts and prepare for second presentations</li> <li>Second presentations</li> <li>Second presentations</li> <li>Learn to create effective visuals</li> <li>Write scripts and prepare for third presentations</li> <li>Third presentations</li> <li>Third presentations</li> <li>Write scripts and prepare for final presentations</li> <li>Final presentations</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be given homework at the end of every lesson, and are expected to have completed the homework before the next lesson begins. Copying homework from other students is strictly forbidden.		
テキスト、参考文献	David Harrington & Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech</i> , MacMillan		
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%		

09年度以降	Comprehensive English II (再履修) 春学期	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction &amp; Self Introductions</li> <li>2. Human Planet: Unit 1 – Guided Discussions</li> <li>3. People: Unit 2 – Learning Diary</li> <li>4. The Media: Unit 3 – Reporting</li> <li>5. Review – Pair Presentation</li> <li>6. Health: Unit 4 – Question &amp; Answer</li> <li>7. Natural World: Unit 5 – Comparisons</li> <li>8. Society &amp; Family: Unit 6 – Opinion</li> <li>9. Review – Opinion Piece</li> <li>10. Work &amp; Industry: Unit 9 – Describing a Process</li> <li>11. Global Affairs: Unit 10 – Planning</li> <li>12. Sports: Unit 12 – Rules</li> <li>13. Group Presentation Preparation</li> <li>14. Group Presentations</li> <li>15. Course Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Lebeau, L. & Rees, G., (2013) <i>Language Leader. Pre-Intermediate</i> , Pearson-Longman..		
評価方法	In-class participation 40%; presentations 20%; Opinion piece/ learning diary 20%; homework 20%		

09年度以降	Comprehensive English I (再履修) 秋学期	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction &amp; Self Introductions</li> <li>2. Sports – Theme 1</li> <li>3. Music – Theme 2</li> <li>4. Food – Theme 3</li> <li>5. Pair presentations – role play</li> <li>6. Crafts – Theme 4</li> <li>7. Holidays – Theme 5</li> <li>8. Games – Theme 6 Information exchange</li> <li>9. Cities and Places – Theme 7</li> <li>10. Relaxation – Theme 8</li> <li>11. Famous People – Theme 9 Reading review</li> <li>12. Superstitions – Theme 10</li> <li>13. Anime – Theme 11</li> <li>14. Presentations and peer evaluation</li> <li>15. Course review and evaluation</li> </ol>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Long, R. (2015) <i>Explain it! Discussing Japanese Culture in English</i> , Perceptia Press.		
評価方法	Class involvement 40%; presentations 20%; information exchange/ reading review 20%; homework 20%.		

09年度以降	Comprehensive English III (2年①)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2-3. Urban planning</li> <li>4-5. Business</li> <li>6-7. The economy</li> <li>8-9. The environment</li> <li>10-11. Art history</li> <li>12-14. Language</li> <li>15. Reflection &amp; summary</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト、参考文献	Texts to be distributed in class.		
評価方法	Notebooks = 75%, Participation 25%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年①)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2-3. Sociology</li> <li>4-5. Physical science</li> <li>6-7. Indigenous cultures</li> <li>8-9. Microbiology</li> <li>10-11. Children's literature</li> <li>12-14. Globalization</li> <li>15. Reflection &amp; summary</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト、参考文献	Texts to be distributed in class.		
評価方法	Notebooks = 75%, Participation 25%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Overview</p> <p>Week 2: Topic 1: Exploring Genius</p> <p>Week 3: Exploring Genius, continued</p> <p>Week 4: Topic 2: The Achilles Heel</p> <p>Week 5: The Achilles Heel, continued</p> <p>Week 6: Being Wrong</p> <p>Week 7: Presentation One</p> <p>Week 8: Topic 3: The Importance of Sleep</p> <p>Week 9: Sleep, continued</p> <p>Week 10: Topic 4: Achieving Life Goals</p> <p>Week 11: Achieving Life Goals, continued</p> <p>Week 12: Topic 5: Animal Rights</p> <p>Week 13: Animal Rights, continued</p> <p>Week 14: Review and Group Planning</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 4 (4th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments and in-class presentations.		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1: Research Basics</p> <p>Week 2: Topic 6: Rethinking Retirement</p> <p>Week 3: Retirement, continued</p> <p>Week 4: Topic 7: Philanthropy</p> <p>Week 5: Philanthropy, continued</p> <p>Week 6: First Presentation</p> <p>Week 7: Topic 8: Education Issues</p> <p>Week 8: Education Issues, continued</p> <p>Week 9: Topic 9: Environmental Issues</p> <p>Week 10: Environmental Issues, continued</p> <p>Week 11: Second Presentation</p> <p>Week 12: Topic 10: Gaming and the Olympics</p> <p>Week 13: Gaming and the Olympics, continued</p> <p>Week 14: Review and Group Planning</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 4 (4th Edition)		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments and in-class presentations.		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <p>1 - 4 Introduction to the course of studies. 5 - 8 Japanese work ethics. 9 - 11 The Media. 12 - 15 Pressing social issues.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <p>1 - 3 Brief introduction/welcome back to class. 4 - 8 Enquiry in to thinking and philosophy 9 - 12 Politics and relevance to young people. 13 - 15 Environmental issues.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, outline, evaluation, course requirements.</li> <li>2. Company #1, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>3. Company #2, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>4. Company #3, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>5. Company #4, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>6. Company #5, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>7. Quiz 1-15%</li> <li>8. Library company research project task 1</li> <li>9. Company #6, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>10. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>11. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>12. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>13. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>14. Quiz 2 - 15%</li> <li>15. Library company research project task 2</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and company research.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Library company research project task 3</li> <li>2. Company #1, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>3. Company #2, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>4. Company #3, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>5. Company #4, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>6. Company #5, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>7. Quiz 1-15%</li> <li>8. Library company research project task 4</li> <li>9. Company #6, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>10. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>11. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>12. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>13. Presentation, reading, comprehension &amp; discussion</li> <li>14. Quiz 2 - 15%</li> <li>15. Library company research project task 5</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and company research.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Company class presentation = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑤)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Text Unit 1</li> <li>3. Text Unit 2</li> <li>4. Text Unit 3</li> <li>5. Discussion Test Preparation</li> <li>6. Discussion Tests</li> <li>7. Text Unit 4</li> <li>8. Text Unit 5</li> <li>9. Text Unit 6</li> <li>10. Text Unit 7</li> <li>11. Text Unit 8</li> <li>12. Discussion Test</li> <li>13. Group Discussions</li> <li>14. Discussion Tests</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	Select Readings: Intermediate. Oxford University Press. Lee & Gundersen. (2011).		
評価方法	Written reports 50%, Discussion tests 50%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑤)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Text Unit 1</li> <li>3. Text Unit 2</li> <li>4. Text Unit 3</li> <li>5. Group Presentation Preparation</li> <li>6. Group Presentations</li> <li>7. Text Unit 4</li> <li>8. Text Unit 5</li> <li>9. Text Unit 6</li> <li>10. Individual Presentations</li> <li>11. Text Unit 7</li> <li>12. Text Unit 8</li> <li>13. Text Unit 9</li> <li>14. Final Presentations</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	Successful Presentations: An Interactive Guide. Cengage Learning. Stafford, M. D. (2012).		
評価方法	Classroom assignments 50%, Presentations 50%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年⑥)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction – Discussion Procedure</li> <li>Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors</li> <li>Choosing a Topic / Discussion Steps</li> <li>Role of the Discussion Leader and Group Members</li> <li>Practice Presentations and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps</li> <li>Agreeing and Disagreeing with Opinions</li> <li>Practice Presentations and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Environment: Problem Solving / Discussion Steps</li> <li>Identifying Causes and Solutions</li> <li>Practice Discussions and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.		
評価方法	Quizzes – 10%      Discussions – 60%      In-class Participation – 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年⑥)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Current Events: Discussions / Choosing a Topic</li> <li>Summarizing an Article / Open-ended Questions</li> <li>Practice Presentations</li> <li>In-class Student Led Discussions</li> <li>Informative Presentation / Choosing a Topic</li> <li>Organizing a Presentation</li> <li>Using PowerPoint</li> <li>Presentation Workshop / Speaking Tips</li> <li>In-class Presentation</li> <li>Policy Debate / Choosing Propositions</li> <li>Making Logical Arguments / Supporting Evidence</li> <li>Opening Speeches / Rebuttals / Model Debate</li> <li>In-class Debates</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.		
評価方法	Presentations and Discussions – 70%      In-class Participation – 30%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <p>1 - 4 Introduction to the course of studies. 5 - 8 Japanese work ethics. 9 - 11 The Media. 12 - 15 Pressing social issues.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <p>1 - 3 Brief introduction/welcome back to class. 4 - 8 Enquiry in to thinking and philosophy 9 - 12 Politics and relevance to young people. 13 - 15 Environmental issues.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

09年度以降	Comprehensive English III (2年⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction, outline, course requirements.  Week 2: Language. Unit 4. Vocabulary, reading.  Week 3: Language. Unit 4. Listening, reading.  Week 4: Advertising. Unit 5. Speaking, reading.  Week 5: Advertising. Unit 5. Listening, speaking.  Week 6: Mid-term presentations  Week 7: Arts and media. Unit 11. Reading, listening.  Week 8: Arts and media. Unit 11. Vocabulary, speaking.  Week 9: Design. Unit 7. Reading, speaking.  Week 10: Design. Unit 2. Speaking, writing.  Week 11: Travel. Unit 2. Listening, reading.  Week 12: Travel. Unit 2. Speaking, writing  Week 13: Preparation for Final Presentations  Week 14: Final Presentations Part One  Week 15: Final Presentations Part Two</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-60 minutes on exercises given by the teacher. Students will also keep a regular podcast journal to be discussed in class as well as to listen to English in various media freely available on the Internet.		
テキスト、参考文献	<i>New Language Leader Intermediate</i> by David Cotton, David Falvey, Simon Kent, Oxford University Press.		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness. 30% homework assignments, in-class points, notebooks. 40% mid-term and final presentations.		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1: Trends. Unit 10. Speaking, reading.  Week 2: Trends. Unit 10. Speaking, reading.  Week 3: Engineering. Unit 9. Listening, speaking.  Week 4: Engineering. Unit 9. Speaking.  Week 5: Personality. Unit 1. Vocabulary, Listening.  Week 6: Personality. Unit 1. Reading, speaking.  Week 7: Mid-term presentation Part One.  Week 8: Mid-term presentation Part Two.  Week 9: Education. Speaking, listening.  Week 10: Education. Listening, speaking.  Week 11: Crime. Speaking, reading.  Week 12: Crime. Listening. Reading.  Week 13: Preparation for Final Presentations  Week 14: Final Presentations Part One.  Week 15: Final Presentations Part Two.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should spend at least 30-60 minutes on exercises given by the teacher. Students will also keep a regular podcast journal to be discussed in class as well as to listen to English in various media freely available on the Internet.		
テキスト、参考文献	<i>New Language Leader Intermediate</i> by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman)		
評価方法	30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness. 30% homework assignments, in-class points, notebooks. 40% mid-term and final presentations.		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑨)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1 Course introductions + foreign countries</p> <p>2 Foreign countries 2</p> <p>3 Education 1</p> <p>4 Education 2</p> <p>5 Health 1</p> <p>6 Health 2</p> <p>7 Arts 1</p> <p>8 Arts 2</p> <p>9 Poster presentation</p> <p>1 0 Technology 1</p> <p>1 1 Technology 2</p> <p>1 2 Intelligence &amp; Talents 1</p> <p>1 3 Intelligence &amp; Talents 2</p> <p>1 4 test topics, times format explained / movies 1</p> <p>1 5 test</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.		
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑨)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1 Tourism 1</p> <p>2 Tourism 2</p> <p>3 Work / money issues 1</p> <p>4 Work / money issues 2</p> <p>5 Media issues 1</p> <p>6 Media issues 2</p> <p>7 Rights 1</p> <p>8 Rights 2</p> <p>9 Global living trends 1</p> <p>1 0 Global living trends 2</p> <p>1 1 Poster presentation</p> <p>1 2 Crime 1</p> <p>1 3 Crime 2</p> <p>1 4 Test topics , times explained / ecology 1</p> <p>1 5 Test</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre or post class study, when required, will be explained to students by the instructor.		
テキスト、参考文献	No textbook Teacher materials provided Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of course test		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn &amp; study</i>.</p> <p>Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment.</p> <p>Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof.</p> <p>Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. <b>Mother's Day</b> song and/or discussion.</p> <p>Week 6: Discussion of recent <b>International News</b> articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations &amp; discussions. International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners (Bq)</b></p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of -- do you like?': explaining preferences, in Modern English.</p> <p>Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles, and/or News Videos. Presentations.</p> <p>Week 12: Further student presentations &amp; class discussion. Video and/or song listening &amp; discussion exercise.</p> <p>Week 13: Final presentations. 'What do you think of ---?': <b>Giving your opinions</b> about various topics.</p> <p>Week 14: Giving opinions, part two: <b>elaborating</b>. Final presentations. Ongoing assessment.</p> <p>Week 15: Final presentations. If time remains: discussing &amp; explaining <b>future plans for the Summer</b>.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. <b>IF</b> a textbook is necessary, <b>one will be chosen</b> .		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>summarize &amp; present</b> your topic; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be <b>tentatively</b> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b>		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your <b>Summer Break</b>, using modern English.</p> <p>Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video.</p> <p>Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: Practice with <b>telephone invitations</b>. Hallow'en discussion, and/or video.</p> <p>Week 6: <b>Restaurant ordering</b>, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening &amp; discussion.</p> <p>Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (&amp; recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: <b>Thanksgiving</b>: history; and usual Thanksgiving customs &amp; dates. '<b>What are you thankful for?</b>' Further short 'demo' presentations; peer-assessment &amp; recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations.</p> <p>Week 10: Asking for, and giving, <b>street directions</b> and/or <b>train directions</b>, in English. Pair practice of that. Student presentations begin.</p> <p>Week 11: Class presentations &amp; discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video.</p> <p>Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations.</p> <p>Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Discussing &amp; pair-practicing <b>New Year's Resolutions</b>. Last opportunity for class presentations.</p> <p>Week 15: Finalizing <b>specific</b> New Year's Resolutions. <i>If</i> time remains: discussion of <b>future plans</b> (for the February &amp; March Break).</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. <b>IF</b> a textbook is necessary, <b>one will be chosen</b> .		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>summarize &amp; present</b> your topic; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be <b>tentatively</b> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b>		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Getting to know you - Conversation activities</li> <li>3. My articles - reading and discussion</li> <li>4. Your articles - reading and discussion</li> <li>5. Reading skills - reading exercises</li> <li>6. Breaking news - student research topics</li> <li>7. Breaking news - student research topics</li> <li>8. My articles - reading and discussion</li> <li>9. Your articles - reading and discussion</li> <li>10. Discussion preparation - topic research</li> <li>11. Discussion preparation - topic research</li> <li>12. Student-led class discussions</li> <li>13. Student-led class discussions</li> <li>14. Speaking test</li> <li>15. Test period</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%), student-led discussions (30%) and a speaking test (30%)		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcome back - conversation activities</li> <li>2. Effective presentation skills</li> <li>3. Mini presentations</li> <li>4. Questions and activities for discussions</li> <li>5. Halloween - fear themed discussion topics</li> <li>6. Mini presentations in groups</li> <li>7. Group discussion activities</li> <li>8. Mini presentations in groups</li> <li>9. Student designed speaking games</li> <li>10. Presentation preparation - topic selection</li> <li>11. Presentation preparation - research</li> <li>12. Class presentations</li> <li>13. Class presentations</li> <li>14. Course review</li> <li>15. Test period</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Researching and preparing materials and activities before each class, critical review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%), and class presentations (50%)		

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction – Discussion Procedure</li> <li>Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors</li> <li>Choosing a Topic / Discussion Steps</li> <li>Role of the Discussion Leader and Group Members</li> <li>Practice Presentations and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps</li> <li>Agreeing and Disagreeing with Opinions</li> <li>Practice Presentations and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Environment: Problem Solving / Discussion Steps</li> <li>Identifying Causes and Solutions</li> <li>Practice Discussions and Peer Feedback</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.		
評価方法	Quizzes – 10%      Discussions – 60%      In-class Participation – 30%		

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Current Events: Discussions / Choosing a Topic</li> <li>Summarizing an Article / Open-ended Questions</li> <li>Practice Presentations</li> <li>In-class Student Led Discussions</li> <li>Informative Presentation / Choosing a Topic</li> <li>Organizing a Presentation</li> <li>Using PowerPoint</li> <li>Presentation Workshop / Speaking Tips</li> <li>In-class Presentation</li> <li>Policy Debate / Choosing Propositions</li> <li>Making Logical Arguments / Supporting Evidence</li> <li>Opening Speeches / Rebuttals / Model Debate</li> <li>In-class Debates</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト、参考文献	No text: The material will be provided by the teacher.		
評価方法	Presentations and Discussions – 70%      In-class Participation – 30%		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation and syllabus</li> <li>2-3 The millennial generation</li> <li>4-5 Cultural encounters</li> <li>6-7 Consumer lifestyle</li> <li>8-9 Conversational styles</li> <li>10-11 Identity and gender</li> <li>12-14 The environment</li> <li>15 Summary and wrap-up</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト、参考文献	Texts to be distributed in class.		
評価方法	3 essays = 30%, Notebooks = 30%, Quizzes = 40%		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation and syllabus</li> <li>2-3 Value of work</li> <li>4-5 Inequality</li> <li>6-7 Wisdom</li> <li>8-9 Culture and change</li> <li>10-11 Managing nature</li> <li>12-14 Democracy and liberty</li> <li>15 Summary and wrap-up</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks following class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト、参考文献	Texts to be distributed in class.		
評価方法	3 essays = 30%, Notebooks = 30%, Quizzes = 40%		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>導入とテキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読とまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英字新聞記事の抜粋など。 <i>Noises Off</i> by Michael Frayn。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>導入とテキスト精読</li> <li>テキスト精読</li> <li>テキスト精読とまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英字新聞記事の抜粋など。 <i>Noises Off</i> by Michael Frayn。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストによる。学期末に定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: RS in the 21st century</li> <li>2. Should this course be taught all in English?</li> <li>3. When do you read softly, loudly or silently?</li> <li>4. Diagnosing your reading strategies 1</li> <li>5. Diagnosing your reading strategies 2</li> <li>6. Pre-reading strategies 1</li> <li>7. Pre-reading strategies 2</li> <li>8. Poster session</li> <li>9. Recognising patterns in paragraphs and essays 1</li> <li>10. Recognising patterns in paragraphs and essays 2</li> <li>11. Tutorial 1</li> <li>12. Tutorial 2</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials as well as two assigned books, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	(1) Johnson, S. (2006). <i>Who moved my cheese?</i> Vermilion. (2) Malhotra, D. (2011). <i>I moved your cheese.</i> Berrett-Koehler. (3) Prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of RS I</li> <li>2. How useful are academic papers?</li> <li>3. Fast reading strategies</li> <li>4. Reading academic papers: Benefits and challenges</li> <li>5. Reading more efficiently 1</li> <li>6. Reading more efficiently 2</li> <li>7. Reading critically 1</li> <li>8. Reading critically 2</li> <li>9. Taking notes</li> <li>10. Outlining 1</li> <li>11. Outlining 2</li> <li>12. Tutorial</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, Group research presentations 40%, final report 40%		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション</li> <li>Vocabulary Questions</li> <li>Reference Questions</li> <li>Inference Questions</li> <li>Art</li> <li>Biology</li> <li>History</li> <li>Sociology</li> <li>Chemistry</li> <li>Psychology</li> <li>Architecture</li> <li>Ecology</li> <li>Anthropology</li> <li>Art History</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中に配布する。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション</li> <li>Geology</li> <li>Philosophy</li> <li>Physics</li> <li>Art</li> <li>Biology</li> <li>History</li> <li>Sociology</li> <li>Chemistry</li> <li>Psychology</li> <li>Architecture</li> <li>Ecology</li> <li>Anthropology</li> <li>Art History</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl practice test の問題を、事後に精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中に配布する。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>英文読解1</li> <li>英文読解2 &amp; 小テスト1</li> <li>英文読解3</li> <li>英文読解4 &amp; 小テスト2</li> <li>英文読解5</li> <li>英文読解6 &amp; 小テスト3</li> <li>英文読解7</li> <li>英文読解8 &amp; 小テスト4</li> <li>英文読解9</li> <li>英文読解10 &amp; 小テスト5</li> <li>英文読解11</li> <li>英文読解12</li> <li>英文読解13</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと		
テキスト、参考文献	配布プリントを使用する。		
評価方法	期末テスト40%+小テスト30%+授業への貢献度30%		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>英文読解1</li> <li>英文読解2 &amp; 小テスト1</li> <li>英文読解3</li> <li>英文読解4 &amp; 小テスト2</li> <li>英文読解5</li> <li>英文読解6 &amp; 小テスト3</li> <li>英文読解7</li> <li>英文読解8 &amp; 小テスト4</li> <li>英文読解9</li> <li>英文読解10 &amp; 小テスト5</li> <li>英文読解11</li> <li>英文読解12</li> <li>英文読解13</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと		
テキスト、参考文献	配布プリントを使用する。		
評価方法	期末テスト40%+小テスト30%+授業への貢献度30%		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション New Vocabulary in Your Reading</li> <li>Fiction and Nonfiction</li> <li>Reading Fluency</li> <li>Making Good Use of the Dictionary</li> <li>Learning New Vocabulary from Your Reading</li> <li>図書館ガイダンス (予定)</li> <li>Guessing Meaning from Context</li> <li>Word Parts</li> <li>10. Collocations</li> <li>11. Structure and Reference</li> <li>12. 13. Scanning and Previewing</li> <li>14. 15. まとめ</li> </ol> <p>(*進度は変更することがあります)</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：テキストの指定された箇所を読み、問題を解いてくること。 事後：授業内容を復習しておくこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, More Reading Power 3, 3rd edition (Person Education, 2012) 参考文献：授業中に適宜紹介します。		
評価方法	小テスト2割、授業内外の課題4割、学期末試験4割 * ただし授業回数の1/3を越える欠席の場合、評価対象としません。		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション Reading Fluency</li> <li>3. Making Inferences</li> <li>4. 5. Understanding Paragraphs</li> <li>6. 7. 8. Identifying the Pattern</li> <li>9. 10. Reading Longer Passages</li> <li>11. 12. 13. Skimming</li> <li>14. 15. まとめ</li> </ol> <p>(*春学期の RSI ではヴォキャブラリー増強を中心に、秋学期の RSII では読み方のスキルの勉強を中心にやります。進度は変更することがあります。)</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：テキストの指定された箇所を読み、問題を解いてくること。 事後：授業内容を復習しておくこと。		
テキスト、参考文献	春学期から継続で、同じテキストを使います。参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	小テスト2割、授業内外の課題4割、学期末試験4割 * ただし授業回数の1/3を越える欠席の場合、評価対象としません。		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<p>春学期は早くたくさん読めるようになることを第一の目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Assessment</li> <li>Rapid Reading Introduction</li> <li>3~10 &lt;TOEIC Reading&gt;+&lt;Fun Reading&gt;</li> </ol> <p>授業内では主にTOEICのReading 問題に取り組みます。Outside Reader としては、第2回目に決定したGraded Readingのテキストを読んでもらいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11~14 &lt;Making a Trip Plan&gt;</li> </ol> <p>情報検索スキル習得へのイントロダクションです。(ネット上の)膨大な情報のなかから必要かつ質の高い情報を取り出す方法を身につけましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. Research Skill 1 (Catalogue Scanning)</li> <li>12. Research Skill 2 (HP Scanning)</li> <li>13. Citation and Bibliography</li> <li>14. Editing</li> <li>15. Term Assessment</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布あるいはポータルにアップする。		
評価方法	授業貢献+提出物 30%、授業内小テスト 20%、試験 50% (パーセンテージは暫定のものである)		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>秋学期は文章の構造を把握できるようにすることを第一の目的とします。また行間を読むことにも挑戦しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reading for Structure and Organization — introduction</li> <li>2—6. &lt;Structure &amp; Organization I&gt;</li> </ol> <p>様々なテキストの構成法に着目して、より効果的に読む練習をします。テキストには最新のニュース記事などを用い、語学習得だけに終わらないコンテンツをめざします。グローバル化した現代の世界を、複眼的に捉える姿勢を身につけましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7—11. &lt;Structure &amp; Organization II&gt;</li> </ol> <p>かなり長い講演原稿を読み、より精緻に文章の構成を分析する訓練をします。テキストには以下の講演を用います。The Danger of A Single Story by Chimamanda Ngozi Adichie</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12—14. &lt;Reading between Lines&gt;</li> </ol> <p>短編小説を読みます。行間の意味に気づくこと、そして言語を通じての他者の経験への親和力を養うことを狙いとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. Term Assessment</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布あるいはポータルにアップする。		
評価方法	授業貢献+提出物 30%、授業内小テスト 20%、試験 50% (パーセンテージは暫定のものである)		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To increase their vocabulary</p> <p>2. To develop basic reading skills</p> <p>3. To understand reading materials without translating into Japanese</p> <p>4. To clarify the structure of a paragraph or essay</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 説明文の読解 1</li> <li>3. 説明文の読解 2</li> <li>4. 説明文の読解 3</li> <li>5. 論説文の読解 1</li> <li>6. 論説文の読解 2</li> <li>7. 論説文の読解 3</li> <li>8. 物語文の読解 1</li> <li>9. 物語文の読解 2</li> <li>10. 物語文の読解 3</li> <li>11. 随筆文の読解 1</li> <li>12. 随筆文の読解 2</li> <li>13. 随筆文の読解 3</li> <li>14. 春学期のまとめと復習 1</li> <li>15. 春学期のまとめと復習 2</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <p>1. To increase their vocabulary</p> <p>2. To develop basic reading skills</p> <p>3. To understand how a text is organized</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 説明文の読解 1</li> <li>3. 説明文の読解 2</li> <li>4. 説明文の読解 3</li> <li>5. 論説文の読解 1</li> <li>6. 論説文の読解 2</li> <li>7. 論説文の読解 3</li> <li>8. 物語文の読解 1</li> <li>9. 物語文の読解 2</li> <li>10. 物語文の読解 3</li> <li>11. 随筆文の読解 1</li> <li>12. 随筆文の読解 2</li> <li>13. 随筆文の読解 3</li> <li>14. 秋学期のまとめと復習 1</li> <li>15. 秋学期のまとめと復習 2</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は配布プリントによる。		
評価方法	授業内での発表や課題をすべてこなすことを前提とし、その上で試験（100%）とする。		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>導入</li> <li>伝える技術</li> <li>Getting the main idea</li> <li>上記関連資料</li> <li>Phrase reading</li> <li>上記関連資料</li> <li>Paragraph reading</li> <li>上記関連資料</li> <li>Time order</li> <li>上記関連資料</li> <li>Process and Direction</li> <li>上記関連資料</li> <li>Space order</li> <li>上記関連資料</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	Hashimoto, Mitsuo 他, <i>A Guide to Paragraph Reading</i> , 朝日出版社		
評価方法	授業への参加度 20%、小テスト 20%、期末テスト 60%		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>導入</li> <li>Fact and examples</li> <li>上記関連資料</li> <li>Definition</li> <li>上記関連資料</li> <li>Classification</li> <li>上記関連資料</li> <li>Comparison and Contrast</li> <li>上記関連資料</li> <li>Analogy</li> <li>上記関連資料</li> <li>Reasons, causes and effects</li> <li>上記関連資料 1</li> <li>上記関連資料 2</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、小テストに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	Hashimoto, Mitsuo 他, <i>A Guide to Paragraph Reading</i> , 朝日出版社		
評価方法	授業への参加度 20%、小テスト 20%、期末テスト 60%		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Extensive reading①: new vocabulary</li> <li>Extensive reading②: fiction and nonfiction</li> <li>Extensive reading③: books</li> <li>Supplementary reading materials①</li> <li>Vocabulary building①: making use of the dictionary</li> <li>Vocabulary building②: guessing meaning</li> <li>Vocabulary building③: word parts</li> <li>Vocabulary building④: collocations</li> <li>Vocabulary building⑤: structure and reference</li> <li>Supplementary reading materials②</li> <li>Comprehensive reading①: scanning</li> <li>Comprehensive reading②-1: making inference</li> <li>Comprehensive reading②-2: making inference</li> <li>Supplementary reading materials③</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト、参考文献	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
評価方法	Participation (30%), Assignments (30%), Exam(40%)		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Comprehensive reading③-1: paragraphs</li> <li>Comprehensive reading③-2: paragraphs</li> <li>Supplementary reading materials④</li> <li>Comprehensive reading④: pattern</li> <li>Comprehensive reading⑤-1: longer passages</li> <li>Comprehensive reading⑤-2: longer passages</li> <li>Comprehensive reading⑤-3: longer passages</li> <li>Supplementary reading materials⑤</li> <li>Summarizing①: short passages</li> <li>Summarizing②: short passages</li> <li>Summarizing③: longer passages</li> <li>Supplementary reading materials⑥</li> <li>Reading faster①</li> <li>Reading faster②</li> <li>Reading faster③</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト、参考文献	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
評価方法	Participation (30%), Assignments (30%), Exam(40%)		

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Why We Need Explorers 1</li> <li>Why We Need Explorers 2</li> <li>How to Learn from Mistakes 1</li> <li>How to Learn from Mistakes 2</li> <li>Library Workshop</li> <li>Why We Have Too Few Women Leaders 1</li> <li>Why We Have Too Few Women Leaders 2</li> <li>The Mystery Box 1</li> <li>The Mystery Box 2</li> <li>The Good News on Poverty 1</li> <li>The Good News on Poverty 2</li> <li>Preparation for presentations</li> <li>Group presentations 1</li> <li>Group presentations 2</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト、参考文献	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Ancient Wonders Captured in 3-D 1</li> <li>Ancient Wonders Captured in 3-D 2</li> <li>How Food Shape Our Cities 1</li> <li>How Food Shape Our Cities 2</li> <li>What will Future Jobs Look Like? 1</li> <li>What will Future Jobs Look Like? 2</li> <li>The Linguistic Genius of Babies 1</li> <li>The Linguistic Genius of Babies 2</li> <li>Innovating to Zero! 1</li> <li>Innovating to Zero! 2</li> <li>Propaganda tactics 1</li> <li>Propaganda tactics 2</li> <li>Group presentations 1</li> <li>Group presentations 2</li> </ol>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト、参考文献	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay</li> </ol>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第14回 初回授業にて指示します。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 3: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 4: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 5: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 6: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 7: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 10: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 11: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 12: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 13: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 14: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト、参考文献	Handouts, online text material		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 3: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 4: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 5: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 6: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 7: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 10: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 11: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 12: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 13: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 14: Selected reading &amp; assignment.</p> <p>Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト、参考文献	Handouts, online text material		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	Reading Strategies III (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Course &amp; Self-Introductions</p> <p>Week 2 – Reading &amp; Learning-Textbook Reconnaissance (ch.2)</p> <p>Week 3 – The Discovery Wheel (ch. 2)</p> <p>Week 4 – Muscle Reading (ch.2)</p> <p>Week 5 – Studying Memory (ch.3)</p> <p>Week 6 – The Nature of Memory (ch.3)</p> <p>Week 7 – The Nature of Memory (cont'd)</p> <p>Week 8 – Reflections of the Self Assignment</p> <p>Week 9 – Remembering Our Lives – La Gringuita (ch.1)</p> <p>Week 10 – La Gringuita (cont'd)</p> <p>Week 11 – My Mother Juggling Beans (ch.1)</p> <p>Week 12 – My Mother Juggling Beans (cont'd)</p> <p>Week 13 – Where I am from Poem</p> <p>Week 14 – Poem Presentation (Day 1)</p> <p>Week 15 – Poem Presentation (Day 2)</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Benz, C. & Schuemann, C.M.(2006). College Reading 4 Houghton Mifflin		
評価方法	In-class participation & Homework (40%), Reading Responses x 2 (20%), Quizzes x 2 (20%), Where I am From Memoir/Poem (20%),		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Fall Course &amp; Themes &amp; Motifs in Fairy Tales</p> <p>Week 2 – More Than 1 Cinderella?</p> <p>Week 3 – Cinderella Variants Exchange</p> <p>Week 4 – Little Red Riding Hood</p> <p>Week 5 – Reader's Theater-An Introduction &amp; Prep</p> <p>Week 6 – Reader's Theater Live! (Mid-Term Project)</p> <p>Week 7 – The Hero's Journey</p> <p>Week 8 – Introduction to the Alchemist</p> <p>Week 9 – The Alchemist – Pt. I (1st half)</p> <p>Week 10 – The Alchemist – Pt. I (2nd half)</p> <p>Week 11 – The Alchemist – Pt. II (1st half)</p> <p>Week 12 – The Alchemist – Pt. II (2nd half)</p> <p>Week 13 – Charting the Hero's Journey in The Alchemist</p> <p>Week 14 – Epilogue/Wrap Up</p> <p>Week 15 – TOEFL Post-test</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Coelho, P. (1992). The Alchemist and Additional Selected Texts		
評価方法	In-class participation (25%), Fairy/Folk Tale Packet x 2 (30%), Alchemist Reader's Packet & Reader Response (30%), TOEFL Post-Test (15%)		

09年度以降	Reading Strategies III (2年③)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション</li> <li>Skills to find essential information</li> <li>Skills to understand the logic</li> <li>Skills to organize major ideas</li> <li>Art</li> <li>Biology</li> <li>History</li> <li>Sociology</li> <li>Chemistry</li> <li>Psychology</li> <li>Architecture</li> <li>Ecology</li> <li>Anthropology</li> <li>Art History</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年③)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション</li> <li>Geology</li> <li>Philosophy</li> <li>Physics</li> <li>Art</li> <li>Biology</li> <li>History</li> <li>Sociology</li> <li>Chemistry</li> <li>Psychology</li> <li>Architecture</li> <li>Ecology</li> <li>Anthropology</li> <li>Art History</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う Toefl Practice Test の問題を、事後に精読すること。		
テキスト、参考文献	授業中にプリントを配布する。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ④)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>英文読解1</li> <li>英文読解2 &amp; 小テスト1</li> <li>英文読解3</li> <li>英文読解4 &amp; 小テスト2</li> <li>英文読解5</li> <li>英文読解6 &amp; 小テスト3</li> <li>英文読解7</li> <li>英文読解8 &amp; 小テスト4</li> <li>英文読解9</li> <li>英文読解10 &amp; 小テスト5</li> <li>英文読解11</li> <li>英文読解12</li> <li>英文読解13</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと		
テキスト、参考文献	配布プリントを使用する。		
評価方法	期末テスト40%+小テスト30%+授業への貢献度30%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ④)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>英文読解1</li> <li>英文読解2 &amp; 小テスト1</li> <li>英文読解3</li> <li>英文読解4 &amp; 小テスト2</li> <li>英文読解5</li> <li>英文読解6 &amp; 小テスト3</li> <li>英文読解7</li> <li>英文読解8 &amp; 小テスト4</li> <li>英文読解9</li> <li>英文読解10 &amp; 小テスト5</li> <li>英文読解11</li> <li>英文読解12</li> <li>英文読解13</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと		
テキスト、参考文献	配布プリントを使用する。		
評価方法	期末テスト40%+小テスト30%+授業への貢献度30%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑤)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Selected reading and assignment</li> <li>Midterm test, journals due</li> <li>Selected reading and assignment</li> <li>Final test, journals due.</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a reading and journal assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	Handouts will be provided by the teacher		
評価方法	Grades will be based on: in-class participation 50%, homework assignments 30%, journals 20%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑤)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Re-Introduction</li> <li>Selected reading and assignment</li> <li>Midterm test, journals due</li> <li>Selected reading and assignment</li> <li>Final test, journals due.</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a reading and journal assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	Handouts will be provided by the teacher		
評価方法	Grades will be based on: in-class participation 50%, homework assignments 30%, journals 20%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li><i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 1～5ページを講読</li> <li>同上 6～10ページを講読</li> <li>同上 11～15ページを講読</li> <li>同上 16～20ページを講読</li> <li>同上 21～25ページを講読</li> <li>同上 26～30ページを講読</li> <li>同上 31～35ページを講読</li> <li>同上 36～40ページを講読</li> <li>同上 41～45ページを講読</li> <li>同上 46～50ページを講読</li> <li>同上 51～55ページを講読</li> <li>同上 56～60ページを講読</li> <li>同上 61～65ページを講読</li> <li>同上 66～70ページを講読</li> <li>同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の70%です。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li><i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 71～75ページを講読</li> <li>同上 76～80ページを講読</li> <li>同上 81～85ページを講読</li> <li>同上 86～90ページを講読</li> <li>同上 91～95ページを講読</li> <li>同上 96～100ページを講読</li> <li>同上 101～105ページを講読</li> <li>同上 106～110ページを講読</li> <li>同上 111～115ページを講読</li> <li>同上 116～120ページを講読</li> <li>同上 121～125ページを講読</li> <li>同上 126～130ページを講読</li> <li>同上 131～135ページを講読</li> <li>同上 136～140ページを講読</li> <li>同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑦)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction 内容に入るの、一回目から出席のこと。</li> <li>3. Sandra Cisneros, "Eleven"</li> <li>5. Floyd Dell, "The Blanket"</li> <li>7. Yoshiko Uchida, "The Bracelet"</li> <li>9. Quentin Reynolds, "A Secret for Two"</li> <li>11. Shirley Jackson, "Charles"</li> <li>13. O. Henry, "Two Thanksgiving Day Gentlemen"</li> <li>15. Wrap-Up</li> </ol> <p>*二回で一篇ずつストーリーを読みます。上にテキストに登場するストーリーの著者名と作品名を順次挙げています。</p> <p>*作品や進度は変更することがあります。</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：指定した問題を解き、文章を読んでください。 事後学習：授業内容を復習し、指定した問題を解いてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Judith Kay & Rosemary Gelshenen, <i>Discovering Fiction: A Reader of North American Short Stories</i> (Cambridge UP, 2013) 参考文献は授業中に紹介します。		
評価方法	小テスト2割、授業内外の課題4割、学期末試験4割 * ただし授業回数の1/3を越える欠席の場合、評価対象としません。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑦)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction 内容に入るの、一回目から出席のこと。</li> <li>3. Isaac Asimov, "The Fun They Had"</li> <li>5. Judith Kay, "The Mirror"</li> <li>7. William Saroyan, "You Go Your Way, I'll Go Mine"</li> <li>9. MacKinlay Kantor, "Blue Eyes Far Away"</li> <li>11. Gwendolyn Brooks, "Home"</li> <li>13. Zona Gale, "The Woman"</li> <li>15. Wrap Up</li> </ol> <p>*二回で一篇ずつストーリーを読みます。上にテキストに登場するストーリーの著者名と作品名を順次挙げています。</p> <p>*作品や進度は変更することがあります。</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：指定した問題を解き、文章を読んでください。 事後学習：授業内容を復習し、指定した問題を解いてください。		
テキスト、参考文献	Reading Strategies IIIからの継続で、同じテキストを使います。参考文献は授業中に適宜紹介します。		
評価方法	小テスト2割、授業内外の課題4割、学期末試験4割 * ただし授業回数の1/3を越える欠席の場合、評価対象としません。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年⑧)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li><i>Zion in America</i> 1章を講読する</li> <li>同上 2章を講読する</li> <li>同上 3章を講読する</li> <li>同上 4章を講読する</li> <li>同上 5章を講読する</li> <li>同上 6章を講読する</li> <li>同上 7章を講読する</li> <li>同上 8章を講読する</li> <li>同上 9章を講読する</li> <li>同上 10章を講読する</li> <li>同上 11章を講読する</li> <li>同上 12章を講読する</li> <li>同上 13章を講読する</li> <li>同上 14章を講読する</li> <li>同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の70%です。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年⑧)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li><i>Zion in America</i> 15章を講読する</li> <li>同上 16章を講読する</li> <li>同上 17章を講読する</li> <li>同上 18章を講読する</li> <li>同上 19章を講読する</li> <li><i>Dis honest broker</i> 1章を講読する</li> <li>同上 2章を講読する</li> <li>同上 3章を講読する</li> <li>同上 4章を講読する</li> <li>同上 5章を講読する</li> <li>同上 6章を講読する</li> <li>同上 7章を講読する</li> <li>同上 8章を講読する</li> <li>同上 9章を講読する</li> <li>同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑨)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>【ガイダンス】</li> <li>Reading Activity (1) : Universities Abroad_1</li> <li>Reading Activity (1) : Universities Abroad_2</li> <li>Reading Activity (1) : Universities Abroad_3</li> <li>Reading Activity (1) : Universities Abroad_4</li> <li>Reading Activity (2) : Second language learning_1</li> <li>Reading Activity (2) : Second language learning_2</li> <li>Reading Activity (2) : Second language learning_3</li> <li>Reading Activity (2) : Second language learning_4</li> <li>Reading Activity (3) : Young Achievers_1</li> <li>Reading Activity (3) : Young Achievers_2</li> <li>Reading Activity (3) : Young Achievers_3</li> <li>Preparing for the final presentation_1</li> <li>Preparing for the final presentation_2</li> <li>Group Presentation</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業冒頭で行う単語プレゼンテーションの準備をすること。		
テキスト、参考文献	配布プリントを使用する。		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み (70%)、最終プレゼンテーション (30%)		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑨)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction, Reading for Fun</li> <li>Preview, Reading Current Topics (1)</li> <li>Structure (1) Academic, analytical</li> <li>Structure (2) News/magazine articles, Reading Topics (2)</li> <li>Structure (3) Literature</li> <li>Structure (4) Business, commercial, Reading Topics (3)</li> <li>Paraphrasing (1)</li> <li>Paraphrasing (2)</li> <li>Summarizing (1), Reading Topics (4)</li> <li>Summarizing (2)</li> <li>Read and Cite, Reading Topics (5)</li> <li>Read and Cite</li> <li>Research Reading, Final Assignment</li> <li>Research Reading</li> <li>Reviews</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class, having completed their weekly assignments including reading, doing exercises, and researching on relevant topics.		
テキスト、参考文献	Reading materials provided in class or specified online or otherwise.		
評価方法	Participation (Preps, In-class performance): 25%; Quizzes /Assignments: 25%; and Final assignment/Exam: 50%. Minimum attendance rate of 70% is required for credit/grade evaluation.		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>導入——わからないことは希望なのだ</li> <li>間違いだらけのRS——短所を競い合う</li> <li>学習環境・習慣を理解する</li> <li>短所と向き合う</li> <li>長所にも気付き、活かす</li> <li>長所を競い合う</li> <li>短所と長所の接点と関係に気付く</li> <li>短所を克服するために</li> <li>短所を分かち合う</li> <li>短所よ、さらば!!</li> <li>もう一度長所を競い合う</li> <li>もう一度短所を競い合う</li> <li>学習成果分析 1</li> <li>学習成果分析 2</li> <li>まとめ</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分の長所に気付き、それを伸ばし・活かしながら、弱点を発見し、その克服にひたすら努めることで、英文の読解力をはじめ、英語運用能力全般を確実に上げていただきます。		
テキスト、参考文献	プリントや図書館の資料・参考書等を使います。		
評価方法	学習成果ポートフォリオ 100%		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑩)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Review of RS III</li> <li>How useful are academic papers?</li> <li>Fast reading strategies</li> <li>Reading academic papers: Benefits and challenges</li> <li>Reading more efficiently 1</li> <li>Reading more efficiently 2</li> <li>Reading critically 1</li> <li>Reading critically 2</li> <li>Taking notes</li> <li>Poster session</li> <li>Outlining</li> <li>Tutorial</li> <li>Group presentation 1</li> <li>Group presentation 2</li> <li>Wrap-up</li> </ol> <p>【RSIII で著しい学習成果が出るという期待のもと組んだ授業計画です。原則として英語で行います。】</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, poster and group presentations 50%, final report 30%		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>An Introductions</li> <li>“Feather” (1)</li> <li>“Feather” (2)</li> <li>“Feather” (3)</li> <li>“Chef’s House”</li> <li>“Preservation” (1)</li> <li>“Preservation” (2)</li> <li>“The Compartment” (1)</li> <li>“The Compartment” (2)</li> <li>“A Small Good Thing” (1)</li> <li>“A Small Good Thing” (2)</li> <li>“A Small Good Thing” (3)</li> <li>“A Small Good Thing” (4)</li> <li>“Vitamin” (1)</li> <li>“Vitamin” (2)</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、事前に疑問点を整理し、プレゼンターからの質問に答えを用意し、授業に臨むこと。		
テキスト、参考文献	Text: Raymond Carver. Cathedral. New York: Vintage, 1989. 参考文献：村上春樹訳『大聖堂』中央公論社、1990年		
評価方法	プレゼンと定期試験の成績によって決める。ただし、欠席回数が授業数の1/3を越えた場合は、評価の対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑪)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary.</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>“Careful” (1)</li> <li>“Careful” (2)</li> <li>“Where I’m Calling From” (1)</li> <li>“Where I’m Calling From” (2)</li> <li>“Where I’m Calling From” (3)</li> <li>“The Train” (1)</li> <li>“The Train” (2)</li> <li>“Fever” (1)</li> <li>“Fever” (2)</li> <li>“Fever” (3)</li> <li>“The Bridle” (1)</li> <li>“The Bridle” (2)</li> <li>“Cathedral” (1)</li> <li>“Cathedral” (2)</li> <li>“Cathedral” (3)</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、事前に疑問点を整理し、プレゼンターからの質問に答えを用意し、授業に臨むこと。		
テキスト、参考文献	Text: Raymond Carver. Cathedral. New York: Vintage, 1989. 参考文献：村上春樹訳『大聖堂』中央公論社、1990年		
評価方法	プレゼンと定期試験の成績によって決める。ただし、欠席回数が授業数の1/3を越えた場合は、評価の対象としない。		

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑫)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>第1回：春学期の授業のオリエンテーションを行います。</p> <p>第2回～第7回： テキスト第1章 Aspects of Socialization (社会化の諸側面) を読み進めます。</p> <p>第8回～第14回： テキスト第2章 Social Influence (社会的影響) を読み進めます。</p> <p>第15回：春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定個所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジюмеを作成してプレゼンテーションできるように準備しておいて下さい。また、巻末の Bibliography に掲載された文献も参照することを勧めます。		
テキスト、参考文献	Roger Davies & Peter Houghton (原著 1991、テキスト第2版 2001) ; <i>Mastering Psychology</i> (心理と記憶とことば)、英潮社フェニックス、および配布プリント		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 70%の比重) および平常授業におけるプレゼンテーションやレジюме作成の実績 (概ね 30%の比重) を合計して評価します。		

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑫)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary.</li> <li>2. To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>3. To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> <li>5. To do some book research and make a reference list.</li> </ol>		<p>第1回：秋学期の授業のオリエンテーションを行います。</p> <p>第2回～第7回： テキスト第3章 Social Perception (社会的知覚) を読み進めます。</p> <p>第8回～第14回： テキスト第4章 Memory (記憶) を読み進めます。</p> <p>第15回：秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定個所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジюмеを作成してプレゼンテーションできるように準備しておいて下さい。また、巻末の Bibliography に掲載された文献も参照することを勧めます。		
テキスト、参考文献	Roger Davies & Peter Houghton (原著 1991、テキスト第2版 2001) ; <i>Mastering Psychology</i> (心理と記憶とことば)、英潮社フェニックス、および配布プリント		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 70%の比重) および平常授業におけるプレゼンテーションやレジюме作成の実績 (概ね 30%の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	Writing Skills I (1年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. In-class Writing</li> <li>3. Basic Mechanics of Writing</li> <li>4. Paragraph structure</li> <li>5. Narrative Paragraphs</li> <li>6. Draft Writing and Revision</li> <li>7. Logical Division of Ideas</li> <li>8. Process Paragraphs</li> <li>9. Draft Writing and Revision</li> <li>10. Grammar Review</li> <li>11. Definition Paragraphs</li> <li>12. Draft Writing and Revision</li> <li>13. Draft Writing and Revision</li> <li>14. Draft Writing and Revision</li> <li>15. Term Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction to Paragraph Writing		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing, Book 3</i> , Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
評価方法	Classwork, Homework, and Paragraphs		

13年度以降	Writing Skills II (1年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of Paragraph Writing</li> <li>3. Cause/Effect Paragraphs</li> <li>4. Draft Writing and Revision</li> <li>5. Compare/Contrast Paragraphs</li> <li>6. Draft Writing and Revision</li> <li>7. In-class Writing/Grammar Review</li> <li>8. Introduction to Essay Writing</li> <li>9. Brainstorming/Outlining</li> <li>10. Narrative Essay</li> <li>11. Draft Writing and Revision</li> <li>12. Process Essay</li> <li>13. Draft Writing and Revision</li> <li>14. Draft Writing and Revision</li> <li>15. Course Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Continuing Paragraph Writing, plus Introduction to Essay Writing		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing, Book 3</i> , Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
評価方法	Classwork, Homework, Paragraphs and Essays		

13年度以降	Writing Skills I (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Topic sentence development</li> <li>3. Practice essay</li> <li>4. “</li> <li>5. “</li> <li>6. “</li> <li>7. “</li> <li>8. “</li> <li>9. Comprehensive essay</li> <li>10. My passion essay</li> <li>11. “</li> <li>12. “</li> <li>13. Presentation</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Presentation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, essays, presentation		

13年度以降	Writing Skills II (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. News article/summary/Topic sentence</li> <li>3. “</li> <li>4. “</li> <li>5. “</li> <li>6. “</li> <li>7. “</li> <li>8. Test</li> <li>9. Presentation preparation</li> <li>10. “</li> <li>11. “</li> <li>12. Presentations</li> <li>13. Presentations</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Presentations</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

13年度以降	Writing Skills I (1年C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Class orientation</li> <li>2: Paragraph organization, academic style</li> <li>3: Introduction to Quick Write</li> <li>4: Planning a paragraph, using correction symbols</li> <li>5: Topics and topic sentences</li> <li>6: Supporting sentences and examples</li> <li>7: Introduction to peer editing</li> <li>8: Cause and effect writing</li> <li>9: Grammar workshop</li> <li>10: Persuasive writing</li> <li>11: Comparison and contrast</li> <li>12: Survey and report</li> <li>13: Grammar workshop 2</li> <li>14: Review</li> <li>15: Return writing portfolio; consultation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト、参考文献	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)		
評価方法	80% weekly paragraph writings, 20% Quick Write entries		

13年度以降	Writing Skills II (1年C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Class orientation</li> <li>2: Elements of good academic writing</li> <li>3: Introduction to timed free writing</li> <li>4: Choosing topics, making titles</li> <li>5: Thesis statements</li> <li>6: Grammar mechanics: common writing errors</li> <li>7: Types of essay organization</li> <li>8: Proofreading and proofreading symbols</li> <li>9: Making good introductory paragraphs</li> <li>10: Types of concluding paragraphs</li> <li>11: Quotations and citations</li> <li>12: Grammar: fragments, dependent clauses</li> <li>13: Summarizing</li> <li>14: Review</li> <li>15: Return all writings and consultation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay assignments and revisions		
テキスト、参考文献	Introduction to Academic Writing, 3rd Edition (Pearson Longman)		
評価方法	80% essays, 20% Quick Write entries		

13 年度以降	Writing Skills I (1 年 D)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class orientation</li> <li>2. Organization of Good Paragraph Writing</li> <li>3. Brainstorming 1</li> <li>4. Brainstorming 2</li> <li>5. Writing About Your Life 1</li> <li>6. Writing About Your Life 2</li> <li>7. Coherence in Writing 1</li> <li>8. Coherence in Writing 2</li> <li>9. Descriptive Essay</li> <li>10. Logical Thinking</li> <li>11. Thesis Statement</li> <li>12. Group Work</li> <li>13. Review</li> <li>14. Test</li> <li>15. Wrap-Up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト、参考文献	Inside Writing 2 (Oxford), Academic Writing Skills 1 (Cambridge)		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13 年度以降	Writing Skills II (1 年 D)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class Orientation</li> <li>2. Brainstorming</li> <li>3. Gathering Information</li> <li>4. Organizing Your Sentences</li> <li>5. Organizing Different Ideas</li> <li>6. Supporting Your Points</li> <li>7. Comparison/Contrast</li> <li>8. Giving a Definition</li> <li>9. Peer Work 1</li> <li>10. Peer Work 2</li> <li>11. Free Writing 1</li> <li>12. Free Writing 2</li> <li>13. Reviewing</li> <li>14. Test</li> <li>15. Wrap-Up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト、参考文献	Inside Writing 2 (Oxford), Academic Writing Skills 1 (Cambridge)		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 E)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class orientation</li> <li>2. Writing good sentences</li> <li>3. The English paragraph</li> <li>4. Topic sentence</li> <li>5. Supporting and concluding sentences</li> <li>6. Common mistakes – peer review</li> <li>7. Narrative paragraphs</li> <li>8. Narrative paragraphs</li> <li>9. Description paragraphs</li> <li>10. Description paragraph</li> <li>11. Common mistakes – peer review</li> <li>12. In class writing</li> <li>13. In class writing</li> <li>14. In class writing</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should preview the next week's material and bring their writing every week		
テキスト、参考文献	Ready To Write 3 -From Paragraph to Essay 4 <sup>th</sup> Edition		
評価方法	In class performance, 40%; assignments, 40%; homework, 20%.		

13年度以降	Writing Skills II (1年 E)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class orientation</li> <li>2. Revising descriptive paragraphs</li> <li>3. Revising narrative paragraphs</li> <li>4. Opinion paragraphs</li> <li>5. Comparison paragraph</li> <li>6. Free writing</li> <li>7. The structure of an essay</li> <li>8. Introduction and Thesis statements</li> <li>9. Body paragraphs</li> <li>10. Conclusion</li> <li>11. Description essay</li> <li>12. Opinion essay</li> <li>13. Common mistakes</li> <li>14. In class writing</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should preview the next week's material and bring their writing every week		
テキスト、参考文献	Ready To Write 3 -From Paragraph to Essay 4 <sup>th</sup> Edition		
評価方法	In class performance, 40%; assignments, 40%; homework, 20%.		

13年度以降	Writing Skills I (1年 F)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1-1,2 (Stimulating Ideas)</li> <li>3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence)</li> <li>4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>7. Unit 2-4 (Editing Your Writing)</li> <li>8. Unit 2-5 (Putting It All Together)</li> <li>9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>12. Unit 3-4 (Editing Your Writing)</li> <li>13. Unit 3-5 (Putting It All Together)</li> <li>14. Term-end presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Alice Savage, Masoud Shafiei 著 <i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP (2012年) 978-0-19-432346-8		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 F)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, review of the spring semester</li> <li>2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>5. Unit 4-4 (Editing Your Writing)</li> <li>6. Unit 4-5 (Putting It All Together)</li> <li>7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>10. Unit 5-4 (Editing Your Writing)</li> <li>11. Unit 5-5 (Putting It All Together)</li> <li>12. Unit 6-1 Narrative Paragraph(Stimulating Ideas)</li> <li>13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>14. Term-end presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Alice Savage, Masoud Shafiei 著 <i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP (2012年) 978-0-19-432346-8		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 G)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 G)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 H)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 H)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 I)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. The English paragraph</li> <li>3. The topic sentence</li> <li>4. The supporting details</li> <li>5. Characteristics of a good paragraph</li> <li>6. Descriptive paragraph</li> <li>7. Narrative paragraph</li> <li>8. Personal opinion</li> <li>9. Writing a second draft</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Classification</li> <li>12. Cause and effect</li> <li>13. Comparison</li> <li>14. Contrast</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 I)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Thesis statement</li> <li>4. Essay organization</li> <li>5. Synthesizing Information</li> <li>6. Detailed outline</li> <li>7. Evaluating outlines</li> <li>8. Descriptive essay</li> <li>9. Narrative essay</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Writing final draft</li> <li>12. Comparison and contrast essay</li> <li>13. Classification essay</li> <li>14. Persuasive</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 J)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. The English paragraph</li> <li>3. The topic sentence</li> <li>4. The supporting details</li> <li>5. Characteristics of a good paragraph</li> <li>6. Descriptive paragraph</li> <li>7. Narrative paragraph</li> <li>8. Personal opinion</li> <li>9. Writing a second draft</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Classification</li> <li>12. Cause and effect</li> <li>13. Comparison</li> <li>14. Contrast</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 J)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Thesis statement</li> <li>4. Essay organization</li> <li>5. Synthesizing Information</li> <li>6. Detailed outline</li> <li>7. Evaluating outlines</li> <li>8. Descriptive essay</li> <li>9. Narrative essay</li> <li>10. Peer evaluation and feedback</li> <li>11. Writing final draft</li> <li>12. Comparison and contrast essay</li> <li>13. Classification essay</li> <li>14. Persuasive</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 K)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, outline, getting to know your teacher</li> <li>2. The Sentence and the Paragraph</li> <li>3. The Sentence and the Paragraph</li> <li>4. The Sentence and the Paragraph</li> <li>5. The Sentence and the Paragraph</li> <li>6. Descriptive Paragraphs</li> <li>7. Descriptive Paragraphs</li> <li>8. Descriptive Paragraphs</li> <li>9. Descriptive Paragraphs</li> <li>10. Paragraph Examples</li> <li>11. Paragraph Examples</li> <li>12. Paragraph Examples</li> <li>13. Paragraph Examples</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1</i> , Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

13年度以降	Writing Skills II (1年 K)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Process Paragraphs</li> <li>3. Process Paragraphs</li> <li>4. Process Paragraphs</li> <li>5. Process Paragraphs</li> <li>6. Narrative Paragraphs</li> <li>7. Narrative Paragraphs</li> <li>8. Narrative Paragraphs</li> <li>9. Narrative Paragraphs</li> <li>10. Opinion Paragraphs</li> <li>11. Opinion Paragraphs</li> <li>12. Opinion Paragraphs</li> <li>13. Opinion Paragraphs</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1</i> , Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

13年度以降	Writing Skills I (1年 L)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 L)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<p>Week 1-2 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week 3-5 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page/ Sentence structure / Writing assignment</p> <p>Week 6-8 Ch.2 Model, vocabulary, time order/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 9-11 Ch.3 Model, vocabulary, adjectives/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 12-14 Ch.4 Model, vocabulary, synonyms/ Sentence structure/ writing assignment</p> <p>Week 15 Review</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト、参考文献	Longman Academic Writing Series, Paragraphs to Essays, by Oshima & Hogue		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, outline, getting to know your teacher</li> <li>2. The Sentence and the Paragraph</li> <li>3. The Sentence and the Paragraph</li> <li>4. The Sentence and the Paragraph</li> <li>5. The Sentence and the Paragraph</li> <li>6. Descriptive Paragraphs</li> <li>7. Descriptive Paragraphs</li> <li>8. Descriptive Paragraphs</li> <li>9. Descriptive Paragraphs</li> <li>10. Paragraph Examples</li> <li>11. Paragraph Examples</li> <li>12. Paragraph Examples</li> <li>13. Paragraph Examples</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1</i> , Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

13年度以降	Writing Skills II (1年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Process Paragraphs</li> <li>3. Process Paragraphs</li> <li>4. Process Paragraphs</li> <li>5. Process Paragraphs</li> <li>6. Narrative Paragraphs</li> <li>7. Narrative Paragraphs</li> <li>8. Narrative Paragraphs</li> <li>9. Narrative Paragraphs</li> <li>10. Opinion Paragraphs</li> <li>11. Opinion Paragraphs</li> <li>12. Opinion Paragraphs</li> <li>13. Opinion Paragraphs</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 1</i> , Alice Savage and Masoud Shafiei, Oxford University Press.		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

13 年度以降	Writing Skills I (1 年 N)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Getting ready to write</li> <li>3. Choosing the hook [Assignment 1]</li> <li>4. Writing a coherent sentence</li> <li>5. Linking sentences together [Assignment 2]</li> <li>6. From sentence to paragraph</li> <li>7. Midterm test</li> <li>8. Formatting skills</li> <li>9. Academic writing introduction [Assignment 3]</li> <li>10. Paragraph types</li> <li>11. From life to paragraph</li> <li>12. Editing your work [Assignment 4]</li> <li>13. Peer editing</li> <li>14. Final paper</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use My DOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13 年度以降	Writing Skills II (1 年 N)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Academic topic choices</li> <li>3. Building body paragraphs [Assignment 1]</li> <li>4. Useful vocabulary</li> <li>5. Linking body paragraphs [Assignment 2]</li> <li>6. Cohesion and logic</li> <li>7. Midterm test</li> <li>8. Using formatting skills</li> <li>9. Using editing skills [Assignment 3]</li> <li>10. Using external sources</li> <li>11. Editing your work [Assignment 4]</li> <li>12. Peer editing</li> <li>13. Final test</li> <li>14. Review I</li> <li>15. Review II</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use My DOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 O)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Basic Paragraph Structure</li> <li>3. Basic Paragraph Structure</li> <li>4. Basic Paragraph Structure</li> <li>5. Academic Paragraphs</li> <li>6. Academic Paragraphs</li> <li>7. Academic Paragraphs</li> <li>8. Narrative Paragraphs</li> <li>9. Narrative Paragraphs</li> <li>10. Narrative Paragraphs</li> <li>11. Logical Organization</li> <li>12. Logical Organization</li> <li>13. Logical Organization</li> <li>14. In-class writing test</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills II (1年 O)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Process Paragraphs</li> <li>3. Process Paragraphs</li> <li>4. Process Paragraphs</li> <li>5. Short essay organization</li> <li>6. Short essay organization</li> <li>7. Short essay organization</li> <li>8. Reasearch essay project</li> <li>9. Reasearch essay project</li> <li>10. Reasearch essay project</li> <li>11. Reasearch essay project</li> <li>12. Reasearch essay project</li> <li>13. Reasearch essay project</li> <li>14. Reasearch essay project</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13 年度以降	Writing Skills I (1 年 P)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Introduction:</li> <li>2: Chap. 1: Paragraph Format / nouns &amp; articles</li> <li>3: “ / subject-verb agreement</li> <li>4: “ / verbs</li> <li>5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense</li> <li>6: “ / organization</li> <li>7: “ / compound sentences</li> <li>8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization</li> <li>9: “ / adjectives &amp; Verbs</li> <li>10: “ / “</li> <li>11: Chap.4: Logical Division of Ideas / Paragraph “ / Organization</li> <li>12: “ / Unity</li> <li>13: “ / Run-ons and Comma Splices</li> <li>14: “ / Synonyms</li> <li>15: Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13 年度以降	Writing Skills II (1 年 P)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Introduction:</li> <li>2: Chap. 5: Process Paragraphs/ Clauses</li> <li>3: “ / Organization</li> <li>4: “ / transitional signals</li> <li>5: “ / Complex sentences</li> <li>6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives</li> <li>7: “ / Organization</li> <li>8: “ / Adjective Clauses. Relative pronouns</li> <li>9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs</li> <li>10: “ / Organization</li> <li>11: “ / Cause / Effect Signals</li> <li>12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs</li> <li>13: “ / Organization</li> <li>14: “ / Comparison/ Contrast Signals</li> <li>15: Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 Q)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Basic Paragraph Structure</li> <li>3. Basic Paragraph Structure</li> <li>4. Basic Paragraph Structure</li> <li>5. Academic Paragraphs</li> <li>6. Academic Paragraphs</li> <li>7. Academic Paragraphs</li> <li>8. Narrative Paragraphs</li> <li>9. Narrative Paragraphs</li> <li>10. Narrative Paragraphs</li> <li>11. Logical Organization</li> <li>12. Logical Organization</li> <li>13. Logical Organization</li> <li>14. In-class writing test</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills II (1年 Q)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Process Paragraphs</li> <li>3. Process Paragraphs</li> <li>4. Process Paragraphs</li> <li>5. Short essay organization</li> <li>6. Short essay organization</li> <li>7. Short essay organization</li> <li>8. Reasearch essay project</li> <li>9. Reasearch essay project</li> <li>10. Reasearch essay project</li> <li>11. Reasearch essay project</li> <li>12. Reasearch essay project</li> <li>13. Reasearch essay project</li> <li>14. Reasearch essay project</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week.		
テキスト、参考文献	No textbook. Handouts will be provided by the instructor.		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills I (1年 R)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To learn how to properly format a typed paragraph</li> <li>3. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs</li> <li>5. To help students analyze s and revise their writing</li> <li>6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents .</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Introduction:</li> <li>2: Chap.1: Paragraph Format / nouns &amp; articles</li> <li>3: “ / subject-verb agreement</li> <li>4: “ / verbs</li> <li>5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense</li> <li>6: “ / organization</li> <li>7: “ / compound sentences</li> <li>8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization</li> <li>9: “ / adjectives &amp; Verbs</li> <li>10: “ / “</li> <li>11: Chap.4: Logical Division of Ideas / Paragraph “ / Organization</li> <li>12: “ / Unity</li> <li>13: “ / Run-ons and Comma Splices</li> <li>14: “ / Synonyms</li> <li>15: Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 R)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students learn how others organize ideas through peer review</li> <li>3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students become familiar with computer literacy</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Introduction:</li> <li>2: Chap. 5: Process Paragraphs/ Clauses</li> <li>3: “ / Organization</li> <li>4: “ / transitional signals</li> <li>5: “ / Complex sentences</li> <li>6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ Appositives</li> <li>7: “ / Organization</li> <li>8: “ / Adjective Clauses. Relative pronouns</li> <li>9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs</li> <li>10: “ / Organization</li> <li>11: “ / Cause / Effect Signals</li> <li>12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs</li> <li>13: “ / Organization</li> <li>14: “ / Comparison/ Contrast Signals</li> <li>15: Review</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue,(Pearson Longman), handout		
評価方法	class participation (20%) assignments (40%) final report (20%) / final test (20%)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>In-class Writing</li> <li>Basic Mechanics of Writing</li> <li>Paragraph structure</li> <li>Narrative Paragraphs</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Unity and Coherence</li> <li>Introduction to Essays</li> <li>Parts of an Essay</li> <li>Process Essay</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Grammar Review</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Term Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction to Paragraph Writing		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing, Book 4</i> , Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
評価方法	Classwork, Homework, Paragraphs and Essay		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 A)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Review of Essay Writing</li> <li>Cause/Effect Essays</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Compare/Contrast Essays</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>In-class Writing</li> <li>Argumentative Essays</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Grammar Review</li> <li>Narrative Essay</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Draft Writing and Revision</li> <li>Course Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Continuing Paragraph Writing plus Introduction to Essay Writing		
テキスト、参考文献	<i>Longman Academic Writing, Book 4</i> , Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
評価方法	Classwork, Homework, and Essays		

09年度以降	Writing Skills III (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Orientation &amp; e-mail</li> <li>2: Paragraph template</li> <li>3: Paragraph final format &amp; submission</li> <li>4: Planning template</li> <li>5: Planning template &amp; research template (direct quotes)</li> <li>6: Research template (direct quotes)</li> <li>7: Research template (direct quotes)</li> <li>8: Essay template introduction</li> <li>9: Essay template body (1st paragraph)</li> <li>10: Essay template body (2nd paragraph)</li> <li>11: Essay template conclusion</li> <li>12: Essay template peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>13: APA style, peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>14: Final format &amp; submission</li> <li>15: Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 35%; Homework 10%; Paragraph 10%; Essay research 10%; Essay 35%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Orientation &amp; planning template</li> <li>2: Planning template</li> <li>3: Writing an effective summary</li> <li>4: Writing an effective summary</li> <li>5: Writing an effective summary</li> <li>6: Research template (1 direct quote &amp; 2 summaries)</li> <li>7: Research template (1 direct quote &amp; 2 summaries)</li> <li>8: Essay template introduction</li> <li>9: Essay template body (1st paragraph)</li> <li>10: Essay template body (2nd paragraph)</li> <li>11: Essay template conclusion</li> <li>12: Essay template peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>13: APA style, peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>14: Final format &amp; submission</li> <li>15: Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Research summaries 10%; Essay: 40%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Getting ready to write</li> <li>3. Getting ready to write</li> <li>4. Paragraphs</li> <li>5. Paragraphs</li> <li>6. Revising and editing</li> <li>7. Writing essays</li> <li>8. Writing essays</li> <li>9. Process essays</li> <li>10. Process essays</li> <li>11. Process essays</li> <li>12. Division and classification essays</li> <li>13. Division and classification essays</li> <li>14. Division and classification essays</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week. Frequently a portion of the textbook will be assigned to preview and complete tasks before class.		
テキスト、参考文献	<i>Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition</i> by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Cause and effect essays</li> <li>3. Cause and effect essays</li> <li>4. Cause and effect essays</li> <li>5. Comparison and contrast essays</li> <li>6. Comparison and contrast essays</li> <li>7. Comparison and contrast essays</li> <li>8. Problem-solution essays</li> <li>9. Problem-solution essays</li> <li>10. Problem-solution essays</li> <li>11. Writing summaries</li> <li>12. Writing summaries</li> <li>13. Expression opinion</li> <li>14. Expressing opinion</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a writing assignment to complete during the week. Frequently a portion of the textbook will be assigned to preview and complete tasks before class.		
テキスト、参考文献	<i>Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition</i> by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		
評価方法	Grades will be based on: in-class performance 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Essay Basics</p> <p>Week 3: Summary Writing</p> <p>Week 4: Summary Writing, continued</p> <p>Week 5: Summary Workshop</p> <p>Week 6: Response Writing</p> <p>Week 7: Response Writing, continued</p> <p>Week 8: Response Workshop</p> <p>Week 9: Media Analysis</p> <p>Week 10: Media Analysis, continued</p> <p>Week 11: Media Analysis Workshop</p> <p>Week 12: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 13: Comparison &amp; Contrast, continued</p> <p>Week 14: Comparison &amp; Contrast Workshop</p> <p>Week 15: Review</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation and written assignments.		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction to Cause &amp; Effect</p> <p>Week 2: Selecting a Topic</p> <p>Week 3: Library Basics</p> <p>Week 4: Development</p> <p>Week 5: Focus</p> <p>Week 6: Cause &amp; Effect Workshop I</p> <p>Week 7: Cause &amp; Effect Workshop II</p> <p>Week 8: Introduction to Problem Solving</p> <p>Week 9: Criteria for Evaluation</p> <p>Week 10: Evaluating Sources</p> <p>Week 11: Documenting Sources</p> <p>Week 12: Plagiarism</p> <p>Week 13: Problem Solving Workshop I</p> <p>Week 14: Problem Solving Workshop II</p> <p>Week 15: Review</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this course. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation and written assignments.		

09年度以降	Writing Skills III (2年 E)	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction class</li> <li>Unit 1 (education): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 1 (education): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 1 (education): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 2 (leadership): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 2 (leadership): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 2 (leadership): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 3 (languages): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 3 (languages): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 3 (languages): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 4 (sustainability): structure/ organization</li> <li>Unit 4 (sustainability): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 4 (sustainability): feedback &amp; evaluation</li> <li>Final draft preparation</li> <li>Final class</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading tasks for each textbook unit. Writing a final essay.		
テキスト、参考文献	<i>Writing Skills</i> Louis Rogers, Delta Publishing, ISBN 978-1-905085-58-3		
評価方法	3 of 4 timed essays 30% Final essay f 25%	Academic vocabulary homework tasks 25% Class participation and preparation 20%	

09年度以降	Writing Skills IV (2年 E)	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction class</li> <li>Unit 5 (crime): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 5 (crime): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 5 (crime): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 7 (culture): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 7 (culture): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 7 (culture): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 8 (personality): Essay structure/ organization</li> <li>Unit 8 (personality): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 8 (personality): Essay feedback &amp; evaluation</li> <li>Unit 9 (ethics): structure/ organization</li> <li>Unit 9 (ethics): Discussion &amp; timed essay</li> <li>Unit 9 (ethics): feedback &amp; evaluation</li> <li>Final draft preparation</li> <li>Final class</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading tasks for each textbook unit. Writing a final essay.		
テキスト、参考文献	Same as spring.		
評価方法	3 of 4 timed essays 30% Final essay f 25%	Academic vocabulary homework tasks 25% Class participation and preparation 20%	

09年度以降	Writing Skills III (2年 F)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>Academic writing strategies</li> <li>Finding the argument [Assignment 1]</li> <li>Paragraph types</li> <li>Introductory paragraph [Assignment 2]</li> <li>Body paragraph</li> <li>Midterm test</li> <li>Closing paragraph</li> <li>Academic sources [Assignment 3]</li> <li>Citation rules</li> <li>Integrating knowledge</li> <li>Editing your work [Assignment 4]</li> <li>Peer editing</li> <li>Final paper</li> <li>Review</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use My DOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 F)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>Academic writing review</li> <li>Argumentative essays [Assignment 1]</li> <li>Cohesion: logic</li> <li>Linking words [Assignment 2]</li> <li>Useful vocabulary</li> <li>Midterm test</li> <li>Hunting for academic sources</li> <li>Fallacies [Assignment 3]</li> <li>Your essay strategies</li> <li>Editing your work [Assignment 4]</li> <li>Peer editing</li> <li>Final paper</li> <li>Review I</li> <li>Review II</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use My DOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introductions and course orientation</li> <li>Getting to know you - conversation activities</li> <li>Exploring essays - the hook and introduction</li> <li>Exploring essays - the body and conclusion</li> <li>Analyzing narrative essays</li> <li>Developing narrative essays - outlining</li> <li>Narrative essay first draft peer review</li> <li>Narrative essay second draft peer review</li> <li>Final draft submission - informing and explaining</li> <li>Analyzing comparison essays</li> <li>Developing comparison essays - outlining</li> <li>Comparison essay first draft peer review</li> <li>Comparison essay second draft peer review</li> <li>Final draft submission and course review.</li> <li>Exam period.</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class		
テキスト、参考文献	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Welcome back - conversation activities</li> <li>50 word stories</li> <li>Using the internet and other reference sources</li> <li>Analyzing argument essays</li> <li>Developing argument essays - outlining</li> <li>Argument essay first draft peer review</li> <li>Argument essay second draft peer review</li> <li>Final draft submission - writing reviews</li> <li>Group narrative compositions</li> <li>Other forms of academic writing - outlining</li> <li>Students' choice first draft peer review</li> <li>Students' choice second draft peer review</li> <li>Final editing</li> <li>Final draft submission and course review</li> <li>Exam period.</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class		
テキスト、参考文献	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 H)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>Brainstorming and topic selection</li> <li>The thesis statement</li> <li>Synthesizing Information</li> <li>Characteristics of a good paragraph</li> <li>Detailed outline</li> <li>Critical Thinking</li> <li>Personal opinion</li> <li>Writing a second draft</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Reading and Discussion</li> <li>Cohesive paragraphs</li> <li>Introductions and Conclusions</li> <li>Narrative essay</li> <li>Test</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 H)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Summer Vacation Essay</li> <li>Brainstorming exercises</li> <li>Good Supporting sentences</li> <li>Word Choice</li> <li>Historical Event Essay</li> <li>Describing a World Heritage Site Essay</li> <li>Japanese Culture Essay</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Explaining the Process of Learning</li> <li>Proofreading Exercises</li> <li>Hot Button Topic</li> <li>Comparison and contrast essay</li> <li>Classification essay</li> <li>Persuasion</li> <li>Test</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

09年度以降	Writing Skills III (2年 I)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, outline, evaluation, course requirements.</li> <li>2. Writing planning &amp; brainstorming</li> <li>3. Writing revising, editing &amp; peer feedback</li> <li>4. Paragraph structures, writing topics &amp; introduction</li> <li>5. Well supported topics and paragraphs</li> <li>6. Writing conclusion and revision</li> <li>7. Quiz 1-15%</li> <li>8. Library computer literacy task 1</li> <li>9. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 1</li> <li>10. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 2</li> <li>11. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 3</li> <li>12. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 4</li> <li>13. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 5</li> <li>14. Quiz 2 - 15%</li> <li>15. Library computer literacy task 2</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 I)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Library computer literacy task 3</li> <li>2. Writing and essay preparation &amp; planning</li> <li>3. Review, Proof-read and checking techniques</li> <li>4. Writing a 'good essay' and good essays techniques</li> <li>5. Essay organization &amp; outline</li> <li>6. Good essays, developing arguments &amp; support</li> <li>7. Quiz 1-15%</li> <li>8. Library computer literacy task 4</li> <li>9. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 1</li> <li>10. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 2</li> <li>11. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 3</li> <li>12. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 4</li> <li>13. Evaluate, writing, review, peer edit &amp; feedback # 5</li> <li>14. Quiz 2 - 15%</li> <li>15. Library computer literacy task 5</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Computer written essays = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1- Introduction: Paragraph Writing</p> <p>Week 2- Pre-Writing: Getting Ready to Write</p> <p>Week 3- Editing Ideas</p> <p>Week 4- The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 5- Identifying and Writing Topic Sentences</p> <p>Week 6- The Development of a Paragraph</p> <p>Week 7- Peer Editing</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Descriptive and Process Paragraphs</p> <p>Week 10- Process Paragraphs and Reasons for Writing Them</p> <p>Week 11- Opinion Paragraphs</p> <p>Week 12- Using Transition Words</p> <p>Week 13- Comparison/Contrast Paragraphs</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト、参考文献	Success With College Writing – From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1- Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 2- The Structure of an Essay</p> <p>Week 3- Writing a Thesis Statement</p> <p>Week 4- Outlining an Essay</p> <p>Week 5- Writing an Outline</p> <p>Week 6- Introductions and Conclusions</p> <p>Week 7- The Purpose of a Conclusion</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Unity and Coherence</p> <p>Week 10- The Importance of Coherence in Essay Writing</p> <p>Week 11- Essays for Examinations</p> <p>Week 12- Writing Timed Essays and Managing Time</p> <p>Week 13- Writing a Statement of Purpose</p> <p>Week 14- Review</p> <p>Week 15- Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト、参考文献	Success With College Writing – From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Rumisek, MacMillan Language House		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 K)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introductions</li> <li>2 Brainstorming</li> <li>3 The Introductions</li> <li>4 The conclusion / the body/ common errors</li> <li>5 Process essay</li> <li>6 Division essay</li> <li>7 Cause and effect essay</li> <li>8 Editing essay 1 draft</li> <li>9 Compare contrast essay</li> <li>10 Problem + solution essay</li> <li>11 Summarizing</li> <li>12 Editing essay 2</li> <li>13 Selecting test questions / planning under time limits</li> <li>14 Timed essay test</li> <li>15 Tests back / feedback</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor		
テキスト、参考文献	Ready to Write 3 (3rd edition) Blanchard, k. & Root, C. (2010) Pearson publishers		
評価方法	10% in-class summaries (week 11) / 30% end of semester test 60% essays		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 K)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Semester goals, new writing techniques</li> <li>2 note-taking</li> <li>3 Choosing essay 1 topic / brainstorming the body</li> <li>4 Research skills</li> <li>5 Outlining</li> <li>6 Editing essay 1</li> <li>7 Choosing essay topic 2</li> <li>8 Research skills</li> <li>9 Research skills</li> <li>10 Outlining</li> <li>11 Research skills</li> <li>12 Sentence variation / formal vs casual language</li> <li>13 Editing essay 2</li> <li>14 Weak points / course review</li> <li>15 Essay pick-up / mxm review of essay</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor		
テキスト、参考文献	No textbook		
評価方法	50% essay 1 / 50% essay 2		

09年度以降	Writing Skills III (2年 L)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.</p> <p>Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics</p> <p>Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics.</p> <p>Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics.</p> <p>Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics.</p> <p>Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics.</p> <p>Week 15, Final assessments.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 L)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.</p> <p>Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics.</p> <p>Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics.</p> <p>Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics.</p> <p>Weeks 11 - 14, Editing your writing. Discussion topics.</p> <p>Week 15, Final assessments.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%		

09年度以降	Writing Skills III (2年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions, outline, getting to know your teacher</li> <li>2. Paragraph to Essay</li> <li>3. Paragraph to Essay</li> <li>4. Paragraph to Essay</li> <li>5. Paragraph to Essay</li> <li>6. Descriptive Essays</li> <li>7. Descriptive Essays</li> <li>8. Descriptive Essays</li> <li>9. Descriptive Essays</li> <li>10. Narrative Essays</li> <li>11. Narrative Essays</li> <li>12. Narrative Essays</li> <li>13. Narrative Essays</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford Univeristy Press		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 M)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Comparison-Contrast Essays</li> <li>3. Comparison-Contrast Essays</li> <li>4. Comparison-Contrast Essays</li> <li>5. Comparison-Contrast Essays</li> <li>6. Opinion Essays</li> <li>7. Opinion Essays</li> <li>8. Opinion Essays</li> <li>9. Opinion Essays</li> <li>10. Cause-and-Effect Essays</li> <li>11. Cause-and-Effect Essays</li> <li>12. Cause-and-Effect Essays</li> <li>13. Cause-and-Effect Essays</li> <li>14. In-class writing preparation</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should keep a daily diary in addition to preparing assignments and reviewing.		
テキスト、参考文献	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford Univeristy Press		
評価方法	30% attendance, including paying attention in class, attitude, lateness, and participation in class. 40% homework assignments, in-class points, notebooks. 30% Final writing assignment in class.		

09年度以降	Writing Skills III (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation</li> <li>Topic sentence development</li> <li>Practice essay</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>Comprehensive essay</li> <li>My passion essay</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>Presentation</li> <li>Presentation</li> <li>Presentation</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, essays, presentation		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Orientation</li> <li>News article/summary/Topic sentence</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>Test</li> <li>Presentation preparation</li> <li>“</li> <li>“</li> <li>Presentations</li> <li>Presentations</li> <li>Presentations</li> <li>Presentations</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to prepare - before class -writing assignments in accordance with the requirements set by the instructor, so that class time can be used for revision and instruction.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

09年度以降	Writing Skills III (2年 O)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Class overview and writing assessment.  Week 2: Understanding how to write for an audience.  Week 3: Essay planning and planning methods.  Week 4: The topic sentence and supporting sentences.  Week 5: Looking at paragraph construction.  Week 6: Paragraph construction in a short essay format.  Week 7: The 'Thesis Statement' in writing and its function.  Week 8: First writing assignment planning and group work.  Week 9: Writing assignment submission and peer review.  Week 10: Planning strategies review.  Week 11: Final essay planning and group discussion.  Week 12: Linking phrases for combining paragraphs (1).  Week 13: Linking phrases for combining paragraphs (2).  Week 14: Final essay submission.  Week 15: Returned essays review and class feedback.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Awareness raising exercises and guidance for sentence, paragraph and essay composition. Students should spend at least an hour reviewing materials covered in class and an hour for homework preparation. Preparation for mid-term and final assignments may require longer (around two to three hours).		
テキスト、参考文献	There are no texts required for this class. Handouts and reading materials will be provided.		
評価方法	Classwork (including participation in discussion and problem-solving activities about writing topics) 50%. Adequate homework preparation when required and timely assignment submissions adhering to submission deadlines 50%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 O)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Class overview. Different styles of essays.  Week 2: Vocabulary usage: Understanding collocations.  Week 3: Linking words and clause construction.  Week 4: Linked paragraph essays using transition words.  Week 5: The 'Thesis Statement' in longer writing.  Week 6: Planning strategies.  Week 7: First draft writing and draft planning.  Week 8: First draft submission and peer review.  Week 9: First draft feedback.  Week 10: Linking phrases for combining paragraphs.  Week 11: Planning and discussing final draft essay.  Week 12: Note-taking for planning and writing (1).  Week 13: Note-taking for planning and writing (2).  Week 14: Final essay submission and feedback.  Week 15: Returned essay review and class feedback.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Awareness raising exercises and guidance for sentence, paragraph and essay composition and using sources for clarifying opinions. Students should spend at least an hour reviewing materials covered in class and an hour for homework preparation. Preparation for mid-term and final assignments may require longer (two to three hours).		
テキスト、参考文献	There are no texts required for this class. Handouts and reading materials will be provided.		
評価方法	Classwork (including participation in discussion and problem-solving activities about writing topics) 50%. Adequate homework preparation when required and timely assignment submissions adhering to submission deadlines 50%.		

09年度以降	Writing Skills III (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay</li> <li>3. Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay)</li> <li>4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>7. Unit 2-4 (Editing Your Writing)</li> <li>8. Unit 2-5 (Putting It All Together)</li> <li>9. Unit 3-1 Narrative Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>12. Unit 3-4 (Editing Your Writing)</li> <li>13. Unit 3-5 (Putting It All Together)</li> <li>14. Term-end presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Alice Savage, Patricia Mayer 著 <i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay</i> . Oxford UP (2012年) 978-0-19-432347-5		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, review of the spring semester</li> <li>2. Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas)</li> <li>3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>5. Unit 4-4 (Editing Your Writing)</li> <li>6. Unit 4-5 (Putting It All Together)</li> <li>7. Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>10. Unit 5-4 (Editing Your Writing)</li> <li>11. Unit 5-5 (Putting It All Together)</li> <li>12. Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas)</li> <li>13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>14. Term-end presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の予習・復習課題をポータルサイトに掲載するので、各自取り組んで授業に臨んでください。		
テキスト、参考文献	テキスト：Alice Savage, Patricia Mayer 著 <i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay</i> . Oxford UP (2012年) 978-0-19-432347-5		
評価方法	Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)		

09年度以降	Writing Skills III (2年 Q)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Class overview and writing assessment  Week 2: Understanding how to write for an audience  Week 3: Essay planning and planning methods  Week 4: The topic sentence and supporting sentences  Week 5: Looking at paragraph construction  Week 6: Paragraph construction in a short essay format  Week 7: The 'Thesis Statement' in writing and its function  Week 8: First writing assignment planning and group work  Week 9: Writing assignment submission and peer review  Week 10: Planning strategies review  Week 11: Final essay planning and group discussion  Week 12: Linking phrases for combining paragraphs (1)  Week 13: Linking phrases for combining paragraphs (2)  Week 14: Final essay submission  Week 15: Returned essays review and class feedback</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Awareness raising exercises and guidance for sentence, paragraph and essay composition. Students should spend at least an hour reviewing materials covered in class and an hour for homework preparation. Preparation for mid-term and final assignments may require longer (around two to three hours).		
テキスト、参考文献	There are no texts required for this class. Handouts and reading materials will be provided.		
評価方法	Classwork (including participation in discussion and problem-solving activities about writing topics) 50%. Adequate homework preparation when required and timely assignment submissions adhering to submission deadlines 50%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 Q)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> <li>To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<p>Week 1: Class overview. Different styles of essays  Week 2: Vocabulary usage: Understanding collocations  Week 3: Linking words and clause construction  Week 4: Linked paragraph essays using transition words  Week 5: The 'Thesis Statement' in longer writing  Week 6: Planning strategies  Week 7: First draft writing and draft planning  Week 8: First draft submission and peer review  Week 9: First draft feedback  Week 10: Linking phrases for combining paragraphs  Week 11: Planning and discussing final draft essay  Week 12: Note-taking for planning and writing (1)  Week 13: Note-taking for planning and writing (2)  Week 14: Final essay submission and feedback  Week 15: Returned essay review and class feedback</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Awareness raising exercises and guidance for sentence, paragraph and essay composition and using sources for clarifying opinions. Students should spend at least an hour reviewing materials covered in class and an hour for homework preparation. Preparation for mid-term and final assignments may require longer (two to three hours).		
テキスト、参考文献	There are no texts required for this class. Handouts and reading materials will be provided.		
評価方法	Classwork (including participation in discussion and problem-solving activities about writing topics) 50%. Adequate homework preparation when required and timely assignment submissions adhering to submission deadlines 50%.		

09年度以降	Writing Skills III (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Orientation &amp; e-mail</li> <li>2: Paragraph template</li> <li>3: Paragraph final format &amp; submission</li> <li>4: Planning template</li> <li>5: Planning template &amp; research template (direct quotes)</li> <li>6: Research template (direct quotes)</li> <li>7: Research template (direct quotes)</li> <li>8: Essay template introduction</li> <li>9: Essay template body (1st paragraph)</li> <li>10: Essay template body (2nd paragraph)</li> <li>11: Essay template conclusion</li> <li>12: Essay template peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>13: APA style, peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>14: Final format &amp; submission</li> <li>15: Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 35%; Homework 10%; Paragraph 10%; Essay research 10%; Essay 35%		

09年度以降	Writing Skills IV (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> <li>7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Orientation &amp; planning template</li> <li>2: Planning template</li> <li>3: Writing an effective summary</li> <li>4: Writing an effective summary</li> <li>5: Writing an effective summary</li> <li>6: Research template (1 direct quote &amp; 2 summaries)</li> <li>7: Research template (1 direct quote &amp; 2 summaries)</li> <li>8: Essay template introduction</li> <li>9: Essay template body (1st paragraph)</li> <li>10: Essay template body (2nd paragraph)</li> <li>11: Essay template conclusion</li> <li>12: Essay template peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>13: APA style, peer reviewing, revising &amp; editing</li> <li>14: Final format &amp; submission</li> <li>15: Course summary &amp; survey</li> </ol>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト、参考文献	Textbook: None Materials: Bring a pen / pencil, notebook, dictionary, and PC laptop to every class.		
評価方法	0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Research summaries 10%; Essay: 40%		

09年度以降	E-learning I	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年Group Aの学生を対象とする。Reading Strategies, Writing Skillsなどの対面授業で習得したスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】 1週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に再履修者も含め全員集合すること。 3週目以降は毎週、語彙及びリーディングに関するテストを行う。 4週目以降は隔週でオンラインライティングサービス(Criterion)を利用してライティング課題に取り組む。 学習内容は、語彙(ALC)、リーディング(ALC)、およびライティング(Criterion)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. Criterionガイダンス、Essay Topic (トライアル)</li> <li>3. テスト(1): ALC &amp; Essay Topic (1)</li> <li>4. テスト(2): ALC</li> <li>5. テスト(3): ALC &amp; Essay Topic (2)</li> <li>6. テスト(4): ALC</li> <li>7. 中間テスト(1): ALC &amp; Essay Topic (3)</li> <li>8. テスト(5): ALC</li> <li>9. テスト(6): ALC &amp; Essay Topic (4)</li> <li>10. テスト(7): ALC</li> <li>11. テスト(8): ALC &amp; Essay Topic (5)</li> <li>12. 中間テスト(2): ALC</li> <li>13. テスト(9): ALC &amp; Essay Topic (6)</li> <li>14. ライティングに関するまとめ</li> <li>15. リーディング、語彙学習に関するまとめ</li> </ol>	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	オンライン教材：ALC NetAcademy, Criterion		
評価方法	テスト50%+エッセイ30%+レビュー活動等20%		

09年度以降	E-learning II	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning Iと同じ</p> <p>【概要】 1週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に再履修者も含め全員集合すること。 2週目以降は毎週、語彙及びリーディングに関するテストを行う。 3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス(Criterion)を利用してライティング課題に取り組む。 7週目(11月17日)に1年生はTOEFL ITP® 団体受験をする。この日に限り終了時間は19:30。 学習内容は、語彙(ALC)、リーディング(ALC)とライティング(Criterion)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会 &amp; Essay Topic (1)</li> <li>2. テスト(1): ALC</li> <li>3. テスト(2): ALC &amp; Essay Topic (2)</li> <li>4. テスト(3): ALC</li> <li>5. テスト(4): ALC &amp; Essay Topic (3)</li> <li>6. テスト(5): ALC</li> <li>7. TOEFL ITP® Test</li> <li>8. テスト(6): ALC &amp; Essay Topic (4)</li> <li>9. テスト(7): ALC</li> <li>10. テスト(8): ALC &amp; Essay Topic (5)</li> <li>11. テスト(9): ALC</li> <li>12. テスト(10): ALC &amp; Essay Topic (6)</li> <li>13. テスト(11): ALC</li> <li>14. ライティングに関するまとめ</li> <li>15. リーディング、語彙学習に関するまとめ</li> </ol>	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテスト準備をし、ライティングの課題に取り組む。		
テキスト、参考文献	オンライン教材：ALC NetAcademy, Criterion		
評価方法	テスト50%+エッセイ30%+レビュー活動等20%		

09年度以降	E-learning I	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年B GroupとC Groupの学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Skills などの少人数授業で学ぶスキルを「自律・反転学習」によって定着、向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1週目はオンラインライティングサービス (Criterion) の説明後、最初のトピックを出題する。<u>再履修者も含め</u>全員集合のこと。</li> <li>・ 2週目は単語学習などのサーバー(ALC)の使用方法及び毎週のテストの形式について説明する。</li> <li>・ 3週目以降は毎週ALCの語彙(PW Level 5)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。語彙は10ユニットずつ2週にかけて進む。リーディング、リスニングは毎週4ユニットずつ進む。</li> <li>・ テストの前に、Criterion Essay Topicの説明やアウトライン作成、実際に提出されたエッセイの文法・表現の間違い修正、リスニング力強化などに取り組む。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会 1 (Criterion) &amp; Essay Topic (0)</li> <li>2. 全体説明会 2 (ALC)</li> <li>3. テスト1 (PW level5 1-10 Reading/Listening 1-4) &amp; Essay Topic (1)</li> <li>4. テスト2 (PW level5 1-10 Reading/Listening 5-8)</li> <li>5. テスト3 (PW level5 11-20 Reading/Listening 9-12) &amp; Essay Topic (2)</li> <li>6. テスト4 (PW level5 11-20 Reading/Listening 13-16)</li> <li>7. テスト5 (PW level5 21-30 Reading/Listening 17-20) &amp; Essay Topic (3)</li> <li>8. テスト6 (PW level5 21-30 Reading/Listening 21-24)</li> <li>9. テスト7 (PW level5 31-40 Reading/Listening 25-28) &amp; Essay Topic (4)</li> <li>10. テスト8 (PW level5 31-40 Reading/Listening 29-32)</li> <li>11. テスト9 (PW level5 41-50 Reading/Listening 33-36) &amp; Essay Topic (5)</li> <li>12. テスト10 (PW level5 41-50 Reading/Listening 37-40)</li> <li>13. テスト11 (PW level 5 総復習と応用)</li> <li>14. テスト12 (Reading/Listening総復習と応用)</li> <li>15. Essay Topic (6)</li> </ol>	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterionなど		
評価方法	テスト 1-10(70%)、6つの Essays(30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中からテスト 11, 12 により AA を決める。		

09年度以降	E-learning II	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning I と同じ。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法、秋学期のテスト形式について説明をするので<u>再履修者も含め</u>全員集合のこと。</li> <li>・ 2週目以降は春学期と同様、毎週、ALCの語彙(PW Level 6)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。</li> <li>・ 6週目まではテストの前に、TOEFL ITP®受験に向けての練習をする。</li> <li>・ 7週目に1年生はTOEFL ITP® を受験する。この日に限り、授業終了は午後7:30。</li> <li>・ 8週目以降はお互いのエッセイを批評しあうPeer Review 活動などを行い、定期試験では6つのトピックの1つについてエッセイを書いてもらう。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. テスト1 (PW level6 1-10 Reading/Listening 41-44) &amp; Essay Topic (1)</li> <li>3. テスト2 (PW level6 1-10 Reading/Listening 45-48)</li> <li>4. テスト3 (PW level6 11-20 Reading/Listening 49-52) &amp; Essay Topic (2)</li> <li>5. テスト4 (PW level6 11-20 Reading/Listening 53-56)</li> <li>6. テスト5 (PW level6 21-30 Reading/Listening 57-60) &amp; Essay Topic (3)</li> <li>7. TOEFL ITP®</li> <li>8. テスト6 (PW level6 21-30 Reading/Listening 61-64)</li> <li>9. テスト7 (PW level6 31-40 Reading/Listening 65-68) &amp; Essay Topic (4)</li> <li>10. テスト8 (PW level6 31-40 Reading/Listening 69-72)</li> <li>11. テスト9 (PW level6 41-50 Reading/Listening 73-76) &amp; Essay Topic (5)</li> <li>12. テスト10 (PW level6 41-50 Reading/Listening 77-80)</li> <li>13. テスト11 (PW level 6 総復習と応用Reading/Listening総復習と応用)</li> <li>14. テスト12 (Reading/Listening総復習と応用)</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	スケジュールに沿ってテストの準備をし、ライティングの課題に取り組む		
テキスト、参考文献	オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion など		
評価方法	12回のテスト(70%)、6つの Essays、Peer Review 活動、定期試験期間のエッセイテスト (30%)に基づいて総合的に A~F の評価をし、A 評価の中から TOEFL ITP® の結果により AA を決める。		

09年度以降	英語専門講読 I (Cool Japan: 1900-1960)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1.If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4.NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<p>1. Course Introduction</p> <p>2. Japan in the World (Exhibitions)</p> <p>3. Meiji: to be or not to be (Japanese)</p> <p>4. Moga</p> <p>5. Modern Tokaido [Reserch Paper Topic Due]</p> <p>6. Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due]</p> <p>7. Nippon (magazine)</p> <p>8. Department Store Miracle [RP Introduction Due]</p> <p>9. Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due]</p> <p>10. Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due]</p> <p>11. Transport: rush to the city [RP Body Paragraph III Due]</p> <p>12. Made in Japan [RP Conclusion Due]</p> <p>13. Protest or Compliance [Research Paper Final Due]</p> <p>14. Final Exam</p> <p>15. Review</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Cool Japan: 1960-2016)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1.If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4.NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<p>1. Course introduction</p> <p>2. Made in Japan and admired</p> <p>3. The Bubble</p> <p>4. Western Japan - Eastern Japan</p> <p>5. Japanese in the world [Research Paper Topic Due]</p> <p>6. The world in Japan [RP Outline]</p> <p>7. Images of Japan</p> <p>8. Manga [RP Introduction Due]</p> <p>9. J-pop [RP Body Paragraph I Due]</p> <p>10. 21st century Japonism [RP Body Paragraph II Due]</p> <p>11. Ryugaku [RP Body Paragraph III Due]</p> <p>12. Japan First [RP Conclusion Due]</p> <p>13. Final Exam [Research Paper Final Due]</p> <p>14. Review I</p> <p>15. Review II</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.		
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)		

09年度以降	英語専門講読 I (生成文法理論と英語統語論)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 世界的に著名な言語学者Noam Chomskyの名著『言語の知識 (<i>Knowledge of Language</i>)』の核心部分を精読し、Chomsky理論の真髄を理解するとともに、英語の読解力を向上させることを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> Chomskyは本書で「プラトンの問題」すなわち人間の子供がどのようにして不十分な状況の下でいとも簡単に母語を完璧に獲得できるかという問題の解決を試みている。この授業では、多くの例文を用いて論じている“Chapter 3. Facing Plato’s Problem.”(「プラトンの問題に取り組む」)を取り上げる。春学期には「第3.3節 規則体系の種類を制限する」を読み、変形部門、句構造部門、普遍文法の一般的原理、語彙目録の特徴などを学ぶ。</p>		<p><b>Week</b></p> <p>1-2. プラトンの問題とは何か(What is Plato’s problem?)</p> <p>3-4. 規則体系(Rule Systems)</p> <p>5. 規則体系の制限(Restricting the variety of rule systems)</p> <p>6-7. 変形部門(The Transformational Component)</p> <p>8. 普遍文法(Universal Grammar)の一般的原理《中間試験》</p> <p>9. 投射原理(The Projection Principle)</p> <p>10. 空範疇(Empty Categories)</p> <p>11. 語彙目録の諸特徴(Some Properties of the Lexicon)</p> <p>12. 範疇選択・意味選択(c-selection &amp; s-selection)</p> <p>13-14. 主題基準・格フィルター(θ-Criterion &amp; Case Filter)</p> <p>15. 完全解釈原理(Full Interpretation Principle)《期末試験》</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること。授業開始前に、鈴木英一(1990)『統語論』8章「生成統語論概説」(pp.318-71)を読むことを勧めます。なお、授業の最初に生成文法理論の概要を説明します。		
テキスト、参考文献	テキスト: Noam Chomsky (1986) <i>Knowledge of Language</i> . Chapter 3. Facing Plato’s Problem. 参考文献: 鈴木英一(1990)『統語論』8章「生成統語論概説」		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (生成文法理論と英語統語論)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 世界的に著名な言語学者Noam Chomskyの名著『言語の知識 (<i>Knowledge of Language</i>)』の核心部分を精読し、Chomsky理論の真髄を理解するとともに、英語の読解力を向上させることを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> Chomskyは本書で「プラトンの問題」すなわち人間の子供がどのようにして不十分な状況の下でいとも簡単に母語を完璧に獲得できるかという問題の解決を試みている。この授業では、多くの例文を用いて論じている“Chapter 3. Facing Plato’s Problem.”(「プラトンの問題に取り組む」)を取り上げる。秋学期では「第3.4節 原理・媒介変数理論における説明」を読み、認可原理、主要部媒介変数、空範疇PRO、語彙情報と一般原理との関係などを学ぶ。</p>		<p><b>Week</b></p> <p>1-2. 生成文法の枠組み(Framework of Generative Grammar)</p> <p>3-4. 空範疇 PRO(Empty Category PRO)</p> <p>5-6. 束縛理論と指定主語条件(Binding Theory &amp; SSC)</p> <p>7-8. Tough 構文(<i>Tough-Construction</i>)《中間試験》</p> <p>9. PRO と空演算子(PRO &amp; Empty Operator)</p> <p>10-12. 寄生的空所構文(The Projection Principle)</p> <p>13-14. 空所と目的構文(Gap &amp; Purposive Construction)</p> <p>15. まとめ—認可原理と語彙情報《期末試験》</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習すること。必要に応じて、Chomsky(1975)『言語論—人間科学的省察( <i>Reflections on Language</i> )』(大修館書店)やChomsky(1995)『ミニマリスト・プログラム』(翔泳社)を参照すること。		
テキスト、参考文献	テキスト: Noam Chomsky (1986) <i>Knowledge of Language</i> . Chapter 3. Facing Plato’s Problem. 参考文献: Chomsky(1975)『言語論—人間科学的省察』, Chomsky(1995)『ミニマリスト・プログラム』		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (Immigration, Social Change & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
This class will explore immigration as it relates to labor migration, immigration, and transnationalism. During the spring term the course looks at the history of human migration across the globe. The course then distinguishes between terms related to immigration and develops an understanding of the various types of immigration, by considering the political, social, cultural, global and environmental forces that drive people to leave their home countries and make a home for themselves in foreign lands. Lastly, the course will look at a particular case of a so-called immigrant nation: America, and consider the history, policies and paths that led to the growth of this multicultural nation.		Week 1 – Introduction to Course & Terms Week 2 – Humans on the Move Week 3 – Type of Immigration/Migration Week 4 – Reasons for Leaving Week 5 – Busting the Myths of Immigration Week 6 – Mid-Term Presentations (Policy Case Study) Week 7 – Mid-Term Presentations (Policy Case Study) Week 8 – Nationalism & Immigration Week 9 – Us vs. Them Week 10 – Immigration & America Week 11 – Immigration & America (cont'd) Week 12 – Global Forces & Shifting Views of Immigrants Week 13 – Diasporas Around the World Week 14 – Final Poster Presentation Week 15 – Final Poster Presentation	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided		
評価方法	In-class participation & homework (40%), Article summary x 2 (20%), Mid-Term Presentation (20%), Final Poster Presentation (20%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Immigration, Social Change & Education)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
In the second term of this course the focus shifts to specifically consider how immigration and immigrants cause economic, political, social and cultural shifts, within the receiving nation. Specifically, the fall term will look at how immigrants, and their descendants, and will consider policies related to: assimilation / incorporation, education, language and bilingualism. Additionally, the course will consider shifting racial and ethnic identities and the questions that are raised with regard to nationhood and civic participation and the tensions that arise with an influx of immigrants and migrants into the receiving nation.		Week 1 – Introduction to Fall Course Week 2 – Who is an Immigrant? Week 3 – 1st, 1.5 and 2nd Generations Week 4 – Immigration Stories Week 5 – A refugees journey Week 6 – Mid-Term Paper/Presentation Week 7 – Education, Immigration & Social Disparity Week 8 – Education, Immigration Week 9 – Education, Immigration (cont'd) Week 10 – The Case of Japan Week 11 – The Case of Japan Week 12 – Over Stayers (film) Week 13 – Over Stayers (discussion) Week 14 – Final Presentations Week 15 – Final Presentations	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided		
評価方法	In-class participation & homework (40%), Midterm Paper/presentation (20%), Case Study Packet & small group presentation (20%), Final Presentation & paper (20%)		

09年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher training program.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reflecting on your own language learning</li> <li>3. Myth 1: Language learning and age</li> <li>4. Presentation and discussion</li> <li>5. Presentation and discussion</li> <li>6. Myth 2: Bilingualism</li> <li>7. Presentation and discussion</li> <li>8. Presentation and discussion</li> <li>9. Myth 3: Input, output, and interaction</li> <li>10. Presentation and discussion</li> <li>11. Presentation and discussion</li> <li>12. Myth 4: Attention and noticing</li> <li>13. Presentation and discussion</li> <li>14. Presentation and discussion</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading journals		
テキスト、参考文献	<i>Second Language Acquisition Myths</i> S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)		
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)		

09年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will approach the topics in second language acquisition from myths, and from questions that you might have about language learning as non-specialist teacher candidates.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher training program.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reviewing myths 1 to 4</li> <li>3. Myth 5: Explicit and implicit learning</li> <li>4. Presentation and discussion</li> <li>5. Presentation and discussion</li> <li>6. Myth 6: Correction and recasts</li> <li>7. Presentation and discussion</li> <li>8. Presentation and discussion</li> <li>9. Myth 7: Individual differences</li> <li>10. Presentation and discussion</li> <li>11. Presentation and discussion</li> <li>12. Myth 8: Social approaches</li> <li>13. Presentation and discussion</li> <li>14. Presentation and discussion</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading journals		
テキスト、参考文献	<i>Second Language Acquisition Myths</i> S. Brown & J. Larson-Hall (Uni. Of Michigan Press)		
評価方法	In-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and summary(30%), self evaluation(20%)		

09年度以降	英語専門講読 I (ポストモダン文化とは何か)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ポストモダン」という文化概念を多角的・複眼的に理解することで、現代文化の様々な事象に含意されていることを読み解くことを試みます。授業は受講生のファシリテーションを部分的に取り入れながら進めます。また、各回のテーマに合わせたミニ課題も出されます。</p> <p>※春学期 (I) のみの開講となります。この続き (II) は2018年度の秋学期に開講される予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Overview; Group formation</li> <li>2. Warm-up exercise; Approaches to college-level readings</li> <li>3. Mini-Lecture on “Postmodernism: A Preface”</li> <li>4. Modernity — An Incomplete Project</li> <li>5. Towards a Critical Regionalism</li> <li>6. Sculpture in the Expanded Field: Six Points ...</li> <li>7. Quiz (1); Presentation (1)</li> <li>8. On the Museum’s Ruins</li> <li>9. The Discourse of Others: Feminists &amp; Postmodernism</li> <li>10. The Object of Post-Criticism</li> <li>11. Quiz (2); Presentation (2)</li> <li>12. Postmodernism and Consumer Society</li> <li>13. The Ecstasy of Communication</li> <li>14. Opponents, Audiences, Constituencies &amp; Community</li> <li>15. Quiz (3); Presentation (3)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。		
テキスト、参考文献	Hal Foster, <i>Postmodern Culture</i> (Pluto Classic)		
評価方法	発表・発言：40% (理由にかかわらず欠席5回で学期成績がFとなります。)、クイズ：60%		

09年度以降	英語専門講読 I (芝居の台本を読んで観る)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabulary を build up する。</p> <p>生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。</p> <p>さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらおう。</p> <p>講義概要</p> <p>ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。</p> <p>どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入とテキスト精読</li> <li>2. テキスト精読</li> <li>3. テキスト精読</li> <li>4. テキスト精読</li> <li>5. テキスト精読</li> <li>6. テキスト精読</li> <li>7. テキスト精読</li> <li>8. テキスト精読</li> <li>9. テキスト精読</li> <li>10. テキスト精読</li> <li>11. テキスト精読</li> <li>12. テキスト精読</li> <li>13. テキスト精読</li> <li>14. テキスト精読</li> <li>15. テキスト精読とまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで60%、観劇レポート（500～600字）2編で40%。レポートは2編必修。2編提出しない場合、授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。		

09年度以降	英語専門講読 II (芝居の台本を読んで観る)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、 vocabulary を build up する。</p> <p>生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。</p> <p>さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらおう。</p> <p>講義概要</p> <p>ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。</p> <p>どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入とテキスト精読</li> <li>2. テキスト精読</li> <li>3. テキスト精読</li> <li>4. テキスト精読</li> <li>5. テキスト精読</li> <li>6. テキスト精読</li> <li>7. テキスト精読</li> <li>8. テキスト精読</li> <li>9. テキスト精読</li> <li>10. テキスト精読</li> <li>11. テキスト精読</li> <li>12. テキスト精読</li> <li>13. テキスト精読</li> <li>14. テキスト精読</li> <li>15. テキスト精読とまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで60%、観劇レポート（500～600字）2編で40%。レポートは2編必修。2編提出しない場合、授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験なし。		

09年度以降	英語専門講読 I (ナーサリー・ライムズを読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。</p> <p>この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. As I was Going to Saint Ives 他</li> <li>3. Frère Jaques 他</li> <li>4. Here We Go Around the Mulberry Bush 他</li> <li>5. Hickory Dickory Dock 他</li> <li>6. Hot Cross Buns 他</li> <li>7. Humpty Dumpty 他</li> <li>8. Jack and Jill 他</li> <li>9. Jack Sprat 他</li> <li>10. The Lion and Unicorn 他</li> <li>11. Little Boy Blue 他</li> <li>12. Little Miss Muffet 他</li> <li>13. London Bridge Is Falling Down 他</li> <li>14. Mary had a Little Lamb 他</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約してくる。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。		
テキスト、参考文献	テキスト: Albert Jack. Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes. Perigee Trade, 2009		
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (ナーサリー・ライムズを読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。</p> <p>この授業では、それらの童謡／伝承童謡に加え、英国・米国の国歌等の有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Old King Cole 他</li> <li>3. The Owl and the Pussycat 他</li> <li>4. Pop Goes the Weasel 他</li> <li>5. Pussy Cat, Pussy Cat 他</li> <li>6. Rain, Rain, Go Away 他</li> <li>7. Rock-a-Bye, Baby 他</li> <li>8. Sing a Song of Sixpence 他</li> <li>9. Three Blind Mice 他</li> <li>10. Twinkle, Twinkle, Little Star 他</li> <li>11. Who Killed Cock Robin? 他</li> <li>12. God Save the Queen 他</li> <li>13. The Star-Spangled Banner 他</li> <li>14. Yankee Doodle Dandy 他</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、要約してくる。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。		
テキスト、参考文献	テキスト: Albert Jack. Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes. Perigee Trade, 2009		
評価方法	プレゼンテーションおよび授業貢献度 50%、毎回提出する課題 50%		

09年度以降	英語専門講読 I (イギリス児童文学)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Alice's Adventures in Wonderland</i>を精読し、言葉遊びやイギリスらしい表現などへの理解を深めることを目的とする。</p> <p>Aliceの名前は日本でもよく知られているが、翻訳ではわからないナンセンスの面白さを英語で味わうことをこの授業では目指す。またこの児童文学が書かれたヴィクトリア朝の時代背景や、作者Lweis Carroll (Charles Lutwidge Dodgson)についても知識を広げる機会としたい。意味や言葉の使いかただけではなく、音の面白さもこの物語の魅力の一つである。それを体験するために音声教材も授業中には使用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. Chapter I</li> <li>3. Chapter II</li> <li>4. Chapter III</li> <li>5. Chapter IV</li> <li>6. Chapter V</li> <li>7. Chapter VI</li> <li>8. Chapter VII</li> <li>9. Chapter VIII</li> <li>10. Chapter IX</li> <li>11. Chapter X</li> <li>12. Chapter XI</li> <li>13. Chapter XII</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 課題</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の前に毎回、指定された範囲を読んでくること。		
テキスト、参考文献	Lewis Carroll, <i>Alice's Adventures in Wonderland</i> . (MacMillan Alice) ISBN: 978-1447279990		
評価方法	毎回の小テストの結果によって評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (イギリス児童文学)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>J. K. Rowling, <i>Harry Potter and the Philosopher's Stone</i> (1997)を読む。</p> <p>すでに世界的な現象になっているHarry Potterの第1作であるが、映画や翻訳で楽しむことと原文で読むことの違いをあらためて確かめてみる。児童文学とはいえ、英語は必ずしも平易というわけではない。イギリスらしい表現や語彙、人物によって異なる口調など、丹念に読むことによって、ストーリー展開を伝える媒介となる「英語」の面白さがわかってくる。</p> <p>「翻訳ではわからない面白さ」を実感することがこの授業の目標である。毎週、10ページ分ほどを精読してきてもらい、毎回、その範囲について小テストを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. Chapter 1</li> <li>3. Chapters 1-2</li> <li>4. Chapter 2</li> <li>5. Chapter 3</li> <li>6. Chapter 4</li> <li>7. Chapter 5</li> <li>8. Chapter 5</li> <li>9. Chapter 6</li> <li>10. Chapter 6</li> <li>11. Chapter 7</li> <li>12. Chapters 7-8</li> <li>13. Chapter 8</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 課題</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の前に毎回、指定された範囲を読んでくること。		
テキスト、参考文献	J. K. Rowling, <i>Harry Potter and the Philosopher's Stone</i> , London: Bloomsbury, 2014. ISBN: 978-1408855652		
評価方法	毎回の小テストの結果によって評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (日本社会・文化の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月27日、第一回卒業式の式辞で天野貞祐学長が言われたことばである。</li> <li>・「世界人」という考えに必要なものの一つは&lt;軸&gt;である。</li> <li>・その軸を作るための第一歩として「日本人の社会的・文化的コミュニケーション行動」の諸側面を知ろう。</li> <li>・テキストの前半</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序章：概要説明</li> <li>2. 講義：コミュニケーション論</li> <li>3. 講義：社会・文化を考える</li> <li>4. テキスト会読</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. 終章：まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：各章のキーワードを探る／事後：配付資料などを再読する。		
テキスト、参考文献	<i>The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture</i> by <b>Roger Davis &amp; Osamu Ikeno</b> , Tuttle, ¥ 1,700 *各自で購入すること。		
評価方法	グループワーク：15%/学期末個人レポート 35%/各章の内容に関する寸評：50%		

09年度以降	英語専門講読 II (日本社会・文化の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同上</li> <li>・テキストの後半</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序章：概要説明</li> <li>2. テキスト会読</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> <li>15. 終章：まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期に同じ		
テキスト、参考文献	春学期に同じ		
評価方法	春学期に同じ		

09年度以降	英語専門講読 I (Situating Your Eating Habit in the Social Context)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食文化について歴史、社会、経済活動、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などさまざまな視点から検討していく。</p> <p>普段、当たり前食べているものを意識してみる。食習慣に向き合い、食を通してみえてくる自分や自文化の価値観を社会的な文脈に位置づけてみる。</p> <p>課題とされたテーマをもとに、各自英語の文献を探して、自分の言葉で要約する。調べる、読む、まとめる、話すすべて英語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 世界の食文化</li> <li>3. エスニック食とは何か</li> <li>4. グループプレゼンテーション 1</li> <li>5. グループプレゼンテーション 2</li> <li>6. グループプレゼンテーション 3</li> <li>7. アフリカ系アメリカ人の食文化 1</li> <li>8. アフリカ系アメリカ人の食文化 2</li> <li>9. ラティーノの食文化 1</li> <li>10. ラティーノの食文化 2</li> <li>11. 映画/音楽のなかの食 1</li> <li>12. 映画/音楽のなかの食 2</li> <li>13. お話のなかの食 1</li> <li>14. お話のなかの食 2</li> <li>15. Wrap-Up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	授業への参加度 20% グループプレゼンテーション 30% 試験 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (Situating your Eating Habit in the Social Context)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが、さらに深く社会変化とのかかわりから、食について考察する。</p> <p>食について書かれた英語の学術論文も読んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 世界の食文化</li> <li>3. エスニック食</li> <li>4. グループプレゼンテーション 1</li> <li>5. グループプレゼンテーション 2</li> <li>6. グループプレゼンテーション 3</li> <li>7. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 1</li> <li>8. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 2</li> <li>9. ラティーノの食文化とシンボリズム 1</li> <li>10. ラティーノの食文化とシンボリズム 2</li> <li>11. 映画/音楽のなかの食 1</li> <li>12. 映画/音楽のなかの食 2</li> <li>13. お話のなかの食 1</li> <li>14. お話のなかの食 2</li> <li>15. Wrap-Up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。		
テキスト、参考文献	プリント配布		
評価方法	授業への参加度 20% グループプレゼンテーション 30% 試験 50%		



09年度以降	英語専門講読 I (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。</p> <p><u>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方に関するオリエンテーション</li> <li>2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読①</li> <li>3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読②</li> <li>4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③</li> <li>5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④</li> <li>6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤</li> <li>7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥</li> <li>8. 前半の総括と質疑応答</li> <li>9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦</li> <li>10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧</li> <li>11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨</li> <li>12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩</li> <li>13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪</li> <li>14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫</li> <li>15. 全体総括と質疑応答</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。		
テキスト、参考文献	Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト(70%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。		

09年度以降	英語専門講読 II (戦後国際政治史)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。</p> <p><u>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも5ページ分は読んでおくこと</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方に関するオリエンテーション</li> <li>2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読①</li> <li>3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読②</li> <li>4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③</li> <li>5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④</li> <li>6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤</li> <li>7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥</li> <li>8. 前半の総括と質疑応答</li> <li>9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦</li> <li>10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧</li> <li>11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨</li> <li>12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩</li> <li>13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪</li> <li>14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫</li> <li>15. 全体総括と質疑応答</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。		
テキスト、参考文献	Robert J. McMahon, <i>Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト(70%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。		

09年度以降	英語専門講読 I (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得 (SLA) は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。</p> <p>この授業ではSLA研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文 (一つの論文は十数頁) を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問 (Research question(s)) に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、数量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research questionの答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらうことも含めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 実証研究とは何か</li> <li>2. 実証研究論文の一例 (練習用日本語論文)</li> <li>3. 論文 (1-1) : イントロダクション (実証研究体験)</li> <li>4. 論文 (1-2) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-3) : 内容理解の確認</li> <li>6. 論文 (1-4) : ディスカッション</li> <li>7. 論文 (2-1) : イントロダクション (実証研究体験)</li> <li>8. 論文 (2-2) : 内容理解の確認</li> <li>9. 論文 (2-3) : 内容理解の確認</li> <li>10. 論文 (2-4) : ディスカッション</li> <li>11. 論文 (3-1) : イントロダクション (実証研究体験)</li> <li>12. 論文 (3-2) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (3-3) : 内容理解の確認</li> <li>14. 論文 (3-4) : ディスカッション</li> <li>15. 【まとめ】 学期末レポートの課題説明</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙 (論文を読み取るポイント) に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。		
テキスト、参考文献	配付資料 : 日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		
評価方法	毎回の授業中での活動 (55%)、学期末レポート (45%)		

09年度以降	英語専門講読 II (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期同様、SLA実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外におけるSLA研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。</p> <p>論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 論文 (1-1) : イントロダクション (実証研究体験)</li> <li>3. 論文 (1-2) : 内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1-3) : 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-4) : 内容理解の確認</li> <li>6. 論文 (1-5) : 内容理解の確認</li> <li>7. 論文 (1-6) : Summary</li> <li>8. 論文 (1-7) : Discussion</li> <li>9. 論文 (2-1) : イントロダクション (実証研究体験)</li> <li>10. 論文 (2-2) : 内容理解の確認</li> <li>11. 論文 (2-3) : 内容理解の確認</li> <li>12. 論文 (2-4) : 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (2-5) : 内容理解の確認</li> <li>14. 論文 (2-6) : Summary</li> <li>15. 論文 (2-7) : Discussion</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙 (論文を読み取るポイント) に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。		
テキスト、参考文献	配付資料 : 海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		
評価方法	毎回の授業中での活動 (55%)、学期末レポート (45%)		

09年度以降	英語専門講読 I (The History of Language)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to first to America.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.</p>		<p>Week 1: Introduction Week 2: My America Week 3: My America Week 4: Wild West Words Week 5: Wild West Words Week 6: Sold Down the River Week 7: Sold Down the River Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Mastering the Language Week 10: Mastering the Language Week 11: The Proper Way to Talk Week 12: The Proper Way to Talk Week 13: Steam, Streets and Slang Week 14: Steam, Streets and Slang Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト、参考文献	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language</i> . (Sceptre, 2011)		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	英語専門講読 II (The History of Language)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to India, Australia, and elsewhere.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.</p>		<p>Week 1: Introduction Week 2: Indian Takeover Week 3: Indian Takeover Week 4: The West Indies Week 5: The West Indies Week 6: Advance Australia Week 7: Advance Australia Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Warts and All Week 10: Warts and All Week 11: All Over the World Week 12: All Over the World Week 13: And Now...? Week 14: And Now...? Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト、参考文献	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language</i> . (Sceptre, 2011)		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	英語専門講読 II (子供のことば獲得の基礎)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>子供がことばを獲得する際は、耳から聞いたinput順にひとつひとつ覚えて積み重ねていくのだろうか。それとも、生まれながらに持っていることばの種のようなものにinputが刺激となり発芽、成長するのだろうか。</p> <p>本授業では、子供の母語獲得について、音、文法、意味などの観点からこれまでにわかっている事柄を平易に解説した書籍を読み理解を深め、また、適宜関連する研究論文にも触れてみる。</p> <p>テキストは平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, 1st Lang Acquisition (乳幼児の母語獲得)</li> <li>2. Ch 2-1 Where are the words? (語彙習得)</li> <li>3. Ch 2-2 How children find words (音と語の発見)</li> <li>4. Ch 2-3 Learning inflection (規則と不規則)</li> <li>5. Ch 3-2 What's the meaning of this? (意味範疇の形成)</li> <li>6. Ch 3-6 Learning adjectives (形容詞)</li> <li>7. Ch 6-1 An ear for lang, 6-2 Can you hear that? (音声知覚)</li> <li>8. Ch 6-3 Babbling, 6-4 Early vowels and consonants (発話)</li> <li>9. Ch 6-5 Making adjustments (有標性と獲得順序)</li> <li>10. Supplemental readings (音声知覚の喪失、音韻の獲得)</li> <li>11. Ch 5-1 What a word can do, 5-2 Two is better than 1 (統語)</li> <li>12. Ch 5-3 Passive Tenses (音の並び≠語の並び)</li> <li>13. Ch 5-4 Understand things that aren't there (痕跡)</li> <li>14. Ch 5-5 Understand proNs, Ch 5-6 ProNs &amp; stories (先行詞)</li> <li>15. Ch 5-7 Can you quantify that? (Every/Someの難しさ)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。		
テキスト、参考文献	O' Grady, William. (2005) <i>How Children Learn Language</i> . Cambridge University Press. (ISBN: 10: 0521531926) その他 配布資料		
評価方法	授業参加(準備・参加):約30%、小テスト・まとめ課題/試験:約70%。 単位の認定には70%以上の出席が求められる。		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。</p> <p><b>講義概要</b> ユダヤ系作家 (Bernard Malamud等) の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらった場合があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。</li> <li>2. 前週に配布した質問表による討論。</li> <li>3-15. 同様な方法で毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリントを配布します。参考文献は、次のサイトを参照 : The Unofficial Bernard Malamud Home Page <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm</a>		
<b>評価方法</b>	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。そのために、全員が予習して、授業に臨むことが求められます。</p> <p><b>講義概要</b> ユダヤ系作家 (Bernard Malamud等) の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらった場合があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。</li> <li>2. 質問表による討論。</li> <li>3-15. 同様な方法で毎週平均ほぼ5から10ページ程度読んでいく予定。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習。授業後は、授業内容をまとめ、各質問で話題となったポイントを整理しておく。		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリントを配布します。参考文献は、次のサイトを参照 : The Unofficial Bernard Malamud Home Page <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/malamud/index2.htm</a>		
<b>評価方法</b>	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (異文化コミュニケーションの基礎)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み、コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします。</p> <p>授業形式は、3～4人のグループによるプレゼンテーションです。学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して、文献の内容に関する理解の共有を図ります。また、学んだことを実践することも求められます。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」です。学生諸君の活発な議論を通して、活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください。そして、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりしながら、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. 文献を「読む」とは何か (訳す≠読む)</li> <li>3. プレゼンテーションとは何か (準備と方法)</li> <li>4. グループの決定</li> <li>5. グループプレゼンテーション (1)</li> <li>6. グループプレゼンテーション (2)</li> <li>7. グループプレゼンテーション (3)</li> <li>8. グループプレゼンテーション (4)</li> <li>9. グループプレゼンテーション (5)</li> <li>10. グループプレゼンテーション (6)</li> <li>11. グループプレゼンテーション (7)</li> <li>12. グループプレゼンテーション (8)</li> <li>13. グループプレゼンテーション (9)</li> <li>14. グループプレゼンテーション (10)</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する。プレゼンターは資料等の準備、プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく。学習内容に基づき、日常のコミュニケーション現象を観察・分析する。		
テキスト、参考文献	授業で読む文献はコピーとして配布する。その他、コミュニケーション論、心理学、社会学、統計学に関する辞典・文献、Reading Assignment あり (別途指示)。		
評価方法	グループワークの評価 (50%)、授業への貢献度 (20%)、学期末レポート (30%) により評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (異文化コミュニケーションの理論)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、春学期の内容を踏まえ、特に「異文化」に焦点を当てながら理論的な文献を読み、その内容を理解することを目的とします。また、特殊講義として、ムスリムの文化を扱う文献を読みます。</p> <p>授業形式は、3～4人のグループによるプレゼンテーションです。学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して、文献の内容に関する理解の共有を図ります。また、学んだことを実践することも求められます。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」です。学生諸君の活発な議論を通して、活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてください。そして、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりしながら、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期授業の確認と体験発表会</li> <li>2. イスラーム・ムスリムの文化 (1)</li> <li>3. イスラーム・ムスリムの文化 (2)</li> <li>4. イスラーム・ムスリムの文化 (3)</li> <li>5. グループプレゼンテーション (1)</li> <li>6. グループプレゼンテーション (2)</li> <li>7. グループプレゼンテーション (3)</li> <li>8. グループプレゼンテーション (4)</li> <li>9. グループプレゼンテーション (5)</li> <li>10. グループプレゼンテーション (6)</li> <li>11. グループプレゼンテーション (7)</li> <li>12. グループプレゼンテーション (8)</li> <li>13. グループプレゼンテーション (9)</li> <li>14. グループプレゼンテーション (10)</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する。プレゼンターは資料等の準備、プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく。学習内容に基づき、日常のコミュニケーション現象を観察・分析する。		
テキスト、参考文献	授業で読む文献はコピーとして配布する。その他、コミュニケーション論、心理学、社会学、統計学に関する辞典・文献。		
評価方法	グループワークの評価 (50%)、授業への貢献度 (20%)、学期末レポート (30%) により評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(This Present Moment, 2015)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席してください。スナイダーについては、<a href="http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master">http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master</a>を参照。レポートの書き方については、下記を参照。<a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a></p> <p>最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction</li> <li>2. Claws / Cause</li> <li>3. Hai-en Temple South Korea . . .</li> <li>4. Young David in Florence, Before the Kill</li> <li>5. Mu Ch'i's Persimmons</li> <li>6. The Bend in the Vlatava</li> <li>7. The Shrine at Delphi</li> <li>8. Wildfire News</li> <li>9. Otzi Crosses Over</li> <li>10. Inupiaq Values</li> <li>11. Seven Brief Poems from Italia</li> <li>12. Askesis, Praxis, Theoria of the Wild</li> <li>13. Go Now</li> <li>14. Gnarly</li> <li>15. The Earth's Wild Places</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプレゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。		
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. This Present Moment. Berkeley: Counterpoint, 2015. (ISBN 978-1-61902-738-1) *各自 amazon.co.jpなどで購入のこと。		
評価方法	プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(This Present Moment, 2015)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席してください。スナイダーについては、<a href="http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master">http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master</a>を参照。レポートの書き方については、下記を参照。<a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Siberian Outpost</li> <li>2. Walking the Long and Shady Elwha</li> <li>3. Charles Freer in a Sierra Snowstorm</li> <li>4. Why I Take Good Care of My Macintosh</li> <li>5. Artemis and Pan</li> <li>6. Anger, Cattle, and Achilles</li> <li>7. A Letter to M.A. Who Lives Far Away</li> <li>8. The Names of Actaeon's Hounds</li> <li>9. Old New Mexican Genetics</li> <li>10. Polyandry</li> <li>11. Stages of the End of Night and Coming Day</li> <li>12. Why California Will Never Be Like Tuscany</li> <li>13. Michael des Tombe at the Edge of the Canyon . . .</li> <li>14. Chiura Obata's Moon</li> <li>15. How to Know Birds</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプレゼンの準備をし、資料をメーリングリストで受講者に送る。		
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. This Present Moment. Berkeley: Counterpoint, 2015. (ISBN 978-1-61902-738-1) *各自 amazon.co.jpなどで購入のこと。		
評価方法	プレゼンテーションとレポート(4,000程度の作品論)によって決めます。ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

09年度以降	英語専門講読 I (日英語の再帰形の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の再帰形は「代名詞+self」の形をしており、selfだけでは再帰形として使えません。一方、日本語には「代名詞+自身」の他に、「自分」と「自分自身」という再帰形複合語があり、どれも(1), (2)に見られるように英語のhimselfなどと同じように主語を指すことができます。</p> <p>(1) ジョンは自分/自分自身/彼自身が嫌いだ。 (2) John hates himself.</p> <p>では、(4)のhimselfは目的語Johnを指せますが、(3)の3種類の再帰形はどうでしょうか？ (3) メアリはジョンに自分/自分自身/彼自身の話をした。 (4) Mary told John a story about himself.</p> <p>同一指示が義務的な表現はどの言語にも見られますが、その間には一定の類似点があり、違う場合にも全くばらばらでは無く、規則性が見られます。日英語を中心に再帰形の振る舞いについて詳しくみていくことにより、言語の普遍性について理解したいと思います。</p> <p>なお、「シンタクスa,b」の既修もしくは同時履修が、この授業の理解の助けになります。</p>		<p>Week 1: 授業概要・グループ分け</p> <p>Weeks 2~6: Aikawa, Takako (1999) "Reflexives." In N. Tsujimura (ed.) <i>The Handbook of Japanese Linguistics</i>. Blackwell.</p> <p>Week 7: グループ発表 1</p> <p>Weeks 8-14: Truswell, Robert (2014) "Binding Theory." In A. Carnie et al. (eds.) <i>The Routledge Handbook of Syntax</i>. Routledge.</p> <p>Weeks 15: グループ発表 2</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト、参考文献	授業計画を参照		
評価方法	毎回の授業での言語分析及び2つの論文のまとめ(70%)、グループ発表(30%)		

09年度以降	英語専門講読 II (日英語の移動現象の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語で疑問文を作る時、主語とwillなどの助動詞を倒置しますが、helpなどの語彙的動詞は倒置せず、do/does/didを使うことは中学校で習ったはずですが。</p> <p>(1) Will John help Mary? (2) *Helped John Mary? (*は非文法的であることを示す) (3) Did John help Mary?</p> <p>一方、二外でフランス語、ドイツ語、スペイン語を学んでいる人は、(2)に当たる表現が疑問文として文法的であることを既に学んでいますよね!? 実は、古い英語では(2)に当たる表現が文法的で、didなどが使われるようになったのはシェークスピアの時代あたりからです。英語の(1)や(2)に当たるフランス語などの疑問文と平叙文との対応は主要部移動(Head Movement)と呼ばれています。またwh-句は上記の言語で常に節の左端に移動しますが日本語ではどうでしょうか？</p> <p>(4) Who will/did John help? (5) 誰をジョンは/ジョンは誰を 助けましたか。</p> <p>以上のような移動現象の違いについて日英語を中心に考察し、人間言語の共通性および一定範囲の多様性について理解したいと思います。</p>		<p>Week 1: 授業概要・グループ分け</p> <p>Weeks 2~6: Roberts, Ian (2001) "Head Movement." In M. Baltin and C. Collins (eds.) <i>The Handbook of Contemporary Syntactic Theory</i>. Blackwell.</p> <p>Week 7: グループ発表 1</p> <p>Weeks 8-14: Rizzi, Luigi (2001) "Relativized Minimality Effects." In M. Baltin and C. Collins (eds.).</p> <p>Weeks 15: グループ発表 2</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト、参考文献	授業計画を参照		
評価方法	毎回の授業での言語分析及び2つの論文のまとめ(70%)、グループ発表(30%)		

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』(The East of Eden, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、彼の最初のベストセラーである『トーティヤ台地』(Tortilla Flat, 1935)を読解してゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。</p> <p>授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介</p> <p>2: 小説を読む楽しみについて/修辭法解説</p> <p>3: Tortilla Flat Introduction</p> <p>4: Tortilla Flat 読解 Chapter 1</p> <p>5: Tortilla Flat 読解 Chapter 2</p> <p>6: Tortilla Flat 読解 Chapter 3</p> <p>7: Tortilla Flat 読解 Chapter 4</p> <p>8: Review Chapter 1~4</p> <p>9: Tortilla Flat 読解 Chapter 5</p> <p>10: Tortilla Flat 読解 Chapter 6</p> <p>11: Tortilla Flat 読解 Chapter 7</p> <p>12: Tortilla Flat 読解 Chapter 8</p> <p>13: Review Chapter 5~8について</p> <p>14: Review</p> <p>15: テスト/期末レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる		
テキスト、参考文献	テキスト: John Steinbeck, <i>Tortilla Flat</i> (Penguin Modern Classics)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。		

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>Tortilla Flat</i>を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p> <p>*授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: 前期レポートについてグループ発表</p> <p>2: Tortilla Flat 読解 Chapter 9</p> <p>3: Tortilla Flat 読解 Chapter 10</p> <p>4: Tortilla Flat 読解 Chapter 11</p> <p>5: Review Chapter 9~11</p> <p>6: Tortilla Flat 読解 Chapter 12</p> <p>7: Tortilla Flat 読解 Chapter 13</p> <p>8: Tortilla Flat 読解 Chapter 14</p> <p>9: Review Chapter 13~16</p> <p>10: Tortilla Flat 読解 Chapter 15</p> <p>11: Tortilla Flat 読解 Chapter 16</p> <p>12: Tortilla Flat 読解 Chapter 17</p> <p>13: Review Chapter 15~17</p> <p>14: Review</p> <p>15: テスト/期末レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる		
テキスト、参考文献	テキスト: John Steinbeck, <i>Tortilla Flat</i> (Penguin Modern Classics)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、授業中の発表(20%)、期末レポート(30%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。		

09年度以降	英語専門講読 I (現代東南アジアの政治・経済・社会) (火4)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は以下の3点です。</p> <p>①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。</p> <p>②東南アジアの地域研究 (area studies) のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。</p> <p>③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。</p> <p>これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ (次週) を行います。</p> <p>①ISEAS, ISEAS Monitor Series, ISEAS.</p> <p>②Institute of Southeast Asian Studies, Southeast Asian Affairs 2016, ISEAS, 2016.</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ISEAS, ISEAS Monitor Series (各号) と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2016 を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。		
<b>評価方法</b>	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (現代東南アジアの政治・経済・社会) (火4)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および進め方については、春学期の英語専門講読 I と同様です。</p> <p>授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読 (現代東南アジアの政治・経済・社会) I (春) と同 II (秋) は継続性が強いので、本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ (次週) を行います。</p> <p>①ISEAS, ISEAS Monitor Series, ISEAS.</p> <p>②Institute of Southeast Asian Studies, Southeast Asian Affairs 2016, ISEAS, 2016.</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ISEAS, ISEAS Monitor Series (各号) と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2016 を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。		
<b>評価方法</b>	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy) (火4)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODAなどの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジюмеを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。		1. 授業の進め方について、2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジюме作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。		
テキスト、参考文献	テキスト Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications) ※各自で DUO で購入して下さい。		
評価方法	レジюмеとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 II (Introduction to Fair Trade: Ethics and Solidarity in the Global Economy) (火4)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジюме作成をベースとして、各グループが教室内外アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。		担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジюмеを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをする。 1. 秋学期のねらい、進め方、グループ作り 2. 教員による講義 3. グループ発表と議論 4. グループ発表と議論 5. グループ発表と議論 6. グループ発表と議論 7. グループ発表と議論 8. 教員による講義（またはDVDと議論） 9. グループ発表と議論 10. グループ発表と議論 11. グループ発表と議論 12. グループ発表と議論 13. グループ発表と議論 14. 教員による講義 15. 全体まとめ	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジюме作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。		
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。併せて、次の本もテキストとして使用：フランツ・ヴァンデルホフ著、北野収訳『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社（各自 DUO で購入のこと）。		
評価方法	レジюмеとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 I (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Jews of Britain</i> 1～5 ページを講読</li> <li>2. 同上 6～10 ページを講読</li> <li>3. 同上 11～15 ページを講読</li> <li>4. 同上 16～20 ページを講読</li> <li>5. 同上 21～25 ページを講読</li> <li>6. 同上 26～30 ページを講読</li> <li>7. 同上 31～35 ページを講読</li> <li>8. 同上 36～40 ページを講読</li> <li>9. 同上 41～45 ページを講読</li> <li>10. 同上 46～50 ページを講読</li> <li>11. 同上 51～55 ページを講読</li> <li>12. 同上 56～60 ページを講読</li> <li>13. 同上 61～65 ページを講読</li> <li>14. 同上 66～70 ページを講読</li> <li>15. 同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	高価なため、コピーを配布します。		
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻2回で欠席1回にカウント。(筆記試験が70%、平常点が30%)		

09年度以降	英語専門講読 II (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Jews of Britain</i> 71～75ページを講読</li> <li>2. 同上 76～80ページを講読</li> <li>3. 同上 81～85ページを講読</li> <li>4. 同上 86～90ページを講読</li> <li>5. 同上 91～95ページを講読</li> <li>6. 同上 96～100ページを講読</li> <li>7. 同上 101～105ページを講読</li> <li>8. 同上 106～110ページを講読</li> <li>9. 同上 111～115ページを講読</li> <li>10. 同上 116～120ページを講読</li> <li>11. 同上 121～125ページを講読</li> <li>12. 同上 126～130ページを講読</li> <li>13. 同上 131～135ページを講読</li> <li>14. 同上 136～140ページを講読</li> <li>15. 同上 まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト、参考文献	春学期と同じ		
評価方法	春学期と同じ		

09年度以降	英語専門講読 I (世界ブランドとグローバル社会) (火4)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、グループの編成</li> <li>2 世界ブランド</li> <li>3 世界ブランド</li> <li>4 世界ブランド</li> <li>5 世界ブランド</li> <li>6 グローバル社会</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 世界ブランド</li> <li>11 世界ブランド</li> <li>12 世界ブランド</li> <li>13 世界ブランド</li> <li>14 世界ブランド</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料の事前・事後の学習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,2012); Tea at Fortnum &amp; Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &amp; Sons,2006).</i>		
<b>評価方法</b>	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (世界ブランドとグローバル社会) (火4)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、グループの編成</li> <li>2 世界ブランド</li> <li>3 世界ブランド</li> <li>4 世界ブランド</li> <li>5 世界ブランド</li> <li>6 グローバル社会</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 世界ブランド</li> <li>11 世界ブランド</li> <li>12 世界ブランド</li> <li>13 世界ブランド</li> <li>14 世界ブランド</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料の事前・事後の学習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,2012); Tea at Fortnum &amp; Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &amp; Sons,2006).</i>		
<b>評価方法</b>	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (比較統語論)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>*生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。</p> <p>さまざまな言語データに基づいて、データからどのように記述の一般化を行えば良いのか、一般化を理論的に説明することによってどのような理論的予測が得られるのか、さらには理論的予測の検証をどのようなデータに基づいて行えば良いのかなど、科学的な言語研究の方法論を自分で実際に体験することによって習得してもらいます。</p> <p>授業の基本的構成は、前半に講師による講義および学生自身によるデータ分析を、後半でグループミーティングを行います。グループミーティングでは、学期末のグループプレゼンテーションのためのディスカッションを行ってもらいます。グループプレゼンテーションでは、英語で書かれた入門書の一部の内容をまとめて発表してもらいます（発表自体は日本語で良い）。</p> <p>*統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。1度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 言語データとは？・科学的仮説とは？</li> <li>3. 品詞・下位範疇</li> <li>4. 句構造 1</li> <li>5. 句構造 2</li> <li>6. 構造関係</li> <li>7. 束縛理論</li> <li>8. 原理とパラメータ 1：補文標識痕跡効果</li> <li>9. 原理とパラメータ 2：空主語言語</li> <li>10. 原理とパラメータ 3：階層性</li> <li>11. グループプレゼンテーション 1</li> <li>12. グループプレゼンテーション 2</li> <li>13. グループプレゼンテーション 3</li> <li>14. グループプレゼンテーション 4</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります)</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	グループミーティングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。グループプレゼンテーションには Larson, Richard (2010) Grammar as science. MIT Press を使います。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。		
評価方法	期末試験（40%）＋グループプレゼンテーション（30%）＋授業への参加度・貢献度（30%）（期末試験は持ち込み不可）		

09年度以降	英語専門講読 II (比較統語論)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>*生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは並行履修が望ましい。</p> <p>*また同一講師の英語専門講読 I（春学期）も前提としているので、連続して履修することが望ましい。</p> <p>講義目的および講義概要は英語専門講読 I（春学期）を参照してください。</p> <p>春学期のグループプレゼンテーションでは入門書の一部を読みますが、秋学期はより本格的なリサーチペーパーを読んでもらいます。</p> <p>*統語論は積み上げ式の学問なので授業には毎回出席すること。1度でも授業を欠席するとそれ以降の授業についていくのが難しくなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. X-bar理論 1</li> <li>3. X-bar理論 2</li> <li>4. 機能範疇</li> <li>5. 句構造に対する制約</li> <li>6. 主要部移動 1</li> <li>7. 主要部移動 2</li> <li>8. DP移動</li> <li>9. Wh移動 1</li> <li>10. Wh移動 2</li> <li>11. グループプレゼンテーション 1</li> <li>12. グループプレゼンテーション 2</li> <li>13. グループプレゼンテーション 3</li> <li>14. グループプレゼンテーション 4</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります)</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	グループミーティングのための課題論文（英文）の精読、および授業内容の復習をすること		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) Syntax: A generative introduction (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。		
評価方法	期末試験（40%）＋グループプレゼンテーション（30%）＋授業への参加度・貢献度（30%）（期末試験は持ち込み不可）		

09年度以降	英語専門講読 I (ヒッチコック映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、コミュニケーション研究において重要な批判的・哲学的概念について、ヒッチコック映画の批評を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とします。</p> <p>映像が理論的・哲学的概念を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を読み込み理解していきます。この講義の目的は、映画から始めて哲学や理論の探究という今まできちんと意識してこなかったかもしれない「読み」を行うことです。</p> <p>授業では、①グループでレジюмеを作成して発表し、②全体で討論するという手順で行います。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することが必要とされます。</p> <p>テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め各自で観ておくことが必須となります。</p> <p>履修者は文献をきちんと理解し発表する為に、参考文献を図書館等で入手し活用することも求められます。積極的に授業に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることに意欲的な方の受講を大いに歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia</li> <li>3. Sabotage: Chaos Unleashed and the Impossibility of Utopia</li> <li>4. Rope: Nietzsche and the Art of Murder</li> <li>5. Rope: Nietzsche and the Art of Murder</li> <li>6. Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil</li> <li>7. Psycho: Horror, Hitchcock, and the Problem of Evil</li> <li>8. The Birds: Plato and Romantic Love</li> <li>9. The Birds: Plato and Romantic Love</li> <li>10. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in The Birds</li> <li>11. Featherless Bipeds: The Concept of Humanity in The Birds</li> <li>12. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown</li> <li>13. Hitchcock's Existentialism: Anguish, Despair, and Redemption in Breakdown</li> <li>14. Review of chapters</li> <li>15. Wrap up</li> </ol> <p><b>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</b></p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
テキスト、参考文献	<i>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics.</i> ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2007)		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (ヒッチコック映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p> <p><b>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Veritigo and the Pathologies of Romantic Love</li> <li>3. Veritigo and the Pathologies of Romantic Love</li> <li>4. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest</li> <li>5. On Being Mr. Kaplan: Personal Identity in North by Northwest</li> <li>6. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest</li> <li>7. Ethics or Film Theory?: The Real McGuffin in North by Northwest</li> <li>8. Democracy Adrift in Lifeboat</li> <li>9. Democracy Adrift in Lifeboat</li> <li>10. Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave</li> <li>11. Rear Window: Hitchcock's Allegory of the Cave</li> <li>12. Rear Window: Looking at Things Ethically</li> <li>13. Rear Window: Looking at Things Ethically</li> <li>14. Review of chapters</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
テキスト、参考文献	<i>Hitchcock and Philosophy: Dial M for Metaphysics.</i> ed. by David Baggett and William A. Drumin. (Chicago; La Salle, IL: Open Court, 2007)		
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済) (水1)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定された部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春) と同II (秋) は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p> <p>初回の授業で英文読解力を計るためのテスト (国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし) を実施します。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの最新のarticles中から10回分を選択して順次取り上げる。</p> <p>ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. (<a href="http://www.iseas.edu.sg/">http://www.iseas.edu.sg/</a>からダウンロード)</p> <p>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ISEAS, ISEAS Perspective Series (各号) を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。		
<b>評価方法</b>	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済) (水1)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春学期) と同II (秋学期) は継続性が強いいため、本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの最新のarticles中から10回分を選択して順次取り上げる。</p> <p>ISEAS, ISEAS Perspective Series, ISEAS. (<a href="http://www.iseas.edu.sg/">http://www.iseas.edu.sg/</a>からダウンロード)</p> <p>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ISEAS, ISEAS Perspective Series (各号) を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。		
<b>評価方法</b>	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development) (水1)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際開発学の入門的知識を英文テキストを用い、輪読、プレゼン、議論をしながら学びます。どうして南北格差が生まれ、富める人々と貧しい人々がいるのでしょうか。国際社会および私たちは、今までどのような開発協力をしてきたのでしょうか。そもそも「開発」とは何でしょうか。こうした事柄について、とりわけ、「グローバル・ポリティカルエコノミー」から、「持続可能な開発」について掘り下げて考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 教員レクチャー</li> <li>3. What is Development?</li> <li>4. History of Development</li> <li>5. Globalization</li> <li>6. Political Economy of Development</li> <li>7. Politics of Development</li> <li>8. 教員レクチャーまたはビデオ</li> <li>9. Religion and Development</li> <li>10. The Natural Environment</li> <li>11. Human Rights and Gender</li> <li>12. Development in the 21 Century: The New Issues and Approaches</li> <li>13. 持続可能な開発目標 (SDGs) について(予定)</li> <li>14. 教員レクチャー</li> <li>15. 全体まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は教科書の該当章を熟読。		
テキスト、参考文献	Jeffrey Haynes (2008) <i>Development Studies</i> , Polity. ※各自で DUO 等で購入して下さい。		
評価方法	レジュメとプレゼン (20%)、プレゼン振り返りペーパー (30%)、期末レポート (50%)。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 II (International Development Studies: Global Political Economy and Sustainable Development) (水1)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は国際協力、ODA、NGO、ジェンダーと開発、教育開発、BOP、開発と倫理等、国際開発学に関する社会科学分野の雑誌論文、<u>専門著書の章、報告書等を予定</u>しています。文献読解を反映したレジュメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p>		<p>担当する学生 (班) が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期のねらい、進め方、グループ作り</li> <li>2. 教員による講義</li> <li>3. グループ発表と議論</li> <li>4. グループ発表と議論</li> <li>5. グループ発表と議論</li> <li>6. グループ発表と議論</li> <li>7. グループ発表と議論</li> <li>8. 教員による講義 (またはDVDと議論)</li> <li>9. グループ発表と議論</li> <li>10. グループ発表と議論</li> <li>11. グループ発表と議論</li> <li>12. グループ発表と議論</li> <li>13. グループ発表と議論</li> <li>14. 教員による講義</li> <li>15. 全体まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジュメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は配布された英語論文を事後に熟読。		
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。 併せて、次の本もテキストとして使用：北野収『国際協力の誕生』創成社新書 (各自 DUO で購入のこと)。		
評価方法	レジュメとプレゼン (20%)、プレゼン振り返りペーパー (30%)、期末レポート (50%)。以上各1回。		

09年度以降	英語専門講読 I (現代社会における国際組織)	担当者	松村 尚子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的:</b> この授業は、現代社会における国際組織の役割と日本の貢献をテーマに、以下の目標を達成することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の専門書籍や雑誌記事を読む力を身につけること</li> <li>2. 国際組織、及び背景にある国際問題や日本の貢献について基礎的な知識を得ること</li> <li>3. プレゼンテーションの力を身につけること</li> </ol> <p><b>内容:</b> 春学期 (I) は、主に国際連合 (国連) を取り上げ、国連の歴史的発展、国連の意思決定、国連の活動、国連と日本のかかわりについて、文献と参考資料 (国連の刊行物など) を基に検討します。加えて、背景となる国際情勢や問題についても考察します。</p> <p><b>進め方:</b> 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑・応答を軸に進めます。文献の英語表現などについても適宜解説します。</p> <p><b>課題:</b> プレゼンテーションのほか、毎週、文献の指定箇所の和訳をレポートとして提出することが求められます。</p> <p><b>その他:</b> シラバスは変更される可能性があります。授業について質問・不安がある方は、担当教員までお気軽にメールで問い合わせてください。履修には国際政治の前提知識は必要ありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: 授業の内容や課題について説明します。</li> <li>2. 国際組織とは何か? (プレゼンの担当者を決めます。)</li> <li>3. 国際組織はなぜ必要とされるのか?</li> <li>4. 国際連盟の誕生と崩壊</li> <li>5. 国際連盟と日本</li> <li>6. 国際連合 (国連) の誕生、国連憲章</li> <li>7. 国連の意思決定 1 安全保障理事会</li> <li>8. 国連の意思決定 2 総会</li> <li>9. 国連の意思決定 3 経済社会理事会</li> <li>10. 国連の集団安全保障 1</li> <li>11. 国連の集団安全保障 2</li> <li>12. 国連の平和維持活動とは何か?</li> <li>13. 国連の活動と日本: 平和維持活動 1</li> <li>14. 国連の活動と日本: 平和維持活動 2</li> <li>15. まとめ (予備日)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プレゼンテーション担当の有無にかかわらず、指定される文献を読んだ上で授業に参加してください。また、毎週、指定文献の和訳を作成することが求められます (手書き不可)。		
テキスト、参考文献	Hanhimaki, Jussi M., <i>The United Nations: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2015). 加えて、必要に応じて、プリントあるいは PDF を配布します。		
評価方法	和訳レポート 60%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 20% (ただし 4回を越えて欠席した場合は評価対象としません。)		

09年度以降	英語専門講読 II (現代社会における国際組織)	担当者	松村 尚子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的:</b> この授業は、現代社会における国際組織の役割と日本の貢献をテーマに、以下の目標を達成することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の専門書籍や雑誌記事を読む力を身につけること</li> <li>2. 国際組織、及び背景にある国際問題や日本の貢献について基礎的な知識を得ること</li> <li>3. プレゼンテーションの力を身につけること</li> </ol> <p><b>内容:</b> 秋学期 (II) は、現代の国際社会で解決が必要とされている重要な問題を取り上げ、関係する国際組織の役割・効果・問題点について、文献と参考資料 (国際組織の刊行物など) を基に検討します。加えて、背景となる国際情勢や問題についても考察します。</p> <p><b>進め方:</b> 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑・応答を軸に進めます。文献の英語表現などについても適宜解説します。</p> <p><b>課題:</b> プレゼンテーションのほか、毎週、文献の指定箇所の和訳をレポートとして提出することが求められます。</p> <p><b>その他:</b> シラバスは変更される可能性があります。授業について質問・不安がある方は、担当教員までお気軽にメールで問い合わせてください。履修には国際政治の前提知識は必要ありません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (プレゼンの担当者を決めます。)</li> <li>2. 国際組織とは何か?</li> <li>3. 領土問題と国際機関: 領土をめぐる紛争はなぜ起こるのか?</li> <li>4. 領土問題と国際機関: 世界と日本にはどんな領土紛争があるのか?</li> <li>5. 領土問題と国際機関: 国際司法裁判所 (ICJ)</li> <li>6. 人権問題と国際機関: 現代における戦争犯罪とは何か?</li> <li>7. 人権問題と国際機関: 国際社会は戦争犯罪者を裁くべきか?</li> <li>8. 人権問題と国際機関: 国際刑事裁判所 (ICC)</li> <li>9. 貿易をめぐる問題と国際機関: なぜ貿易をするのか? なぜ保護主義は生まれるのか?</li> <li>10. 貿易をめぐる問題と国際機関: 世界貿易機関</li> <li>11. 貿易をめぐる問題と国際機関: 自由貿易協定</li> <li>12. 貧困をめぐる問題と国際機関: 世界における貧困の現状はいかなるものか?</li> <li>13. 貧困をめぐる問題と国際機関: 世界銀行</li> <li>14. 貧困をめぐる問題と国際機関: 多国間援助と二国間援助、日本のODA</li> <li>15. まとめ (予備日)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プレゼンテーション担当の有無にかかわらず、指定される文献を読んだ上で授業に参加してください。また、毎週、指定文献の和訳を作成することが求められます (手書き不可)。		
テキスト、参考文献	適宜、プリントあるいは PDF を配布します。		
評価方法	和訳レポート 60%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 20% (ただし 4回を越えて欠席した場合は評価対象としません。)		

09年度以降	英語専門講読 I (Language, Thought, and Culture)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Naming the rainbow</li> <li>3. Naming the rainbow</li> <li>4. A long-wave herring</li> <li>5. A long-wave herring</li> <li>6. A long-wave herring</li> <li>7. The rude populations</li> <li>8. The rude populations</li> <li>9. The rude populations</li> <li>10. Those who said things before us</li> <li>11. Those who said things before us</li> <li>12. Those who said things before us</li> <li>13. Plato and the Macedonian swineherd</li> <li>14. Plato and the Macedonian swineherd</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)		
テキスト、参考文献	<i>Through The Language Glass</i> , by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.		
評価方法	Three reaction papers: 2 essays = 40%; Notebook, & participation: 40%; Test = 20%		

09年度以降	英語専門講読 II (Language, Thought, and Culture)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
A continuation of the first semester. There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Crying Whorf</li> <li>3. Crying Whorf</li> <li>4. Where the sun doesn't rise</li> <li>5. Where the sun doesn't rise</li> <li>6. Where the sun doesn't rise</li> <li>7. Sex and syntax</li> <li>8. Sex and syntax</li> <li>9. Sex and syntax</li> <li>10. Russian blues</li> <li>11. Russian blues</li> <li>12. Russian blues</li> <li>13. Forgive us our ignorances</li> <li>14. Forgive us our ignorances</li> <li>15. Test</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)		
テキスト、参考文献	<i>Through The Language Glass</i> , by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.		
評価方法	Three reaction papers: 2 essays = 40%; Notebook, & participation: 40%; Test = 20%		

09年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代日本の文化や社会の動態について、エスニシティやジェンダー、地域的多様性、ポップカルチャーなどを題材に考えてみたいと思います。</p> <p>従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状を捉えることを目指します。</p> <p>教材として扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な(＝英語圏の大学生向け)文献です。</p> <p>授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。</p> <p>なお、教材については、各自アマゾン等で購入するか、各自図書館で必要な箇所をコピーしてください。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。)</p> <p>2. 本授業で扱うテーマについての解説1(講義)</p> <p>3. 本授業で扱うテーマについての解説2(講義)</p> <p>4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション</p> <p>15. まとめ</p> <p>※ この授業では、テキストの中から、以下の5つの章を扱います。</p> <p>1. Japan Phenomenon and the Social Sciences</p> <p>3. Geographical and Generational Variations</p> <p>6. Gender Stratification and the Family System</p> <p>7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</p> <p>9. Popular Culture and Everyday Life</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	一定の社会的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Sugimoto, Yoshio 2014. An Introduction to Japanese Society (Forth Edition). Cambridge and New York: Cambridge University Press. 【版に注意すること】		
<b>評価方法</b>	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。		

09年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代日本の多民族・多文化状況をテーマに、長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌(エスノグラフィ)の読解・議論を通じて、多文化共生の可能性や課題について考えます。</p> <p>班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。</p> <p>授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日の状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会的思考を養うことを目的とします。</p>		<p>1. 講義</p> <p>2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション</p> <p>15. 総合討論・まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。入手困難なものについては、担当者が配布する。		
<b>評価方法</b>	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。		

09年度以降	英語専門講読 I (ディズニーと世界情勢) (水2)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。</p> <p>この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のDVD、企業のPR動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。</p> <p>映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネジメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。</p>		<p>第1週 オリエンテーション、グループの編成</p> <p>第2週～15週</p> <p>毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います。</li> <li>② グループによるプレゼン</li> <li>③ ディズニー作品やディズニーPR動画、ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞</li> <li>④ グループ・ディスカッション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料の事前・事後の学習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	B. Capodagli & L.Jackson, <i>The Disney Way</i> ,(2007); J. Wasko, <i>Understanding Disney</i> (2001) に加えて、海外の資料をプリント配布します。		
<b>評価方法</b>	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (ディズニーと世界情勢) (水2)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパークを米国や海外に展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニー（旧名称はウォルト・ディズニー・プロダクション）に注目します。</p> <p>この授業では、ディズニー映画やアニメ作品のDVD、企業のPR動画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画やアニメ作品そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展の歴史を辿ります。</p> <p>映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネジメントなどに注目します。世界的な有力企業（例えば、フォーシーズンズ・ホテル）との比較も行います。</p>		<p>第1週 オリエンテーション、グループの編成</p> <p>第2週～15週</p> <p>毎回の授業では、以下のメニューが用意されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① モーニング・ボイス・トレーニング テキストの音読を全員で行います。</li> <li>② グループによるプレゼン</li> <li>③ ディズニー作品やディズニーPR動画、ディズニー・ドキュメンタリー・フィルムの鑑賞</li> <li>④ グループ・ディスカッション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料の事前・事後の学習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	B. Capodagli & L.Jackson, <i>The Disney Way</i> ,(2007); J. Wasko, <i>Understanding Disney</i> (2001) に加えて、海外の資料をプリント配布します。		
<b>評価方法</b>	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業への参加度 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p><b>概要</b> 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. Introduction (教科書 viii-xv) : いわゆる「アクセント」とは何か?等</li> <li>3. Unit 1：シラブル（音節）とは</li> <li>4. Unit 2：母音のルール</li> <li>5. Unit 3：強勢と母音長との関係1</li> <li>6. Unit 4：強勢と母音長との関係2</li> <li>7. Unit 1 - 4のまとめ</li> <li>8. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン</li> <li>10. Unit 6：内容語の文における役割</li> <li>11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱い重要）</li> <li>12. 教材作成タスク ①</li> <li>13. 教材作成タスク ②</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認		
テキスト、参考文献	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher’s Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。		

09年度以降	英語専門講読 II (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p><b>概要</b> 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」に取り組む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. Unit 8：文のなかで強調される部分</li> <li>3. Unit 9：機能語をあえて強調する</li> <li>4. Unit 10：英語の /s/と/t/</li> <li>5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/</li> <li>6. Unit 12：有声音・無声音について</li> <li>7. Unit 8～12のまとめ</li> <li>8. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>9. Unit 13：シラブルの長さとは有声音・無声音との関係</li> <li>10. Unit 14：‘Sibilants’</li> <li>11. Lecture for Listening Practice</li> <li>12. 教材作成（グループワーク）①</li> <li>13. 教材作成（グループワーク）②</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認		
テキスト、参考文献	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher’s Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。		

09年度以降	英語専門講読 I (外国人が旅する Japan① : Lonely Planet 編)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>訪日外国人の増加を伝えるニュースに接する機会が多くなっていますが、彼らはどのようなJapanに関する情報をもとに、この東アジアの島国を旅するのでしょうか。</p> <p>この授業では、世界で最も読まれている観光ガイドブック・シリーズLonely PlanetのJapan編を取り上げ、日本の歴史、文化、建築、映画、マンガ、ポピュラー・カルチャー、そして和食などを紹介した部分を批判的に読み解き、「外国人が旅するJapan」の一断面を理解することを目的とします。</p> <p>Lonely Planetは英語版をはじめ、中国語や韓国語などにも翻訳されており、おもに個人旅行者が使うガイドブックとして世界的に知られています。そのJapan編は数年ごとに不定期改訂されるため、最新版を初回の授業で確認し、購入するか該当部分をコピーするか希望を募ります。</p> <p>授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②トピックを一つ選び調査報告し、③全体で討論する、という方法をとります。履修者には主体的に課題に取り組み、積極的に関連資料の収集や調査を試み、そして討論に参加することを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</li> <li>2. 講義：観光ガイドブックのメディア特性について 補助資料の集め方と分析方法について</li> <li>3.～14. 発表、ディスカッション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	Lonely Planet, Japan, ほか。授業開始の直前に最新版が刊行されることもあるため、初回の授業で確認するまでテキストの購入は控えてください（なお授業で講読する箇所は配布する予定です）。		
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (外国人が旅する Japan② : Michelin&比較分析編)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、前期の「英語専門講読 I（外国人が旅するJapan①）」で取り組んだ講読の方法を応用し、フランスのタイヤメーカーであり著名な観光ガイドブック・ブランドを有するMichelin（ミシュラン）社のJapan編（英語版）を批判的に読み解くことを目的とします。</p> <p>そして授業の後半では、日本のいくつかの「まち」（たとえば京都、東京、広島、鎌倉など）を取り上げ、Lonely PlanetとMichelinとその他のガイド・メディア（日本の「るぶ」やネットのTripAdvisorなど）を比較し、いかなる「外国人が旅するJapan」が観察できるのかを分析します。</p> <p>前期の授業と同様に、観光ガイドブックは比較的読みやすいテキストですが、履修者には「文献を要約発表すること」と同等に「トピックを自ら選び調査報告すること（とくに英語文献を図書館やネットで入手し活用すること）」が求められます。そのため積極的に自由研究に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発表を実現することに意欲的な方の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</li> <li>2.～10. 発表、ディスカッション</li> <li>11.～14. 「まち」分析比較（場所は初回授業で発表）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト、参考文献	Michelin, Japan (The Green Guide, English Edition)ほか。前期と同様に初回の授業で最新版を確認するまでテキストの購入は控えてください（なお授業で講読する箇所は配布する予定です）。		
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO <b><u>before the first class.</u></b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Evolution of Diplomacy (1)</li> <li>3. Evolution of Diplomacy (2)</li> <li>4. Evolution of Diplomacy (3)</li> <li>5. Diplomacy of the American Revolution (1)</li> <li>6. Diplomacy of the American Revolution (2)</li> <li>7. Diplomacy of the American Revolution (3)</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. Diplomacy of the American Revolution (4)</li> <li>10. Diplomacy of the American Revolution (5)</li> <li>11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1)</li> <li>12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2)</li> <li>13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3)</li> <li>14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4)</li> <li>15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

09年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1)</li> <li>2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2)</li> <li>3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3)</li> <li>4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4)</li> <li>5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5)</li> <li>6. The ANZUS Treaty (1)</li> <li>7. The ANZUS Treaty (2)</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The ANZUS Treaty (3)</li> <li>10. The ANZUS Treaty (4)</li> <li>11. Diplomacy in the Age of Globalization (1)</li> <li>12. Diplomacy in the Age of Globalization (2)</li> <li>13. Diplomacy in the Age of Globalization (3)</li> <li>14. Diplomacy in the Age of Globalization (4)</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズムの現状と課題)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはまだまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Outline of Tourism in Japan</li> <li>3. Japan's World Heritage Site</li> <li>4. Presentation &amp; Discussion 1-(1)</li> <li>5. Presentation &amp; Discussion 1-(2)</li> <li>6. Presentation &amp; Discussion 1-(3)</li> <li>7. Presentation &amp; Discussion 1-(4)</li> <li>8. Culture of Japan &amp; "Cool Japan"</li> <li>9. Travel &amp; Tourism Competitiveness</li> <li>10. Japanese National Culture</li> <li>11. Pros and Cons of Japanese Tourism</li> <li>12. Presentation &amp; Discussion 2-(1)</li> <li>13. Presentation &amp; Discussion 2-(2)</li> <li>14. Presentation &amp; Discussion 2-(3)</li> <li>15. Presentation &amp; Discussion 2-(4)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。		
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

09年度以降	英語専門講読 II (航空の現状と歴史)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 本講義においては、航空産業の現状と歴史について学習する。航空産業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な出来事を忘れがちである。よって、航空産業の現状に加え、現状に至る経緯や、現在の航空産業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. The Airline Business in Japan(1)</li> <li>3. The Airline Business in Japan(2)</li> <li>4. The Airline Business in Japan(3)</li> <li>5. The Airline Business in Japan(4)</li> <li>6. The Airline Business in Japan(5)</li> <li>7. The History of The Airline Business(1)</li> <li>8. The History of The Airline Business(2)</li> <li>9. The History of The Airline Business(3)</li> <li>10. The History of The Airline Business(4)</li> <li>11. Presentation &amp; Discussion (1)</li> <li>12. Presentation &amp; Discussion (2)</li> <li>13. Presentation &amp; Discussion (3)</li> <li>14. Presentation &amp; Discussion (4)</li> <li>15. Presentation &amp; Discussion (5)</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。		
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画70%、プレゼンテーションとレポート30%		

09年度以降	英語専門講読 I (Janeからはじめて-文学とフェミニズム)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>女性の成長を描いた英語の文学作品を読み、映画を観て、そこに現れる女性の問題に焦点をあてながら、過去から現在までの女性の課題を考えるのがこの講義の一つ目の目的である。前期のメインテキストは1848年に出版された古典、Charlotte BrontëのJane Eyre。現在でも広く読まれ、幾度も映画化されている(最新の映画化は2012年)作品である。映画を使用しつつ、毎回適切な量の原文テキストも読んでいく。その過程において、19世紀中頃から興隆してきたフェミニズムの流れも見ていこう。前期では選挙権獲得を焦点とした第一フェミニズムから始め、第二次世界大戦後にふたたび大きなうねりとしてフェミニズムの波がたちあがるところまで、つまり第二次フェミニズムのはじまりまでを見る。</p> <p>また、文学テキストが、異なった歴史・社会の中でどのように受容されるのかを検討していく。これにより、複眼的、かつ歴史的なものの見方を身につけるのが、本講義の二つ目の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Jane Eyre (イントロダクション+18歳まで)</li> <li>2. Discussion 1 + Jane Eyre (自立、恋愛、破局)</li> <li>3. Discussion 2 + Jane Eyre (試練と大団円)</li> <li>4. Discussion 3+ 当時の批判(秩序破壊者としてのJane)</li> <li>5. Historical Context (19世紀半ばのイングランドとは)</li> <li>6. フェミニストヒロインとしてのJane.1 一解説と精読</li> <li>7. フェミニストヒロインとしてのJane.2 一解説と精読</li> <li>8. フェミニズムの胎動</li> <li>9. 第一次フェミニズム 1</li> <li>10. 第一次フェミニズム 2</li> <li>11. フェミニズム小説としてのJane Eyre 1一解説と精読</li> <li>12. フェミニズム小説としてのJane Eyre 2一解説と精読</li> <li>13. 第二次フェミニズムのはじまり 1</li> <li>14. 第二次フェミニズムのはじまり 2</li> <li>15. Assessment</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを配布、あるいはポータルにアップするので、十分に準備をしておくこと。事後については、個々人の理解度と興味に応じて適切に実施してほしい。		
テキスト、参考文献	テキストはハンドアウトを配布する。参考文献については、授業内で紹介する。		
評価方法	授業貢献 30% 提出物 30% 学期末試験 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (Janeからはじめて-文学とフェミニズム)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的は前期と同じ。後期は、第二次フェミニズムの展開を若干紹介した後に、メインテキストへと移る。後期のメインテキストは1966年に出版されたJean RhysのThe Wide Sargasso Sea(授業計画ではWSSと表記する)である。本作品は、Jane Eyreにおいては自分自身の言葉を与えられていないBerthaを主人公としたものである。彼女は、Janeが恋に落ち、やがて結ばれるRochesterの最初の妻で、精神疾患を煩うジャマイカ出身の女性である。Rochesterは、この大金持ちの農園主の娘と、親に騙されて結婚させられた、という設定になっている。Jane Eyreが帝国の娘の自我の闘いとその成功の物語りであるならば、こちらは植民地の娘、クレオールの女の崩れゆく自我の物語りである。</p> <p>後期にフィーチャーされるのは、第二の目的、「複眼的、かつ歴史的に」という部分での、ポストコロニアルの問題である。フェミニズムとの関連では、有色女性のフェミニズム、第三世界とフェミニズムの問題と結びついていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 第二次フェミニズムの展開-Personal is Political</li> <li>3. WSS 執筆の動機</li> <li>4. WSS reading 1</li> <li>5. WSS reading 2</li> <li>6. WSS reading 3</li> <li>7. WSS discussion 1+ 解説(ポストコロニアル文学)</li> <li>8. WSS reading 4</li> <li>9. WSS reading 5</li> <li>10. WSS reading 6</li> <li>11. Discussion 2(イズムで人を語れるか?文学の意味。)</li> <li>12. 第二次フェミニズムの展開-ブラック・フェミニズム</li> <li>13. フェミニズム?ウーマニズム?</li> <li>14. Discussion 3+ 解説</li> <li>15. Assessment</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを配布、あるいはポータルにアップするので、十分に準備をしておくこと。事後については、個々人の理解度と興味に応じて適切に実施してほしい。		
テキスト、参考文献	Rhys, Jean. The Wide Sargasso Sea (London: Penguin, 2011) 希望に応じて前期の後半に共同購入する。(個人での購入も自由)。その他についてはハンドアウトを事前配布、あるいはポータルにアップする。		
評価方法	授業貢献 30% 提出物 30% 学期末試験 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (前期 Bob Dylan の歌詞を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2016年にノーベル文学賞を受けた Bob Dylan の歌詞を精読する。まずは、「ポップスター」に対してノーベル文学賞が与えられたことに対して、違和感を覚える学生もいるだろうから、まずは、その違和感を解いていきたい。そこで、ディランがどれだけ伝統に則って歌詞を書いていたか、それをまずは検証してみる。春学期では、ディランのロック期へと移行するまでの代表曲の歌詞を愚直に読んでいく。それなしには、「詩」という文芸自体を、そしてロックへと移行するディランの中期、後期を理解することができないからだ。</p> <p>それから、ディランの多彩な歌詞の世界を渉猟することを、春学期では目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) introduction</li> <li>2) “Song to Woody,” “Last Thoughts on Woody”</li> <li>3) Woody Guthrie “This Land Is Your Land”</li> <li>4) “John Brown”</li> <li>5) “Blowin’ in the Wind” 映画『フォレストガンプ』</li> <li>6) “Girl from the North Country” その他。</li> <li>7) “Masters of War,” “Talkin’ World War III Blues”</li> <li>8) “A Hard Rain’s A-Gonna Fall” その他。</li> <li>9) “Don’t Think Twice, It’s Alright,” “I Shall Be Free”</li> <li>10) “The Times They Are A-Changin’”</li> <li>11) “When the Ships Comes in,” “Chimes of Freedom”</li> <li>12) “My Back Pages,” Simon &amp; Garfunkel “The Boxer”</li> <li>13) “It Ain’t Me, Babe” その他。</li> <li>14) “Subterranean Homesick Blues”</li> <li>15) “Maggie’s Farm”</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、読む詩のわからない単語を調べ、それが詩全体としてどのような意味合いを持つのか、しっかりと考えてくること。それが「解釈」ということである。		
テキスト、参考文献	Bob Dylan <i>Lyrics 1961-2012</i> , Simon & Schuster. 参考文献は、山ほどあるので、自分で調べること。授業内でも適宜、紹介する。		
評価方法	毎回のプレゼンテーション、そして学期末のレポート		

09年度以降	英語専門講読 II (Bob Dylan のロック期以降の歌詞を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期では、ディラン前期の歌詞を読んだ。そこで秋学期では、ロック期以降のディランの歌詞を読む。</p> <p>とはいえ、漫然と詩を読んでいるだけでは、つまらない。そこで、秋学期の前半では、ロック期のヒット作を読むが、それ以降は、アルバム <i>Desire</i> 収録の曲の歌詞をすべて読むことを目標とする。その意図は、「アルバム」というひとつの枠の中で、ディランがどのようなことを考えて、ひとつの「アルバム」という作品へと仕上げていったか、ということを考えることである。現在は、音楽を享受する場合には、「ダウンロード」というツールがあるため、聞きたい曲をピンポイントで聞くことができるが、作り手は「アルバム」という枠内で作品を考えていた。「コンセプト・アルバム」という、ひとつの「アルバム」単位でのアートのあり方を知ってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 春学期のレポートの講評</li> <li>2) “Mr. Tambourine Man”</li> <li>3) “Like a Rolling Stone”</li> <li>4) “Ballad of a Thin Man”</li> <li>5) “Desolation Row”</li> <li>6) “Just Like a Woman”</li> <li>7) “Hurricane”</li> <li>8) “Isis”</li> <li>9) “One More Cup of Coffee”</li> <li>10) “Oh, Sister”</li> <li>11) “Joey”</li> <li>12) “Romance in Durango”</li> <li>13) “Black Diamond Bay”</li> <li>14) “Sara”</li> <li>15) 春、秋学期の総評</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じように、単語調べ、そしてその単語がひとつの歌詞の中でどのように機能するか、それを授業前に自分で考えてから、授業に臨むこと。それが「予習」というものである。		
テキスト、参考文献	春学期と同じ。		
評価方法	毎回のプレゼンテーション、そして学期末のレポート。		

09年度以降	英語専門講読 I (コミュニケーションの諸モデル)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。  <b>講義概要</b> まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. コミュニケーションのプロセスの概念</li> <li>3. コミュニケーションの要素1 (送り手・受け手)</li> <li>4. コミュニケーションの要素2 (メディア)</li> <li>5. コミュニケーションの要素3 (メッセージ)</li> <li>6. 線形モデル1 (ラスウェルのモデル、他)</li> <li>7. 線形モデル2 (ABCモデル、他)</li> <li>8. 線形モデル3 (議題設定モデル、他)</li> <li>9. 春学期中間発表</li> <li>10. 循環モデル1 (オズグッドのモデル、ヘリカルモデル)</li> <li>11. 循環モデル2 (利用と満足モデル、他)</li> <li>12. その他のモデル1 (ABXモデル、他)</li> <li>13. その他のモデル2 (遠慮察しモデル、他)</li> <li>14. その他のモデル3 (沈黙の螺旋モデル、他)</li> <li>15. 春学期最終発表</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	<i>Communication Models</i> , Longman.		
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 II (イノベーションの普及プロセス)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> イノベーション (技術革新) が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。  <b>講義概要</b> イノベーション (技術革新) が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本講義ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1)イノベーションの採用過程、2)イノベーションの特徴、3)イノベーションの採用者類型、4)オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらいます。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. イノベーションとは</li> <li>3. イノベーションのコミュニケーションに関わる要素</li> <li>4. イノベーションの採用過程1</li> <li>5. イノベーションの採用過程2</li> <li>6. イノベーションの採用過程3</li> <li>7. イノベーションの特徴1</li> <li>8. イノベーションの特徴2</li> <li>9. 秋学期中間発表</li> <li>10. イノベーションの採用者類型1</li> <li>11. イノベーションの採用者類型2</li> <li>12. オピニオンリーダーの特徴と役割</li> <li>13. チェンジエージェントの特徴と役割</li> <li>14. 秋学期最終発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、グループ発表やプレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	Rogers, E.M. (2003) . <i>Diffusion of Innovations(5th Ed.)</i> , Free press		
評価方法	授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%		

09年度以降	英語専門講読 I (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関する英字新聞やウェブサイト記事など幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 政治</li> <li>3. 政治</li> <li>4. 技術</li> <li>5. 技術</li> <li>6. 犯罪</li> <li>7. 犯罪</li> <li>8. IT通信</li> <li>9. IT通信</li> <li>10. 産業</li> <li>11. 産業</li> <li>12. 医療厚生</li> <li>13. 医療厚生</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：適宜資料を配布します</p> <p>参考文献：適宜紹介します</p>		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など (70%) および期末テスト (30%))		

09年度以降	英語専門講読 II (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げます。各テーマに関して幅広い素材を扱います。語彙力強化のため毎回単語テストなどを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳I」および「通訳II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 教育</li> <li>3. 教育</li> <li>4. 国際関係</li> <li>5. 国際関係</li> <li>6. 環境</li> <li>7. 環境</li> <li>8. 軍事</li> <li>9. 軍事</li> <li>10. 医学</li> <li>11. 医学</li> <li>12. 経済</li> <li>13. 経済</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：適宜資料を配布します</p> <p>参考文献：適宜紹介します</p>		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など (70%) および期末テスト (30%))		

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズム研究の基礎概念)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス</li> <li>2、発表方法について（講義）</li> <li>3、Economics of Tourism</li> <li>4、Planning Tourism</li> <li>5、Carrying Capacity</li> <li>6、Regeneration</li> <li>7、Experience Economy</li> <li>8、Destination Management</li> <li>9、Authenticity</li> <li>10、Tourist Gaze</li> <li>11、Identity</li> <li>12、Mobility</li> <li>13、Post Tourism</li> <li>14、総合討論</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト、参考文献	Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 40% 期末試験 40%		

09年度以降	英語専門講読 II (ツーリズム研究の現代的課題)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指したい。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。このほか毎回コメント担当者が、当該トピックにかかわる問題提起を行い、それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス</li> <li>2、発表方法について（講義）</li> <li>3、Sustainable Tourism</li> <li>4、Eco Tourism</li> <li>5、Cultural Tourism</li> <li>6、Heritage Tourism</li> <li>7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism</li> <li>8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism</li> <li>9、Rural Tourism</li> <li>10、Urban Tourism</li> <li>11、Sex Tourism</li> <li>12、Dark Tourism</li> <li>13、Ethical Tourism</li> <li>14、総合討論</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト、参考文献	Smith, M.N., Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 40% 期末試験 40%		

09年度以降	英語専門講読 I (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。		1 文献1-① 2 文献1-② 3 文献1-③ 4 文献2-① 5 文献2-② 6 文献2-③ 7 文献3-① 8 文献3-② 9 文献3-③ 10 文献4-① 11 文献4-② 12 文献4-③ 13 文献5-① 14 文献5-② 15 文献5-③	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題の事前学習（和訳レポートの作成）		
<b>テキスト、参考文献</b>	課題文献のプリントを配布する。		
<b>評価方法</b>	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。 <u>なお、欠席回数が4回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。</u>		

09年度以降	英語専門講読 II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズ)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。		1 文献6-① 2 文献6-② 3 文献6-③ 4 文献7-① 5 文献7-② 6 文献7-③ 7 文献8-① 8 文献8-② 9 文献8-③ 10 文献9-① 11 文献9-② 12 文献9-③ 13 文献10-① 14 文献10-② 15 文献10-③	
<b>到達目標</b>	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題の事前学習（和訳レポートの作成）		
<b>テキスト、参考文献</b>	課題文献のプリントを配布する。		
<b>評価方法</b>	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。 <u>なお、欠席回数が4回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。</u>		

09年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>変化が目まぐるしい状況の中で、「詩を学ぶ」ことは、時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、<b>詩を学ぶことも実用的</b>だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「<b>言葉の力</b>」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「<b>詩を学ぶ=生き方を学ぶ</b>」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージがあるとしたら、詩を一面的にみているのではないのでしょうか。詩は、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。(↓に続きます。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 履修確定の学生との確認、グループ&amp;担当箇所決定、講義</li> <li>3-4. オーストラリアの歴史①②</li> <li>5-6. アボリジニの歴史①②</li> <li>7-8. アボリジニの神話・伝説①②</li> <li>9-10. 英訳されたアボリジニの詩①②</li> <li>11-14. 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p><b>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</b></p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 *事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。参考文献は授業で随時紹介いたします。		
評価方法	*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(↑からの続きです)</p> <p>「<b>オーストラリアを学ぶ</b>」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。現在でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないのでしょうか。</p> <p>また、比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「<b>言葉の力を体感する</b>」「<b>オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す</b>」「<b>オーストラリアを通して己を考える</b>」また、発表形式の授業ですので「<b>自分の言葉で考え、語る</b>」こととなります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「<b>自分の意見を他人に正確に伝える</b>」ことも学んでほしい大事なことです。</p> <p>それでは、熱意ある方、楽しみにお待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。</p> <p>春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~14. オーストラリアの詩、精読</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 *事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。参考文献は授業で随時紹介いたします。		
評価方法	*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	英語専門講読 I (認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、英語の読解力を高めることと英文法についての理解を深めることである。使用するテキストは、認知言語学の考え方に基づく英文法の本である。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章“Categories in thought and language”を読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. Overview</li> <li>3. Categories and their internal structure 1</li> <li>4. Categories and their internal structure 2</li> <li>5. Categories and their internal structure 3</li> <li>6. Conceptual groupings of categories 1</li> <li>7. Conceptual groupings of categories 2</li> <li>8. Conceptual groupings of categories 3</li> <li>9. Category extension 1</li> <li>10. Category extension 2</li> <li>11. Category extension 3</li> <li>12. Summary 1</li> <li>13. Summary 2</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語専門講読 II (認知英文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、英語の読解力を高めることと英文法についての理解を深めることである。使用するテキストは、認知言語学の考え方に基づく英文法の本である。</p> <p>授業では、下記のテキストの第2章“Cognitive operations in thought and language”を読んでゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえるだけでよしとするようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. Overview</li> <li>3. Construals 1</li> <li>4. Construals 2</li> <li>5. Construals 3</li> <li>6. Construals 4</li> <li>7. Construals 5</li> <li>8. Mental spaces 1</li> <li>9. Mental spaces 2</li> <li>10. Inferences 1</li> <li>11. Inferences 2</li> <li>12. Summary 1</li> <li>13. Summary 2</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
テキスト、参考文献	Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		
評価方法	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	英語専門講読 I (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は英語で行います。】</p> <p>This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to <i>conduct a small research project</i> on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience 'at home'; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research.</p> <p>This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course: 'Why can't we become friends?'</li> <li>2. Internationalisation of the student experience 'at home'</li> <li>3. Qualitative and quantitative research</li> <li>4. 'Us' and 'them' separatism in the classroom</li> <li>5. The use of the literature in qualitative research</li> <li>6. Friendship networks of university students</li> <li>7. Research interviewing: Pros and cons</li> <li>8. Intercultural relationships 1: Critical incidents</li> <li>9. Writing a research proposal</li> <li>10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach</li> <li>11. Ethics in human research</li> <li>12. Intercultural friendship formation</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol> <p>【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英文資料を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%		

09年度以降	英語専門講読 II (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は英語で行います。】</p> <p>This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to <i>conduct a small research project</i> on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up.</p> <p>This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course</li> <li>2. Keeping a research diary</li> <li>3. Interview variations</li> <li>4. Conducting an interview</li> <li>5. Transcribing an interview</li> <li>6. Using the literature 1</li> <li>7. Using the literature 2</li> <li>8. Data analysis</li> <li>9. Using the literature 3</li> <li>10. Writing up</li> <li>11. Using the literature 4</li> <li>12. Tutorial</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol> <p>【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英文資料を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%		

09年度以降	英語専門講読 I (Virginia Woolfを読む)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】イギリスの小説家Virginia Woolf (1882-1941)は、モダニズム文学の書き手としても、フェミニズムの理論家としても知られています。その文章はみずみずしく、作品には知的な仕掛けが凝らされています。でも、英語が「みずみずしい」とはどんなことでしょうか。「知的な仕掛け」とは？ この講義ではそんな疑問を考えつつ、Woolfの作品を読みこなすことを目指します。そうすることで、英文からただ情報を取ってくるだけでなく、深い読み取りができるようにトレーニングします。</p> <p>【講義概要】Woolfの代表作は複数ありますが、「I」では中期の代表作、「II」では遺作を読みます。どちらも戦前から戦争へといたる社会が、ある一日に凝縮して象徴的に書かれているという点で共通しており、いま、先行きのわからない激変の時代を生きているわたしたちに（下へ続く）</p>		<p>1. イントロダクション</p> <p>2～13. To the Lighthouse 抜粋の精読</p> <p>14～15. まとめ</p> <p>* To the Lighthouse は、1927年に発表された小説で、第一次世界大戦以前の日が描かれ、そのあと戦中／戦後の変化が示されています。原文はGoogleなどで「To the Lighthouse full text」などと検索すれば見ることができるので、参考にしてください。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：英文を精読し、プリントをやってきてください。 事後：プリントを見返しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布します。 参考文献：ウルフ『灯台へ』御輿哲也訳（岩波文庫、2002） *既訳は複数あります。		
評価方法	プリント4割、発言毎の加点4割、試験2割 *ただし欠席が授業回数の1/3を越える場合、授業評価の対象としません。		

09年度以降	英語専門講読 II (Virginia Woolfを読む)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（上から続き）語りかけてくれるものが多いにありそうです。</p> <p>毎回A4で1～2枚のプリントを事前に配るので、英文を精読して問いに答えてきてください。文法を考えたり、単語のニュアンスを検討したり、授業中のディスカッションに備えて答えを用意したりします。</p> <p>その上で、授業では、プリントをもとに答えを確認しあい、考えたこと、思いついたことを積極的に発言してもらいます。文学作品は正解がないもの。ある程度の精度で英文が読み込めたなら、その先の解釈は自由で、自分に引きつけるなどしてオリジナルな解釈をしたほうがむしろ楽しめるというものです。担当者のほうでも従来の解釈にはこういうものがあると紹介をしますが、それにとどまらず、受講者みんなで新しい解釈を探りましょう。</p>		<p>1. イントロダクション</p> <p>2～13. Between the Acts 抜粋の精読</p> <p>14～15. まとめ</p> <p>* Between the Acts は、Woolfの死後の1941年に出版された小説で、第二次世界大戦の最中に書かれたもの。1939年、いまにも戦争が始まるかという国際情勢の中で、ある村で野外劇が行われる……という話です。こちらも「Between the Acts full text」などでインターネット上に原文が出てきます。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：英文を精読し、プリントをやってきてください。 事後：プリントを見返しておいてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業内でプリントを配布します。 参考文献：ウルフ『幕間』外山弥生訳（みすず書房、1977）		
評価方法	プリント4割、発言毎の加点4割、試験2割 *ただし欠席が授業回数の1/3を越える場合、授業評価の対象としません。		

09年度以降	英語専門講読 I (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インコタームズ® (Incoterms®) とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版の Incoterms®2010 と旧版の Incoterms®2000 がもっぱら実務に使用されています。この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、実践的な貿易実務のスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の範囲（価格の構成要素）、危険負担の分岐点（貨物の引渡し場所）、適用可能な運送手段などの点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練を行います。また、特に米国との貿易で混乱を生じやすい「改正米国貿易定義」の貿易条件についても学習する機会をもうけます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略</li> <li>3. E 類型（出荷地条件）の概略</li> <li>4. F 類型（主要運賃買主負担条件）の概略</li> <li>5-6. F 類例の各貿易条件（FAS、FOB、FCA）</li> <li>7. C 類型（主要運賃込み条件）の概略</li> <li>8-9. C 類例の各貿易条件（CFR、CIF、CPT、CIP）</li> <li>10. D 類型（到着条件）の概略</li> <li>11. D 類例の各貿易条件（DAF、DES、DEQ、DDU、DDP）</li> <li>12. 改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較</li> <li>13. 主要貿易条件を用いた輸出価格の積算訓練</li> <li>14. 主要貿易条件を用いた輸入価格の積算訓練</li> <li>15. 総復習および質疑応答</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。		
テキスト、参考文献	Catherine J. Petersen (2011); <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center および配布プリント		
評価方法	期末試験の結果（概ね 80% の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20% の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く)</p> <p>秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件について、Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各々の貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス (logistics) の観点から自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。</p> <p>この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。くれぐれも熟慮して履修の決定をして下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点</li> <li>3. Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略</li> <li>4-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件（EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP）の詳細</li> <li>8-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4 条件（FAS, FOB, CFR, CIF）の詳細</li> <li>11-12. 各貿易条件の売主側および買主側からみた長所と短所の検討</li> <li>13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討</li> <li>14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討</li> <li>15. 秋学期の総復習および質疑応答</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。		
テキスト、参考文献	Catherine J. Petersen (2011); <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010: A Practical Review</i> , Global Training Center および配布プリント		
評価方法	期末試験の結果（概ね 80% の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20% の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948年作品) を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。 <u>受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。</u></p>		<p>初回の授業はイントロダクション、その後は15回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。</p> <p>学期末課題を課す。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回～15回 上記の授業内容を毎回行う</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。		
テキスト、参考文献	George Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> . Penguin.		
評価方法	授業参加 40% 期末課題 60% 欠席が5回を越えると原則として単位は取れない。		

09年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期に同じ。ただし初回から平常の講読を行う。	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。		
テキスト、参考文献	George Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> . Penguin.		
評価方法	授業参加 40% 期末課題 60% 欠席が5回を越えると原則として単位は取れない。		

09年度以降	英語専門講読 I (Conflict and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。</li> <li>2. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。</li> </ol> <p>授業の流れは以下のとおりです。プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には5分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. The evolution of development theory</li> <li>4. The evolution of conflict theory</li> <li>5. Poverty, profit and the political economy of conflict</li> <li>6. Poverty, profit and the political economy of conflict</li> <li>7. Poverty, profit and the political economy of conflict</li> <li>8. Institutions: hardware and software 1</li> <li>9. Institutions: hardware and software 2</li> <li>10. Institutions: hardware and software 3</li> <li>11. People: participation, civil society &amp; gender 1</li> <li>12. People: participation, civil society &amp; gender 2</li> <li>13. People: participation, civil society &amp; gender 3</li> <li>14. 課題スピーチ</li> <li>15. Review of the studied chapters</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。		
テキスト、参考文献	<i>Conflict and Development</i> (Routledge Perspective on Development) Mac Ginty & Roger, Routledge, 2016. 詳細については、最初の授業で説明します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度85%。課題スピーチ15%。		

09年度以降	英語専門講読 II (Conflict and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます</li> <li>2. 主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。</li> </ol> <p>授業の流れは以下のとおりです。プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には5分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等</li> <li>2. Conflict transformation &amp; development 1</li> <li>3. Conflict transformation &amp; development 2</li> <li>4. Conflict transformation &amp; development 3</li> <li>5. Post-conflict reconstruction, democratization 1</li> <li>6. Post-conflict reconstruction, democratization 2</li> <li>7. Post-conflict reconstruction, democratization 3</li> <li>8. Development, aid &amp; violent conflict 1</li> <li>9. Development, aid &amp; violent conflict 2</li> <li>10. Development, aid &amp; violent conflict 3</li> <li>11. Conclusion 1</li> <li>12. Conclusion 2</li> <li>13. Review of the studied chapters</li> <li>14. 課題スピーチ</li> <li>15. 1年間の講義のまとめ</li> </ol>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。		
テキスト、参考文献	<i>Conflict and Development</i> (Routledge Perspective on Development) Mac Ginty & Roger, Routledge, 2016. 詳細については、最初の授業で説明します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度85%。課題スピーチ15%。		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (月4) Academic Writing	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Introduction to Extended Writing and Research</li> <li>3. Deciding on a topic</li> <li>4. Sourcing Information</li> <li>5. Developing a Project</li> <li>6. Review – mid-term paper due</li> <li>7. Developing a Focus</li> <li>8. Introductions and Conclusions</li> <li>9. Avoiding Plagiarism</li> <li>10. Writing a bibliography</li> <li>11. Giving Critical Feedback</li> <li>12. Preparing for Presentation</li> <li>13. Presentation and Peer Evaluation</li> <li>14. Longer term research projects – final paper due</li> <li>15. Course Review and Evaluations</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> , Cengage Learning K.K		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (月4) Academic Writing	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Introduction to Extended Writing and Research</li> <li>3. Deciding on a topic</li> <li>4. Sourcing Information</li> <li>5. Developing a Project</li> <li>6. Review – mid-term paper due</li> <li>7. Developing a Focus</li> <li>8. Introductions and Conclusions</li> <li>9. Avoiding Plagiarism</li> <li>10. Writing a bibliography</li> <li>11. Giving Critical Feedback</li> <li>12. Preparing for Presentation</li> <li>13. Presentation and Peer Evaluation</li> <li>14. Longer term research projects – final paper due</li> <li>15. Course Review and Evaluations</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> , Cengage Learning K.K		
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Workshop – what is academic writing?</li> <li>3. Library and internet-based research skills</li> <li>4. Paraphrase and summary skills 1</li> <li>5. Paraphrase and summary skills 2</li> <li>6. Narrowing the topic -mid-term paper</li> <li>7. The structure of a longer paper</li> <li>8. Citation and reference skills</li> <li>9. Editing and proofreading a longer essay</li> <li>10. Combining sources -topic for the final paper</li> <li>11. Making a questionnaire/ case study</li> <li>12. Revisiting introductions and conclusions</li> <li>13. Editing and proofreading</li> <li>14. Presenting research</li> <li>15. Sharing the final product</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments by the deadlines and revise them.		
テキスト、 参考文献	Materials will be provided by the instructor		
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 50%		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills to produce longer papers. There will be in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Workshop – what is academic writing?</li> <li>3. Library and internet-based research skills</li> <li>4. Paraphrase and summary skills 1</li> <li>5. Paraphrase and summary skills 2</li> <li>6. Narrowing the topic -mid-term paper</li> <li>7. The structure of a longer paper</li> <li>8. Citation and reference skills</li> <li>9. Editing and proofreading a longer essay</li> <li>10. Combining sources -topic for the final paper</li> <li>11. Making a questionnaire/ case study</li> <li>12. Revisiting introductions and conclusions</li> <li>13. Editing and proofreading</li> <li>14. Presenting research</li> <li>15. Sharing the final product</li> </ol>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Students must review materials before and after class, submit assignments and revise them.		
テキスト、 参考文献	Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper 30%; final paper and presentation 50%		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace.</p> <p>We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations.</p> <p>By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment.</p> <p>We will do half the material in the book in the spring term.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Consolidation</li> <li>3. Newspaper business page</li> <li>4. Mergers: writing a press release</li> <li>5. Meetings: writing a memo</li> <li>6. Technology: writing a formal email</li> <li>7. Negotiating: writing a letter</li> <li>8. Review and writing a report</li> <li>9. Investment: writing a letter</li> <li>10. Company finance: writing a recommendation letter</li> <li>11. Banking: writing a policy choice letter</li> <li>12. Consulting: writing a formal email</li> <li>13. Business quiz and writing a report</li> <li>14. Review</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.		
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5		
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the materials not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Consolidation</li> <li>3. Newspaper business page</li> <li>4. Projects: writing an informal email</li> <li>5. Information: writing a letter</li> <li>6. Advertising: writing a fax</li> <li>7. Brands: writing a formal email</li> <li>8. Review and writing a report</li> <li>9. Energy: writing an email</li> <li>10. Competition: writing a press release</li> <li>11. Company training: writing an email</li> <li>12. Review and writing a report</li> <li>13. Business quiz</li> <li>14. Review</li> <li>15. Feedback</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.		
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5		
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively.</p> <p>The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions and course outline.</li> <li>2. Getting to know you - conversation activities.</li> <li>3. Writing and you. The creative process.</li> <li>4. Creative space.</li> <li>5. Narratives.</li> <li>6. Forms of creative writing.</li> <li>7. Workshop - peer review.</li> <li>8. Aspects of genre.</li> <li>9. The creative process 2.</li> <li>10. Workshop - peer review.</li> <li>11. Building ideas.</li> <li>12. First draft peer review.</li> <li>13. Second draft peer review.</li> <li>14. Final portfolio submission and course review.</li> <li>15. Exam period.</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (水3) Academic Writing	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Introduction to Extended Writing and Research</li> <li>3. Deciding on a topic</li> <li>4. Sourcing Information</li> <li>5. Developing a Project</li> <li>6. Review – mid-term paper due</li> <li>7. Developing a Focus</li> <li>8. Introductions and Conclusions</li> <li>9. Avoiding Plagiarism</li> <li>10. Writing a bibliography</li> <li>11. Giving Critical Feedback</li> <li>12. Preparing for Presentation</li> <li>13. Presentation and Peer Evaluation</li> <li>14. Longer term research projects – final paper due</li> <li>15. Course Review and Evaluations</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> , Cengage Learning K.K		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) (水3) Academic Writing	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Introduction to Extended Writing and Research</li> <li>3. Deciding on a topic</li> <li>4. Sourcing Information</li> <li>5. Developing a Project</li> <li>6. Review – mid-term paper due</li> <li>7. Developing a Focus</li> <li>8. Introductions and Conclusions</li> <li>9. Avoiding Plagiarism</li> <li>10. Writing a bibliography</li> <li>11. Giving Critical Feedback</li> <li>12. Preparing for Presentation</li> <li>13. Presentation and Peer Evaluation</li> <li>14. Longer term research projects – final paper due</li> <li>15. Course Review and Evaluations</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Kluge, D. E., Taylor, M. A. (2007) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> , Cengage Learning K.K		
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	J. ハレスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course addresses the craft of writing poetry and methods of creative engagement. We will explore multiple forms of poetry from free verse to sonnets. We will read the work of modern and contemporary poets in tandem with generating our own poems. Students are asked to read assigned material from the perspective of a writer. Classes will include writing exercises, discussions of assigned reading, and peer feedback writing workshops.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. In-class writing activity</li> <li>3. Read around, workshop group 1</li> <li>4. Read around, workshop group 2</li> <li>5. Read around, workshop group 1</li> <li>6. Read around, workshop group 2</li> <li>7. Read around, workshop group 1, journal meeting.</li> <li>8. Read around, workshop group 2</li> <li>9. Read around, workshop group 1</li> <li>10. Read around, workshop group 2</li> <li>11. Read around, workshop group 1</li> <li>12. Read around, workshop group 2</li> <li>13. Read around, workshop group 1</li> <li>14. Read around, workshop group 2</li> <li>15. Class reading, journal meeting.</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, students are required to read poetry, write 300 words in their creative writing journal and bring a draft of a new poem to class.		
テキスト、参考文献	Students will refer to online poetry archives of the Poetry Foundation ( <a href="https://www.poetryfoundation.org/">https://www.poetryfoundation.org/</a> ) and the Academy of American poets ( <a href="https://www.poets.org/">https://www.poets.org/</a> )		
評価方法	Contributions to in-class discussion (25%), Weekly assignments (25%), Poems submitted in final portfolio (25%), Creative Writing journal (25%)		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of the Research Writing course is to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses to write academic essays by enhancing critical reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revision will be emphasized. APA style will be used.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Paragraph /Essay Review</li> <li>3. Introduction to research essay</li> <li>4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining</li> <li>5. Gathering Sources, Draft writing</li> <li>6. Summarizing and Paraphrasing</li> <li>7. Plagiarism</li> <li>8. Using citations</li> <li>9. Draft Writing and Revision</li> <li>10. The Reference Page</li> <li>11. Draft Writing and Revision</li> <li>12. Draft Writing and Revision</li> <li>13. Draft Writing and Revision</li> <li>14. Research Essay due</li> <li>15. Course Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of steps to Research Writing		
テキスト、参考文献	<i>Academic Writing Skills</i> , Book 3, Chin, Peter, <i>et al.</i> , Cambridge, 2013		
評価方法	Classwork, Homework, and Essays		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of the Research Writing course is to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses to write academic essays by enhancing critical reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revision will be emphasized. APA style will be used.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Paragraph /Essay Review</li> <li>3. Introduction to research essay</li> <li>4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining</li> <li>5. Gathering Sources, Draft writing</li> <li>6. Summarizing and Paraphrasing</li> <li>7. Plagiarism</li> <li>8. Using citations</li> <li>9. Draft Writing and Revision</li> <li>10. The Reference Page</li> <li>11. Draft Writing and Revision</li> <li>12. Draft Writing and Revision</li> <li>13. Draft Writing and Revision</li> <li>14. Research Essay due</li> <li>15. Course Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing		
テキスト、参考文献	<i>Academic Writing Skills</i> , Book 3, Chin, Peter, <i>et al.</i> , Cambridge, 2013		
評価方法	Classwork, Homework, and Essays		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course introduction / review of the basics</li> <li>2 Essay 1 select topic / general v specific information</li> <li>3 Introduction &amp; conclusion technique</li> <li>4 Introduction to internet research (part 1)</li> <li>5 How to write the body / referencing</li> <li>6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due</li> <li>7 Editing essay 1 draft</li> <li>8 Internet research (part2) / essay 1 final due</li> <li>9 Paraphrasing, summarizing &amp; plagiarism</li> <li>10 How to write an essay plan page in note style</li> <li>11 How to write a bibliography</li> <li>12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps</li> <li>13 Editing essay 2 draft</li> <li>14 Essay 2 final due / problem areas discussion</li> <li>15 Essay 2 - collect essay / man-to man : final review of strong &amp; weak points of essay 2</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments		
テキスト、参考文献	No textbook . All materials provided by the teacher. Electronic dictionary is OK		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course introduction / review of the basics</li> <li>2 Essay 1 select topic / general v specific information</li> <li>3 Introduction &amp; conclusion technique</li> <li>4 Introduction to internet research (part 1)</li> <li>5 How to write the body / referencing</li> <li>6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due</li> <li>7 Editing essay 1 draft</li> <li>8 Internet research (part2) / essay 1 final due</li> <li>9 Paraphrasing, summarizing &amp; plagiarism</li> <li>10 How to write an essay plan page in note style</li> <li>11 How to write a bibliography</li> <li>12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps</li> <li>13 Editing essay 2 draft</li> <li>14 Essay 2 final due / problem areas discussion</li> <li>15 Essay 2 - collect essay / man-to man : final review of strong &amp; weak points of essay 2</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments		
テキスト、参考文献	No textbook . All materials provided by the teacher. Electronic dictionary is OK		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3. Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4. Brainstorming/ Outlining</li> <li>5. Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6. Developing body paragraphs</li> <li>7. Finding sources</li> <li>8. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10. Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11. Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12. Revision and editing checklists</li> <li>13. Peer review of latest draft</li> <li>14. Final essay submission/Course review test</li> <li>15. Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)		

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Review of essay structure/ Analyzing model essays</li> <li>3. Analyzing introductions and thesis statements</li> <li>4. Brainstorming/ Outlining</li> <li>5. Analyzing logical body paragraph structure</li> <li>6. Developing body paragraphs</li> <li>7. Finding sources</li> <li>8. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>9. Incorporating paraphrase, summary and quotation</li> <li>10. Revision/Editing of body paragraphs</li> <li>11. Analyzing concluding paragraphs</li> <li>12. Revision and editing checklists</li> <li>13. Peer review of latest draft</li> <li>14. Final essay submission/Course review test</li> <li>15. Return of essays/Self-reflection</li> </ol>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)		

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be動詞の機能 (1) 13・Be動詞の機能 (2) 14・Be動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義(前期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>到達目標</b>	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
<b>評価方法</b>	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC構文の下位区分 (1) 6・SVOC構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義(後期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>到達目標</b>	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
<b>評価方法</b>	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月5)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be動詞の機能 (1) 13・Be動詞の機能 (2) 14・Be動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義(前期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>到達目標</b>	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
<b>評価方法</b>	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar (月5)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されている英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC構文の下位区分 (1) 6・SVOC構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義(後期)の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>到達目標</b>	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		
<b>評価方法</b>	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

09年度以降	College Grammar	担当者	倉林 秀男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語力の基盤となる「文法力」を身につけることを目的としています。そのときに闇雲に文法用語や文法事項を暗記するのではなく、「なるほど」と理解をしながら身につけていくことで、英語という言語の仕組みだけでなく、英語を話している人たちがどのように物事を捉えているかまで理解することができるのです。難しいことばで言う&lt;事態把握&gt;の仕方が日本語と英語を話す人では異なっているので、その相違を認知言語学的側面から解き明かすことが毎回の授業に通底した理念です。</p> <p>授業は授業計画に従って、講義とグループワークを組み合わせて行っていきます。</p> <p>なお、授業連絡はTwitter @kura_class にて発信しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日本語の訳語には限界がある</li> <li>3. 似たもの「動詞」</li> <li>4. 前置詞のコア</li> <li>5. 現在形と現在進行形</li> <li>6. 現在完了形と過去形</li> <li>7. 英語には未来形はない</li> <li>8. 助動詞の役割</li> <li>9. 受動態のコア</li> <li>10. 準動詞のコア</li> <li>11. 文型のコア</li> <li>12. 冠詞のコア</li> <li>13. コアの応用力</li> <li>14. 認知言語学と文法論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業内で出される課題は次回に提出する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：田中茂範・弓桁太平著『イメージでわかる表現英文法』（学研、2016年）</p> <p>参考文献：田中茂範著『わかるから使えるへ 表現英文法』（コスモピア、2017年）</p>		
<b>評価方法</b>	定期試験 80パーセント、授業内課題 20パーセント		

09年度以降	College Grammar	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。英文法についてのこのような理解の仕方は、自ずと検定試験等の準備・対策にもなるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 場所扱いか道具扱いか 1</li> <li>3. 場所扱いか道具扱いか 2</li> <li>4. 自動詞+前置詞は他動詞か 1</li> <li>5. 自動詞+前置詞は他動詞か 2</li> <li>6. 〈道具〉はいつ主語になれるか 1</li> <li>7. 〈道具〉はいつ主語になれるか 2</li> <li>8. 再帰代名詞の不思議 1</li> <li>9. 再帰代名詞の不思議 2</li> <li>10. EAT ATはEATとどう違うのか 1</li> <li>11. EAT ATはEATとどう違うのか 2</li> <li>12. Mary hit John on the head.の構文 1</li> <li>13. Mary hit John on the head.の構文 2</li> <li>14. I did the book. = 「私はその本をした」？ 1</li> <li>15. I did the book. = 「私はその本をした」？ 2</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。		
テキスト、参考文献	中右実 (1995-1998) 「発見の英文法 連載 1～7」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号. 小学館・尚学図書.		
評価方法	試験 (100%) による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	College Grammar	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。英文法についてのこのような理解の仕方は、自ずと検定試験等の準備・対策にもなるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 「数の一致」はどのように決まるか 1</li> <li>3. 「数の一致」はどのように決まるか 2</li> <li>4. 絶対複数名詞trousersの不思議 1</li> <li>5. 絶対複数名詞trousersの不思議 2</li> <li>6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 1</li> <li>7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 2</li> <li>8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 3</li> <li>9. 秤の変遷：scalesからscaleへの道 1</li> <li>10. 秤の変遷：scalesからscaleへの道 2</li> <li>11. なぜin a carなのにon a busなのか 1</li> <li>12. なぜin a carなのにon a busなのか 2</li> <li>13. なぜin a carなのにon a busなのか 3</li> <li>14. なぜat nightというのにat dayとはいわないか 1</li> <li>15. なぜat nightというのにat dayとはいわないか 2</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。		
テキスト、参考文献	中右実 (1998-2001) 「発見の英文法 連載 8～20」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号. 小学館・尚学図書.		
評価方法	試験 (100%) による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

09年度以降	College Grammar (水4)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目的】</b>本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p><b>【講義概要】</b>本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学や認知言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文の構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明、英文法への導入</li> <li>2. 文の構成(1): 文の種類、文と節の違い</li> <li>3. 文の構成(2): 文の種類(続き)、文の形態と伝達内容</li> <li>4. 文の構成(3): 文を構成する要素、品詞、文型</li> <li>5. 動詞と時制(1): 動詞の分類、時と時制、相と時制</li> <li>6. 動詞と時制(2): 時制各論(現在時制、過去時制)</li> <li>7. 動詞と時制(3): 相各論(進行相、完了相)</li> <li>8. 法助動詞(1): 2種類の法助動詞、その文法的特徴</li> <li>9. 法助動詞(2): 法助動詞各論(用法上の違いなど)</li> <li>10. 法助動詞(3): 法助動詞各論(続き)</li> <li>11. 未来表現(1): 文法、表現形式、形式と意味</li> <li>12. 未来表現(2): 形式と意味(続き)</li> <li>13. 受動態(1): 「態」とは何か、受動態の文法的特徴など</li> <li>14. 受動態(2): 過去分詞の性質、be受動文とget受動文</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト、参考文献	テキスト: 水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	定期試験(90%)に、授業への取り組みなど(10%)を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の2/3以上に出席していることが必要である。		

09年度以降	College Grammar (水4)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目的】</b>本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p><b>【講義概要】</b>本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心として講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、文構成の上で重要となる個別要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明、英文法への導入</li> <li>2. 仮定法(1): 「法」とは何か、直説法と仮定法</li> <li>3. 仮定法(2): 直説法と仮定法(続き)、仮定法の特徴</li> <li>4. 仮定法(3): 仮定法とshould、注意すべき語法など</li> <li>5. 節構造(1): 節の種類、句と節の違い、節の機能</li> <li>6. 節構造(2): 節の機能(続き)、その注意点など</li> <li>7. 節構造(3): 動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴</li> <li>8. 節構造(4): 動詞・形容詞に続く節形式の特徴(続き)</li> <li>9. 関係節(1): 関係節の文法的特徴、関係代名詞の特徴</li> <li>10. 関係節(2): 関係形容詞・副詞の特徴、自由関係詞など</li> <li>11. 関係節(3): 不定関係節の特徴、強調構文の特徴</li> <li>12. 比較構文(1): 「比較」とは、比較の文法的特徴</li> <li>13. 比較構文(2): 比較級・最上級の特徴、絶対比較など</li> <li>14. 否定: 否定の種類、否定の作用域、否定の注意点など</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト、参考文献	テキスト: 水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	定期試験(90%)に、授業への取り組みなど(10%)を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の2/3以上に出席していることが必要である。		

09年度以降	College Grammar (水5)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目的】</b>本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p><b>【講義概要】</b>本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学や認知言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。春学期は文の構成を中心として講義し、大枠となる文の種類、構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明、英文法への導入</li> <li>2. 文の構成(1)：文の種類、文と節の違い</li> <li>3. 文の構成(2)：文の種類(続き)、文の形態と伝達内容</li> <li>4. 文の構成(3)：文を構成する要素、品詞、文型</li> <li>5. 動詞と時制(1)：動詞の分類、時と時制、相と時制</li> <li>6. 動詞と時制(2)：時制各論(現在時制、過去時制)</li> <li>7. 動詞と時制(3)：相各論(進行相、完了相)</li> <li>8. 法助動詞(1)：2種類の法助動詞、その文法的特徴</li> <li>9. 法助動詞(2)：法助動詞各論(用法上の違いなど)</li> <li>10. 法助動詞(3)：法助動詞各論(続き)</li> <li>11. 未来表現(1)：文法、表現形式、形式と意味</li> <li>12. 未来表現(2)：形式と意味(続き)</li> <li>13. 受動態(1)：「態」とは何か、受動態の文法的特徴など</li> <li>14. 受動態(2)：過去分詞の性質、be受動文とget受動文</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	定期試験(90%)に、授業への取り組みなど(10%)を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の2/3以上に出席していることが必要である。		

09年度以降	College Grammar (水5)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目的】</b>本講義では高等学校までに学習した文法事項を復習しながら、英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p><b>【講義概要】</b>本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成言語学など、最近の言語学研究で得られた知見も積極的に取り込みながら、講義を進めていくことにする。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心として講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、文構成の上で重要となる個別要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明、英文法への導入</li> <li>2. 仮定法(1)：「法」とは何か、直説法と仮定法</li> <li>3. 仮定法(2)：直説法と仮定法(続き)、仮定法の特徴</li> <li>4. 仮定法(3)：仮定法とshould、注意すべき語法など</li> <li>5. 節構造(1)：節の種類、句と節の違い、節の機能</li> <li>6. 節構造(2)：節の機能(続き)、その注意点など</li> <li>7. 節構造(3)：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴</li> <li>8. 節構造(4)：動詞・形容詞に続く節形式の特徴(続き)</li> <li>9. 関係節(1)：関係節の文法的特徴、関係代名詞の特徴</li> <li>10. 関係節(2)：関係形容詞・副詞の特徴、自由関係詞など</li> <li>11. 関係節(3)：不定関係節の特徴、強調構文の特徴</li> <li>12. 比較構文(1)：「比較」とは、比較の文法的特徴</li> <li>13. 比較構文(2)：比較級・最上級の特徴、絶対比較など</li> <li>14. 否定：否定の種類、否定の作用域、否定の注意点など</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト、参考文献	テキスト：水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社 その他、ハンドアウトを適宜使用する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	定期試験(90%)に、授業への取り組みなど(10%)を加味して最終評価を決定する。なお、単位認定の上で授業回数の2/3以上に出席していることが必要である。		

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、<u>大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことにある</u>。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と<u>素朴な疑問を抱くことが大切</u>で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現となつて表れているのだろうかと探っていく習慣を身につけていく学習方法こそが、結局はもっとも効率の良い方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかみ、一日も早くネイティブ・スピーカーが英語を理解しているとき、その頭の中で何が起きているのかを感じ取ってほしいと思っている。</p> <p>(ツイッターsemantics@gamba_dokkyoでの連絡有り)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象のとらえ方を示す冠詞</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 数詞と数量詞</li> <li>4. 前置修飾と後置修飾</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 代名詞と名詞節</li> <li>7. テンス（時制）とアスペクト（相）</li> <li>8. 続き</li> <li>9. 未来を語る表現</li> <li>10. 動詞のタイプ</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 話し手の態度と法助動詞</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 態一能動態と受動態と中間態</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習（テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第2版]』コスモピア		
評価方法	定期試験4割、小テストと課題3割および授業における参加度3割による。詳細あるいは変更のある場合は第1回目の授業で説明するか、ツイッターsemantics@gamba_dokkyoで告知する。		

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ことばを使う表現主体と文法とはけして無関係ではないという立場から、話し手を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言ってもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的な動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言ってもこうは言えないのか？」という説明ができるようになるということである。</p> <p>そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなく、「なるほど！」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞aとtheの使い分け、はだか名詞とaやsが付いた名詞の違い、あるいはI'm standing on/in the street.の意味の違いもわかるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞のスキプトと構文</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 形容詞構文</li> <li>4. 副詞的表現と機能と位置</li> <li>5. 豊かな意味を生み出す副詞的表現</li> <li>6. 前置詞 (at/in/on/off/about/around/across/through/along)</li> <li>7. 前置詞 (over/above/beyond/below/with/to/of/from/for/against)</li> <li>8. 空間副詞 (up/down/out/back/away)</li> <li>9. 語順（情報配列のテンプレート）・情報連結詞</li> <li>10. 続き</li> <li>11. 文のタイプ（存在文・付加疑問文・語順の倒置・省略）</li> <li>12. 比較構文</li> <li>13. 否定構文</li> <li>14. 話法</li> <li>15. 仮定法構文</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習（テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	田中茂範『表現英文法[増補改訂第2版]』コスモピア		
評価方法	定期試験4割、小テストと課題3割および授業における参加度3割による。詳細あるいは変更のある場合は第1回目の授業で説明するか、ツイッターsemantics@gamba_dokkyoで告知する。		

09年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか?」、「この単語の品詞は何だろう?」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでのいであったのではないのでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など)</li> <li>2. 文のタイプ</li> <li>3. 自動詞と他動詞</li> <li>4. アスペクトによる動詞の分類</li> <li>5. 本動詞、助動詞としての be, do, have</li> <li>6. 時制</li> <li>7. 完了形</li> <li>8. 進行形</li> <li>9. 法助動詞(can, will)</li> <li>10. 法助動詞(may, should)</li> <li>11. 態</li> <li>12. to 不定詞</li> <li>13. 過去分詞</li> <li>14. 現在分詞と動名詞</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。		
テキスト、参考文献	教員の作成した教材を教室または Web 上で配布する。		
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。		

09年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか? 疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか? 多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか? noとnotには、どのような相違があるのでしょうか? こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることはしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の内容を概観</li> <li>2. 仮定法</li> <li>3. 疑問詞</li> <li>4. 接続詞</li> <li>5. 関係詞</li> <li>6. 前置詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 冠詞</li> <li>9. 代名詞</li> <li>10. 形容詞</li> <li>11. 副詞</li> <li>12. 比較</li> <li>13. 否定(完全否定、部分否定、準否定)</li> <li>14. 否定(no と not の相違、鯨の構文)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現を自分なりに分析し、事後は、授業で提示された説明を批判的に検証すること。		
テキスト、参考文献	教員の作成した教材を教室または Web 上で配布する。		
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. Discussing an example news article</li> <li>3. Developing mind map skills for presenting articles</li> <li>4. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>5. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>6. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>7. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>8. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>9. Review of presentation/mind map skills</li> <li>10. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>11. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>12. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>13. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>14. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>15. Speaking test</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Active class participation (60%), presentations (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions and logical reasoning effectively in English.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. Discussing an example news article</li> <li>3. Developing mind map skills for presenting articles</li> <li>4. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>5. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>6. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>7. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>8. Students present articles to small groups/discussion</li> <li>9. Review of presentation/mind map skills</li> <li>10. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>11. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>12. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>13. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>14. Students present articles to whole class/discussion</li> <li>15. Speaking test</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class		
テキスト、参考文献	No textbook is required		
評価方法	Active class participation (60%), presentations (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal.</p> <p>Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <p>Weeks 1 - 2 Introduction to the course of studies. Weeks 3 - 6 Why learn English. Weeks 7 - 10 Caring for kids. Weeks 11 - 14 Death from overwork. Week 15 - Evaluations.</p> <p>A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal.</p> <p>Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics:</p> <p>Weeks 1 - 2 Brief introduction/welcome back to class. Weeks 3 - 6 Computers and society. Weeks 7 - 11 Ageing Society. Weeks 12 - 14 The Automobile. Week 15 - Evaluations.</p> <p>A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト、参考文献	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of the course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read about, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and active participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and willing to use English exclusively for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Overview</p> <p>Week 2: University Lifestyles</p> <p>Week 3: Career Choices</p> <p>Week 4: Nuclear Arms</p> <p>Week 5: Immigration Reform</p> <p>Week 6: Presentation One</p> <p>Week 7: Social Safety Net</p> <p>Week 8: Carbon Footprint</p> <p>Week 9: World Englishes</p> <p>Week 10: Discovering Your Passion</p> <p>Week 11: Presentation Two</p> <p>Week 12: Food Culture</p> <p>Week 13: Women in the Workplace</p> <p>Week 14: Endangered Cultures</p> <p>Week 15: Presentation Three</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and presentations.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of the course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read about, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and active participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and willing to use English exclusively for all classroom activities.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Overview</p> <p>Week 2: University Lifestyles</p> <p>Week 3: Career Choices</p> <p>Week 4: Nuclear Arms</p> <p>Week 5: Immigration Reform</p> <p>Week 6: Presentation One</p> <p>Week 7: Social Safety Net</p> <p>Week 8: Carbon Footprint</p> <p>Week 9: World Englishes</p> <p>Week 10: Discovering Your Passion</p> <p>Week 11: Presentation Two</p> <p>Week 12: Food Culture</p> <p>Week 13: Women in the Workplace</p> <p>Week 14: Endangered Cultures</p> <p>Week 15: Presentation Three</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this course. The instructor provides all materials.		
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, final presentations.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions &amp; news article Week 6: Summary writing &amp; quiz Week 7: Discussions &amp; introduction to APA Week 8: News article &amp; vocabulary quiz Week 9: Discussions &amp; mini presentations Week 10: News article &amp; summary writing Week 11: Discussions &amp; vocabulary quiz Week 12: Video &amp; discussion Week 13: News article &amp; prepare vocabulary notebooks Week 14: Discussions &amp; submit vocabulary notebooks Week 15: Review &amp; feedback</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.		
テキスト、 参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.		
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions &amp; news article Week 6: Summary writing &amp; quiz Week 7: Discussions &amp; introduction to APA Week 8: News article &amp; vocabulary quiz Week 9: Discussions &amp; mini presentations Week 10: News article &amp; summary writing Week 11: Discussions &amp; vocabulary quiz Week 12: Video &amp; discussion Week 13: News article &amp; prepare vocabulary notebooks Week 14: Discussions &amp; submit vocabulary notebooks Week 15: Review &amp; feedback</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後 学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.		
テキスト、 参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.		
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火1) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have more <i>effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners</b>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <b>street directions</b>, and/or <b>train directions</b>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b> in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火1) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" &amp; "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February &amp; March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火3) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火3) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture  b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture  c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Introduction to Britain</li> <li>3. British Pop</li> <li>4. London</li> <li>5. The Train</li> <li>6. Heathrow Airport</li> <li>7. William Shakespeare</li> <li>8. Tea</li> <li>9. Climbers</li> <li>10. Sherlock Holmes</li> <li>11. The Purple Violin</li> <li>12. British Universities</li> <li>13. An English Summer</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture  b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture  c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preview</li> <li>2. The Seven Wonders of Britain</li> <li>3. Wales</li> <li>4. BBC World Service</li> <li>5. The Mini</li> <li>6. The Village</li> <li>7. Agatha Christie</li> <li>8. Charles Dickens</li> <li>9. The Sea</li> <li>10. Taxi</li> <li>11. Public School</li> <li>12. WOMAD</li> <li>13. A British Christmas</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.</li> </ol>		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Text Unit 1</li> <li>3. Text Unit 2</li> <li>4. Discussion Test Prep</li> <li>5. Discussion Tests</li> <li>6. Unit 3</li> <li>7. Unit 4</li> <li>8. DVD</li> <li>9. DVD</li> <li>10. Individual Presentations</li> <li>11. Group Discussions</li> <li>12. Group Discussions</li> <li>13. Discussion Tests</li> <li>14. Final Presentations</li> <li>15. Final Presentations</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	Text Presenting Different Opinions		
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Text Unit 7</li> <li>3. Text Unit 8</li> <li>4. DVD</li> <li>5. Group Presentation Preparation</li> <li>6. Group Presentations</li> <li>7. Text Unit 9</li> <li>8. Text Unit 10</li> <li>9. DVD</li> <li>10. DVD</li> <li>11. Text Unit 11</li> <li>12. Text Unit 12</li> <li>13. Presentation Preparation</li> <li>14. Final Presentations</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト、参考文献	Text: Presenting Different Opinions		
評価方法	Written reports 30%, Presentations 35%, Classroom activities 35%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (水4) Communicative English	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will give students the opportunity to explore and discuss some of the important issues of today. Students will read a wide range of texts and online sources, and consider the strengths and weaknesses of the arguments and opinion presented. Students will develop their communication skills by participating in a variety of speaking situations to discuss the topics. There will be a focus on both listening and responding in these discussions, and students will be encouraged to express their own opinions whilst respecting those of others. Additionally, students will be asked to create their own multimedia presentation on a topic of their choice, with the goal of persuading the class of their viewpoint. Grades will be based on class participation, leading small group discussions and a multimedia presentation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction and outline</li> <li>2. Food Safety</li> <li>3. Social Problems</li> <li>4. Cultural Issues</li> <li>5. The Environment</li> <li>6. Small group discussion 1</li> <li>7. Work/Labor issues</li> <li>8. Health</li> <li>9. Family</li> <li>10. Money</li> <li>11. Gender Issues</li> <li>12. Small Group discussion 2</li> <li>13. Presentation preparation</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Course review.</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト、参考文献	Long, R. (2016) <i>Connections. Understanding Social &amp; Cultural Issues</i> . Perceptia Press..		
評価方法	In-class participation 40%; presentation 30%; small group discussions 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火5) Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions and course outline</li> <li>2. Getting to know you - conversation activities</li> <li>3. Narrative fictions - lying and describing</li> <li>4. Happiness</li> <li>5. Fear</li> <li>6. Structuring debates</li> <li>7. Persuasive language</li> <li>8. Student topics for debates</li> <li>9. Analyzing perspectives</li> <li>10. Student topics for debates</li> <li>11. Sadness</li> <li>12. Presentation preparation</li> <li>13. Presentations and discussion</li> <li>14. Presentations and discussion</li> <li>15. Exam period</li> </ol>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for informing, persuading, and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop: Student Survey Presentation</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. The class structure and goals will be the same as the spring semester, but materials for the fall semester will be different.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Workshop: Investigative Research Presentation</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership and a class multimedia presentation		
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
評価方法	40% small group presentation, 40% multimedia presentation, 20% class participation		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.) ]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners</b>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <b>street directions</b>, and/or <b>train directions</b>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b> in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" &amp; "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February &amp; March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木3) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshakes; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners</b>. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <b>street directions</b>, and/or <b>train directions</b>. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.</p> <p>Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b> in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木3) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" &amp; "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p> <p>Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February &amp; March Break.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
評価方法	<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.</li> </ol>		<p>Week 1 – Course introduction</p> <p>Week 2 – A risky aircraft</p> <p>Week 3 – Free trade partnerships</p> <p>Week 4 – The conflict in Syria</p> <p>Week 5 – Power saving</p> <p>Week 6 – Rare earth elements</p> <p>Week 7 – Environmental pollution</p> <p>Week 8 – Student presentations</p> <p>Week 9 – The biggest discovery in modern physics</p> <p>Week 10 – Japan in the space development race</p> <p>Week 11 – Social Media Olympics</p> <p>Week 12 – Same sex marriage</p> <p>Week 13 – Oscar awarded actress</p> <p>Week 14 – Tuition hikes in Quebec</p> <p>Week 15 – Final Exam</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%		

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas</li> </ol>		<p>Week 1 – Course introduction</p> <p>Week 2 – A risky aircraft</p> <p>Week 3 – Free trade partnerships</p> <p>Week 4 – The conflict in Syria</p> <p>Week 5 – Power saving</p> <p>Week 6 – Rare earth elements</p> <p>Week 7 – Environmental pollution</p> <p>Week 8 – Student presentations</p> <p>Week 9 – The biggest discovery in modern physics</p> <p>Week 10 – Japan in the space development race</p> <p>Week 11 – Social Media Olympics</p> <p>Week 12 – Same sex marriage</p> <p>Week 13 – Oscar awarded actress</p> <p>Week 14 – Tuition hikes in Quebec</p> <p>Week 15 – Final Exam</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs		
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%		

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction  Week 2- First Impressions  Week 3- Traffic Jam  Week 4- Who Needs the Local Language  Week 5- Getting Ahead  Week 6- Forever Single  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- What are Friends For?  Week 9- What's for Dinner?  Week 10- Cyber Bullying  Week 11- Taking Care of Father  Week 12- Why Go To School?  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and view English language websites.		
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%		

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction  Week 2- An International Relationship  Week 3- Too Little, Too Late  Week 4- Ben and Mike  Week 5- Government Control  Week 6- Living Together  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- Size Discrimination  Week 9- Who Will Help Them?  Week 10- Finding the Right One  Week 11- Dress for Success  Week 12- A Mother's Story  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content – the textbook and I recommend that they read English newspaper articles and view English language websites.		
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%		

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course designed for those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 1  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 2  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 3  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 4  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare discussion points, to consider main points and be prepared to discuss. During class, students need to record all points, vocabulary items, and engage and review.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.		

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 5  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 6  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 7  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 8  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare discussion points, to consider main points and be prepared to discuss. During class, students need to record all points, vocabulary items, and engage and review.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.		

09年度以降	Discussion	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English.</p> <p>The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week. The students introducing the topics are expected to summarize the discussion</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class introduction</li> <li>2. Discussion skills 1</li> <li>3. Discussion skills 2</li> <li>4. Discussion skills 3</li> <li>5. Student Topics Round 1</li> <li>6. Student Topics Round 1</li> <li>7. Student Topics Round 1</li> <li>8. Common problems</li> <li>9. Student Topics Round 2</li> <li>10. Student Topics Round 2</li> <li>11. Student Topics Round 2</li> <li>12. Exchanging articles and discussion</li> <li>13. Exchanging articles and discussion</li> <li>14. Problem solving</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor		
テキスト、参考文献	All materials will be prepared by the teacher.		
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%		

09年度以降	Discussion	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is for students with ideas and a desire to discuss them in English. Students will learn target discussion skills and then practice them in pairs and groups. There is a strict English only policy as in the future students will need to interact in situations in which the only common language is English.</p> <p>The course will begin with topics introduced by the teacher but will quickly move to topics introduced by different students each week</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class introduction</li> <li>2. Discussion skills 1</li> <li>3. Discussion skills 2</li> <li>4. Discussion skills 3</li> <li>5. Student Topics 1</li> <li>6. Student Topics 2</li> <li>7. Student Topics 3</li> <li>8. Common problems</li> <li>9. Student Topics Round 2</li> <li>10. Student Topics Round 2</li> <li>11. Student Topics Round 2</li> <li>12. Exchanging articles</li> <li>13. Exchanging articles</li> <li>14. Problem solving</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to preview assigned materials before class and complete tasks assigned by the instructor		
テキスト、参考文献	All materials will be prepared by the teacher.		
評価方法	In class participation 40%; Individual topics 40%; assignments 20%		

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1</li> <li>2. Discussion, listening Topic # 2</li> <li>3. Discussion, listening Topic # 3</li> <li>4. Discussion, listening Topic # 4</li> <li>5. Discussion, listening Topic # 5</li> <li>6. Discussion, listening Topic # 6</li> <li>7. Discussion, listening Topic # 7</li> <li>8. Library research project task 1</li> <li>9. Discussion, listening Topic # 8</li> <li>10. Discussion, listening Topic # 9</li> <li>11. Discussion, listening Topic # 10</li> <li>12. Discussion, listening Topic # 11</li> <li>13. Discussion, listening Topic # 12</li> <li>14. Discussion, listening Topic # 13</li> <li>15. Library research project task 2</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class participation &amp; target skills 40%</li> <li>2. Weekly class activities &amp; discussion 60%</li> </ol>		

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1</li> <li>2. Discussion, listening Topic # 2</li> <li>3. Discussion, listening Topic # 3</li> <li>4. Discussion, listening Topic # 4</li> <li>5. Discussion, listening Topic # 5</li> <li>6. Discussion, listening Topic # 6</li> <li>7. Discussion, listening Topic # 7</li> <li>8. Library research project task 1</li> <li>9. Discussion, listening Topic # 8</li> <li>10. Discussion, listening Topic # 9</li> <li>11. Discussion, listening Topic # 10</li> <li>12. Discussion, listening Topic # 11</li> <li>13. Discussion, listening Topic # 12</li> <li>14. Discussion, listening Topic # 13</li> <li>15. Library research project task 2</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.		
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Class participation &amp; target skills 40%</li> <li>2. Weekly class activities &amp; discussion 60%</li> </ol>		

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions and course outline.</li> <li>2. Getting to know you - conversation activities.</li> <li>3. Agree / disagree.</li> <li>4. Creating discussions.</li> <li>5. My discussion articles.</li> <li>6. Your discussion articles.</li> <li>7. Opposing viewpoints.</li> <li>8. Controversial issues.</li> <li>9. Your discussion articles.</li> <li>10. Breaking news - researched discussion topics.</li> <li>11. Your topics, partnering and preparation.</li> <li>12. Student-led class discussion preparation.</li> <li>13. Student-led class discussions.</li> <li>14. Student-led class discussions.</li> <li>15. Exam period.</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions and course outline.</li> <li>2. Getting to know you - conversation activities.</li> <li>3. Agree / disagree.</li> <li>4. Creating discussions.</li> <li>5. My discussion articles.</li> <li>6. Your discussion articles.</li> <li>7. Opposing viewpoints.</li> <li>8. Controversial issues.</li> <li>9. Your discussion articles.</li> <li>10. Breaking news - researched discussion topics.</li> <li>11. Your topics, partnering and preparation.</li> <li>12. Student-led class discussion preparation.</li> <li>13. Student-led class discussions.</li> <li>14. Student-led class discussions.</li> <li>15. Exam period.</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト、参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

09年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, the students will be provide with ample opportunities to speak English through discussions, debates and active role plays. We will focus on spoken English in this course, with emphasis on expressing opinions, giving speeches and conducting presentations. This will be an educational and fun course !		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction/orientation</li> <li>2. Discussion Travel</li> <li>3. “</li> <li>4. Presentation</li> <li>5. Presentation</li> <li>6. Discussion Music</li> <li>7. “</li> <li>8. Presentation</li> <li>9. Presentation</li> <li>10. Discussion (Final)</li> <li>11. “</li> <li>12. Presentation My Passion</li> <li>13. “</li> <li>14. “</li> <li>15. “</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.		
評価方法	Participation, presentations		

09年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as above		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Same as above</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15.</li> </ol>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.		
テキスト、参考文献	Same as above		
評価方法	Same as above		

.09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation.</li> <li>2. What listeners need. What speakers do.</li> <li>3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework !</li> <li>4. Write and edit</li> <li>5. Decide how to do it, "props", visuals, practice</li> <li>6. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>7. Topic: teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</li> <li>8. ( as Week 4)</li> <li>9. ( as Week 5)</li> <li>10. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</li> <li>12. ( as Week 4)</li> <li>13. ( as Week 5)</li> <li>14. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>15. Presentations, evaluation, feedback.</li> </ol>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations		
テキスト、参考文献	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).		

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Public speaking, why where when. It's not conversation.</li> <li>2. What listeners need. What speakers do.</li> <li>3. Topic: Explain a future plan. Ideas, research, homework !</li> <li>4. Write and edit</li> <li>5. Decide how to do it, "props", visuals, practice</li> <li>6. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>7. Topic: teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</li> <li>8. ( as Week 4)</li> <li>9. ( as Week 5)</li> <li>10. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>11. Topic: making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</li> <li>12. ( as Week 4)</li> <li>13. ( as Week 5)</li> <li>14. Presentations, evaluation, feedback.</li> <li>15. Presentations, evaluation, feedback.</li> </ol>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations		
テキスト、参考文献	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).		

09年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;"><u>Speeches</u></p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2-3. Elements of public speaking</li> <li>4-5. Effective speeches—examples and discussion</li> <li>6-8. Student speeches</li> <li>9-11. Effective speeches—examples and discussion</li> <li>12-14. Student speeches</li> <li>15. Reflection and summary</li> </ol>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their speeches, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)		
テキスト、参考文献	Individual reading texts will be distributed in class.		
評価方法	Four speeches: 25% x 4 = 100%		

09年度以降	Public Speaking II	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">Poster Presentation &amp; Presentation</p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Effective Public Speaking: skills &amp; strategies</li> <li>3. Effective Public Speaking: skills &amp; strategies</li> <li>4. Poster presentations--orientation</li> <li>5. Poster presentations--analysis</li> <li>6. Poster presentations--preparation</li> <li>7. Poster presentations--preparation</li> <li>8. Poster presentations</li> <li>9. Individual presentations--orientation</li> <li>10. Individual presentations--analysis</li> <li>11. Individual presentations--preparation</li> <li>12. Individual presentations--preparation</li> <li>13. Individual presentations</li> <li>14. Individual presentations</li> <li>15. Critique and review</li> </ol>	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their presentations, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)		
テキスト、参考文献	Individual reading texts will be distributed in class.		
評価方法	Group poster presentation = 40%; Individual presentation – 40%; Participation = 20%.		

09年度以降	Debate I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two goals in mind:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues.</li> <li>2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking.</li> </ol> <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Mini Lecture on Debating  Week 3: Debate Preparations 1  Week 4: Debate &amp; Summations  Week 5: Mini Lecture on Debating  Week 6: Debate Preparations 2  Week 7: Debate &amp; Summations  Week 8: Mini Lecture on Debating  Week 9: Debate Preparations 3  Week 10: Debate &amp; Summations  Week 11: Mini Lecture on Debating  Week 12: Debate Preparations 4  Week 13: Debate &amp; Summations  Week 14: Final Group Summations  Week 15: Final Group Summations</p>	
到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, to prepare debate arguments in advance of class, and to review main points after class.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%		

09年度以降	Debate II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same overall format of Debate I, but will address more advanced topics and allow more time for text analysis.</p> <p>Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates.</p> <p>We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Mini Lecture on Debating  Week 3: Debate Preparations 5  Week 4: Debate &amp; Summations  Week 5: Mini Lecture on Debating  Week 6: Debate Preparations 6  Week 7: Debate &amp; Summations  Week 8: Mini Lecture on Debating  Week 9: Debate Preparations 7  Week 10: Debate &amp; Summations  Week 11: Mini Lecture on Debating  Week 12: Debate Preparations 8  Week 13: Debate &amp; Summations  Week 14: Final Group Summations  Week 15: Final Group Summations</p>	
到達目標	「Debate I」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, to prepare debate arguments in advance of class, and to review main points after class.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History</li> <li>3. Principles and Materials of Japanese Painting</li> <li>4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan"</li> <li>5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派)</li> <li>6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画)</li> <li>11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲</li> <li>12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>14. Museum Exhibition Trip</li> <li>15. Review and Final Assessment</li> </ol>	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History</li> <li>3. Principles and Materials of Japanese Painting</li> <li>4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan"</li> <li>5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派)</li> <li>6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画)</li> <li>11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲</li> <li>12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>14. Museum Exhibition Trip</li> <li>15. Review and Final Assessment</li> </ol>	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト、参考文献	Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Understanding International Relations)</p> <p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><b>This course is taught in English.</b> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Why Study International Relations?</li> <li>3. Nation-State and International Relations</li> <li>4. Theories of International Relations (1)</li> <li>5. Theories of International Relations (2)</li> <li>6. Various Aspects of International Relations</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The Cold War: How it began</li> <li>10. The Cold War: The 1950s</li> <li>11. The Cold War: The 1960s</li> <li>12. The Cold War: The 1970s</li> <li>13. The Cold War: The 1980s</li> <li>14. The Cold War: How it ended</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Understanding International Relations)</p> <p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><b>This course is taught in English.</b> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Why Study International Relations?</li> <li>3. Nation-State and International Relations</li> <li>4. Theories of International Relations (1)</li> <li>5. Theories of International Relations (2)</li> <li>6. Various Aspects of International Relations</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The Cold War: How it began</li> <li>10. The Cold War: The 1950s</li> <li>11. The Cold War: The 1960s</li> <li>12. The Cold War: The 1970s</li> <li>13. The Cold War: The 1980s</li> <li>14. The Cold War: How it ended</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト、参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水3)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。</p> <p><b>概要</b> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明／概要・録音①</li> <li>2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法</li> <li>3. 『ABC song』個別音とアルファベット</li> <li>4. 『Moon River』日本人の苦手な子音（1）</li> <li>5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音（2）</li> <li>6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化</li> <li>7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク</li> <li>8. 中間テスト・映像を介した英語</li> <li>9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差”</li> <li>10. 『My Grandfather's Clock』カタカナ英語からの脱却</li> <li>11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約</li> <li>12. 『楽曲未定』押韻を意識する</li> <li>13. イントネーションとメロディーの関係</li> <li>14. 期末テスト・録音②</li> <li>15. 総復習：今期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 なし（毎回授業で資料を配布します）		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水3)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。</p> <p><b>概要</b> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明／概要・録音①</li> <li>2. 英語の楽曲について＋e-learning への取り組み方法</li> <li>3. 『ABC song』個別音とアルファベット</li> <li>4. 『Moon River』日本人の苦手な子音（1）</li> <li>5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音（2）</li> <li>6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化</li> <li>7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク</li> <li>8. 中間テスト・映像を介した英語</li> <li>9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差”</li> <li>10. 『My Grandfather's Clock』カタカナ英語からの脱却</li> <li>11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約</li> <li>12. 『楽曲未定』押韻を意識する</li> <li>13. イントネーションとメロディーの関係</li> <li>14. 期末テスト・録音②</li> <li>15. 総復習：今期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	教科書 なし（毎回授業で資料を配布します）		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合評価する。		

13 年度以降	Listening and Pronunciation (水5)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>目的</u> 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音声的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。</p> <p><u>概要</u> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明／概要・録音①</li> <li>2. 英語の楽曲について+e-learning への取り組み方法</li> <li>3. 『ABC song』個別音とアルファベット</li> <li>4. 『Moon River』日本人の苦手な子音(1)</li> <li>5. 『We Will Rock You』日本人の苦手な子音(2)</li> <li>6. オンライン音声教材によるリスニング・発音の強化</li> <li>7. 映画・TED など映像を用いた聴解／発音のタスク</li> <li>8. 中間テスト・映像を介した英語</li> <li>9. 『This Land is Your Land』シラブルの“格差”</li> <li>10. 『My Grandfather's Clock』カタカナ英語からの脱却</li> <li>11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約</li> <li>12. 『楽曲未定』押韻を意識する</li> <li>13. イントネーションとメロディーの関係</li> <li>14. 期末テスト・録音②</li> <li>15. 総復習：今期のまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト、参考文献	<u>教科書</u> なし (毎回授業で資料を配布します)		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降	英語の音声	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようにすることを目指す。また、音声や言語の様々な面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか？メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、一度しっかり学んでみませんか。</li> <li>・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。</li> <li>・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今!この機会に学んでほしい。</li> <li>・1回目(9/26(火)4限)から参加してください(見学も含む)。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1章「音声学とは」学際的領域, 学習者/指導者として</li> <li>2. 第2章「発声のメカニズム」器官, 音声が運ぶ情報</li> <li>3. 第3章「音声表記」綴りと発音, IPA</li> <li>4. 第4章「母音」基本母音, 英語の母音</li> <li>5. 「母音」(2) 日本語との比較</li> <li>6. 第5章「子音」分類</li> <li>7. 「子音」(2) 日本語との比較</li> <li>8. 第3章「音素と異音」日本の干渉</li> <li>9. 第6章「音節」音節構造と強勢と母音</li> <li>10. 第7章「語強勢」</li> <li>11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語</li> <li>12. 第8章「音縮小」音縮小と統語構造, 第9章「同時調音」</li> <li>13. 第10章「イントネーション」音調核, 統語/意味構造, バラ言語</li> <li>14. 「イントネーション」(2)</li> <li>15. 音声科学の応用(教育・政策・社会学・臨床・工学等)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生は、事前または事後にテキストの指定部分を読み、練習問題などの課題をやってることが必須となる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		
<b>評価方法</b>	授業参加(準備・参加):約15%, クイズ・課題:約15%, 試験:約70%。 単位認定には70%以上の出席が求められる		

13年度以降	英語の音声	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b>            自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。</p> <p><b>概要</b>            前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。</p> <p>注) 発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要；音声学とは</li> <li>2. 発声のメカニズム</li> <li>3. 音声表記</li> <li>4. 母音の調音（1）</li> <li>5. 母音の調音（2）</li> <li>6. 子音の調音（1）</li> <li>7. 子音の調音（2）</li> <li>8. Review</li> <li>9. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>10. 音節について音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など</li> <li>11. 語強勢(ストレス)とリズム</li> <li>12. 音縮小</li> <li>13. 同時調音とイントネーション</li> <li>14. Review</li> <li>15. &lt;期末テスト&gt;</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	次回授業でカバーする章の語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は各章の練習問題で内容の復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p><b>教科書</b>            佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星堂、1997年）参考文献は授業中に適宜指示する。</p>		
<b>評価方法</b>	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。		

09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 政治 英日</li> <li>3. 政治 日英</li> <li>4. 技術 英日</li> <li>5. 技術 日英</li> <li>6. 犯罪 英日</li> <li>7. 犯罪 日英</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 教育 英日</li> <li>3. 教育 日英</li> <li>4. 国際関係 英日</li> <li>5. 国際関係 日英</li> <li>6. 環境 英日</li> <li>7. 環境 日英</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 政治 英日</li> <li>3. 政治 日英</li> <li>4. 技術 英日</li> <li>5. 技術 日英</li> <li>6. 犯罪 英日</li> <li>7. 犯罪 日英</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 教育 英日</li> <li>3. 教育 日英</li> <li>4. 国際関係 英日</li> <li>5. 国際関係 日英</li> <li>6. 環境 英日</li> <li>7. 環境 日英</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では会議、ビジネス、放送通訳など通訳業務について考えます。演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う一方、語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 政治 英日</li> <li>3. 政治 日英</li> <li>4. 技術 英日</li> <li>5. 技術 日英</li> <li>6. 犯罪 英日</li> <li>7. 犯罪 日英</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通じて通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、精度のより高い通訳を試みます。日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと)</li> <li>2. 教育 英日</li> <li>3. 教育 日英</li> <li>4. 国際関係 英日</li> <li>5. 国際関係 日英</li> <li>6. 環境 英日</li> <li>7. 環境 日英</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点 (授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など) (70%)、期末テスト (30%)		

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 講義では通訳についての知識を深めていきます。演習ではシャドーイングやメモ取り訓練などを行うと同時に、文化的背景も踏まえた訳出法を習得していきます。語彙力強化のため毎回単語テストを実施します。授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと）</li> <li>2. 政治 英日</li> <li>3. 政治 日英</li> <li>4. 技術 英日</li> <li>5. 技術 日英</li> <li>6. 犯罪 英日</li> <li>7. 犯罪 日英</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）		

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。教養を深め、自立した学習者になることをめざします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習ではテーマに応じた素材で逐次通訳を行い、効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度のより高い通訳を試みます。単語テストを毎回実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回指示します。初回授業で詳しい説明をしますので、必ず出席して下さい。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと）</li> <li>2. 教育 英日</li> <li>3. 教育 日英</li> <li>4. 国際関係 英日</li> <li>5. 国際関係 日英</li> <li>6. 環境 英日</li> <li>7. 環境 日英</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜プリントを配布。なお、単語テストは英字新聞 The Japan Times ST から出題します。購読方法は初回授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	毎回の平常点（授業準備、参加、単語テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）、期末テスト（30%）		

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。</p> <p>授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。</p> <p>また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～8回 翻訳テキスト分析と発表内容チェック</p> <p>第9～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～5回 翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討</p> <p>第6回 復習テストと発表内容確認</p> <p>第7～9回 翻訳テキスト分析および発表内容チェック</p> <p>第10～14回 学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	翻訳	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。</p> <p>問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。</p> <p>受講生に求める英語力のレベルは、たとえばGuardian紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません)そこに達していない方は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。</p>		<p>*授業はひとつの教材について次の流れで行います。 教材の紹介(授業1)→教材を読んで不明点を洗い出す+翻訳開始(課題1)→不明点を解決する(授業2)→訳了+提出(課題2)→添削返却+解説(授業3)。 *ひとつの教材について3回の授業で完了となります。3回目以降は、上記の(授業1)、(授業2)、(授業3)の三つのプロセスが同時進行します。 *紙幅の都合によりここに提示できない詳細については、1回目の授業で説明します。</p> <p>_____15回の授業は以下のとおり_____</p> <p>1. 導入とトライアル(短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う)+教材1の紹介 2~15. 様々な性質のテキスト(ニュース、使用説明書、学術書、短編小説など)を教材としてとりあげ、徹底した読解と訳文解説を行います。</p>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	実際に読み、翻訳に取り組む授業ですので、事前学習が必須です。また翻訳力をつけるには、授業後にポータルに掲載されるモデル文などを使い復習してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ハンドアウトを用意します。		
<b>評価方法</b>	授業への貢献 20%、課題の総合 80%		

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。</p> <p><b>講義概要</b> パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 翻訳演習</li> <li>3. 翻訳演習</li> <li>4. 翻訳演習</li> <li>5. 翻訳演習</li> <li>6. 翻訳演習</li> <li>7. 翻訳演習</li> <li>8. 翻訳演習</li> <li>9. 翻訳演習</li> <li>10. 翻訳演習</li> <li>11. 翻訳演習</li> <li>12. 翻訳演習</li> <li>13. 翻訳演習</li> <li>14. 翻訳演習</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回に指示します。		
<b>評価方法</b>	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）		

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。</p> <p><b>講義概要</b> パソコンを活用して多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。 テキストはオリエンテーションで指示しますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 翻訳演習</li> <li>3. 翻訳演習</li> <li>4. 翻訳演習</li> <li>5. 翻訳演習</li> <li>6. 翻訳演習</li> <li>7. 翻訳演習</li> <li>8. 翻訳演習</li> <li>9. 翻訳演習</li> <li>10. 翻訳演習</li> <li>11. 翻訳演習</li> <li>12. 翻訳演習</li> <li>13. 翻訳演習</li> <li>14. 翻訳演習</li> <li>15. 総括、レポートの発表</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎回、指示に従って指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。原則として、訳文は次回授業時に提出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回に指示します。		
<b>評価方法</b>	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する。（期末レポート 30%）		

09年度以降	翻訳(水4)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	翻訳(水3)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいだけでなく、作品自体を味わい、文化的背景まで読み込む必要があります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。</p> <p>授業では、積極的な参加と発言が求められます。主に短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループまたはペアで発表します。共訳づくりを楽しみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 演習</li> <li>3 演習</li> <li>4 演習</li> <li>5 演習</li> <li>6 演習</li> <li>7 演習</li> <li>8 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>9 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>10 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>11 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>12 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>13 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>14 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>15 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> </ol>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳 (1~2 ページ) を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。		
テキスト、参考文献	課題文は授業で配布。参考文献: Robert Shapard, James Thomas 編 <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton (2007年)		
評価方法	課題・授業参加度 (50%)、レポート (50%) 通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいだけでなく、作品自体を味わい、文化的背景まで読み込む必要があります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。</p> <p>授業では、積極的な参加と発言が求められます。主に短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループまたはペアで発表します。共訳づくりを楽しみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 演習</li> <li>3 演習</li> <li>4 演習</li> <li>5 演習</li> <li>6 演習</li> <li>7 演習</li> <li>8 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>9 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>10 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>11 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>12 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>13 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>14 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> <li>15 演習 (ペア・グループによる共訳の発表)</li> </ol>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳 (1~2 ページ) を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。		
テキスト、参考文献	課題文は授業で配布。参考文献: Robert Shapard, James Thomas 編 <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton (2007年)		
評価方法	課題・授業参加度 (50%)、レポート (50%) 通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC® 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・春学期は51番から75番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 翻訳という仕事①</li> <li>2. イギリス人①</li> <li>3. イギリス人②</li> <li>4. イギリス人③</li> <li>5. イギリス人④</li> <li>6. 中年の思いごと</li> <li>7. 目の見える有難さ</li> <li>8. 機械と人間</li> <li>9. 忘れっぽさ</li> <li>10. 友情論</li> <li>11. 幸福論</li> <li>12. 外国語を学ぶ効用①</li> <li>13. 外国語を学ぶ効用②</li> <li>14. 日本人論</li> <li>15. 翻訳のための文法①</li> </ol> <p>*各回、他に1題を扱います</p>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください		
<b>評価方法</b>	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。		

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検1級、通訳ガイド試験、TOEIC® 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・秋学期は76番から100番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 翻訳という仕事②</li> <li>2. 試練に立つ文明</li> <li>3. 文体と内容</li> <li>4. 技師の親指</li> <li>5. 過激の効用</li> <li>6. 正確さへのこだわり</li> <li>7. 独立独歩</li> <li>8. 詩人の役割</li> <li>9. 文化の伝達</li> <li>10. 孤独の楽しさ</li> <li>11. 若者への教訓</li> <li>12. 偏愛の危険</li> <li>13. 歴史の皮肉</li> <li>14. 自分なりの価値基準</li> <li>15. 翻訳のための文法②</li> </ol> <p>*各回とも上記ほか1編を扱う</p>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
<b>評価方法</b>	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。		

09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>今回から文章力練磨のため、市販の翻訳書の誤訳・悪訳部分を訂正する訓練を取り入れます。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の規則 ①</li> <li>2. 英語の規則 ②</li> <li>3. 訳文校正 ①</li> <li>4. 訳文校正 ②</li> <li>5. 訳文校正 ③</li> <li>6. 児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ</li> <li>7. 児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ</li> <li>8. 子供百科「フクロウの目」</li> <li>9. 子供百科「恐竜」</li> <li>10. 子供百科「宇宙」</li> <li>11. ミュージカル「オクラホマ」</li> <li>12. 詩「虹の歌」</li> <li>13. 小説「マダム・ロゼット」</li> <li>14. 歴史「トロイ戦争」</li> <li>15. 歴史「ミノタウロス」</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
<b>評価方法</b>	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤読みやすい日本語か、を見ます。		

09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の受講を期待します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちた学生でも意欲のある人は歓迎します。聴講を希望する方は相談して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 辞書の引き方</li> <li>2. 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」①</li> <li>3. 小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」②</li> <li>4. スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」</li> <li>5. 美術「古代の芸術」</li> <li>6. ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」</li> <li>7. ドキュメンタリー「生き残りし者」</li> <li>8. 科学「重力の問題」</li> <li>9. 造形「心の庭」</li> <li>10. 音楽「オーケストラを指揮する」</li> <li>11. 評伝「二都物語」</li> <li>12. 動物「人間と動物の絆」</li> <li>13. 歴史「そして水は引かなかった」</li> <li>14. 観光「コルシカへの招待」</li> <li>15. アンドとカンマ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
<b>評価方法</b>	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤読みやすい日本語か、を見ます。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：英検準1級程度</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と評価方法など</li> <li>2. ビジネス現場に必要とされる英語力</li> <li>3. ビジネス現場のコミュニケーション</li> <li>4. マーケットの特性（クイズ1）</li> <li>5. 日本企業の国際依存度</li> <li>6. アジア市場の重要性</li> <li>7. ASEANの理解（クイズ2）</li> <li>8. 中国市場の変貌</li> <li>9. 貿易取引の理解</li> <li>10. サービス産業（映画、アニメ）</li> <li>11. 国際通貨の理解（クイズ3）</li> <li>12. バブルと国際金融</li> <li>13. TPP。FTAとは</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末クイズ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
<b>評価方法</b>	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：英検準1級程度</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と評価方法など</li> <li>2. ビジネス現場に必要とされる英語力</li> <li>3. ビジネス現場のコミュニケーション</li> <li>4. マーケットの特性（クイズ1）</li> <li>5. 日本企業の国際依存度</li> <li>6. アジア市場の重要性</li> <li>7. ASEANの理解（クイズ2）</li> <li>8. 中国市場の変貌</li> <li>9. 貿易取引の理解</li> <li>10. サービス産業（映画、アニメ）</li> <li>11. 国際通貨の理解（クイズ3）</li> <li>12. バブルと国際金融</li> <li>13. TPP。FTAとは</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末クイズ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
<b>評価方法</b>	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：英検準1級程度</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と評価方法など。</li> <li>2. ビジネス現場に必要とされる英語力</li> <li>3. ビジネス現場のコミュニケーション</li> <li>4. マーケットの特性（クイズ1）</li> <li>5. 日本企業の国際依存度</li> <li>6. アジア市場の重要性</li> <li>7. ASEANの理解（クイズ2）</li> <li>8. 中国市場の変貌</li> <li>9. 貿易取引の理解</li> <li>10. サービス産業（映画、アニメ）</li> <li>11. 国際通貨の理解（クイズ3）</li> <li>12. バブルと国際金融</li> <li>13. TPP。FTAとは</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末クイズ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
<b>評価方法</b>	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコミュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：英検準1級程度</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と評価方法など。</li> <li>2. ビジネス現場に必要とされる英語力</li> <li>3. ビジネス現場のコミュニケーション</li> <li>4. マーケットの特性（クイズ1）</li> <li>5. 日本企業の国際依存度</li> <li>6. アジア市場の重要性</li> <li>7. ASEANの理解（クイズ2）</li> <li>8. 中国市場の変貌</li> <li>9. 貿易取引の理解</li> <li>10. サービス産業（映画、アニメ）</li> <li>11. 国際通貨の理解（クイズ3）</li> <li>12. バブルと国際金融</li> <li>13. TPP。FTAとは</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末クイズ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは使用せず、「授業時のDVDのみ」		
<b>評価方法</b>	クイズ、レポート、授業参加による通常点。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木1）	担当者	土川 孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。</p> <p>具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要（ガイダンス）</li> <li>2. ビジネスレターの形式</li> <li>3. ビジネスレターのキー・ポイント</li> <li>4. 取引の申込み</li> <li>5. 取引申込みに対する回答</li> <li>6. 引合い</li> <li>7. オファー</li> <li>8. 中間試験、復習</li> <li>9. オファーに対する応答</li> <li>10. 信用状</li> <li>11. 積出し</li> <li>12. クレーム</li> <li>13. クレームの解決</li> <li>14. ビジネスエチケット</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版）		
<b>評価方法</b>	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木1）	担当者	土川 孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。</p> <p>具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要（ガイダンス）</li> <li>2. ビジネスレターの形式</li> <li>3. ビジネスレターのキー・ポイント</li> <li>4. 取引の申込み</li> <li>5. 取引申込みに対する回答</li> <li>6. 引合い</li> <li>7. オファー</li> <li>8. 中間試験、復習</li> <li>9. オファーに対する応答</li> <li>10. 信用状</li> <li>11. 積出し</li> <li>12. クレーム</li> <li>13. クレームの解決</li> <li>14. ビジネスエチケット</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版）		
<b>評価方法</b>	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木2）	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように「英語」「ビジネス」「コミュニケーション」の3点に焦点を当て、ビジネス英語に馴染のない学生に英文 Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的には、テキストに沿って、前半は大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成などを学び、後半は大手製造業を想定した国際展示会出展の準備のための社外とのメールの作成などを学びます。</p> <p>また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要（ガイダンス）</li> <li>2. ビジネス英文メールの形式</li> <li>3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ</li> <li>4. 世界主要支社長会議への出席通知</li> <li>5. 販売本部長の営業報告</li> <li>6. 宣伝部長報告「夏の宣伝キャンペーン」</li> <li>7. 企画部長報告「ブラジル支社設立計画」</li> <li>8. 中間試験、復習</li> <li>9. 国際展示会及び営業会議招待</li> <li>10. 国際展示会及び営業会議への出席通知</li> <li>11. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み</li> <li>12. 有力販売店主の工場視察</li> <li>13. ホテルへの苦情</li> <li>14. 顧客のホテル苦情への返信</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014年）		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木2）	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように「英語」「ビジネス」「コミュニケーション」の3点に焦点を当て、ビジネス英語に馴染のない学生に英文 Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的には、テキストに沿って、食料品専門会社とアメリカのワインメーカーとの対外的な商取引を想定したメールの作成などを学びます。</p> <p>また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も修得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要（ガイダンス）</li> <li>2. カリフォルニアワインの見本輸入</li> <li>3. 見本商品の発送通知</li> <li>4. 引合い</li> <li>5. オファー</li> <li>6. カウンター・オファー</li> <li>7. 注文</li> <li>8. 中間試験、復習</li> <li>9. 注文受諾</li> <li>10. カウンター・オファー受諾通知</li> <li>11. 信用状開設準備</li> <li>12. 船積通知</li> <li>13. クレーム</li> <li>14. クレームの解決</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014年）		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則5回までとする。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木3）	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期はUnit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：</b><u>このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。</u> 木曜日4時限の同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容と授業計画の説明</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等</li> <li>3. Unit1（市況）</li> <li>4. Unit2（取引先の発見）</li> <li>5. Unit3（取引の申込み）</li> <li>6. Unit4（信用照会）</li> <li>7. Unit5（引合い）</li> <li>8. Unit6（引合いに対する返信）</li> <li>9. Unit7（オファー）</li> <li>10. Unit8（カウンター・オファー）</li> <li>11. Unit9（注文）</li> <li>12. Unit10（注文の受諾）</li> <li>13. Unit11（注文の謝絶）</li> <li>14. Unit12（成約）</li> <li>15. 春学期の総復習と質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講（四訂版）』（三恵社、2016年）および配布資料		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。		

09年度以降+	英語ビジネス・コミュニケーション（木3）	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期はUnit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳）と作成（和文英訳）の訓練を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意：</b><u>このシラバスは木曜日3時限の授業のものです。</u> 木曜日4時限の同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的等</li> <li>3. Unit13（信用状の開設と訂正）</li> <li>4. Unit14（海上保険）</li> <li>5. Unit15（輸出手配）</li> <li>6. Unit16（船積み）</li> <li>7. Unit17（決済）</li> <li>8. Unit18（輸入手配）</li> <li>9. Unit19（クレーム）</li> <li>10. Unit20（クレーム調整）</li> <li>11. Unit21の1（会社社交文①：推薦状）</li> <li>12. Unit21の2（会社社交文②：案内状）</li> <li>13. Unit21の3（会社社交文③：礼状）</li> <li>14. Unit21の4（会社社交文④：見舞い状）</li> <li>15. 秋学期の総復習と質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講（四訂版）』（三恵社、2016年）および配布資料		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木4）	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち英語による各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。春学期は、契約書等の法律文書に用いられる英語の特徴（法文体、legalese）についての基礎知識を学習した後、工業製品の輸出入を想定して、レター・オブ・インテント、スポット売買契約、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏（特に米国）のPlain English Actを遵守した英語の取扱説明書を作成する方法も検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. 法律英語の文体（legalese）を詳しく学習します。</li> <li>3.- 4. レター・オブ・インテント（letter of intent; LOI）の実際のサンプルを検討します。</li> <li>5.- 6. 実際の案件に基づき、LOI 作成の実習を行います。</li> <li>7.- 8. スポット売買契約書（one-shot sales contract）の実際のサンプルを検討します。</li> <li>9.- 10. 長期売買契約書（long-term sales agreement）の実際のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。</li> <li>11.-12. “Plain English” の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。</li> <li>13.-14. 実際に英文取扱説明書（の一部）を作成する訓練を行います。</li> <li>15. 春学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009年）		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木4）	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち英語による各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。秋学期は、貿易取引の履行および決済の段階に登場する代表的な書類として、商業送り状、船荷証券、保険証券、原産地証明書等の船積書類（Shipping Documents; S/D）、為替手形（draft）、荷為替信用状（Documentary Letter of Credit）などを学びます。また、基本的な通関実務の演習もを行い、実際に輸出申告書と輸入（納税）申告書を実際に作成する機会をもうけます。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. 各種の船積書類の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。</li> <li>3.- 4. 商業送り状を作成する実習を行います。</li> <li>5.- 6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。</li> <li>7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。</li> <li>8.- 9. 輸出申告書を作成する実習を行います。</li> <li>10.-12. 輸入（納税）申告書を作成する実習を行います。</li> <li>13.-14. 荷為替信用状による決済の仕組みを詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。</li> <li>15. 秋学期の授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009年）		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果（概ね80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね20%の比重）を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス(logistics)に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半(貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階)に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 貿易の基本概念(1): 貿易の意義、貿易の主体など</li> <li>3. 貿易の基本概念(2): 貿易実務の遂行手順の概観</li> <li>4. 貿易の基本概念(3): 種々の貿易形態、貿易関係機関</li> <li>5. 貿易の基本概念(4): 貿易管理制度、関係法令など</li> <li>6. 貿易マーケティングの段階(1): 海外市場調査</li> <li>7. 貿易マーケティングの段階(2): マーケティング・ミックスの策定</li> <li>8. 取引関係創設の段階(1): 取引先選定と引合い</li> <li>9. 取引関係創設の段階(2): 信用照会</li> <li>10. 成約段階(1): 「一般取引条件」と「個別契約条件」の意義と内訳</li> <li>11. 成約段階(2): オファーと承諾、注文と受注</li> <li>12. 成約段階(3): 品質と数量に関する条件</li> <li>13. 成約段階(4): 価格と決済に関する条件</li> <li>14. 成約段階(5): 船積みと保険に関する条件</li> <li>15. 春学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報(特に法令改正や通達)を入手するように努めて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス(logistics)に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。</p> <p>具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その後半(履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階)に属するテーマを詳しく学習します。</p> <p>履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 履行段階(1): "Incoterms® 2010"の各貿易条件の概観</li> <li>3. 履行段階(2): 外為法に基づく輸出許可と輸出承認</li> <li>4. 履行段階(3): 輸出通関手続き</li> <li>5. 履行段階(4): 海上運送に関する実務知識と手続き</li> <li>6. 履行段階(5): 航空運送に関する実務知識と手続き</li> <li>7. 履行段階(6): 複合運送に関する実務知識と手続き</li> <li>8. 履行段階(7): 貨物海上保険に関する実務知識と手続き</li> <li>9. 履行段階(8): 輸出PL保険に関する実務知識と手続き</li> <li>10. 履行段階(9): 各種運送書類(transport document)</li> <li>11. 履行段階(10): 為替リスクの種々の回避法</li> <li>12. 決済段階(1): 信用状(Letter of Credit: L/C)と荷為替手形による決済の仕組み</li> <li>13. 決済段階(2): L/Cによらない決済の仕組み</li> <li>14. クレームおよびクレーム調整の段階: クレームの種類、クレームの予防、クレームの種々の解決法など</li> <li>15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報(特に法令改正や通達)を入手するように努めて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
<b>評価方法</b>	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants		
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed.</p> <p>As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants		
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。</p> <p>1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Wonky Vegetables (1)</li> <li>3. Wonky Vegetables (2)</li> <li>4. Money for Children's Sports (1)</li> <li>5. Money for Children's Sports (2)</li> <li>6. Tracking Down Dog Owners with DNA (1)</li> <li>7. Tracking Down Dog Owners with DNA (2)</li> <li>8. The Latest News</li> <li>9. A Hybrid Solar Balloon (1)</li> <li>10. A Hybrid Solar Balloon (2)</li> <li>11. The Freedom Tower in New York (1)</li> <li>12. The Freedom Tower in New York (2)</li> <li>13. Home-Schooling (1)</li> <li>14. Home-Schooling (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 4』 Timothy Knowles、Charles Lowe、田村真弓、田中みんね、中村美帆子 編著 (金星堂、2017年)		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春に引き続きこの講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。</p> <p>1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Using SNS to Relieve Eating Disorders (1)</li> <li>3. Using SNS to Relieve Eating Disorders (2)</li> <li>4. The UK's Rising Population (1)</li> <li>5. The UK's Rising Population (2)</li> <li>6. Gay Marriage in Ireland (1)</li> <li>7. Gay Marriage in Ireland (2)</li> <li>8. The Latest News</li> <li>9. The Threat to Antarctic Penguins (1)</li> <li>10. The Threat to Antarctic Penguins (2)</li> <li>11. English for Muslim Women Immigrants (1)</li> <li>12. English for Muslim Women Immigrants (2)</li> <li>13. Eating Insects to Save the World (1)</li> <li>14. Eating Insects to Save the World (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 4』 Timothy Knowles、Charles Lowe、田村真弓、田中みんね、中村美帆子 編著 (金星堂、2017年)		
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、2つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>*可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため）</li> <li>*↑をもとに、自分の考えを創り出す</li> <li>*自分の考えを他人に正確に伝える</li> <li>*他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。）</li> <li>*行動を起こす</li> </ul> </div> <p>それでは、熱意ある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&amp;担当箇所決定</li> <li>3. 9.11：なぜ「歴史的イベント」となったのか？</li> <li>4-5. 再生可能エネルギーの可能性</li> <li>6-7. 大企業化①：食品業界</li> <li>8-9. 大企業化②：金融業界</li> <li>10-11. スイス：「平和」とは何か？</li> <li>12-13. 南アフリカ：「共存」への道</li> <li>14. メディアとの付き合い方を考える</li> <li>15. 春学期授業のまとめ</li> </ol> <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。</p> <p>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね。</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい *事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。		
テキスト、参考文献	*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	*提出物（レポート）60%、授業内での発表 & 発言40% *遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>*可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため）</li> <li>*↑をもとに、自分の考えを創り出す</li> <li>*自分の考えを他人に正確に伝える</li> <li>*他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。）</li> <li>*行動を起こす</li> </ul> </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&amp;担当箇所決定</li> <li>3-4. 3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較</li> <li>5-6. 日本のアニメと漫画</li> <li>7-8. 靖国問題</li> <li>9-10. 国の借金：本当に深刻なのか？</li> <li>11. 海外での和食の評価</li> <li>12-13. 沖縄の歴史</li> <li>14. これから日本はどう世界と関わっていくのか？</li> <li>15. 秋学期授業のまとめ</li> </ol> <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士で議論し、意見を発表していただくこともあります。</p> <p>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	*事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい *事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。		
テキスト、参考文献	*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介しします。必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	*提出物（レポート）60%、授業内での発表 & 発言40% *遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、<b>Reading</b>力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。</p> <p>期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 (ガイダンス)</li> <li>2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ①</li> <li>3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ②</li> <li>4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③</li> <li>5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④</li> <li>6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤</li> <li>7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」I</li> <li>8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」II</li> <li>9. 航空産業に関する英文記事の読解 ①</li> <li>10. 航空産業に関する英文記事の読解 ②</li> <li>11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③</li> <li>12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④</li> <li>13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」I</li> <li>14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」II</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習しておいて下さい。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしておいてください。		
テキスト、参考文献	プリントを使用		
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。		

09年度以降	メディア英語 I	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、<b>Reading</b>力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。</p> <p>期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 (ガイダンス)</li> <li>2. ツーリズムに関する英文記事の読解 ①</li> <li>3. ツーリズムに関する英文記事の読解 ②</li> <li>4. ツーリズムに関する英文記事の読解 ③</li> <li>5. ツーリズムに関する英文記事の読解 ④</li> <li>6. ツーリズムに関する英文記事の読解 ⑤</li> <li>7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」I</li> <li>8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」II</li> <li>9. 航空産業に関する英文記事の読解 ①</li> <li>10. 航空産業に関する英文記事の読解 ②</li> <li>11. 航空産業に関する英文記事の読解 ③</li> <li>12. 航空産業に関する英文記事の読解 ④</li> <li>13. 演習「LCCで行く海外旅行企画」I</li> <li>14. 演習「LCCで行く海外旅行企画」II</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習しておいて下さい。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしておいてください。		
テキスト、参考文献	プリントを使用		
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。		

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 I (金3)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの3大ネットワークのひとつ、CBSの“CBS Evening News” および“CBS This Morning” で取り上げられたニュースを収録したビデオを使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回1章ずつ扱う。不足する1回分については課題を課す。受講生は下記の3点を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必ず初回の授業に出席すること。</li> <li>2. 毎回、予習をして来ること。</li> <li>3. 内職はしないこと。</li> </ol>		<p>第1回 導入  第2回 海外から見た日本の給食  第3回 カリフォルニアはBYOB  第4回 犬を飼うと健康になる？  第5回 成長に合わせて大きくなる靴を子どもたちに  第6回 ネコで職場のストレス解消  第7回 デジタルコミックの隆盛  第8回 炭酸飲料と老化の関係  第9回 就活ではLike ボタンに気を付けて  第10回 座りっぱなしは身体に毒？  第11回 抹茶が大人気 その理由は？  第12回 アメリカのイクメン事情  第13回 神からの啓示で見知らぬ友を助ける  第14回 アメリカでラーメン人気上昇中  第15回 自転車の個人間貸し借り仲介ネットビジネス</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。		
テキスト、参考文献	『CBSニュースブレイク3』 成美堂 2017年		
評価方法	小テストの平均 90% 課題 10%		

09年度以降	メディア英語 I (金2)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1  2 Documentary (or article) #1  3 Essay or Presentation #1  4 Documentary (or article) #2  5 Documentary (or article) #2  6 Essay or Presentation #2  7 Documentary (or article) #3  8 Documentary (or article) #3  9 Essay or Presentation #3  10 Documentary (or article) #4  11 Documentary (or article) #4  12 Essay or Presentation #4  13 Final preparation  14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants		
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews.</p> <p>As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class		
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants		
評価方法	35% Bi- weekly Quizzes, 35% Homework, 30% Final Evaluation		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	関根 路代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、毎週、<i>The New York Times</i>から最新のニュース記事を読む。</p> <p>トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 担当の分担</p> <p>第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回の授業にて指示する。		
<b>評価方法</b>	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 II	担当者	関根 路代
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春に引き続きこの講義では、毎週、<i>The New York Times</i>から最新のニュース記事を読む。</p> <p>トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 担当の分担</p> <p>第3回～第14回 2回めの授業にて指示する。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回の授業にて指示する。		
<b>評価方法</b>	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)		

09年度以降	メディア英語 II (金2)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 配られた資料を予習		
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	メディア英語 II (金3)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの公共放送BBCのニュース映像を教材化した教科書を使って、テレビニュースで使われている生きた英語を学ぶ。毎回、予習をして来たことを確認するための単語テストを行い、その平均点で成績を付ける。主にリスニング力および語彙力の養成を目指す。授業はテキストに従って進める。原則、毎回1章ずつ扱う。不足する1回分については課題を課す。受講生は下記の3点を守ること。</p> <p>1. 必ず初回の授業に出席すること。</p> <p>2. 毎回、予習をして来ること。</p> <p>3. 内職はしないこと。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回 不揃いの野菜たちでフードロスを解消!</p> <p>第3回 子供たちのスポーツ離れを食い止める!</p> <p>第4回 住宅高騰でハウスポートが人気に</p> <p>第5回 ペットの糞をDNA鑑定へ</p> <p>第6回 世界初のハイブリッド気球、大空へ</p> <p>第7回 復活したワールドトレードセンタービル</p> <p>第8回 増加するホームスクーリング</p> <p>第9回 SNSで拒食症を克服した少女</p> <p>第10回 ロンドンの深刻な大気汚染</p> <p>第11回 高齢化なのに移民で人口増加?</p> <p>第12回 アイルランドで同性婚が合法に?</p> <p>第13回 飲酒の適量はどのくらい?</p> <p>第14回 地球温暖化を生き抜く南極ペンギンの1年</p> <p>第15回 イスラム系女性に英語必修化?</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語を調べ、問題をやっておく。事後に映像を繰り返し映像を観て、音読練習をする。		
テキスト、参考文献	『映像で学ぶイギリス公共放送の英語4』 金星堂 2017年		
評価方法	小テストの平均 90% 課題 10%		

09年度以降	シネマ英語（火3）	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるテーマと表現分析その1 第4回 テーマと表現分析その2 およびグループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現分析その3 およびグループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現分析その4 およびグループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テストと発表テーマ確認 第8～10回 学生プレゼンテーションの内容確認 第11～14回 プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火3）	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダーテーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 およびグループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 およびグループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 およびグループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第8～10回 プレゼンテーション内容チェック 第11～14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火4）	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるテーマと表現分析その1 第4回 テーマと表現分析その2 およびグループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現分析その3 およびグループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現分析その4 およびグループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テストと発表テーマ確認 第8～10回 学生プレゼンテーションの内容確認 第11～14回 プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語（火4）	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜3、4時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダーテーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 およびグループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 およびグループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現 分析その4 およびグループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第8～10回 プレゼンテーション内容チェック 第11～14回 学生プレゼンテーションとコメント 第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリント配布		
<b>評価方法</b>	分析コメント20%、ワークシート30%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

09年度以降	シネマ英語	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will involve students in discussion on a range of topics, and introduce them to a wide variety of spoken natural English through the medium of film. Students will develop active watching and listening skills by watching different film genres and listening to the variety of accents and colloquial English. Students will also learn how to interpret non-verbal communications, including music.</p> <p>We will explore various story-telling devices, consider how different cultures are depicted in the movie industry and explore some of the main themes and genres of movies.</p> <p>Students will be required to read and write a movie review and do a poster presentation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Story-telling</li> <li>3. From book to screen</li> <li>4. Character Development</li> <li>5. Silent Movies - interpreting non-verbal communication</li> <li>6. Exploring sound and music</li> <li>7. Role play and script-writing</li> <li>8. The Block Buster – understanding movie reviews</li> <li>9. Gender issues</li> <li>10. Cultural issues</li> <li>11. Exploring new film genres – movie review due</li> <li>12. The trailer</li> <li>13. Poster presentation preparations</li> <li>14. Poster presentations</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required to view specified video before lessons and complete homework assignments. They will be required to write a movie review and make a poster presentation.		
テキスト、参考文献	No text is required for this course. All materials will be provided by the lecturer.		
評価方法	In-class participation 40%; poster presentation 30%; movie review 30%		

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期では、様々なジャンルの映画（「SF」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士で議論し、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画1本をノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで) 割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思えます。</p> <p>それでは、熱意ある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 『GHOST IN THE SHELL/ 攻殻機動隊』(1995)</li> <li>3. <i>The Matrix</i> (1999): 他メディアからの影響も検証する</li> <li>4. <i>Star Wars IV</i>(1977): 神話学者曰く「現代の神話」</li> <li>5. <i>Gattaca</i> (1997): 自然出産者 vs デザイナーベイビー</li> <li>6. <i>Slumdog Millionaire</i> (2008): インドの現実?</li> <li>7. <i>Invictus</i> (2009): 南アフリカでのスポーツと政治</li> <li>8. <i>Ten Commandments</i> (1956): 十戒を学んでみよう</li> <li>9. <i>The Truman Show</i> (1998): メディアに操られる世界</li> <li>10. <i>Chicago</i> (2002): 殺人事件も娯楽になる?</li> <li>11. <i>Moulin Rouge!</i> (2001): ラブソングの変遷を追う</li> <li>12. <i>The Bucket List</i> (2007): 死ぬ前にやりたいこと</li> <li>13. <i>Dead Poet Society</i> (1989): 「いまを生きる」とは?</li> <li>14. 議論の時間</li> <li>15. 春学期授業のまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	<p>* 事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。</p> <p>* 事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。</p>		
テキスト、参考文献	* 適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	<p>* 提出物 (レポート) 80%、授業の参加度 20%</p> <p>* 遅刻 3回 (30分以内) で1回の欠席と換算します。欠席 5回した時点で単位取得が不可能になります。</p> <p>* レポート未提出は自動的にF評価になります。</p>		

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期では名優たちの映画&amp;ドラマを取り上げます。授業では映画&amp;ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画&amp;ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&amp;ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画1本をノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで) 割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思えます。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、講義&amp;ディスカッション</li> <li>3. <i>Rain Man</i> (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise</li> <li>4. <i>Blade Runner</i> (1982): Harrison Ford</li> <li>5. <i>Indiana Jones and the Last Crusade</i> (1989): Harrison Ford</li> <li>6. <i>One Flew Over the Cuckoo's Nest</i> (1975): Jack Nicholson</li> <li>7. <i>The Devil Wears Prada</i> (2006): Meryl Streep</li> <li>8. <i>Patch Adams</i> (1998): Robin Williams</li> <li>9. <i>Roman Holiday</i> (1953): Audrey Hepburn</li> <li>10. <i>The Shawshank Redemption</i> (1994): Morgan Freeman</li> <li>11. <i>The Great Dictator</i> (1940): Charlie Chaplin</li> <li>12. <i>Good Will Hunting</i> (1997): Matt Damon, Robin Williams</li> <li>13. <i>Friends</i> (1994-2004): Jennifer Aniston, etc.</li> <li>14. 議論の時間</li> <li>15. 後期授業のまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	<p>* 事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。</p> <p>* 事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。</p>		
テキスト、参考文献	* 適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。必要な場合は、印刷して配布します。		
評価方法	<p>* 提出物 (レポート) 80%、授業の参加度 20%</p> <p>* 遅刻 3回 (30分以内) で1回の欠席と換算します。欠席 5回した時点で単位取得が不可能になります。</p> <p>* レポート未提出は自動的にF評価になります。</p>		

09年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関する複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関する基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。</p> <p>講義では、まずツーリズムに関する基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？</li> <li>2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理</li> <li>3、ツーリズムの歴史</li> <li>4、ツーリズムを支える諸産業①</li> <li>5、ツーリズムを支える諸産業②</li> <li>6、ツーリズムと情報／メディア</li> <li>7、ツーリストのまなざし論</li> <li>8、ツーリストと観光行動</li> <li>9、ツーリズムとオーセンティシティ</li> <li>10、ツーリズムの経済効果</li> <li>11、ツーリズムの社会的文化的インパクト①</li> <li>12、ツーリズムの社会的文化的インパクト②</li> <li>13、観光地計画と観光政策①</li> <li>14、観光地計画と観光政策②</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際ツーリズムに関して専門知識を習得し、経済、社会、文化、教育、環境などの分野における影響や変化について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	前田勇編著『新現代観光総論』学文社 岡本伸之編『観光学入門』有斐閣 大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版 ※すべて参考文献		
<b>評価方法</b>	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

16年度以降 15年度以前	国際ツーリズム各論（アメリカの国立公園と環境教育） 特別セミナー（国際ツーリズム各論）	担当者	増田 由香子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカの国立公園は観光の目的地であり、国内や海外から多くのビジターが訪れる人気スポットです。全米で400カ所以上ある公園には800カ所以上のビジターセンターや魅力的なレンジャープログラムがあり、ハード面のみならずソフト面のコンテンツが充実しています。</p> <p>また国立公園は観光だけでなく、アメリカの貴重な「自然や文化歴史資源の保護保全」の役割を担い、「環境教育」や「インタープリテーション」の現場でもあります。</p> <p>本講義ではアメリカの国立公園の概念や基礎知識、環境教育とインタープリテーションについての概念や基礎知識を理解・習得し、なぜ国立公園が「America's best idea」と称されるのか、課題プレゼンテーションやグループディスカッションを通して考察します。履修者の主体的な授業への参加が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション&amp;オリエンテーション</li> <li>2. アメリカの国立公園の歴史・理念・組織①</li> <li>3. アメリカの国立公園の歴史・理念・組織②</li> <li>4. アメリカの国立公園の魅力と特徴①</li> <li>5. アメリカの国立公園の魅力と特徴②</li> <li>6. 自然保護と環境教育（インタープリテーション）①</li> <li>7. 自然保護と環境教育（インタープリテーション）②</li> <li>8. 国立公園のブランディングとエコツーリズム①</li> <li>9. 国立公園のブランディングとエコツーリズム②</li> <li>10. 課題のオリエンテーション</li> <li>11. プレゼンテーション①</li> <li>12. プレゼンテーション②</li> <li>13. プレゼンテーション③</li> <li>14. グループディスカッション</li> <li>15. 講義全体のまとめと試験について</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	「国際ツーリズム論」で得た知見を深め、国際ツーリズムにおける諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業内で資料など適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	平常点 50%（従業への参加度、授業中に課す小レポートの提出などを含む） 定期試験（またはレポート）50% ただし、欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、評価対象とはしない。		

16年度以降 15年度以前	世界ブランド論 特別セミナー（世界ブランド論）	担当者	水本 義彦 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの暮らす社会では、いつの時代にも言語、宗教、国境の壁を越え、世界の人々を魅了するモノや文化が生まれてきました。こうした世界の人々に憧れられ、愛され続けてきたものを、私たちは「世界ブランド」として認知しています。</p> <p>本講義では英語学科教員がリレー形式で、さまざまな分野の「世界ブランド」の創生、興亡の物語を論じていきます。一般的に「ブランド商品」として知られている宝飾品、ファッションに加え、金融、アニメーション、音楽、IT分野で世界ブランド化した人物や企業などに注目し、その独創的なアイデアと戦略、成功と苦難の過程を学びます。今日急速に進展するグローバル化の現象は、国境と文化を超えた新たなブランドの創造過程でもあります。「世界ブランド」の考察を通して、われわれが暮らす現代世界の実相に迫ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ブランドの誕生①：Lヴィトン、ティファニー、トワイニング</li> <li>2 ブランドの誕生②：ファッション、ツーリズム、エアライン、ホテル</li> <li>3 アニメとブランド①：ディズニー映画</li> <li>4 アニメとブランド②：ジブリ映画</li> <li>5 最強の金融機関：ゴールドマン・サックス</li> <li>6 ユダヤ系投資銀行の興亡</li> <li>7 広告コミュニケーション①：香水のブランド戦略</li> <li>8 広告コミュニケーション②：PCのブランド戦略</li> <li>9 究極のブランド対決①：人類 vs. 人工知能</li> <li>10 究極のブランド対決②：人類 vs. 人工知能</li> <li>11 世界ニセブランド論</li> <li>12 ロック・ミュージックのブランド①：The Beatles</li> <li>13 ロック・ミュージックのブランド②：Bob Dylan</li> <li>14 セシル・ローズ：デビアス、ローズ奨学金制度</li> <li>15 総括</li> </ol>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界ブランドに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員が紹介する文献等の講読		
テキスト、参考文献	特に指定しない。		
評価方法	各担当教員による小テストの成績を集計して、総合評価を決定する。		

16年度以降 15年度以前	ポップカルチャー・スタディーズ コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ウォルト・ディズニーおよび彼が興したエンターテインメント企業は、後世に残る数々のアニメ映画作品を世に送り出してただけでなく、それらを核として、壮大なディズニー文化を築いてきた。これは、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものである。</p> <p>この授業では、20世紀初めから半ばまでのディズニーの歴史をたどりながら、その文化の諸相を、スケプティカルな視点から考察していくものとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 「蒸気船」ウィリー</li> <li>3. 「シリー・シンフォニー」のシリーズ</li> <li>4. 初の長編アニメーションへの挑戦</li> <li>5. リアリズムとマルチ・プレーンカメラ</li> <li>6. リアリズムと実写映像</li> <li>7. リアリズムと特殊効果</li> <li>8. 『ピノキオ』と人間至上主義</li> <li>9. 戦争と労働争議</li> <li>10. ウォルトのイデオロギーと戦時協力映画</li> <li>11. 『ダンボ』と黒人差別問題</li> <li>12. 更なるリアリズムの追求：『バンビ』</li> <li>13. カルト映画『ふしぎの国のアリス』</li> <li>14. 先住民の扱い『ピーターパン』と『ポカホンタス』</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができないポップカルチャーに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくことが望ましい。また、20世紀のアメリカ史について、基本的事項は繰り返し確認しておくべきである。また、授業内容について、十分な復習が必要である。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中適宜紹介する		
評価方法	欠席回数が4回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。		

16年度以降 15年度以前	フィルム・スタディーズ コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ディズニー映画の好き嫌いを問うと、多くの学生が「好き」という答えを返してくれる。しかし、さらにその理由を問うと、キャラクターが「かわいいから」という表面的な思いをこえた考えが聞き出せないこともまた多い。この授業では、20世紀半ばから現在までに公開されたディズニーのアニメ映画—主として「ディズニー・クラシックス」と称される一連の長編映画—を、さまざまな変化や、背景にあるものを考えながら辿っていく。受講者には、例えばシンデレラとラプンツェルを比較しアカデミックなコメントができる基礎知識とスケプティカルな姿勢を身につけて欲しい。</p> <p>50年代以降急速に拡大した他部門（実写、TV番組、テーマパーク等）など、アニメ映画と不可分の周辺文化についても、当然詳しく扱っていくものとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 困難を乗り越える結婚：種の境界を越える</li> <li>3. 困難を乗り越える結婚：身分を越える</li> <li>4. 育ちか、生まれか：『王様の剣』『ジャングルブック』</li> <li>5. 育ちか、生まれか：『ポカホンタス』と『アナ雪』</li> <li>6. 暗黒の時代：ウォルト亡き後の作品</li> <li>7. ディズニーを救えキャンペーン</li> <li>8. 経営交代と新生ディズニーの発足</li> <li>9. ディズニーの第2黄金期</li> <li>10. アレン・メンケンとハワード・アシュマン</li> <li>11. 新しい幸せの定義：『アナ雪』</li> <li>12. 戦う女の子：『ムーラン』他</li> <li>13. 女同士の友情</li> <li>14. ローカライゼーション：テーマパークを事例に</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない映画などに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくことが望ましい。また、20世紀のアメリカ史について、基本的事項は繰り返し確認しておくべきである。また、授業内容について、十分な復習が必要である。		
テキスト、参考文献	テキスト：なし 参考文献：授業中適宜紹介する		
評価方法	欠席回数が4回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。		

16年度以降 15年度以前	海外留学と国際理解 特別セミナー（海外留学と国際理解）	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は、原則として英語で行います。教材・資料の約8割は英語、約2割は日本語です。アクティブ・ラーニングの手法を用いますので、活発な授業参加が必須です。】</p> <p>This course is designed to help students to generate both a concrete and conceptual understanding of studying at a foreign university. Grounded in recent scholarship in educational and intercultural studies, this course provides students with opportunities to <i>reflect</i> on their recent or future study abroad experience and to <i>develop</i> further their intercultural competence through many collaborative activities. Topics to be covered include: goals and motivation; academic challenges; making local friends; discrimination; identity and agency; personal growth; life after study abroad; and Japanese universities in the global context.</p> <p>This course is highly recommended to students who have already studied at a foreign university or students who have a keen interest in study abroad. The workload is heavy and comparable to an international standard.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course</li> <li>2. Why study abroad?</li> <li>3. The Colonial Student in the 21st century</li> <li>4. Different cultures of learning</li> <li>5. Bioecological model of human development</li> <li>6. Culture shock and adjustment</li> <li>7. Study abroad as self-formation</li> <li>8. Intercultural relationship development</li> <li>9. Prejudice and discrimination</li> <li>10. Intercultural competence and employability</li> <li>11. Life after study abroad</li> <li>12. Japanese higher education in the global context</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol> <p>【受講生は毎週の課題として、5,000語程度の英語論文を読み、200語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基にさまざまな学習活動が展開されます。】</p>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない海外留学と国際理解に関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, Weekly essays 30%, group research presentation 30% and exam 30%		

16年度以降 15年度以前	ステージ・パフォーマンス 特別セミナー（ステージ・パフォーマンス）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的— 英米の舞台ミュージカル台本の抜粋（英文）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういふふうを示されているかについて考察する。</p> <p>英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品をとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。</p> <p>実際に劇場に観に行き、ミュージカルは楽しいステージ・パフォーマンスであることを知り、舞台芸術への理解を深める。</p> <p>講義概要— West End や Broadway で話題の作品の台本（抜粋英文プリント）を精読する。映像化された作品がある場合は、その一部を教室で上映する。</p> <p>日本語に翻訳した台本を音読するパフォーマンスを、実施する。</p> <p>注意事項— テキストの英文は TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力が前提です。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ミュージカル作品 1</li> <li>3. ミュージカル作品 2</li> <li>4. ミュージカル作品 3</li> <li>5. ミュージカル作品 4</li> <li>6. ミュージカル作品 5</li> <li>7. ミュージカル作品 6</li> <li>8. ミュージカル作品 7</li> <li>9. ミュージカル作品 8</li> <li>10. ミュージカル作品 9</li> <li>11. ミュージカル作品 10</li> <li>12. ミュージカル作品 11</li> <li>13. ミュージカル作品 12</li> <li>14. ミュージカル作品 13</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>作品例— <i>Cats</i>, <i>The Phantom of the Opera</i>, <i>Les Misérables</i>, <i>Singin' in the Rain</i>, <i>West Side Story</i>, <i>The Sound of Music</i>, <i>Hairspray</i>, <i>Rent</i>, <i>My Fair Lady</i>, <i>Once</i> など。 *実際に上演される作品がある場合は、上記の作品をその作品に変更する場合があります。</p>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができないステージ・パフォーマンスに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。		
テキスト、参考文献	英米の劇作品の台本抜粋（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
評価方法	毎回の vocabulary と comprehension のテストで50%、ステージ・レポート（700～800字）2編で50%。レポートは2編必修。2編提出しない場合、授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めない。学期末定期試験はなし。		

16年度以降 15年度以前	Global Studies 1 特別セミナー (Global Studies 1)	担当者	J. ハレスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(American Poetry)</p> <p>In this course we will study major movements in twentieth century American poetry. Based in the close reading of poems, we will examine aesthetic and formal concerns within the poems as well as how these poems connect to larger social and literary movements. Students will develop an understanding of the major forces in American poetry and develop their skills in close reading and academic writing. Additionally, this course seeks to share a love of reading poetry as a means of engaging with our emotional lives.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Pastoral</li> <li>3. Imagism</li> <li>4. Imagism</li> <li>5. Poetics of Empowerment</li> <li>6. Poetics of Empowerment</li> <li>7. Urban Spaces</li> <li>8. Urban Spaces</li> <li>9. Recitation</li> <li>10. EcoPoetics</li> <li>11. EcoPoetics</li> <li>12. Innovations in Language, Form, Process</li> <li>13. Innovations in Language, Form, Process</li> <li>14. California Voices</li> <li>15. California Voices</li> </ol>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Each week, students will closely read the assigned poems before class and write a reflection on the assigned reading in their journal.		
テキスト、参考文献	Rita Dove, ed. <i>The Penguin Anthology of 20th Century American Poetry</i> . New York: Penguin Books, 2011. We will also refer to online poetry archives.		
評価方法	Presentation and Participation (15%). Close reading papers (30%). Final research paper (30%). Learning Journal (25%)		

16年度以降 15年度以前	Global Studies 2 特別セミナー (Global Studies 2)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Prejudice and discrimination in contemporary Japan)</p> <p>【本科目を受講するためには、最低でも TOEFL-iBT61 以上、TOEFL-ITP500 以上、IELTS6.0 以上、TOEIC700 以上、実用英語技能検定英検準 1 級以上の英語力が必要です。】</p> <p>This course is designed to help students to develop both a concrete and conceptual understanding of prejudice and discrimination in contemporary Japan. Drawing on the literature of intercultural/intergroup contact, this course provides students with opportunities to <i>feel</i> the world of persons who are subjected to prejudice as well as to <i>analyze</i> its psycho-social dimensions. Students are also invited to the world of the ‘Human Library’, in which they will listen informally to people susceptible to prejudice in society (e.g. people with disabilities, sexual minorities, refugees, disaster victims) in order to gain different perspectives on prejudice and life in general. This course is highly recommended to students who want to (re)discover Japan from a co-cultural perspective and with global implications, and more importantly, to discover their unknown self through dialogue.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Getting better acquainted</li> <li>3. (Post-)multicultural perspective of Japan</li> <li>4. The nature of prejudice and discrimination</li> <li>5. Case study 1: Coming out in Japan</li> <li>6. Case study 2: Lessons from the Fukushima survivors</li> <li>7. Case study 3: Adjunct instructors of English in Japan</li> <li>8. The reduction of prejudice</li> <li>9. Theory of listening</li> <li>10. The Human Library: Missions and operations</li> <li>11. The Human Library: Theoretical issues</li> <li>12. (Anti-)multiculturalism in Japan</li> <li>13. Group presentation 1</li> <li>14. Group presentation 2</li> <li>15. Wrap up</li> </ol> <p><b>* This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to an international standard.</b></p>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including a group research presentation.		
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
評価方法	Contribution to the class 10%, Ten weekly essays 30%, group research presentation 30% and exam 30%		

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英国スパイ・アクション映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<p>1 スパイ映画「007 スカイフォール」世界のいま</p> <p>2 同上</p> <p>3 スパイ映画「007」—1990年代の世界</p> <p>4 スパイ映画「007」—1990年代の世界</p> <p>5 同上</p> <p>6 スパイ映画「007」—1980年代の世界</p> <p>7 スパイ映画「007」—1980年代の世界</p> <p>8 同上</p> <p>9 スパイ映画「007」—1970年代の世界</p> <p>10 同上</p> <p>11 スパイ映画「007」—1960年代の世界</p> <p>12 スパイ映画「007」—1960年代の世界</p> <p>13 同上</p> <p>14 原作者イアン・フレミングの世界</p> <p>15 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」</p>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	『グローバル社会論資料集』		
<b>評価方法</b>	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英国スパイ・アクション映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<p>1 スパイ映画「007 スカイフォール」世界のいま</p> <p>2 同上</p> <p>3 スパイ映画「007」—1990年代の世界</p> <p>4 スパイ映画「007」—1990年代の世界</p> <p>5 同上</p> <p>6 スパイ映画「007」—1980年代の世界</p> <p>7 スパイ映画「007」—1980年代の世界</p> <p>8 同上</p> <p>9 スパイ映画「007」—1970年代の世界</p> <p>10 同上</p> <p>11 スパイ映画「007」—1960年代の世界</p> <p>12 スパイ映画「007」—1960年代の世界</p> <p>13 同上</p> <p>14 原作者イアン・フレミングの世界</p> <p>15 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」</p>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	『グローバル社会論資料集』		
<b>評価方法</b>	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体制</li> <li>3 行為主体 (2) 国際組織</li> <li>4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業</li> <li>5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み</li> <li>6 地域主義・地域協力 (2) ASEAN</li> <li>7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟</li> <li>8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範</li> <li>9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和構築</li> <li>10 人間の安全保障</li> <li>11 グローバリゼーションとは何か</li> <li>12 グローバル・イシューズ (1) 貧困</li> <li>13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題</li> <li>14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の講読		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回講義で参考文献リストを配布する		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、試験 80%		

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体制</li> <li>3 行為主体 (2) 国際組織</li> <li>4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業</li> <li>5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み</li> <li>6 地域主義・地域協力 (2) ASEAN</li> <li>7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟</li> <li>8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範</li> <li>9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和構築</li> <li>10 人間の安全保障</li> <li>11 グローバリゼーションとは何か</li> <li>12 グローバル・イシューズ (1) 貧困</li> <li>13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題</li> <li>14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の講読		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回講義で参考文献リストを配布する		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、試験 80%		

09年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。</p> <p>多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。</p> <p>本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植して、6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス(英帝国、英連邦)やアメリカ、アジア地域(日本や中国、東南アジア)との関係性の中で振り返って行く。</p> <p>本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。</p>		<p>第1回:イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義</p> <p>第2回:植民地オーストラリア①～植民地の誕生</p> <p>第3回:植民地オーストラリア②～植民地の発展</p> <p>第4回:大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国のなかのオーストラリア</p> <p>第5回:大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア</p> <p>第6回:ゴールドラッシュと白豪主義政策</p> <p>第7回:多文化主義社会オーストラリア</p> <p>第8回:講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第9回:20世紀初頭の戦争とオーストラリア～「二つのナショナリズム」</p> <p>第10回:20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神</p> <p>第11回:20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会</p> <p>第12回:第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論</p> <p>第13回:2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ</p> <p>第14回:対日講和問題とオーストラリア</p> <p>第15回:総括と質疑応答</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト:永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献:講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布		
<b>評価方法</b>	不定期に実施する数回の小テストの実施(30%)と学期末の定期試験(70%)による評価。		

09年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それに関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。</p> <p>本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。</p>		<p>第1回:イントロダクション～オーストラリア外交を見る眼</p> <p>第2回:チフリー労働党政権の外交～新たな国際関係構築の模索</p> <p>第3回:アンザス同盟の実現</p> <p>第4回:冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機</p> <p>第5回:冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」</p> <p>第6回:冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」</p> <p>第7回:ポストベトナムのオーストラリア外交</p> <p>第8回:講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第9回:冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」</p> <p>第10回:ミドルパワー外交①その定義</p> <p>第11回:ミドルパワー外交②その実践</p> <p>第12回:アジア太平洋地域の経済統合</p> <p>第13回:日豪関係の歴史的展開①～戦後から70年代</p> <p>第14回:日豪関係の歴史的展開②～80年代以降</p> <p>第15回:21世紀オーストラリア外交の行方&amp;質疑応答</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト:永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。 参考文献:講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布		
<b>評価方法</b>	不定期に実施する数回の小テストの実施(30%)と学期末の定期試験(70%)による評価。		

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリー a 国際関係特殊講義 a	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦 (The Cold War)」の展開を考察する。</p> <p>春semesterでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>※重複履修不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開</li> <li>3 ヨーロッパ冷戦の起源</li> <li>4 ヨーロッパ分断体制の形成（1）</li> <li>5 ヨーロッパ分断体制の形成（2）</li> <li>6 「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ</li> <li>7 ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ</li> <li>8 冷戦構造の多極化とデタント</li> <li>9 米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント</li> <li>10 デタントの崩壊</li> <li>11 新冷戦とヨーロッパ</li> <li>12 冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命</li> <li>13 冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊</li> <li>14 冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を講義の事前・事後に読むこと		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回講義で参考文献リストを配布する		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、定期試験 80%		

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリー b 国際関係特殊講義 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。</p> <p>秋semesterでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>※重複履修不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争</li> <li>3 大戦の終結と占領：日本帝国の解体</li> <li>4 朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容</li> <li>5 脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア</li> <li>6 脱植民地化（2）：中東</li> <li>7 非同盟・中立運動</li> <li>8 アジア冷戦における中ソ対立</li> <li>9 ベトナム戦争</li> <li>10 米中和解</li> <li>11 1970年代の地域紛争</li> <li>12 新冷戦とアジア</li> <li>13 経済発展と民主化</li> <li>14 冷戦の終焉とアジア</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	初回講義で参考文献リストを配布する。		
<b>評価方法</b>	平常点 20%、定期試験 80%		

09年度以降	国際開発論	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。</p> <p>シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。</p> <p>常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。</p> <p>ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 世界のエアライン・ホテル・リゾート</li> <li>2 世界のエアライン：TOP 10</li> <li>3 世界のエアライン：TOP 10</li> <li>4 世界のエアライン：ランキングで見る特色</li> <li>5 世界のエアライン：ランキングで見る特色</li> <li>6 世界の国際空港 エアポート：TOP 10</li> <li>7 海洋リスク</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く</li> <li>11 世界のホテル</li> <li>12 世界のホテル</li> <li>13 世界のホテル</li> <li>14 日本のツーリズム：JTB、国際観光ホテル、東京</li> <li>15 日本のツーリズム：JTB、国際観光ホテル、東京</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う映画・ビデオ映像の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。		
<b>評価方法</b>	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

09年度以降	国際協力論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。</p> <p>第2の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考え、さらにMDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。</p> <p>第3の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代における開発のトレンドを探りつつ、新たな国際協力の方向性や課題について考察します。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション ＜国際協力の歴史＞</li> <li>2. 植民地時代の「国際協力」</li> <li>3. 冷戦時代の国際協力</li> <li>4. 戦後日本の国際協力</li> <li>5. ポスト冷戦時代の国際協力 ＜開発途上国の開発と国際協力＞</li> <li>6. 経済開発の基本形と途上国の実態</li> <li>7. 高度経済成長の要因と弊害</li> <li>8. 経済発展と民主化のジレンマ</li> <li>9. 国際援助レジームとその実績</li> <li>10. ミレニアム開発目標（MDGs）とSDGs ＜グローバル化時代の開発と国際協力＞</li> <li>11. 開発途上国にとってのグローバル化</li> <li>12. 南北問題の複雑化と中国の「国際協力」</li> <li>13. 環境問題と国際協力</li> <li>14. イスラムと国際協力</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるなので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

09年度以降	国際交流論	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。</p> <p>授業は2つのパートから構成されます。前半のパート1では異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパート2では、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果と課題を考えます。</p> <p>受講者数にもよりますが、可能な範囲で小グループによるディスカッションも取り入れます。</p> <p>将来に向けて、国際交流力を付けたいと考えているやる気のある学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際交流の変遷と多様化</li> <li>3. 多文化の世界を考える(1)</li> <li>4. 多文化の世界を考える(2)</li> <li>5. 異文化との交流を考える(1)</li> <li>6. 異文化との交流を考える(2)</li> <li>7. 異文化との交流を考える(3)</li> <li>8. 異文化との交流を考える(4)</li> <li>9. 国際交流：政府及び地域の国際交流</li> <li>10. 国際協力：政府開発援助（開発協力）の活動</li> <li>11. 国際協力：青年海外協力隊（JOCV）の活動</li> <li>12. 国際協力：開発コンサルタントの仕事</li> <li>13. 国際協力：国際公務員（国際機関）の仕事</li> <li>14. 講義のまとめ (1)</li> <li>15. 講義のまとめ (2)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいくコミュニケーションの技術』（仮タイトル）（同文館、2017年4月） 参考文献：石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016年）		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、授業内レポート 20%		

09年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援におけるODAやNGOの役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODAの新たなトレンドと課題を探ります。</p> <p>第2の「NGOの役割と課題」ではNGOの歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発とNGOの関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。また、日本のNGOにも注目し、その実績と課題を検討します。</p> <p>最後に、「国際協力の新たなテーマとNGO」として、近年注目されている幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助のあり方について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO ＜開発援助の仕組みと展開＞</li> <li>2. ODAの仕組みとトレンド</li> <li>3. 日本のODAの特徴</li> <li>4. 日本の援助実績</li> <li>5. 開発援助の問題点</li> <li>6. ODAの課題と改革 ＜NGOの役割と課題＞</li> <li>7. 国際援助の新たなトレンドとNGO</li> <li>8. NGOの定義と歴史的経緯</li> <li>9. NGOの機能と途上国での役割</li> <li>10. 開発とNGO：ケーススタディ・バングラデシュ</li> <li>11. 日本における市民活動の歴史と国際協力NGO</li> <li>12. 日本の国際協力NGOの実績と課題 ＜国際協力の新たなテーマとNGO＞</li> <li>13. マイクロクレジットという方法</li> <li>14. ジェンダー問題と開発</li> <li>15. 仕事としての国際協力-NGOで働く</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降 12年度以前	国際リスク・海洋論 国際関係特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。</p> <p>毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げます。授業の後半では、テキストを参照して、知識を獲得します。</p> <p>この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。</p> <p>(注意) 既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済みの場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」</li> <li>2 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」</li> <li>3 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」</li> <li>4 英雄としての海賊</li> <li>5 同上</li> <li>6 映画「エリザベス&lt;ゴールデン・エイジ&gt;」 女王と側近ウォルシンガム、ローリー</li> <li>7 海洋覇権のゆくえ——パイレーツの役割</li> <li>8 スパイス争奪戦——パイレーツの「東インド会社」</li> <li>9 スパイス争奪戦</li> <li>10 ディズニー映画「カリブの海賊&lt;ワールド・エンド&gt;」 シンガポール、「東インド貿易会社」</li> <li>11 コーヒーから「午後の紅茶」へ</li> <li>12 コーヒーから「午後の紅茶」へ</li> <li>13 ディズニー映画「カリブの海賊 &lt;生命の泉&gt;」</li> <li>14 ディズニー映画「カリブの海賊 &lt;生命の泉&gt;」</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際紛争、海洋問題に関して専門知識を習得し、その解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。		
<b>評価方法</b>	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。		

09年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係(構造やプロセス)と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。</p> <p>講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係(冷戦)がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。</p> <p>イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体(を考へること)が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション(本講義の目的と概要)</li> <li>2. 国際政治と帝国・脱植民地化①</li> <li>3. 国際政治と帝国・脱植民地化②</li> <li>4. 国際政治と帝国・脱植民地化③</li> <li>5. 国際政治と帝国・脱植民地化④</li> <li>6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤</li> <li>7. 前半の授業のまとめと質疑応答</li> <li>8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生(その1)</li> <li>9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生(その2)</li> <li>10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編(その1)</li> <li>11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編(その2)</li> <li>12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展(その1)</li> <li>13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展(その2)</li> <li>14. イギリス帝国の解体、脱植民地化(総論)</li> <li>15. 授業の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。		
<b>評価方法</b>	リアクションペーパーの提出(40%)と学期末試験(論述形式、60%)による。		

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。</p> <p>講義は3つのパートから構成されます。まず、パート1で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート2で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート3では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン(ミンダナオ)等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 紛争の歴史と変容</li> <li>3. 冷戦後の新しい紛争(1)</li> <li>4. 冷戦後の新しい紛争(2)</li> <li>5. 平和のための国際機構(1)</li> <li>6. 平和のための国際機構(2)</li> <li>7. 平和のための法</li> <li>8. 人間の安全保障の考え方(1)</li> <li>9. 人間の安全保障の考え方(2)</li> <li>10. 軍事介入(保護する責任)</li> <li>11. 人道援助</li> <li>12. 開発援助(開発協力)</li> <li>13. 開発援助(開発協力)の事例研究</li> <li>14. 講義のまとめ(1)</li> <li>15. 講義のまとめ(2)</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜、授業の中で紹介します。		
<b>評価方法</b>	定期試験 100%		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナー a 国際関係文献研究 a	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業では、「人間の安全保障 (human security)」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて各国の学者による論文を読み解きながら、理解を深めていくことを目的とします。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。</li> <li>2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。</li> </ol> <p>授業の流れは以下のとおり。プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には5分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。東アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等</li> <li>2. Introduction:人間の安全保障にかかる講義 1</li> <li>3. Introduction:人間の安全保障にかかる講義 2</li> <li>4. Human security in Japan</li> <li>5. Human security in Cambodia 1</li> <li>6. Human security in Cambodia 2</li> <li>7. Human security in Indonesia 1</li> <li>8. Human security in Indonesia 2</li> <li>9. Human security in Malaysia 1</li> <li>10. Human security in Malaysia 2</li> <li>11. Human security in Myanmar 1</li> <li>12. Human security in Myanmar 2</li> <li>13. Review of the studied papers</li> <li>14. 課題スピーチ</li> <li>15. 課題スピーチ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。		
<b>テキスト、参考文献</b>	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience” 詳細については、最初の授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度 85%。課題スピーチ 15%		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナー b 国際関係文献研究 b	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業では、「人間の安全保障 (human security)」のコンセプトの基礎を理解した上で、東アジア各国において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて各国の学者による論文を読み解きながら、理解を深めていくことを目的とします。授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語または日本語のプレゼンテーションとグループ討論（場合によっては全体討論）形式で進めます。</li> <li>2. 学年混合の主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。</li> </ol> <p>授業の流れは以下のとおり。プレゼン内容（対象国・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループまたは全体での討論・まとめ。学期の最後には5分間の課題スピーチ。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。東アジア各国の情勢に関心のある学生の参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のオリエンテーション、グループ編成等</li> <li>2. 人間の安全保障にかかる概念レビュー</li> <li>3. ASEAN 各国の人間の安全保障レビュー（カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー）</li> <li>4. Human security in Philippines 1</li> <li>5. Human security in Philippines 2</li> <li>6. Human security in Singapore 1</li> <li>7. Human security in Singapore 2</li> <li>8. Human security in Thailand 1</li> <li>9. Human security in Thailand 2</li> <li>10. Human security in Vietnam 1</li> <li>11. Human security in Vietnam 2</li> <li>12. Human security in South Korea</li> <li>13. Human security in China</li> <li>14. 課題スピーチ</li> <li>15. 課題スピーチ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイントを含む）を行います。学期の最後には個人に与えられる課題スピーチを行います。		
<b>テキスト、参考文献</b>	JICA 研究所のワーキング・ペーパー・シリーズ “Human Security in Practice: East Asian Experience” 詳細については、最初の授業で説明します。		
<b>評価方法</b>	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業内討論への貢献度 85%。課題スピーチ 15%		

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナー b 国際関係文献研究 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>政治リスクに関する調査会社「ユーラシア・グループ (Eurasia Group)」が毎年1月に発表する国際政治情勢予測『重大リスク (Top Risks)』の2016年版と2017年版を読み、国際情勢の理解を深めることを目的とする。15年度版ではヨーロッパの政治情勢が最大のリスクであると予測し、実際にその年には、ギリシャの債務危機が発生、またテロや移民問題が深刻化し、ヨーロッパは不安定化した。</p> <p>本講義で取り上げる16年版では、最大リスクは「同盟の空洞化」であるとし、ヨーロッパの情勢不安定とアメリカの単独主義的スタンスによって同盟関係が損なわれ、国際安全保障システム全体が大きく揺らぐとしていたが、果たして実際にはどうであったのか、出席者と考えてみたい。また17年版では、「単独主義的傾向を強めるアメリカ」が最大リスクとされている。本講義実施時 (17年秋) ごろには、この点についても一定程度の評価が可能になっているであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方に関するオリエンテーション</li> <li>2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読①</li> <li>3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読②</li> <li>4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③</li> <li>5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④</li> <li>6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤</li> <li>7. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥</li> <li>8. 前半の総括と質疑応答</li> <li>9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦</li> <li>10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧</li> <li>11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨</li> <li>12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩</li> <li>13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪</li> <li>14. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑫</li> <li>15. 全体総括と質疑応答</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Ian Bremmer & Cliff Kupchan, <i>Top Risks 2016 &amp; 2017</i> , Eurasia Group. 16年版はポータルサイトを通じて配布、17年版は <a href="http://www.eurasiagroup.net/">http://www.eurasiagroup.net/</a> でダウンロード可能。		
<b>評価方法</b>	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(50%)、②最終レポート(50%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。		

16年度以降 15年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> 異文化間コミュニケーションの諸要素を理解し、その理解に基づいて1)グローバルな表現ができるようになり、2)賢い異文化コミュニケーターになる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. コミュニケーションの諸領域</li> <li>3. コミュニケーションの諸要素</li> <li>4. 自己の発見（ジョハリの窓、他）</li> <li>5. 文化の定義</li> <li>6. 日本的表現方法と西洋的表現方法</li> <li>7. グローバルな表現方法とは？</li> <li>8. グローバルな表現方法を使った1分スピーチ</li> <li>9. コミュニケーションと態度変容</li> <li>10. 対立のコミュニケーション、エスノセントリズム</li> <li>11. カルチャーショックと人間的成長</li> <li>12. 非言語コミュニケーション</li> <li>13. ビデオ視聴（ミニレポート提出）</li> <li>14. 賢い異文化コミュニケーターとは？</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト：プリント配布予定、参考文献：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書）		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 30%、スピーチとミニレポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> 異文化間コミュニケーションの諸要素を理解し、その理解に基づいて1)グローバルな表現ができるようになり、2)賢い異文化コミュニケーターになる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. コミュニケーションの諸領域</li> <li>3. コミュニケーションの諸要素</li> <li>4. 自己の発見（ジョハリの窓、他）</li> <li>5. 文化の定義</li> <li>6. 日本的表現方法と西洋的表現方法</li> <li>7. グローバルな表現方法とは？</li> <li>8. グローバルな表現方法を使った1分スピーチ</li> <li>9. コミュニケーションと態度変容</li> <li>10. 対立のコミュニケーション、エスノセントリズム</li> <li>11. カルチャーショックと人間的成長</li> <li>12. 非言語コミュニケーション</li> <li>13. ビデオ視聴（ミニレポート提出）</li> <li>14. 賢い異文化コミュニケーターとは？</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト：プリント配布予定、参考文献：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書）		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 30%、スピーチとミニレポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>クリフォード・ギアツは、人間とは自らが紡ぎ出した“意味の網の目”に支えられた動物であると捉え、その“意味の網の目”こそが「文化」であると規定した。コミュニケーションを媒介するメディアが技術的に進歩し、またそれが社会的文脈において位置づけられていく一連の過程をつうじて、メディア文化を構成する“意味の網”は刻々と更新されていく。とくに各種のデジタルメディアやソーシャルメディアが台頭したことによって、文化という“意味の網”が変換されていく速度は格段に上昇したようにも感じられる。</p> <p>本講義では管理社会、防犯カメラの心霊動画、ショッピングモール、漢字の図像性、グーグルストリートビュー、クラブミュージックなどを題材としてとりあげながら、現代におけるメディア文化の実相を理論的に考察するための視点を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと</li> <li>2 メディアが形成する現実①</li> <li>3 メディアが形成する現実②</li> <li>4 メディアが形成する現実③</li> <li>5 メディアが形成する現実④</li> <li>6 「管理社会」としての現代①</li> <li>7 「管理社会」としての現代②</li> <li>8 デジタルメディアと心霊表象</li> <li>9 「意味の帝国」としてのショッピングモール</li> <li>10 漢字の視覚的イメージをめぐる想像力の変容</li> <li>11 拡大される細部：GSVを題材とするアート作品</li> <li>12 技術的にシミュレートされた「移動」の真正性</li> <li>13 複製技術と著作権①</li> <li>14 複製技術と著作権②</li> <li>15 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	メディア研究に関して総覧的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	開講時に指示する。		
<b>評価方法</b>	平常点 50%、 期末試験 50%		

16年度以降 15年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>クリフォード・ギアツは、人間とは自らが紡ぎ出した“意味の網の目”に支えられた動物であると捉え、その“意味の網の目”こそが「文化」であると規定した。コミュニケーションを媒介するメディアが技術的に進歩し、またそれが社会的文脈において位置づけられていく一連の過程をつうじて、メディア文化を構成する“意味の網”は刻々と更新されていく。とくに各種のデジタルメディアやソーシャルメディアが台頭したことによって、文化という“意味の網”が変換されていく速度は格段に上昇したようにも感じられる。</p> <p>本講義では管理社会、防犯カメラの心霊動画、ショッピングモール、漢字の図像性、グーグルストリートビュー、クラブミュージックなどを題材としてとりあげながら、現代におけるメディア文化の実相を理論的に考察するための視点を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと</li> <li>2 メディアが形成する現実①</li> <li>3 メディアが形成する現実②</li> <li>4 メディアが形成する現実③</li> <li>5 メディアが形成する現実④</li> <li>6 「管理社会」としての現代①</li> <li>7 「管理社会」としての現代②</li> <li>8 デジタルメディアと心霊表象</li> <li>9 「意味の帝国」としてのショッピングモール</li> <li>10 漢字の視覚的イメージをめぐる想像力の変容</li> <li>11 拡大される細部：GSVを題材とするアート作品</li> <li>12 技術的にシミュレートされた「移動」の真正性</li> <li>13 複製技術と著作権①</li> <li>14 複製技術と著作権②</li> <li>15 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	メディア研究に関して総覧的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	開講時に指示する。		
<b>評価方法</b>	平常点 50%、 期末試験 50%		

16年度以降 15年度以前	マス・コミュニケーション論 メディア・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> コミュニケーションおよびマスメディアの諸モデルを理解し、それらの理解に基づきマス・コミュニケーションが現実社会に与える影響を分析できるようになる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入&amp;メディアとは</li> <li>2. コミュニケーションの諸領域について</li> <li>3. コミュニケーションの諸モデル 1</li> <li>4. コミュニケーションの諸モデル 2</li> <li>5. コミュニケーションの効果の概念、他</li> <li>6. マスメディアの順機能と逆機能</li> <li>7. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出）</li> <li>8. マスメディアに関する効果モデル：弾丸理論</li> <li>9. マスメディアに関する効果モデル：限定効果モデル</li> <li>10. マスメディアに関する効果モデル：適度効果モデル</li> <li>11. マスメディアに関する効果モデル：強力効果モデル</li> <li>12. 4理論のまとめ</li> <li>13. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出）</li> <li>14. メディアリテラシーの必要性</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b> まずコミュニケーションの諸モデルを学んだ後、マスメディアに関する主要4理論（弾丸理論、限定効果モデル、適度効果モデル、強力効果モデル）を学ぶ。 また、学習内容を定着させるために、ビデオ視聴内容に関するミニレポートの作成を行う。			
到達目標	マス・コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、ミニレポートに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定、参考文献：『マスコミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	メディア・スタディーズ メディア・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> メディア暴力の影響に関する理論を理解し、それらに基づき、メディアの中の反社会的行動、あるいは向社会的行動描写が人々に与える影響を測定する調査研究ができるようになる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. メディア暴力の影響研究：カタルシス理論</li> <li>3. メディア暴力の影響研究：観察学習理論</li> <li>4. メディア暴力の影響研究：脱感作理論</li> <li>5. メディア暴力の影響研究：カルティベーション理論</li> <li>6. ビデオ視聴（ビデオ内容分析のミニレポート提出）</li> <li>7. メディア研究方法：班分け&amp;統計手法（<math>\chi^2</math>検定）</li> <li>8. メディア研究方法：統計手法（相関係数）</li> <li>9. メディア研究方法：調査票作成のための議論</li> <li>10. メディア研究方法：調査票作成</li> <li>11. メディア研究方法：調査票調整</li> <li>12. クラス内で調査実施</li> <li>13. メディア研究方法：調査結果の分析</li> <li>14. 調査結果の発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>講義概要</b> まずメディア暴力に関する主要な4理論（カタルシス、観察学習、脱感作、カルティベーション）を学ぶ。 さらに、メディア研究方法（統計学の $\chi^2$ 検定、相関係数）を学んだ上でクラス内で調査を実施し、調査結果を分析し発表する。			
到達目標	メディアとコミュニケーションの関係に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリント配布予定、参考文献：『メディアと暴力』（勁草書房）、『教育・心理統計と実験計画』（教育出版）		
評価方法	授業への参加度 30%、ミニレポートおよび発表 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	イメージ文化論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スピーチ（発言）としてのイメージ表現について、コミュニケーション理論、文化理論、実例、研究発表を通じて学びます。理論は英語圏から発信されているものを中心に用い、実例はポピュラーな（ポピュラーだった）ものを用いる予定です。</p> <p>注意事項：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。</li> <li>・小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。</li> </ul> </p>		<p>1～3. 概要説明、研究グループ編成、始動的活動  4. コミュニケートする様々なイメージ  5. アメリカ大統領のイメージ戦略1：ケネディー以後  6. アメリカ大統領のイメージ戦略2：トランプ論  7. シミュラークル文化論1：スピーチとしての広告  8. シミュラークル文化論2：スピーチとしてのPV  9. ノスタルジア論1：創られた「戦況と戦後」  10. ノスタルジア論2：創られた「昭和30年代」  11. バンクシー論1：スピーチとしてのグラフィティ  12. バンクシー論2：活動ルポの視聴と批評  13. 小テストとコンサルテーション  14. 研究発表（1）と講評  15. 研究発表（2）と講評</p>	
到達目標	イメージのコミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料はもちろんのこと、参考文献等が紹介されたら直ぐに目を通すようにしてください。		
テキスト、参考文献	テキスト：授業で資料を配布します。 参考文献：適宜紹介します。		
評価方法	研究発表（準備・発表・評価）：80%、小テスト：20%		

16年度以降 15年度以前	視覚コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、視覚イメージによるコミュニケーションの批判的読み方を、映画やビデオ、写真、絵画など様々な映像メディアを使って学習します。映像という視覚イメージに組み込まれた文化的諸力の問題を主題として解説していきます。映像表現や構造、映像の技術的語りなどを批判的に解釈することで、表象＝イメージがいかなるものかを考察し、そのメディア性の批判を展開していくことになります。</p> <p>メディアの批判的アプローチでは、見えてしまっているという自明の事実を問い直すことが最も大切です。そもそも自分がなぜ見えるのかという経験そのものを考えなおすことがなければ、批判とは言いません。この批判は常に己に向けられます。映像をつぶさに考察することで発見される見方が、これまで思い込みで見えていた世界とは異なる、新たな視覚をもたらす分析をしていきます。見えること、見えてしまっていることを根本的に問い直す為の視座と立ち位置を様々な批判的アプローチと共に探っていきます。</p>		1 オリエンテーション 2 遠近法的視覚空間の成立 3 ポストモダンの探偵・テレビドラマ 4 自己アイデンティティの葛藤 5 記号の実在性と現実（界） 6 空間の広告化、広告の空間化 7 家族の（非）存在 8 ジェンダーと階級と知の権力（1） 9 ジェンダーと階級と知の権力（2） 10 テクノロジーと言葉（1） 11 テクノロジーと言葉（2） 12 ヴァーチャルなものの精神分析 13 多文化主義と国境の越境（1） 14 多文化主義と国境の越境（2） 15 総括	
<b>到達目標</b>	視覚コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	必要な予習及び映画等のスクリーニングは、各自の事前学習として必須となります。授業後に講義内容も必ず復習してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは適宜紹介します。 池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006。（参考文献）		
<b>評価方法</b>	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。		

16年度以降 15年度以前	コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コミュニケーション学は古代ギリシアのレトリック研究に起源を持ちます。本講義では、20世紀以降折々の思想に影響を受けて変容してきた様々なレトリック理論を理論家ごとに学んでいきます。そして、それぞれの理論家がひも解く、コミュニケーションや言葉、レトリックとは何かを理解することを目的とします。</p> <p>ギリシア時代に弁論術として開花したレトリック理論ですが、その対象範囲は弁論のような音声記号だけに留まることは決してなく、様々な文化や技術変容に伴い、20世紀以降は視覚や身体的触覚なども射程にいれ、今では我々と世界を媒介するメディア論として更なる展開が進行しています。</p> <p>このような現代の文化的影響も踏まえつつ、コミュニケーションとは何か、文化とは何か、メディアとは何かを批判的に考察した、20世紀に台頭した構造主義以降の思想をコミュニケーション論として講義します。この批判理論の学習によって、現代の世界で実践されるコミュニケーションにまつわる複雑な社会・文化状況を改めて識別していくことが求められます。</p>		1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（1） 2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論（2） 3 ハイデガーと存在論 4 ルードヴィヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム 5 精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク（1） 6 精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク（2） 7 精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク（3） 8 ミシェル・フーコー、表象、言説（1） 9 ミシェル・フーコー、表象、言説（2） 10 ミシェル・フーコーの権力論（1） 11 ミシェル・フーコーの権力論（2） 12 エドワード・サイードとオリエンタリズム（1） 13 エドワード・サイードとオリエンタリズム（2） 14 スチュアート・ホールと文化研究（1） 15 スチュアート・ホールと文化研究（2）	
<b>到達目標</b>	コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布物等がある場合には必ず予習しておいてください。授業後の講義内容の復習は必須です。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業中に適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。		

16年度以降 15年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>様々なスピーチ（発言）を多角的・複眼的・批判的に捉えるための理論を色々な実例と実演を通じて学びます。</p> <p>注意事項： ・グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 ・小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。</p>		<p>1～3. 概要説明、研究グループ編成、始動的活動 4. スピーチ・コミュニケーションの伝統的な理論 5. 議論の構築方法：トゥールミン・モデル 6. ドラマチックなスピーチ（発言）：「劇的」について 7. スピーチ（発言）としての音楽 8. スピーチ（発言）としての広告1 9. スピーチ（発言）としての広告2 10. スピーチ（発言）としての映画1 11. スピーチ（発言）としての映画2 12. 小テストとコンサルテーション 13. 実演課題1と講評 14. 実演課題2と講評 15. 実演課題3と講評</p>	
<b>到達目標</b>	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布資料はもちろんのこと、参考文献等が紹介されたら直ぐに目を通すようにしてください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト：授業で資料を配布します。 参考文献：適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	実演課題（準備・実演・評価）：80%、小テスト：20%		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【もうひとつの美術史、騙し絵のレトリック】</p> <p>視覚レトリック論は現代のコミュニケーション理論で最先端の研究分野と言われます。視覚のレトリックを体現する騙し絵というジャンルがありますが、この騙し絵をルネサンス芸術に異議を申し立てる、隠れたもうひとつの美術史として考察するのが本講義の目的です。</p> <p>騙し絵のレトリックを考えるにあたり、さしあたりその範囲を15世紀ルネッサンス以降、とりわけ17世紀の西洋絵画に重点をおき、絵画の歴史のおよび文化的な視覚性を考察していきます。考察する視覚論の基軸となるのは遠近法や視覚技術の問題ですが、その歴史を踏まえつつ、絵画が構成する視覚の文化的空間を描きだしていきたい。遠近法箱 (perspective box) や製図法、カメラ・オブスクラ等、様々な技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿っていくことになります。絵画の視覚領野の中にかなるルネサンスや透視画法への抵抗があるのかを理論的に考察していきます。</p> <p>絵画という視覚を題材にするため、適宜ビデオも観てもらい解説を加えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 視覚技術としての遠近法 (透視画法)</li> <li>3. 視覚技術の変容と視覚の言説 (クレーリーの視覚メディア論)</li> <li>4. 美術史のバロック問題: ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ</li> <li>5. 美術史のバロック問題: ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ</li> <li>6. ベラスケス: バロックと古典主義時代 (17-18世紀) の表象</li> <li>7. バロックとしてのアナモルフォーズ: キルヒャー、ニセロン</li> <li>8. バロックとしてのアナモルフォーズ: キルヒャー、ニセロン</li> <li>9. 北方ルネッサンスと描写術: フェルメール、デ・フリース、遠近法</li> <li>10. 北方ルネッサンスと描写術: フェルメール、デ・フリース、遠近法</li> <li>11. ファン・ホーホストラテン: 騙し絵、遠近法箱、視覚のレトリック</li> <li>12. ファン・ホーホストラテン: 騙し絵、遠近法箱、視覚のレトリック</li> <li>13. ヘイスプレヒツ: 騙し絵 (トロンブルイユ) のレトリック</li> <li>14. ヘイスプレヒツ: 騙し絵 (トロンブルイユ) のレトリック</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習は必須です。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【視覚文化論】</p> <p>春学期に、視覚文化論の1アプローチである騙し絵のレトリックを学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としつつ、理論的な背景を展開していきます。</p> <p>現在、視覚文化論はコミュニケーション学で最も注目される分野の一つであり、その諸相を歴史と多用なアプローチと共に扱っていきます。1980年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術(史)の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、視覚的表象の文化的次元を扱う新たな領域として認知されています。秋学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々なトピックを取り上げ、写真、映画、絵画、技術、身体、空間等の視覚性を検討していくことになります。</p> <p>我々を取り巻く現代世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れています。本講義は、そのような視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な視覚文化論の知を学ぶことを目的としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 視覚文化論とは</li> <li>3. 言葉とイメージ</li> <li>4. 言葉とイメージ</li> <li>5. メディアとしての視覚の変容</li> <li>6. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判</li> <li>7. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判</li> <li>8. 眼差しと視線</li> <li>9. 眼差しと視線</li> <li>10. 視覚技術と身体</li> <li>11. 視覚技術と身体</li> <li>12. 視覚技術と身体</li> <li>13. イメージのレトリック</li> <li>14. イメージのレトリック</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習は必須です。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	講義内小課題、及び定期試験又はレポートによって評価します。		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。</p> <p>本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。さらにそのうえで「空間とメディア」の諸相に目を向け、わたしたちをとりまく記号世界、あるいはメディア環境の組成を分析的に把握するためのリテラシー獲得を目指すことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと</li> <li>2 コミュニケーションの諸相①</li> <li>3 コミュニケーションの諸相②</li> <li>4 コミュニケーションの諸相③</li> <li>5 コミュニケーションの諸相④</li> <li>6 メディアの媒介作用と延長作用①</li> <li>7 メディアの媒介作用と延長作用②</li> <li>8 メディアの媒介作用と延長作用③</li> <li>9 メディアの媒介作用と延長作用④</li> <li>10 メディアの媒介作用と延長作用⑤</li> <li>11 ポスト・ヒューマンの肖像①</li> <li>12 ポスト・ヒューマンの肖像②</li> <li>13 ポスト・ヒューマンの肖像③</li> <li>14 ポスト・ヒューマンの肖像④</li> <li>15 前期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	遠藤英樹・松本健太郎編 『空間とメディア——場所の記憶・移動・リアリティ』（ナカニシヤ出版、2015年）		
<b>評価方法</b>	平常点 50%、 期末試験 50%		

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では記号論における基礎的な考え方を、わたしたちの身近にある様々な事例とともに解説していく。それによってホモ・シグニフィカンスとも称される人間の固有性や、人間の記号活動の集積として構築されるコミュニケーション文化の組成を理解していくことが本講義の目的となる。</p> <p>本講義ではソシュール、バルト、丸山圭三郎らの記号論的思想をとりあげる。さらに所定の教科書に準拠し、様々な分野の学問的言説を援用しながら、ビデオゲーム、ショッピングモール、デジタル地図、お笑いなど、幅広い事象を分析の俎上に載せていくことになる。そのうえで「記号」と「メディア」の現代的な関係性を理論的に考察することを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——記号論の成り立ち</li> <li>2 ソシュールの言語観①</li> <li>3 ソシュールの言語観②</li> <li>4 バルトの記号観①——ステレオタイプと神話</li> <li>5 バルトの記号観②——言語記号と映像記号</li> <li>6 バルトの記号観③——その写真論と日本論の共通点</li> <li>7 バルトの記号観④——言語活動の外部へ</li> <li>8 バルトの記号観⑤——記号とメディアの間隙</li> <li>9 丸山圭三郎の人間観——その言語哲学の可能性</li> <li>10 カジュアル革命と、スポーツ化するスポーツゲーム</li> <li>11 ビデオゲームにおける没入のメカニズム</li> <li>12 ゲームは現実の何を模倣して成立するか</li> <li>13 GSVにおける写真的現実の歪み</li> <li>14 産業的資源としての「意識」をめぐる諸問題</li> <li>15 後期の総括</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	松本健太郎編 『理論からよむメディア文化』（新曜社、2016年）		
<b>評価方法</b>	平常点 50%、 期末試験 50%		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本セミナーは、視覚コミュニケーション論において重要な主題の一つである絵画や現代アートを題材として、それにまつわる論争をたどりながら、芸術とは何かを批判的に考察していくことを目的とします。</p> <p>社会に異議申し立てをするアートには論争がつきまとい、様々な主題が争点として論じられます。論争から見えてくる、簡単には解決しがたい文化的問題について、作品を批評家がいかなる立場から議論するのか、作品に即して考察していきます。</p> <p>セミナーでは、まずテーマに即した当該の章の発表を準備したレジュメをもとにしてもらい、全体で討論するという手順で授業を行います。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することが必要とされます。</p> <p>履修者は文献をきちんと理解し発表する為に、参考文献を図書館等で入手し活用することも求められます。積極的に授業に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることに意欲的な方の受講を大いに歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Blood and Beauty</li> <li>3. Blood and Beauty</li> <li>4. Paradigms and Purposes</li> <li>5. Paradigms and Purposes</li> <li>6. Money, Markets, Museums</li> <li>7. Money, Markets, Museums</li> <li>8. Gender, Genius, and Guerrilla Girls</li> <li>9. Gender, Genius, and Guerrilla Girls</li> <li>10. Cognition, Creation, Comprehension</li> <li>11. Cognition, Creation, Comprehension</li> <li>12. Digitizing and Disseminating</li> <li>13. Digitizing and Disseminating</li> <li>14. Conclusion</li> <li>15. Conclusion / Wrap Up</li> </ol> <p><b>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</b></p>	
<b>到達目標</b>	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習及び発表の為に準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Cynthia Freeland. <u>Art Theory: A Very Short Introduction</u> . (Oxford: Oxford UP, 2001).		
<b>評価方法</b>	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価します。		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>視覚論における遠近法の歴史は、15世紀のアルベルティを始めとすることが一般的です。彼が絵画に与えた「窓」というメタファーを出発点として、建築物の窓や近代建築の透明なガラス、写真や映画、テレビ、そしてコンピューター「ウィンドウ」のデジタルイメージにも繋がる窓の歴史の変遷を提示したアンネ・フリードバーグの『ヴァーチャル・ウィンドウ』を読みます。</p> <p>視覚の歴史は、単なる技術的発展として考えるのでは不十分です。時代によって異なる認識を与えられる「窓」が設定する世界の見方を把握することがより重要となります。設定される枠組みとの関係で視覚のあり方を創造し、ヴァーチャルにもなり得る「窓」やスクリーンの文化的な理解によって、今という時代を捉えることが可能となるでしょう。</p> <p>セミナーでは、まずテーマに即して当該の章の発表を準備したレジュメをもとにしてもらい、全体で討論するという手順で授業を行います。</p> <p><b>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. The Window</li> <li>4. The Window; Lens 1: Descartes's Window</li> <li>5. The Frame</li> <li>6. The Frame; Lens II: Heidegger's Frame</li> <li>7. The "Age of Windows"</li> <li>8. The "Age of Windows"</li> <li>9. The "Age of Windows"; Lens III: Bergson's Virtual</li> <li>10. The Screen</li> <li>11. The Screen</li> <li>12. The Screen; Lens IV: Virilio's Screen</li> <li>13. The Multiple</li> <li>14. The Multiple</li> <li>15. Conclusion: The Future of Windows: Smart Glass, Streaming Portals, and Screenless Images/ Wrap up</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	教科書の予習及び発表の為に準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Anne Friedberg. <u>The Virtual Window</u> . (Cambridge, MA: MIT Press, 2006).		
<b>評価方法</b>	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価します。		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナー a コミュニケーション論文献研究 a	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディア考古学は、過去のメディアを再考していくことで、現代の新しいメディアに対する理解を深める試みである。本講義では、メディア考古学の第一人者、エルキ・フータモのメディア考古学を理解するために、その代表的な論文集である『メディア考古学——過去・現在・未来の対話のために』をテキストとして選定する。</p> <p>本講義では、まずメディア考古学について講義形式での解説を加え、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 メディア考古学について【講義】 3 メディア考古学について【講義】 4 テキストを読む【講読】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
<b>到達目標</b>	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	エルキ・フータモ『メディア考古学——過去・現在・未来の対話のために』（太田純貴訳 NTT出版 2015年）		
<b>評価方法</b>	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナー b コミュニケーション論文献研究 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、その中心的な主題としてロラン・バルトの記号論をとりあげ、その現代的な意義を考えていくことを目指すことになる。そのための資料として、バルト最晩年の写真論である『明るい部屋』をテキストとして選定し、それを多角的に分析していくことになる。</p> <p>本講義では、バルトの記号論／映像論について講義形式での解説を加え、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定 2 バルトの記号論／映像論について【講義】 3 バルトの記号論／映像論について【講義】 4 テキストを読む【講読】 5 テキストを読む【講読】 6 テキストを読む【講読】 7 テキストを読む【講読】 8 テキストを読む【講読】 9 テキストを読む【講読】 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 研究発表 15 研究発表	
<b>到達目標</b>	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	松本健太郎『ロラン・バルトにとって写真とは何か』（ナカニシヤ出版 2014年）		
<b>評価方法</b>	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 a 英語圏の文学・文化	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(英米詩入門)</p> <p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおして英語圏の文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>講義では、伝承バラッド、シェイクスピアのソネット、19世紀ロマン派の作品、20世紀の詩人の作品を取りあげる。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Traditional Ballads</li> <li>2. William Shakespeare</li> <li>3. Andrew Marvell</li> <li>4. William Blake</li> <li>5. William Wordsworth</li> <li>6. Percy Bysshe Shelley</li> <li>7. John Keats</li> <li>8. Edgar Allan Poe</li> <li>9. Walt Whitman</li> <li>10. Emily Dickinson</li> <li>11. William Butler Yeats</li> <li>12. Robert Frost</li> <li>13. Wallace Stevens</li> <li>14. Ezra Pound</li> <li>15. William Carlos Williams</li> </ol>	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	15回の講義で英語詩の「面白さ」を体験してもらうために、受講生は事前に作品と十分な「対話」をし、自分の疑問点をもって講義に出席すること。		
テキスト、参考文献	Text: Philip Smith, ed. 100 Best-Loved Poems. New York: Dover Pub., 1995. 参考文献: 『イギリス名詩選』(岩波文庫)、『アメリカ名詩選』(岩波文庫)		
評価方法	レポート(4,000字程度の作品論)による。書き方は、原ゼミのHPの「MLA論文の書き方」を参照。ただし、欠席回数が授業回数の1/3を超えた場合は評価の対象としない。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 b 英語圏の文学・文化	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの歴史から3人の女王(Elizabeth I, Victoria, Elizabeth II)の時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。この3人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区別される時代にあっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかを考える。</p> <p>3つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の3つの視点から論じる。それぞれの時代の特徴を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. Elizabeth Iの時代(1): 宗教改革と近代の始まり</li> <li>3. Elizabeth Iの時代(2): Shakespeareと近代英語</li> <li>4. Elizabeth Iの時代(3): Shakespeareと大衆娯楽</li> <li>5. Elizabeth Iの時代(4): Baconと近代科学</li> <li>6. Victoriaの時代(1): 世界の工場と大英帝国</li> <li>7. Victoriaの時代(2): Dickensを読んだ中流市民</li> <li>8. Victoriaの時代(3): Dickensが描いた貧困層</li> <li>9. Victoriaの時代(4): Darwinと進化論</li> <li>10. Elizabeth IIの時代(1): Pax Britannicaの終焉</li> <li>11. Elizabeth IIの時代(2): Becketと不条理演劇</li> <li>12. Elizabeth IIの時代(3): The Beatlesと若者文化</li> <li>13. Elizabeth IIの時代(4): 羊のDollyと遺伝子の時代</li> <li>14. Elizabeth IIの時代(5): Bridget Jonesと消費文化</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキストの英文を、事前によく読んでおくこと。授業中に提示されたキーワードを覚え、その歴史的背景を理解すること。		
テキスト、参考文献	授業中にプリントを配布する。参考文献については授業中に紹介する。		
評価方法	学期末試験によって評価する。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の小説 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(英語圏文学のいま)</p> <p>ノーベル賞(N)のほか、ブッカー賞(B)<sup>①</sup>、オレンジ賞(O)<sup>②</sup>、コモンウェルス賞(CW)<sup>③</sup>など、英国の文学賞の受賞作家とその作品を中心に紹介しながら、現代の英語圏文学の多様性を提示したい。紹介する作家の生地は、英国のみならず、イラン、インド、ナイジェリア、南アフリカなど、世界中にひろがっている。これはもちろん、かつての大英帝国のひろがりを反映している。</p> <p>ひとりの作家に講義2回をあて、バイオグラフィー、テーマ、受容(社会へのインパクト)などを中心に進めていく。作品のテキストも可能なかぎり読んでいきたい。</p> <p>1. 1969年創設。英語で書かれた最も優れた小説に与えられる。英国で最も注目される文学賞。2. 1996年創設。前年度英語で書かれ、英国で出版された最も優れた作品を書いた女性作家に与えられる。作家の国籍は不問。2014年よりベイリーズ賞となった。3. 1987-2011。コモンウェルスの市民である作家が対象。現在はデビュー作を対象としたものとなっている。</p>		<p>1. イントロダクション 2&amp;3. Doris Lessing (1919.イラン～2013. 英国) (2007. N) —1世紀を見た言葉の巨人 4&amp;5. J.M. Coetzee (1940. 南アフリカ～) (1983/1999. B, 2003 N) —支配と言語、そして生きのびること 6&amp;7. Andrea Levy (1956. 英国～) (2004. O, 2005. CW) —英国史を書き換えるベストセラー作家 8&amp;9. Caryl Phillips (1958. セント・キッツ～) (2004. CW) —ディアスポラの世界地図、そして英国 10&amp;11. Arundhati Roy (1961. インド～) (1997. B) —インド人初のブッカー賞受賞からデモクラシー・ファイターへ 12&amp;13. Zadie Smith (1975. 英国～) (2000. B) (2001. CWBSB) —混成の英国に生まれて 14&amp;15. Chimamanda N'goshi Adiche (1977. ナイジェリア～) (2004. CWBSB) — シングル・ストーリーを超えて</p>	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各作家の1回目については事前学習はマストではないが、2回目には英文抜粋をしっかりと読んでおくこと。事後学習は評価の対象とする check sheet を中心に必ず行うこと。		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布、あるいはポータルにアップする。その他の参考文献については授業時に紹介する。		
評価方法	授業貢献 20%、チェックシート(事後学習) 35%、定期試験 45%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう演劇に示されているかについて考察する。</p> <p>英米や時代にかかわらず、さまざまな作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげて、社会と文化の洞察をはかる。</p> <p>実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知り、演劇文化への理解を深める。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>なるべく実際の上演を観られる戯曲をとりあげ、台本抜粋を精読する。映像化された作品がある場合は、その一部を上映する。</p> <p>日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 戯曲作品 1</li> <li>3. 戯曲作品 2</li> <li>4. 戯曲作品 3</li> <li>5. 戯曲作品 4</li> <li>6. 戯曲作品 5</li> <li>7. 戯曲作品 6</li> <li>8. 戯曲作品 7</li> <li>9. 戯曲作品 8</li> <li>10. 戯曲作品 9</li> <li>11. 戯曲作品 10</li> <li>12. 戯曲作品 11</li> <li>13. 戯曲作品 12</li> <li>14. 戯曲作品 13</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>注意事項—— テキストにする英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。</p>	
<b>到達目標</b>	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	きちんと辞書を引いて、劇作品の台本抜粋の英文を日本語訳し、それをノートに用意して出席してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	英米の劇作品の台本抜粋（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
<b>評価方法</b>	毎回の vocabulary テストと comprehension テストで 50%、観劇レポート（700～800 字）2 編で 50%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末定期試験はなし。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の詩 b	担当者	原 成吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(カリフォルニアの詩と文化)</p> <p>カリフォルニア、とりわけSan Francisco Bay Areaを中心に、ここで生まれた詩と音楽をテキストにしながら、カリフォルニア文化とは何かを考察する。</p> <p>1950年代以降にサンフランシスコ・ベイ・エリアで書かれた詩やその場所を歌ったポピュラー・ミュージックを取り上げながら、アメリカ先住民の文化、ビート、ポエトリー・リーディング、ベトナム戦争、ホモセクシュアリティ、ドラッグ、カウンターカルチャー、環境問題、ロック・ミュージック、禅仏教などについて論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction</li> <li>2. What is San Francisco?</li> <li>3. What was Gold Rush?</li> <li>4. Counterculture &amp; Rock Music</li> <li>5. Zen Buddhism in the Bay Area Poets in San Francisco</li> <li>6. Kenneth Rexroth</li> <li>7. Robert Duncan</li> <li>8. Lawrence Ferlinghetti</li> <li>9. Jack Kerouac</li> <li>10. Philip Whalen</li> <li>11. Allen Ginsberg</li> <li>12. Gary Snyder</li> <li>13. Michael McClure</li> <li>14. Robert Hass</li> <li>15. Jane Hirshfield</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストを熟読し、疑問点を整理してから、講義に出席すること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは、プリントを使用。参考文献： California Poetry: From the Gold Rush to the Present. Berkeley: Heyday Books, 2004.		
<b>評価方法</b>	講義で取り上げた作品を一つ選び、4,000 程度の作品論（書き方は、原ゼミの HP の「MLA 論文の書き方」を参照）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「シェイクスピアとイギリスのナショナリズム」</p> <p>16世紀後半から19世紀までのイギリスにおけるシェイクスピア受容の歴史をたどりながら、シェイクスピアという作家と彼の作品がイギリスのナショナリズムとどのように深く関わってきたかを考察する。</p> <p>ルネッサンスが遅れてたどり着いた小国イングランドが大英帝国へと拡大する間に、シェイクスピアは「大衆演劇」の劇作家から「国民作家」へと変貌した。本来、商業ベースの興行を目的とする劇場文化を通してシェイクスピアが「国民作家」として位置付けられていく過程を、イギリスのナショナリズムの変容を背景に探ることが本講義の目的である。あわせて16世紀から今日までのイギリスの歴史についても理解を深めることを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. Englandのシェイクスピア(1)</li> <li>3. Englandのシェイクスピア(2)</li> <li>4. Englandのシェイクスピア(3)</li> <li>5. Englandのシェイクスピア(4)</li> <li>6. Great Britainのシェイクスピア(1)</li> <li>7. Great Britainのシェイクスピア(2)</li> <li>8. Great Britainのシェイクスピア(3)</li> <li>9. Great Britainのシェイクスピア(4)</li> <li>10. Great Britainのシェイクスピア(5)</li> <li>11. British Empireのシェイクスピア(1)</li> <li>12. British Empireのシェイクスピア(2)</li> <li>13. British Empireのシェイクスピア(3)</li> <li>14. British Empireのシェイクスピア(4)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	配布されたテキストの英文を、事前によく読んでおくこと。授業中に提示されたキーワードを覚え、その歴史的背景を理解すること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業中にプリントを配布する。参考文献については授業中に紹介する。		
<b>評価方法</b>	毎回のリアクション・ペーパー30%、学期末試験 70%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(グローバル・ヒストリー-大英帝国と西欧史の背中の臍=カリブ)</p> <p>本講義の目的は、歴史をグローバルな視点から理解することにある。そのためのトピックとして、大英帝国の発展から終焉までをとりあげる。</p> <p>焦点のひとつは、ヘゲモニー国家となるまでの英国の発展を裏で支えた(支えさせられた)カリブ海にあてられる。資本主義の醸成の根本にある、奴隷貿易と奴隷制についても学ぶこととなるだろう。また、奴隷貿易は、歴史上最大規模のディアスポラ集団を生み出した。ディアスポラとは、民族的な始祖の地を離れて(あるいはそこから引きはがされて)、別の場所で暮らす人々およびその子孫のことであり、近・現代世界をかたちづくる常数である。ディアスポラという存在についての考察も焦点のひとつである。</p> <p>2016年の「社会・思想・歴史」では、現在の混成の英国の姿と、それを直接的にかたちづかった第二次世界大戦後の大量移民が講義の中心であったが、その中で一部触れた、15世紀末からの500年の歴史が2017年度講義の中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション1—混成の英国 (21世紀と15世紀)</li> <li>2. イントロダクション2-British Empire in 90 minutes</li> <li>3. ザビエルの右手はどこにある?—グローバルヒストリー入門</li> <li>4. イングランド、大西洋世界へのデビュー</li> <li>5. 西欧史の背中の臍、カリブ</li> <li>6. 資本主義と奴隷制1</li> <li>7. 資本主義と奴隷制2</li> <li>8. 奴隷貿易とグレート・ブリテンの繁栄</li> <li>9. 人種言説の形成</li> <li>10. 18世紀、混成の英国</li> <li>11. ウェールズ、スコットランド、アイルランド</li> <li>12. 西インド諸島の東インド人?</li> <li>13. ディアスポラの故郷カリブ</li> <li>14. ポストコロニアルの英国1</li> <li>15. ポストコロニアルの英国2</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前に資料を配布するかポータルにアップするので、授業前に目を通しておくこと。事後学習は個人の理解と興味に応じて、実施してほしい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	ハンドアウトを配布あるいはポータルにアップする。授業内容に関連する参考図書については、その都度紹介する。		
<b>評価方法</b>	コメントペーパーなど 40%、定期試験 60% (パーセンテージは若干変わる可能性もある。)		

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力</li> <li>2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業</li> <li>3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業</li> <li>4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業</li> <li>5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人</li> <li>6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い</li> <li>7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかわりがあるのか</li> <li>8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色</li> <li>9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件</li> <li>10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト</li> <li>11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン</li> <li>12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義</li> <li>13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破</li> <li>14. ミネアポリス、「反ユダヤ主義の都」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000年 集英社新書 740円） 『アメリカ経済のユダヤ・パワー』佐藤唯行（ダイヤモンド社電子書籍版 1200円）		
<b>評価方法</b>	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキスト（スマホ、iPad）の持ち込み可。12択20問のQuiz形式。		

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。</p> <p>下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中世英国のユダヤ人金融。</li> <li>2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 —1290年のイングランド—</li> <li>3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。</li> <li>4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。</li> <li>5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。</li> <li>6. 英国人地主貴族社会への同化現象。</li> <li>7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム。</li> <li>8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。</li> <li>9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。</li> <li>10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。</li> <li>11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。</li> <li>12. 黒人の反ユダヤ主義。</li> <li>13. 英労働党の反ユダヤ主義。</li> <li>14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。</li> <li>15. ホロコースト難民の救援とパレスチナへの送り出し。</li> </ol>	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト、参考文献	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000年 集英社新書 740円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995年 講談社選書 1600円）		
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12択20問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。出席はとらない。		

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English.</p> <p>This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, The First Americans</li> <li>2. Columbus and the Conquistadors</li> <li>3. The First British in America</li> <li>4. War and Independence</li> <li>5. Building a New Nation</li> <li>6. Civil War Splits the Country</li> <li>7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts</li> <li>8. European Immigrants Pour In</li> <li>9. Agriculture: Amber Waves of Grain</li> <li>10. Industrialists, Inventors, Tycoons</li> <li>11. Black Culture in America</li> <li>12. Imperial World Capital</li> <li>13. Postwar Good Life &amp; The Sunbelt</li> <li>14. America the Beautiful</li> <li>15. Final Test (Essay)</li> </ol>	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 小クイズ（抜き打ち）の準備		
テキスト、参考文献	Materials will be handed out in class.		
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的—アイルランドの文学と文化についての理解を図る。</p> <p>講義概要— アイルランドに視点を据えて、この島の歴史や文化を、できるだけ文学作品（主に現代演劇や映画）を基にして、時に DVD 資料を利用しながら、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりを考えていきます。</p> <p>イギリスからの視点一辺倒だったアイルランド観が変わると思います。</p> <p>注意事項— テキストにする英文はTOEIC600点程度かそれ以上の英語力が前提です。600点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて準備してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入—アイルランドの地理、気候など</li> <li>2. アイルランドの神話と Harry Potter</li> <li>3. アイルランドの古代民族と遺跡</li> <li>4. ケルト文化と Hallowe'en</li> <li>5. 人種のルーツ—ケルト人</li> <li>6. アイルランド妖精伝説と怪談</li> <li>7. キリスト教と聖パトリック</li> <li>8. イギリス支配への抵抗</li> <li>9. イギリスからの独立</li> <li>10. 独立運動とテロ</li> <li>11. 争いと荒廃からの再生</li> <li>12. アイルランドのサッカー&amp;ラグビー</li> <li>13. 移民その1</li> <li>14. 移民その2</li> <li>15. まとめ—アイルランドの今</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	英文資料（B5で4ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。		
<b>評価方法</b>	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(帝国と文学 — 光と影、そして反射)</p> <p>最初の英語小説のひとつと言われている『ロビンソン・クルーソー』（ダニエル・デフォー）と『ガリバー旅行記』（ジョナサン・スウィフト）を中心に、権力・社会・文学の関係を考える。これは、きわめて現代的なテーマであり、わたしたちの今への省察を促すだろう。</p> <p>小説というものが登場した17世紀末から18世紀前半は、英国が大西洋世界でヘゲモニーを握っていくようになる歴史の段階と一致している。そのような社会状況を、文学はいかに映し出しているのか。あるいは、そのような状況に、いかに対応し、時に批判を繰り広げているのだろうか。</p> <p>講義の終盤では、『ロビンソン・クルーソー』の書き換えてである、現代作品、J.M. クッツェーの『敵あるいはフォー』（原題のFoeは「敵」という意味であり、デフォー(Defoe)の本名でもある)をとりあげ、言語（語ること）と権力との関係も考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション—なぜいま、帝国を再考するのか。</li> <li>2. 『ロビンソン・クルーソー』その時代</li> <li>3. Capitalist Heroとしてのクルーソー</li> <li>4. 征服者としてのクルーソー</li> <li>5. 大西洋世界と英国</li> <li>6. 『ガリバー旅行記』（以下GT）小人の国と政治風刺</li> <li>7. GT、巨人のくに、ガリバーの語る英国社会</li> <li>8. GT、空飛ぶ島科学批判</li> <li>9. GT、馬のくにとヤフー、人間への呪詛？</li> <li>10. スウィフトとアイルランド</li> <li>11. そして現代</li> <li>12. 『敵あるいはフォー』解説</li> <li>13. フライデーの沈黙</li> <li>14. 言語と権力</li> <li>15. ラウンド・アップ—なぜいま、帝国を再考したのか。</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前学習としては指定したテキスト（翻訳でも可）を必ず読んでおくこと。事後学習は、評価の対象となるチェック・シートを必ず提出すること。もちろん、興味と理解に応じた個々の事後学習も行ってほしい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	使用するメイン・テキスト三つは、購入しなくともよい。翻訳でもよいので、事前に読んでおくことが望ましい。情報は講義に先立ってポータルに掲載する。その他の参考文献は授業時に紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業貢献 20%、チェック・シート（事後学習）35%、定期試験 45%		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>20世紀に英語で著作をしていた詩人を代表する一人、T.S.Eliot (1948年ノーベル文学賞受賞) の、長編詩『荒地』(The Waste Land、1922年)を読みます。</p> <p>第一次大戦後のヨーロッパの精神的荒廃を、自身の内面風景に照射した詩です。中世の聖杯伝説や、ダンテ、シェイクスピアなどを、キュビズムの絵画のように、カラーージュして貼り合わせていったモダニズムの作品です。難解というイメージがありますが、引用をていねいに調べていけば、それほど難しくありません。</p> <p>引用元については授業で説明していきますが、シェイクスピアの『ハムレット』と『テンペスト』、コンラッドの『闇の奥』は、必ず各自で読んでください。</p>		<p>5部からなる長い詩なので、一部に2～3週間をかけて読みます。時間に余裕があれば、エリオットの他の作品も読みましょう。</p> <p>1～3週目：The Burial of the Dead 4～6週目：A Game of Chess 7～9週目：The Fire Sermon 10～11週目：Death by Water 12～15週目：What the Thunder Said</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションを踏まえて、テキストを読み直してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	プリントを配布する予定です。		
<b>評価方法</b>	学期末に提出するレポートに、授業での発表を加味します。		

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2014年に生誕100年を迎えたアメリカのユダヤ系移民の第2世代作家、Bernard Malamud(1914-1986)の作品と生涯を概観することにより、この作家の重要性と20世紀のアメリカ社会・文化の諸問題・特質などを考察する。</p> <p>全長編小説と代表的な短編を時系列で紹介する。できるだけ、作品の抜粋を読んでもらい鑑賞・解説を試みる。また、伝記情報をもとに、作品が誕生する経緯を解き明かし、Malamudの作家としての成長と発表当時の社会状況を考察したい。貧しいブルックリンの食料品店に生まれた無名なユダヤ系移民の2世が、アメリカ社会で重要な作家としての地位を確立し、American Dreamを達成する過程を追うことにより、この作家の全体像とアメリカ社会・文化の一断面を明らかにしたい。</p>		<p>1：Bernard Malamudと初期の作品 2：The Natural (1952)について 3：The Assistant (1957) について(1) 4：The Assistant (1957) について(2) 5：The Magic Barrel (1958) について 6：A New Life (1961) について(1) 7：A New Life (1961) について(2) 8：Idiots First (1963) について 9：The Fixer (1966) について 10：Pictures of Fidelman: An Exhibition (1969) について 11：The Tenants (1971)とRembrandt's Hat (1973) 12：Dubin's Lives (1979) について(1) 13：Dubin's Lives (1979) について(2) 14：God's Grace (1982) について 15：まとめ</p>	
<b>到達目標</b>	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業前に、プリント(英文)の指示された範囲を読み、内容を要約できるようにしておく。授業後は、その週の作品と抜粋プリントの重要性について、ノートなどにまとめておく。		
<b>テキスト、参考文献</b>	<p>テキスト：プリント</p> <p>参考文献：Philip Davis, Bernard Malamud: A Writer's Life, (Oxford: Oxford Univ. Press, 2007)</p>		
<b>評価方法</b>	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナー a 英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 英語圏の文学・文化に関するポスト構造主義の批評を読み、近年の批評理論についての理解を深めます。</p> <p>講義概要 授業はあらかじめ配布したプリントを予習してもらい、毎回順番に文献を輪読してもらい、不明な点があれば、解説します。希望があれば、希望者によるプレゼン形式などもとりいれる予定です。</p>		<p>1：はじめに：授業の進め方と構造主義以降の批評理論の紹介</p> <p>2～14：文献の輪読と解説</p> <p>15：まとめ：</p>	
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業までに、配布されたプリントの指示された範囲を予習し、内容を発表できるように準備する。授業後は、その日の授業の要約や和訳などをノートなどにまとめておく。		
テキスト、参考文献	テキスト：プリントを配布します。参考文献：随時紹介します。		
評価方法	学期末の試験 80%、輪読(プレゼン)の質や授業への貢献度 20%		

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナー b 英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「英語圏の文学・文化特殊講義a」に続いて、エリオット後期の代表作、『四つの四重奏(Four Quartets)』の最後の詩、『リトル・ギディング(Little Gidding)』を読みます。</p> <p>エリオットは『荒地』の出版後、1927年に、イギリス国教会の洗礼を受けています。題名のリトル・ギディングは、17世紀に国教会のコミュニティーがあった場所で、この詩は、深い宗教的味わいのある作品になっています。キリスト教的な背景なども勉強しながら、作品を鑑賞しましょう。</p>		<p>『荒地』と同じ、5部からなる長い詩なので、一部に2～3週間をかけて読みます。時間に余裕があれば、エリオットの他の作品も読みましょう。</p> <p>1～3週目：I 4～6週目：II 7～9週目：III 10～12週目：IV 13～15週目：V</p>	
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションを踏まえて、テキストを読み直してください。		
テキスト、参考文献	プリントを配布する予定です。		
評価方法	学期末に提出するレポートに、授業での発表を加味します。		

16年度以降 15年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、B. L. ウォーフ (Benjamin Lee Whorf) の言う「好まれる言い回し」(“fashions of speaking”) という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。</p> <p>その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。</p> <p>そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 好まれる言い回し (“fashions of speaking”)</li> <li>3. 人間中心 対 状況中心</li> <li>4. 人間の全体 対 人間の一部</li> <li>5. 所有表現 対 存在表現</li> <li>6. 移動表現 対 推移表現</li> <li>7. 知覚表現 対 存在表現</li> <li>8. 他動詞構文 対 自動詞構文</li> <li>9. 受動構文 対 自動詞構文</li> <li>10. 個体への注目 対 状況全体への注目</li> <li>11. 結果志向 対 過程志向</li> <li>12. 「する」的言語 対 「なる」的言語</li> <li>13. 客観的把握 対 主観的把握</li> <li>14. 公的自己 対 私的自己</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	通常の意味での予習と復習は必須である。		
テキスト、参考文献	授業は板書や配布資料による。		
評価方法	試験ないしレポート (100%) による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

16年度以降 15年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者はTOEIC®900点以上の取得者からplay guitarとplay the guitarの使い分けのできない人までさまざまいますが、受講者には教諭免許取得希望者がかなりいることから、授業の狙いは、(認知) 言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者 (native speakers) が頭の中に収めている英語の仕組の本当の姿がどのようなものかを探り、それを「なるほど!」と理屈から理解できるようしっかり身につけてもらうことにあります。</p> <p>ということで授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対する「なるほど!」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。したがって、この授業を受ければ、I {will/am going to} be 20 next monthの違いや、angryがwithを取ってもtoを取らないけれどkindは逆にtoを取ってもwithは取らないことや、play tennisとplay at tennisの使い分けもできるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モノの捉え方と表現の仕方</li> <li>2. 前置詞の意味</li> <li>3. 不定冠詞 vs. はだか名詞</li> <li>4. 英語と日本語の情報構造</li> <li>5. 情報の新旧と冠詞</li> <li>6. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>7. BE 受動文の使い方</li> <li>8. GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>9. 再帰代名詞の使い方</li> <li>10. 動詞の意味と構文 (結果構文)</li> <li>11. 動詞の意味と構文 (二重目的語構文・ほか)</li> <li>12. 否定の意味</li> <li>13. 時制 (現在と過去) とアスペクト (進行相と完了相)</li> <li>14. 助動詞の使い方</li> <li>15. 存在を表すthere構文とはだか存在文</li> </ol>	
到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習 (テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理) し、復習 (学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい) を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	プリントをグーグルドライブからダウンロードする。 なお、授業前には必ずツイッターsemantics@gamba_dokkyo を見てください。		
評価方法	定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。 詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明されるか、上のツイッターで告知されます。		

16年度以降 15年度以前	コーパス言語学 a 言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>コーパス言語学aでは、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 第1章「コーパス言語学への招待」</li> <li>3. 第2章「コーパスとは何か」</li> <li>4. 第3章「さまざまなコーパス」</li> <li>5. 第5章「コーパス検索の技術」</li> <li>6. 第6章「コーパス頻度の処理」</li> <li>7. 第7章「コーパスと語彙」（1）</li> <li>7. 第7章「コーパスと語彙」（2）</li> <li>8. 第8章「コーパスと語法」（1）</li> <li>9. 第8章「コーパスと語法」（2）</li> <li>10. 第9章「コーパスと文法」（1）</li> <li>11. 第9章「コーパスと文法」（2）</li> <li>12. プレゼンテーション準備（1）：RQを検討</li> <li>13. プレゼンテーション準備（2）：データ分析</li> <li>14. プレゼンテーション準備（3）：資料作成</li> <li>15. プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

16年度以降 15年度以前	コーパス言語学 b 言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、演習が中心になります。コーパス言語学aを履修していなくても構いません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か</li> <li>2. 学習者の言語データと第二言語習得</li> <li>3. 学習者コーパスの仕組み</li> <li>4. 学習者データの収集（1）</li> <li>5. 学習者データの収集（2）</li> <li>6. 学習者データの入力</li> <li>7. 学習者データの加工</li> <li>8. 学習者コーパスの語彙分析</li> <li>9. 学習者コーパスの文法分析</li> <li>10. 学習者コーパスの流暢さ分析</li> <li>11. 学習者コーパスの誤り分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備（1）：RQを検討</li> <li>13. プレゼンテーション準備（2）：データ分析</li> <li>14. プレゼンテーション準備（3）：資料作成</li> <li>15. プレゼンテーション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキストは使用せず。講義支援システムに掲載する PPT スライドを使用する。		
<b>評価方法</b>	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

16年度以降	英語教育研究	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will discuss the theoretical foundations of language teaching as well as studies that have revealed about how human beings acquire a second / foreign language.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. First Language Acquisition</li> <li>3. Affective Factors in Second Language Acquisition</li> <li>4. Motivation</li> <li>5. Input Hypothesis</li> <li>6. Interaction Hypothesis</li> <li>7. Output Hypothesis</li> <li>8. Cross-linguistic Influence and Learner Language</li> <li>9. Corrective Feedback</li> <li>10. Form-Focused Instruction</li> <li>11. Task-based /Content-Based Teaching</li> <li>12. Collaborative Learning in a Language Classroom</li> <li>13. Active Learning in a Language Classroom</li> <li>14. From Theory to Practice</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
到達目標	言語習得や外国語教授についての専門知識を習得し、分析のうえ、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading logs		
テキスト、参考文献	ハンドアウト使用 参考文献 <i>Principles of Language Learning and Teaching</i> (H.D. Brown, Pearson/Longman)		
評価方法	in-class discussion (20%), presentations(30%), reading assignments and logs (30%) final project (20%)		

16年度以降 15年度以前	英語教育教材論 特別セミナー（英語教育教材論）	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>How do you develop materials for language teaching? How do you evaluate them effectively? How do you produce materials?</p> <p>This course offers a practical introduction for students to some basic concepts and methodologies related to the development and implementation of materials for language learning and teaching.</p> <p>In addition to the general fundamental principles of materials development that will be covered, this course will also focus on materials developed, produced, and adapted for the Japanese English education classroom.</p> <p>Once students are familiar with the basic concepts, processes, tools, and techniques in materials development, they will then be asked to design materials for use in a practical teaching context.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Week 1: Introduction</li> <li>Week 2: What is Materials Development?</li> <li>Week 3: Input and Output in LL Materials</li> <li>Week 4: Awareness-raising and LL Materials</li> <li>Week 5: Pedagogy and ELT Materials</li> <li>Week 6: English Language Teaching Coursebooks</li> <li>Week 7: Materials Evaluation and Adaptation</li> <li>Week 8: Materials for the Technological Environment</li> <li>Week 9: Materials to Develop Reading Skills</li> <li>Week 10: Materials to Develop Listening Skills</li> <li>Week 11: Materials to Develop Speaking Skills</li> <li>Week 12: Materials to Develop Writing Skills</li> <li>Week 13: Materials for Vocabulary</li> <li>Week 14: Materials for Teaching Grammar</li> <li>Week 15: Consolidation and Conclusion</li> </ol>	
到達目標	英語教育において用いる教材についての専門知識を習得し、分析のうえ、独創的な教材案を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト、参考文献	Mishan, F & Timmis, I. <i>Materials Development for TESOL</i> . (Edinburgh Univ. Pr., 2015)		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (40%), projects and presentations (40%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

09年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「英語の音声」で学んだことをさらに発展させ、英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え、ことばの知について学ぶ。</p> <p>音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。“音声”とは音波という具体物で、常に変化する“量的”なものである。一方、“音韻”は脳内にある抽象体で、音声に付けるA or B, 有or無, 高or低などの“質的”な記号である。授業では音の特徴や変化の法則性(音韻)を見ていくが、折に触れその音声実態の多様性を紹介して、音声と音韻の表裏一体性について導入を試みる。各論は、英語や日本語の様々な音の現象について具体的に学ぶ。“英語好き”の疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。</p> <p>&lt;メッセージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語の音声」が既修、または今学期(火4)並行履修であること。</li> <li>・今年度は秋学期完結なので、音声関係科目初習者への導入や補足は限定的となる。各自の補足が必要。</li> <li>・2016年度(春)「音声・音韻論a」修了者も履修可。内容を復習した上でさらなる発展を目指す。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、音声と音韻</li> <li>2. 母音と子音</li> <li>3. 有標性, 大母音推移/グリムの法則</li> <li>4. 音素と異音</li> <li>5. 英語のアクセントとリズム</li> <li>6. 英語のイントネーション</li> <li>7. 日本語の音節とモーラ</li> <li>8. 日本語のアクセント</li> <li>9. 音韻素性</li> <li>10. 音声規則 (1)</li> <li>11. 音声規則 (2) 音韻交替練習問題</li> <li>12. 同化、音韻交替練習問題</li> <li>13. 音素の並びと実際の音声 (1)</li> <li>14. " (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	学生は毎回の事前または事後の読み課題や練習問題課題をこなして理解を深める。予習、授業参加, 提出などに積極的な参加が求められる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6) その他 配布資料		
<b>評価方法</b>	授業参加(準備・参加): 約 15%, クイズ・課題: 約 15%; 試験: 約 70%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。		

09年度以降	シンタクス a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中高6年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていると思います。しかし、いざ英語でまとめた文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないのでしょうか。この授業では、英語の文構造を分析的に整理(=シンタクス)していきます。分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるでしょう。さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間の本质に迫ることも期待できます。</p> <p>春学期に扱う英語のデータは主に単文です。授業の前半は講義形式で進めます。後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらい、次週に返却して解説します。2014/16年度シンタクスaとの重複履修は不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンタクスとは?</li> <li>2. 句構造</li> <li>3. X-bar Syntax (一般句構造理論)</li> <li>4. X-bar Syntax (一般句構造理論)</li> <li>5. X-bar Syntax (一般句構造理論)</li> <li>6. 主要部による語彙選択</li> <li>7. Midterm Activity</li> <li>8. 主要部による語彙選択</li> <li>9. 節の内部構造</li> <li>10. 節の内部構造</li> <li>11. 主語と助動詞の倒置</li> <li>12. 本動詞・助動詞と時制辞の分布</li> <li>13. 動詞句の省略</li> <li>14. 他言語との比較</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却される提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献はFreiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (Cambridge UP), 中村捷 (他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(約 30%)は通常授業内に行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験は評価全体の約 70%。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

09年度以降	シンタクス b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的や授業の進め方はシンタクスaと同様です。シンタクスaの履修もしくはそれと同程度の知識を持っていることを前提として授業を行います。</p> <p>扱うデータは主にthat節や不定詞節を含む英語の複文になります。</p> <p>2014/16年度シンタクスbとの重複履修は不可。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シンタクス a 定期試験の解説など</li> <li>2. 機能範疇と語彙範疇</li> <li>3. persuade と expect の統語的差異</li> <li>4. likely と eager の統語的差異</li> <li>5. 不定詞補文一般について</li> <li>6. 名詞句の分布と格理論</li> <li>7. 格理論と名詞句移動</li> <li>8. 格理論と名詞句移動</li> <li>9. Midterm Activity</li> <li>10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係</li> <li>11. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係</li> <li>12. 名詞句移動の局所性</li> <li>13. he などの代名詞と先行詞との構造的関係</li> <li>14. 日本語の再帰形</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却される提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する		
テキスト、参考文献	テキストなし。参考文献は Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (Cambridge UP), 中村捷 (他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(約 30%)は通常授業内に行い、履修者間で協力して取り組む。定期試験は評価全体の約 70%。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

09年度以降	意味論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、テキストのタイトルが示すように、さまざまな英語表現とその意味に関する観察を通し、英語の母語話者の実際に使う英語が「どうしてそういう意味になるのか?」、「なぜ別の言い方ができないのか?」また「似たように言い換えた表現(パラフレーズ)があるが意味はどう違うのか?」などを探り、英語そのものの理解を深めることにある。したがって、この授業を受講すると次のような文の意味の差がわかってくる。</p> <p>a. There was <i>a depth/depth</i> in her voice.</p> <p>b. Love is <i>at the</i> reason to get married.</p> <p>c. The clock ran <i>slow/slowly</i>.</p> <p>また、I persuaded him out of smoking, but he didn't stop smoking と言えないことや、It was cruel <i>for/of</i> Paul to kick the dog hard が「誰が蹴ったのか」において違いを見せることも理解できるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (不) 定冠詞と名詞</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 冠詞の選択による意味の違い・総称名詞句</li> <li>4. 数量詞と名詞</li> <li>5. there 構文とその周辺</li> <li>6. 「所有格+名詞」型の名詞句について</li> <li>7. 語順の違いから生じる意味の違い</li> <li>8. その他の名詞とその周辺</li> <li>9. 類義語関係にある形容詞に関して</li> <li>10. 続き</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 形容詞を中心とする構文と用法</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 副詞とその周辺</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習(テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理)し、復習(学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい)を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	プリントはグーグルドライブからダウンロードし、テキストの友繁義典『英語の意味を極める I』(開拓社)は学内書店で購入。関連情報はツイッター <a href="https://twitter.com/semantics@gamba_dokkyo">semantics@gamba_dokkyo</a> を必ず見ること。		
評価方法	定期試験7割、および授業における参加度3割による。変更のある場合は第1回目の授業かツイッターで告知される。		

09年度以降	意味論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ことばでコミュニケーションをとるとき、話し手は意図する意味(intended meaning)を聞き手にたいしてどのように表現したらきちんと伝わるのだろうかを考え、そして聞き手は話し手の用いる表現形式をまずは字義通りに(literally)解し、次にコンテキストや常識に基づいた推論の力を借りて話し手の言いたいことはこうだろうと想定する。このようにコミュニケーションというのは意味のやりとりであるから、コトバを学習するということは、この言語形式と意味との繋がり方の仕組みを見つけ、それをただ単に棒暗記するのではなく、「なるほど、そういうことだったのか!」と、私たちの経験的知識を頼りながら、無理なく、自然に合点がいくように学んでいくのがいちばんである。ということで、この授業では、意味論の観点から英語の具体的言い回しを観察し、ネイティブスピーカーが頭に収めている言語知識に迫っていくことを狙っている。</p> <p>そうすると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなく、「なるほど?」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞 a と the の使い分け、はだか名詞と a や-s が付いた名詞の違い、あるいは I'm standing on/in the street. の意味の違いがわかるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 移動表現・軽動詞構文について</li> <li>2. さまざまな動詞の形の比較(完了・進行・時制)</li> <li>3. 法助動詞(will など)と準助動詞(be going to など)</li> <li>4. 時制の照応と非照応</li> <li>5. 他動性(play tennis と play at tennis などの違い)</li> <li>6. 結果構文(shot the tiger dead や *knife the tiger dead)</li> <li>7. 使役構文(The devil {made / ?/*had / *got} me (to) do it.)</li> <li>8. 似通った表現の間に見られる意味の違い・動詞の類義語</li> <li>9. 態にまつわる構文 (be 受動文と get 受動文の意味の違いなど)</li> <li>10. 二重目的語構文 (Pass me the salt / the salt to me の違い)</li> <li>11. 場所を表す前置詞</li> <li>12. 時を表す前置詞</li> <li>13. 「形容詞/動詞+前置詞」</li> <li>14. 否定の意味</li> <li>15. 続きとまとめ</li> </ol>	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習(テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理)し、復習(学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい)を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	プリントはグーグルドライブからダウンロードし、テキストの友繁義典『英語の意味を極める II』(開拓社)は学内書店で購入。関連情報はツイッター <a href="https://twitter.com/semantics@gamba_dokkyo">semantics@gamba_dokkyo</a> を必ず見ること。		
評価方法	定期試験7割、および授業における参加度3割による。変更のある場合は第1回目の授業かツイッターで告知される。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する法則の一部を理解すること及びそのような法則に対して与える根拠を明らかにすることである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。</p> <p>拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。</p> <p>配布資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験は、日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 概念意味論 (Jackendoff 1991) 1</li> <li>3. 概念意味論 (Jackendoff 1991) 2</li> <li>4. 概念意味論 (Jackendoff 1991) 3</li> <li>5. Jackendoff (1991)の分析の拡張 1</li> <li>6. Jackendoff (1991)の分析の拡張 2</li> <li>7. Jackendoff (1991)の分析の拡張 3</li> <li>8. 認知意味論 1</li> <li>9. 認知意味論 2</li> <li>10. 認知意味論 3</li> <li>11. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 1</li> <li>12. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 2</li> <li>13. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ 3</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	通常の意味での予習と復習は必須である。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業は配布資料による。		
<b>評価方法</b>	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する法則の一部を理解すること及びそのような法則に対して与える根拠を明らかにすることである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。</p> <p>拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。</p> <p>配布資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験は、日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 1</li> <li>3. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 2</li> <li>4. 同じ種類のコトと異なる種類のコト 3</li> <li>5. 認知文法論 1</li> <li>6. 認知文法論 2</li> <li>7. 認知文法論 3</li> <li>8. 素性分析の問題点 1</li> <li>9. 素性分析の問題点 2</li> <li>10. 素性分析の問題点 3</li> <li>11. 合計を表す文と数を数える能力 1</li> <li>12. 合計を表す文と数を数える能力 2</li> <li>13. 合計を表す文と数を数える能力 3</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	通常の意味での予習と復習は必須である。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業は配布資料による。		
<b>評価方法</b>	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加は前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、従来の記憶・暗記型の文法学習から脱却するにはどうすればよいのかという観点から「教育英文法」のあるべき姿を考えます。</p> <p>「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの学生が knock the door と回答する。正解は knock on the door であるが、ではなぜそうなのかと問うと、「そう習ったからそう覚えている」としか答えられない学生がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。</p> <p>そしてこの間にたいする答(=理屈)に「なるほど、そうなのか!」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられた学習者は、「そういえば、あれも同じ原理なのではないだろうか」という思考を通じ、例えば、「鉛筆を噛まないで」も Don't chew your pencil.ではなく on が必要になること、「雨に降られた」を It rained on me.と言うことも自然にわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本動詞(break/ take/speak/talk/tell/say)の意味世界</li> <li>2. 前置詞 (at/on/ほかの前置詞と句動詞)の意味世界</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 新しい教育英文法：①make, give, have, be 等</li> <li>5. 同② 完了形、have 使役構文と所有の have の共通性</li> <li>6. 同③-ing のはたらき、進行相、分詞構文</li> <li>7. 同④ to 不定詞と動名詞と that 節</li> <li>8. 同⑤冠詞とはだか名詞の意味機能</li> <li>9. 続き</li> <li>10. 英文法指導法アラカルト</li> <li>11. 新しい教育英文法：⑥ 語順と情報構造</li> <li>12. 続き</li> <li>13. 同⑦ 「それ・あれ」と this, that, it</li> <li>14. 同⑧ &lt;スル&gt;的英語—他動性の世界</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野(統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など)に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習(テキストを2回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理)し、復習(学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい)を怠らないこと。		
テキスト、参考文献	田中茂範ほか『英語感覚が身につく実践的指導』大修館書店。プリントも配布するので、授業前には必ずツイッターsemantics@gamba_dokkyo にアクセスすること。		
評価方法	定期試験4割、小テストと課題3割および授業における参加度3割による。 詳細あるいは変更のある場合は第1回目の授業で説明されるか、上のツイッターで告知されます。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>*生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは平行履修が望ましい。</p> <p>生成文法の枠組みに基づいて、自然言語の様々な統語現象に関する母語獲得研究を概観します。成人が持つ母語の知識と幼児の母語知識を比較することによって、普遍文法（ヒトに遺伝的に備わっている母語を獲得する能力）の性質の理解を目指します。</p> <p>基本的な授業の構成は、それぞれの統語現象に関して成人の母語知識を議論する回と幼児の母語知識を議論する回を交互に行う予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 階層性</li> <li>3. 階層性の獲得</li> <li>4. 構造依存性</li> <li>5. 構造依存性の獲得</li> <li>6. 移動の制約1</li> <li>7. 移動の制約の獲得1</li> <li>8. 移動の制約2</li> <li>9. 移動の制約の獲得2</li> <li>10. 移動の制約3</li> <li>11. 移動の制約の獲得3</li> <li>12. 原理とパラメータ1</li> <li>13. 原理とパラメータ2</li> <li>14. 原理とパラメータ3</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります)</p>	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容の復習をすること		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。参考文献は杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) <i>Syntax: A generative introduction</i> (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。		
評価方法	テスト（70%）＋授業への参加度・貢献度（30%）（期末試験は持ち込み不可）		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>*生成文法統語論の基礎知識をある程度前提にしているため、「シンタクスa, b」の既修もしくは平行履修が望ましい。</p> <p>*また、同一講師の言語・教育特殊講義 a（春学期）の内容も前提にしているため、連続して受講することが望ましい。</p> <p>講義目的および講義概要は言語・教育特殊講義 a（春学期）を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 空主語</li> <li>3. 空主語の獲得</li> <li>4. wh疑問文</li> <li>5. wh疑問文の獲得</li> <li>6. 関係節</li> <li>7. 関係節の獲得</li> <li>8. 名詞複合</li> <li>9. 名詞複合の獲得</li> <li>10. 前置詞残留</li> <li>11. 前置詞残留の獲得</li> <li>12. 項省略</li> <li>13. 項省略の獲得</li> <li>14. 言語獲得研究の展望</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(受講者の様子を見て、スケジュールを変更することがあります)</p>	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容の復習をすること		
テキスト、参考文献	ハンドアウトを毎回配布します。参考文献は杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店。統語論の基礎知識に不安がある人は、参考文献として Carnie, Andrew (2013) <i>Syntax: A generative introduction</i> (3rd ed.). Wiley-Blackwell 社をお勧めします。		
評価方法	テスト（70%）＋授業への参加度・貢献度（30%）（期末試験は持ち込み不可）		

16年度以降 13～15年度 12年度以前	言語・教育文献セミナー a 英語学文献セミナー a 英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標とする。それと合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（コピーを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦氏の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、講義の概要</li> <li>2. Introductory Remarks 1</li> <li>3. Introductory Remarks 2</li> <li>4. Introductory Remarks 3</li> <li>5. Introductory Remarks 4</li> <li>6. Delimiting the Problem 1</li> <li>7. Delimiting the Problem 2</li> <li>8. Delimiting the Problem 3</li> <li>9. Delimiting the Problem 4</li> <li>10. Properties Ascribed by Grammarians 1</li> <li>11. Properties Ascribed by Grammarians 2</li> <li>12. Properties Ascribed by Grammarians 3</li> <li>13. Properties Ascribed by Grammarians 4</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.		
<b>評価方法</b>	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

16年度以降 13～15年度 12年度以前	言語・教育文献セミナーb 英語学文献セミナーb 英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語学に関する知識を増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標とする。それと合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（コピーを配布する）。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては、内田義彦氏の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、春学期の復習、講義の概要</li> <li>2. The Analysis of the Plain and Ing Forms 1</li> <li>3. The Analysis of the Plain and Ing Forms 2</li> <li>4. The Analysis of the Plain and Ing Forms 3</li> <li>5. The Analysis of the Plain and Ing Forms 4</li> <li>6. The Analysis of the Plain and Ing Forms 5</li> <li>7. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 1</li> <li>8. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 2</li> <li>9. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 3</li> <li>10. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 4</li> <li>11. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 5</li> <li>12. Conclusion 1</li> <li>13. Conclusion 2</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。		
<b>テキスト、参考文献</b>	Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.		
<b>評価方法</b>	試験ないしレポート（100%）による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。		

16年度以降 15年度以前	特別セミナー（言語情報処理Ⅱa） 言語情報処理Ⅱa	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この講義では電子化された言語データを計量的に分析する言語学の方法論、即ち、コーパス言語学の知識と手法を学び、言語に対する洞察力を身につけることを目標とします。目標は、「言語情報処理Ⅰ／コーパス言語学」と同様としながらも、この講義では、より広範囲に言語データを扱います。例えば、母語話者や英語熟達者の言語比較や日本語テキスト等についても学習します。授業では様々な研究例を見ながら、講義と演習を並行してコーパスツールの使用方法を学びます。「発表」では各人の興味と技能等に依拠して一つのテーマについて発表してもらいますので、授業をきっかけにして発表のテーマを探してください。成績評価は発表を重視します。なお、授業外の作業が多くなれることをあらかじめ伝えておきます。（履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰ／コーパス言語学を履修条件とはしませんが、言語解析技術を扱うので、PC操作の技術は不可欠です。）		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. データとしての言語</li> <li>3. 母語話者と学習者の言語比較の視点</li> <li>4. 様々なコーパスツールとエクセル統計基礎</li> <li>5. 英語母語話者と英語学習者データの比較の実際</li> <li>6. ICNALE：基礎</li> <li>7. ICNALE：実例</li> <li>8. BNC：実例1</li> <li>9. BNC：実例2</li> <li>10. COCA：概説</li> <li>11. COCA：基本操作</li> <li>12. COCA：処理実習</li> <li>13. プレゼンテーション準備：何を伝えるか、伝えないか</li> <li>14. プレゼンテーション準備：どう効果的に伝えるか</li> <li>15. 総括（この授業から何を学んだか）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストの指定箇所等を見ながら実際にコーパスに触れてみる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	使用テキスト：『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（赤野他編著 大修館） 参考文献：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
<b>評価方法</b>	発表内容・方法（40%）、パワーポイントスライド（40%）、授業における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（20%）		

16年度以降 15年度以前	特別セミナー（言語情報処理Ⅱb） 言語情報処理Ⅱb	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この講義は「言語情報処理Ⅱa」の内容についてより深く学習します。「Ⅱa」を履修条件とはしませんが、コンピューターによる言語解析技術を扱うので、「言語情報処理Ⅱa」の内容を理解できる、あるいは文字列に関する情報処理能力をもち、言語を分析的に見ることに興味と自信があることが望まれます。授業では、語彙・コロケーションを中心に研究例を紹介し、また、演習形式で分析ツール（Ⅱaで紹介）の使用法と統計処理について学習します。「発表」では、各人の興味と技能に応じた、一つのテーマについて発表を行います。実習を中心に進めますので、出席を特に重視します。この単位の成績評価においては、「発表」とその配布資料、レポートを重視します。なお、授業外の作業が多くなることをあらかじめ伝えておきます。（履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰ／コーパス言語学及びⅡaのシラバスも必ず読んでください。）		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 語彙・コロケーション分析における多角的な視点</li> <li>3. 語彙・コロケーション分析のためのツール</li> <li>4. 語彙・コロケーション分析の実例</li> <li>5. 言語統計基礎</li> <li>6. 基本的なコロケーション言語統計の実際</li> <li>7. 一般的なコロケーション統計 基礎</li> <li>8. 一般的なコロケーション統計 応用</li> <li>9. コロケーション統計の処理の実際 基礎</li> <li>10. コロケーション統計と処理の実際 応用</li> <li>11. 発表準備作業</li> <li>12. 発表テーマ報告と検討</li> <li>13. 発表 前半</li> <li>14. 発表 後半</li> <li>15. 総括とレポート提出</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	事前にテキストの指定箇所等を見ながら実際にコーパスに触れてみる。		
<b>テキスト、参考文献</b>	参考文献：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
<b>評価方法</b>	口頭発表の内容・方法（30%）、全ての発表資料（30%）、レポート（30%）講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（10%）		

# 交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章</li> <li>3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』）</li> <li>4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3章</li> <li>5. 教育・学び・文化 4章、5章</li> <li>6. ジェンダーとフェミニズム 6章 2</li> <li>7. 宗教と社会開発 NGO 7章 2</li> <li>8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章 3</li> <li>9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ</li> <li>10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定）</li> <li>11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8章 2</li> <li>12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章 3</li> <li>13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』）</li> <li>14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
<b>テキスト、参考文献</b>	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。 ※DUOで各自購入してください		
<b>評価方法</b>	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 最近の航空産業の動きなど</li> <li>3. 航空産業とキャリアデザイン</li> <li>4. 航空とは何か</li> <li>5. 航空の歴史</li> <li>6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える</li> <li>7. 航空事業の特性と運賃</li> <li>8. 米国チャプター11（連邦破産法第11章）</li> <li>9. JALの破綻と復活</li> <li>10. 規制緩和とオープンスカイ政策</li> <li>11. 航空機製造ビジネス</li> <li>12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔</li> <li>13. 空港</li> <li>14. 国際航空法</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
<b>テキスト、参考文献</b>	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
<b>評価方法</b>	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画50%、最終試験50%		

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食の文化を見る眼：文化とは何か</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』</li> <li>4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間</li> <li>7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み</li> <li>8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える</li> <li>9. コーヒーのグローバルヒストリー</li> <li>10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費</li> <li>11. シビック・アグリカルチャー①</li> <li>12. シビック・アグリカルチャー②</li> <li>13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消</li> <li>14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』</li> <li>15. 講義のまとめと試験対策</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	学期中レポート課題図書 トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。※各自でDUOで購入すること。		
評価方法	期末試験（70%）、学期中レポート1回（30%）。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本 広志
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、旅行契約に関する具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関する法（主に民法）のあり方と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表します。</p> <p>この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. PBLウォーミングアップ</li> <li>3. 第1事例（その1）</li> <li>4. 第1事例（その2）</li> <li>5. 第1事例（その3）</li> <li>6. 第2事例（その1）</li> <li>7. 第2事例（その2）</li> <li>8. 第2事例（その3）</li> <li>9. 第3事例（その1）</li> <li>10. 第3事例（その2）</li> <li>11. 第3事例（その3）</li> <li>12. 口頭発表会の準備</li> <li>13. 口頭発表会（その1）</li> <li>14. 口頭発表会（その2）（予備を兼ねる）</li> <li>15. まとめと振り返り（予備日）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各事例1回目の授業後は、授業中の活動を通じて抽出した学習課題について、各自が調査・検討し、2回目の授業では、その結果を持ち寄って、さらに学習課題を抽出し、授業後は、その課題について各自が調査・検討して、3回目の授業にその結果を寄せ合い、検討してまとめる、というサイクルになります。		
<b>テキスト、参考文献</b>	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのを基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布します。		
<b>評価方法</b>	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点</li> <li>3. ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費</li> <li>4. ツーリズム産業の競争環境</li> <li>5. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？</li> <li>6. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する</li> <li>7. パッケージツアー③：身体化される団体旅行</li> <li>8. パッケージツアー④：商品企画における「知識」</li> <li>9. 空間の管理とテーマ化</li> <li>10. テーマ化された空間とハイブリッド消費</li> <li>11. 感情労働</li> <li>12. テーマ化された空間に暮らす</li> <li>13. 生活とツーリズム</li> <li>14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界では約2億6000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバリゼーションや私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。</p> <p>この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（概要と、予習・復習について）</li> <li>2. アジアの児童労働</li> <li>3. タイのストリート・チルドレン</li> <li>4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題</li> <li>5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I</li> <li>6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part II</li> <li>7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み</li> <li>8. 日本の子どもの貧困</li> <li>9. 在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング）</li> <li>10. アフリカの子ども兵士</li> <li>11. イラク戦争と子どもたち</li> <li>12. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割</li> <li>13. 子どもと教育について（アクティブラーニング）</li> <li>14. 国連の安全保障と子どもの保護</li> <li>15. 今学期のまとめ（質疑応答など）</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015年）</p> <p>参考文献 授業中に紹介</p>		
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは?</li> <li>2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書</li> <li>3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力</li> <li>4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙</li> <li>5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容</li> <li>6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後</li> <li>7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀</li> <li>8. 近代日本のトランスナショナル・メディア</li> <li>9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」</li> <li>10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム</li> <li>11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War”</li> <li>12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題</li> <li>13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」</li> <li>14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと わたしたち</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（フィールドワーク論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>東京を訪れる外国人観光客が近年急増していますが、本講義は、東京の「魅力」やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。</p> <p>まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京を縦横無尽に歩きます。</p> <p>受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行います。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。さらに、こうした「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明・グループ分け(1回)</li> <li>2. 東京を「読む」ための方法論（講義）</li> <li>3. コース解説1：山の手と下町（本郷・広尾・六本木・浅草）</li> <li>4. コース解説2：「水の都」（深川、佃、月島）</li> <li>5. コース解説3：「おばあちゃん原宿」（巣鴨）</li> <li>6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿）</li> <li>7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保）</li> <li>8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩）</li> <li>9. 発表・議論1</li> <li>10. 発表・議論2</li> <li>11. 発表・議論3</li> <li>12. 発表・議論4</li> <li>13. 発表・議論5</li> <li>14. 発表・議論6</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。		
<b>評価方法</b>	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思ひます。受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. 映画『海と大陸』</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌1</li> <li>4. グローバリゼーションの民族誌2</li> <li>5. 旅と観光</li> <li>6. ビデオ上映『深夜特急1』</li> <li>7. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>9. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>10. 文化装置としてのホテル</li> <li>11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>12. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>13. エスニック・ツーリズム—タイの事例</li> <li>14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例</li> <li>15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
<b>評価方法</b>	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（戦争の記憶と表象—記念碑とミュージアムを中心に）</p> <p>昨年の授業に引き続いて、戦争の記憶と表象について、記念碑とミュージアムを中心に考察します。</p> <p>今年は、若手の社会学者である古市憲寿が、やはり学生など若い読者を想定して書いた『誰も戦争を教えられない』をテキストとして使うので、少し身近な問題として考えてもらえるかな、と思っています。</p> <p>靖国神社と「女たちの戦争と平和資料館」は、週末を利用して、授業のフィールドワークとして訪問したいと考えています。それ以外にもミュージアムの見学、映画鑑賞、学外でのセミナーへの参加など、積極的に行動してくれる学生にとって欲しい授業です。</p> <p>テーマは昨年と同じですが、授業内容は変わります。続けて履修したい方は相談してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その1）</li> <li>2. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その2）</li> <li>3. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その3）</li> <li>4. パールハーバーと南京</li> <li>5. 「慰安婦」（その1）</li> <li>6. 「慰安婦」（その2）</li> <li>7. 靖国（その1）</li> <li>8. 靖国（その2）</li> <li>9. 東京</li> <li>10. 広島</li> <li>11. 沖縄</li> <li>12. ロンドン</li> <li>13. ベルリン</li> <li>14. ワシントンDC</li> <li>15. まとめのディスカッション</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001、800円）、古市憲寿『誰も戦争を教えられない』（講談社+α文庫、2015、850円）、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など。		
<b>評価方法</b>	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル社会での平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平和とは単に戦争やテロがない状態をいうのではなく、構造的暴力（貧困や差別・偏見によって生じる不平等や権力の非対称性など）のない状態をいう。今日のグローバル社会の中で、どのような構造的暴力が存在するのか、それに対して私たちは何ができるのだろうか。また、私たちにとって身近なアジアとの関係はどのような歩みを経て、何が問題となっているのかを振り返り、アジアの平和についても考えてみたい。そして、現代の紛争と平和構築の問題や環境問題についても取り上げる。この授業を通して、みなさんが国際社会の様々な問題についての構造を分析し、解決方法について考える力を身につけてくれることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 平和学の基本概念について</li> <li>2. 低価格の洋服から考える平和</li> <li>3. ファストファッションの是非を考える</li> <li>4. モノから考えるグローバル経済と私たちがつくる平和</li> <li>5. アジアのフェアトレード（民衆交易）とNGO</li> <li>6. アジアの戦争と平和の歴史（1）</li> <li>7. アジアの戦争と平和の歴史（2）</li> <li>8. アジアの戦争－和解に向けての市民交流やNGOの役割</li> <li>9. 地球人として平和を創るピースボート</li> <li>10. グローバル時代の紛争と平和構築（1）</li> <li>11. グローバル時代の紛争と平和構築（2）</li> <li>12. 移民・難民問題と日本</li> <li>13. 環境と平和について（1）</li> <li>14. 環境と平和について（2）</li> <li>15. これまでのまとめ（質疑応答など）</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業に該当するテキストの部分を予習・あるいは復習としてまとめるよう、適宜指示していきます。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：堀芳枝編『学生のためのピースノート2』コモンズ、2015年</p> <p>参考文献：授業で紹介する</p>		
評価方法	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b> 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p><b>講義概要：</b> オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. イベント・コンベンションについて①</li> <li>3. イベント・コンベンションについて②</li> <li>4. 国際博覧会</li> <li>5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック</li> <li>6. 障害者スポーツとパラリンピックについて</li> <li>7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」</li> <li>8. 古代オリンピック</li> <li>9. ビジネスの視点からのオリンピック①</li> <li>10. ビジネスの視点からのオリンピック②</li> <li>11. プレゼンテーション： 「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」①</li> <li>12.        "        ②</li> <li>13.        "        ③</li> <li>14.        "        ④</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜個別資料を配布する。		
<b>評価方法</b>	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>          ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p><b>講義概要：</b>          ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ツーリズムの基本構造（1）</li> <li>3. ツーリズムの基本構造（2）</li> <li>4. マーケティングとは何か？</li> <li>5. ツーリズム政策とマーケティング理論</li> <li>6. ツーリズム政策の変遷</li> <li>7. ツーリズム政策における我が国の課題</li> <li>8. (ツーリズム政策に関する) ディスカッション</li> <li>9. 世界のツーリズム政策（シンガポール）</li> <li>10. 世界のツーリズム政策（ドイツ）</li> <li>11. 世界のツーリズム政策（スイス）</li> <li>12. 世界のツーリズム政策（フランス）</li> <li>13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など）</li> <li>14. ツーリズムとキャリアデザイン</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜個別資料を配布する		
<b>評価方法</b>	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 50%、最終試験 50%		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同士が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章）</li> <li>3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章）</li> <li>4. 生ゴミリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3章）</li> <li>5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4章）</li> <li>6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』）</li> <li>7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10章）</li> <li>8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ）</li> <li>9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7章）</li> <li>10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ）</li> <li>11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11章）</li> <li>12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本</li> <li>13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』）</li> <li>14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章）</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
<b>テキスト、参考文献</b>	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUOで各自購入してください		
<b>評価方法</b>	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. 社会学とは</li> <li>3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定）</li> <li>12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 講義全体のまとめ</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
<b>テキスト、参考文献</b>	参考文献は適宜授業中に示す。		
<b>評価方法</b>	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が1回ある（15%）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費</li> <li>3. おみやげとスーベニア</li> <li>4. 観光みやげの近代</li> <li>5. 「民芸品」をめぐるまなざし</li> <li>6. 観光みやげと真正性</li> <li>7. 観光みやげのギフト性</li> <li>8. 観光みやげの儀礼的倒錯性</li> <li>9. 観光みやげと「ものがたり」</li> <li>10. こけしと木彫り熊</li> <li>11. 旅するマトリョーシカ①</li> <li>12. 旅するマトリョーシカ②</li> <li>13. 民芸品としてのアジア雑貨</li> <li>14. アジアン雑貨が創る旅</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業内で適宜紹介する。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうの影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050ーアジアの世紀の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えたとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。したがって、アジア経済の成長（および日本）と女性（ジェンダー）の関係に着目しながら、グローバル経済の実態を解いてゆく。この授業を通して、古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業、金融領域のグローバル化、そしてそれぞれにおける女性の労働の問題を理解し、自分自身の問題として考えることができるようになってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスー授業の内容、進め方、予習復習について</li> <li>2. 古典的国際分業の成立と植民地・女性</li> <li>3. 冷戦とアジアの工業化政策（1950・60年代）</li> <li>4. 新国際分業体制（1970年代）とアジアNIES・中国</li> <li>5. 再生産領域の新国際分業とフィリピン（1980年代）</li> <li>6. フィリピンの「移住労働の女性化」が抱える課題</li> <li>7. サービスの新国際分業インド・フィリピン（2000年代）</li> <li>8. グローバリゼーションと新自由主義</li> <li>9. 日本の女性の労働力の商品化“輝ける女性の活躍”？</li> <li>10. 金融領域のグローバル化とは？</li> <li>11. アジア通貨危機を考える</li> <li>12. 金融領域のジェンダー化の問題</li> <li>13. ASEANと東アジア共同体について</li> <li>14. これからの中国の経済成長について考える</li> <li>15. 今学期のまとめ（質疑応答など）</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業の指示に従って予習を行うこと。復習は授業で示されるポイントに従って、プリントやノートに書かれたことをまとめておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業の初回で参考文献リストを配布		
<b>評価方法</b>	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く））	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。</p> <p>「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が生き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。</p> <p>この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを精読して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。</p> <p>そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明</li> <li>2. ポストモダンとは何か①（J.F.リオタール）</li> <li>3. ポストモダンとは何か②（J.F.リオタール）</li> <li>4. ツーリズムと「まなざし」①（J. アーリ&amp;J. ラースン）</li> <li>5. ツーリズムと「まなざし」②（J. アーリ&amp;J. ラースン）</li> <li>6. ツーリズムと「まなざし」③（J. アーリ&amp;J. ラースン）</li> <li>7. 「まなざし」と主体性①（M. フーコー）</li> <li>8. 「まなざし」と主体性②（M. フーコー）</li> <li>9. 「まなざし」と主体性③（M. フーコー）</li> <li>10. オリエンタリズムと文化多様性①（E. サイード）</li> <li>11. オリエンタリズムと文化多様性②（E. サイード）</li> <li>12. 「社会」という思想①（見田宗介）</li> <li>13. 「社会」という思想②（見田宗介）</li> <li>14. 「社会」という思想③（見田宗介）</li> <li>15. 総括討論、まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回はテキストを読み返してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業で適宜紹介します。 授業に必要なテキスト（部分）を配布しますが、1～2冊の文庫・新書は購入してもらう予定です。		
<b>評価方法</b>	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&amp;ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。</p> <p>そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」</li> <li>2. 写真の歴史①：遠近法と写真術</li> <li>3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化</li> <li>4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき</li> <li>5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術</li> <li>6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」</li> <li>7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション</li> <li>8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生）</li> <li>9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき</li> <li>10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication</li> <li>11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体</li> <li>12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々</li> <li>13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレート</li> <li>14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）） 交流文化論（ツーリズム地誌論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」（愛知県犬山市）における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。</p> <p>リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。</p> <p>本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明・グループ分け</li> <li>講義1：民族誌展示の歴史と現在1</li> <li>講義2：民族誌展示の歴史と現在2</li> <li>ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み）</li> <li>5～14. 発表・議論</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※ 研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時まで教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。</p>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		
<b>評価方法</b>	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。これらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、小学校高学年～中学生向けのシティズンシップ教育用教材（1時限分）を作成することを目指します。</p> <p>第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについてより詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. LTD導入ガイダンスとグループ分け</li> <li>3. LTDの説明、予習及びミーティングの練習</li> <li>4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用）</li> <li>5. LTD第1回（市民性論・市民社会論）</li> <li>6. LTD第2回（シティズンシップ教育）</li> <li>7. LTD第3回（主権者教育）</li> <li>8. LTD第4回（法教育）</li> <li>9. LTD第5回（道徳教育との関係）</li> <li>10. シティズンシップ教育用教材作成（その1）</li> <li>11. シティズンシップ教育用教材作成（その2）</li> <li>12. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業）1</li> <li>13. 教材発表会 （受講者作成教材による模擬授業）2（予備）</li> <li>14. 教材発表会の反省会（予備）</li> <li>15. 授業全体のまとめと振り返り、 ラーニング・ポートフォリオの説明</li> </ol>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト、参考文献	教材は、必要に応じてその都度配布します。LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟『実践・LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2006年）などを参照してください。		
評価方法	成果物とラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）により評価します。		

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：          ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要：          旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状</li> <li>3. 旅行産業の現状と課題①</li> <li>4. 旅行産業の現状と課題②</li> <li>5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要①</li> <li>6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要②</li> <li>7. リゾートホテル・ビジネス</li> <li>8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等）</li> <li>9. 航空産業の最近の動向①</li> <li>10. 航空産業の最近の動向②</li> <li>11. プレゼンテーション①</li> <li>12. プレゼンテーション②</li> <li>13. プレゼンテーション③</li> <li>14. プレゼンテーション④</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜個別資料を配布する。		
<b>評価方法</b>	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>4. 貧困の商品化—スラム・ツーリズムの事例</li> <li>5. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略</li> <li>6. 環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>7. 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>8. 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例</li> <li>9. 先住民とアート—北米イヌイットの事例</li> <li>10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例</li> <li>11. エコツーリズムと先住民1</li> <li>12. エコツーリズムと先住民2</li> <li>13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>14. 現代日本における農山村の再編と観光</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
<b>評価方法</b>	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて））	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>過去30年の間に、日本に定住する外国人の数は約200万人、人口の2%まで増加しています。しかし、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちにとって、教育や仕事など、日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえません。</p> <p>この授業では、「文化多様性」をキーワードに、さまざまな価値観を互いに尊重し合い、個人の権利を守る新しい社会を作り上げる方法を考え、自分たちにできることを、実行に移していくことを目標としています。クリエイティブな未来のために何ができるのか。共に考え、共に活動していく授業になればと思います。</p> <p>受講生の熱意によってスリリングで、かつ実り多い授業になると思います。詳しい授業計画は初回の授業で提示します。</p> <p>昨年の授業とは内容が異なります。昨年履修した方で登録希望の方はご相談ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 「多文化共生」と「文化多様性」について</li> <li>3. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>4. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>5. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>6. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>7. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>8. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>9. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>10. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>11. グループワーク、ディスカッションなど</li> <li>12. プレゼンテーション</li> <li>13. プレゼンテーション</li> <li>14. プレゼンテーション</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	論文の抜粋や、英文の新聞雑誌記事などを用います。		
<b>評価方法</b>	学期末に提出するレポートに加えて、教室でお願いする発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）） 交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>内容的には春学期の「表象文化論」（木曜日4限）の後編になりますが、こちらだけ受講しても、十分、理解できます。戦争と植民地支配の痕跡を、各地に残る記念碑などを通じて考察し、戦争の記憶についてディスカッションをしていきます。</p> <p>「パフォーマンス研究」の授業なので、平田オリザ『ソウル市民』、井上ひさし『きらめく星座』、高山明『東京ヘテロトピア』など、演劇作品も入れましょう。</p> <p>フィールドワークには、江東区枝川の朝鮮学校でおこなわれる李じょんみさんのコンサート（12月上旬予定）を考えています。</p> <p>テキストの『忘却された支配』は、2015年『毎日新聞』の連載がもとになっています。</p> <p>昨年授業とは内容が異なります。昨年履修した方で登録希望の方はご相談ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記念碑と戦争の記憶</li> <li>2. 山口、宇部</li> <li>3. 筑豊、三池</li> <li>4. 知覧</li> <li>5. 花岡</li> <li>6. 長野、松代</li> <li>7. 新宿の人骨</li> <li>8. アイヌの人骨</li> <li>9. 『きらめく星座』（その1）</li> <li>10. 『きらめく星座』（その2）</li> <li>11. 『ソウル市民』</li> <li>12. 枝川朝鮮学校</li> <li>13. 『東京ヘテロトピア』</li> <li>14. 記憶、歴史、パフォーマンス</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	伊藤智永『忘却された支配』（岩波書店、2016、2200円）、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など		
<b>評価方法</b>	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的發展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係</li> <li>2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった</li> <li>3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」</li> <li>4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶</li> <li>5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする</li> <li>6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック</li> <li>7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化</li> <li>8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者</li> <li>9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション</li> <li>10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア</li> <li>11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴</li> <li>12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化</li> <li>13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光</li> <li>14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業で適宜紹介します。		
<b>評価方法</b>	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと市民社会））	担当者	堀 芳枝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化が進む今日の国際社会において、NGOやNPOは市民社会の形成にどのような役割を果たしているのか。NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）、PO（住民組織）といった市民社会における主要なアクターの概念を理解し、アジアにおける平和運動や市民社会がどのような歴史を歩んできたのかについて考える。また、企業と異なるNGOやNPOはどのような組織形態で、どのようにマネジメントをしているのだろうか。非営利組織の運営という観点からもNGOやNPOを分析できるような力を身につけていきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. NPO、NGO、POについての概要</li> <li>3. NPOの組織とマネジメント（1）</li> <li>4. NPOの組織とマネジメント（2）</li> <li>5. 国際社会における市民運動の歴史を振り返る</li> <li>6. 日本の市民社会とNGO・NPO（1）</li> <li>7. 日本の市民社会とNGO・NPO（2）</li> <li>8. フィリピンの市民社会とNGO（1）</li> <li>9. フィリピンの市民社会とNGO（2）</li> <li>10. タイの市民社会とNGO</li> <li>11. カンボジアの市民社会とNGO（1）</li> <li>12. カンボジアの市民社会とNGO（2）</li> <li>13. バングラディッシュの市民社会とNGO</li> <li>14. アジア諸国の市民社会とNGOのまとめ</li> <li>15. 授業全体のまとめ 質疑応答など</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業に該当する資料の予習、あるいは復習を適宜指示しますので、それに従ってください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	参考文献：秦辰也編『アジアの市民社会とNGO』晃洋書房、2014年。ピーター・ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。		
<b>評価方法</b>	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

# 外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座	担当者	大重 光太郎 (コーディネーター)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「今、ナショナリズムについて改めて考える」</p> <p>グローバリズムの進展がさまざまな弊害をもたらす中、それへの反動としてナショナリズムが強まっているように思われる。欧州でのイギリスのEU離脱、各国での極右・排外的ナショナリズムの台頭、アメリカ大統領選挙などは、そうした例とみることができる。こうしたなか、次のような問いが出てくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のナショナリズムの動きをどうとらえるべきなのか？</li> <li>・グローバリズムとナショナリズムの関係は？</li> <li>・グローバリズムの対案はナショナリズムなのか？</li> <li>・ナショナリズムは悪なのか？</li> <li>・「健全な」ナショナリズムとは何か？</li> <li>・日本のナショナリズムの現在？ 今後？</li> </ul> <p>こうした問いを念頭におきながら、地域的・歴史的に多様な角度から、また社会科学だけでなく人文科学の立場も含めて、あらためてナショナリズムという問題を考えてい。</p> <p>なお第5回は英語のみでの授業です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション (大重光太郎)</li> <li>2. スイス学入門：スイスのパンは、なぜ美味しくないのか (田中善英)</li> <li>3. ナショナリズムとハプスブルク君主 (上村敏郎)</li> <li>4. ドイツにおけるナショナリズムの変遷 (黒田多美子)</li> <li>5. Nationalism and Language (J. Wendel)</li> <li>6. イギリスの女性参政権運動が現在に伝えるもの (片山重紀)</li> <li>7. Origin of Jewish Nationalism (佐藤唯行)</li> <li>8. モバイルネーション——移民・ディアスポラ、国民国家 (上野直子)</li> <li>9. 日本のナショナリズムをどう見るか (渡辺治 一橋大学名誉教授)</li> <li>10. 日本の難民受け入れの現状と課題 (新島彩子 NPO法人難民支援協会)</li> <li>11. “Stop the boats” —オーストラリアの難民政策 (永野隆行)</li> <li>12. 冷戦とナショナリズムの交錯 (水本義彦)</li> <li>13. 2015年パリテロ事件 (横地卓哉)</li> <li>14. ローカリズムともう1つのグローバル化 (北野収)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
<b>テキスト、参考文献</b>	大澤真幸ほか『ナショナリズムとグローバリズム 越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014年。 塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』岩波書店 (岩波新書)、2008年。		
<b>評価方法</b>	期末テストは行わない。毎回提出のコメントペーパーをもとに成績評価を行う。		

09年度以降	総合講座	担当者	M. ビティヒ (コーディネーター)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「文化の学問的多様性 — 学際的概念とアプローチ」</p> <p>我々現代人は様々な場面で「文化」という言葉、そして「文化」を用いた合成語（食文化、文化遺産等）や外来語（コーポレート・カルチャー、カルチャー・ショック等）に出会う。「文化」「カルチャー」という表現は日常的にメディアにおいても溢れている。</p> <p>本講座では「文化」の語源、定義、概念等を議論するだけでなく文化科学、1960年代から文化一般に関する学問研究を進めているカルチュラル・スタディーズの様々な研究分野（文化理論、比較文化論、政治経済、社会学、メディア論、映画理論、哲学、芸術史等）のアプローチと具体的な研究テーマ（サブ/ポップカルチャー）を挙げ、紹介することが目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入門：文化とは何か</li> <li>2. 文化—教養—学問</li> <li>3. 大衆文化としての西洋絵画—カレンダーとルノワール</li> <li>4. 世界文学とはなにか - フランスにおける外国文学の受容</li> <li>5. ドイツの文化施設のあり方に文化はどのような影響を与えたか？</li> <li>6. 芸術に想像力は必要か？ - 哲学的概念史と作品制作の観点から</li> <li>7. 異文化間コミュニケーション</li> <li>8. Tawaraya Sotatsu and the creative re-imagination of themes from classical Japanese culture</li> <li>9. 〈越境〉のデザイン史：1920年代ウィーン・キネティシズム派の検証を例に</li> <li>10. オペラ文化の現状と展望</li> <li>11. GAMANする身体—アメリカのスラップスティック・コメディの系譜から考える我儘の精神</li> <li>12. 芸術作品における「傑作」の条件とは何か - 美術史学の観点から</li> <li>13. 文化を超えたコミュニケーション方略を探る</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 復習</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各講義後コメントペーパーを提出するため出席と前講義の内容の復習が不可欠である。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業内で指示する。		
<b>評価方法</b>	各講義が70分かかる。その後担当の先生の各テーマについて20分ほどのテストを行う。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>西洋音楽史（1） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入、概観</li> <li>2. 日本人と西洋音楽</li> <li>3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌</li> <li>4. ヨーロッパの中世の音楽</li> <li>5. ルネサンス音楽（1） フランドルを中心に</li> <li>6. ルネサンス音楽（2） イギリス・スペインを中心に</li> <li>7. ルネサンス音楽（3） イタリアを中心に</li> <li>8. バロック音楽（1） イタリアを中心に</li> <li>9. バロック音楽（2） フランスを中心に</li> <li>10. バロック音楽（3） リュリとラモーを中心に</li> <li>11. バロック音楽（4） イギリスを中心に</li> <li>12. バロック音楽（5） ヴィヴァルディとペルゴレージ</li> <li>13. バロック音楽（6） ドイツを中心に</li> <li>14. バロック音楽（7） J.S. バッハを中心に</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を踏まえて話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古典派の音楽（1） ハイドン</li> <li>2. 古典派の音楽（2） モーツァルト</li> <li>3. 古典派の音楽（3） ベートーヴェン</li> <li>4. 19世紀の音楽（1） ヴェーバー、シューベルト、シューマン</li> <li>5. 19世紀の音楽（2） ヴィルトゥオーソの時代</li> <li>6. 19世紀の音楽（3） フランスを中心に</li> <li>7. 19世紀の音楽（4） ロシアを中心に</li> <li>8. 19世紀の音楽（5） 北欧と東欧を中心に</li> <li>9. 19世紀の音楽（6） スペインを中心に</li> <li>10. 19～20世紀の音楽（1） チェコ、ロシアを中心に</li> <li>11. 19～20世紀の音楽（2） フランスを中心に</li> <li>12. 19～20世紀の音楽（3） イタリアを中心に</li> <li>13. ヨーロッパのクリスマス音楽</li> <li>14. 19～20世紀の音楽（4） イギリス、アメリカを中心に</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
<b>評価方法</b>	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学の発展</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 総合演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 講義のまとめ</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
<b>評価方法</b>	定期試験の成績、課題の完成度、授業への参加度を併せて評価します。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(1)</li> <li>9. マクロの利用(2)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excelとの連携(1)</li> <li>13. Excelとの連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excelとの連携(1)</li> <li>13. Excelとの連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	担当教員より随時指示する。		
<b>テキスト、参考文献</b>	適宜指示する。		
<b>評価方法</b>	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWWとホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストとHTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造とHTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：</p> <p>この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWWとホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストとHTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造とHTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意：評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2. HTMLとFTPの復習 (1)</li> <li>3. HTMLとFTPの復習 (2)</li> <li>4. インタラクティブなページ (HTMLとCGI)</li> <li>5. プログラミングの基礎知識</li> <li>6. JavaScript (1)</li> <li>7. JavaScript (2)</li> <li>8. JavaScript (3)</li> <li>9. JavaScript (4)</li> <li>10. JavaScript (5)</li> <li>11. CGIの利用</li> <li>12. 総合課題 (1)</li> <li>13. 総合課題 (2)</li> <li>14. 総合課題 (3)</li> <li>15. 鑑賞会</li> </ol>	
<b>到達目標</b>	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
<b>事前・事後学修の内容</b>	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
<b>テキスト、参考文献</b>	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
<b>評価方法</b>	授業中に作成する課題 (60%) と平常点 (課題の途中経過等 40%) で総合評価する。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約</li> <li>3. 家計の行動②－効用最大化</li> <li>4. 家計の行動③－消費者余剰の概念</li> <li>5. 企業の行動①－生産技術の決定</li> <li>6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化</li> <li>7. 企業の行動③－生産者余剰の概念</li> <li>8. 市場価格の決定</li> <li>9. 不完全競争市場</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 所得分配の決定</li> <li>13. 政府の役割①－規制および補助金政策</li> <li>14. 政府の役割②－租税政策</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 企業投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. 財政政策の有効性</li> <li>9. 金融政策の有効性</li> <li>10. 国際収支と為替レートの決定要因</li> <li>11. 開放マクロ経済下での経済政策</li> <li>12. 公債発行と財政赤字</li> <li>13. 経済成長の決定要因</li> <li>14. 日本の公的債務と経済成長</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に</li> <li>2. 社会心理学の概要</li> <li>3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか</li> <li>4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別</li> <li>5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団</li> <li>6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる</li> <li>7. 自己(1)：自分はどんな人間か</li> <li>8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか</li> <li>9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか</li> <li>10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割</li> <li>11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響</li> <li>12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか</li> <li>13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す</li> <li>14. 期末試験と振り返り</li> <li>15. 社会的影響(5)：人間の力</li> </ol>	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート30%，期末試験60%，その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に</li> <li>2. コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション</li> <li>3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動</li> <li>4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ</li> <li>5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相</li> <li>6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの</li> <li>7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの</li> <li>8. 信頼社会と安心社会</li> <li>9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝</li> <li>10. 社会的感情(2)：表情と感情</li> <li>11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情</li> <li>12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論</li> <li>13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦</li> <li>14. 期末試験と振り返り</li> <li>15. 社会心理学の未来</li> </ol>	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通して頂くこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出して頂くこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』 有斐閣；池田謙一 他(2010)．『社会心理学』 有斐閣		
評価方法	中間レポート30%，期末試験60%，その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス 英語学科

---

2017年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	